

【資料 2-2】

坂出市
障がい者福祉計画および障がい福祉計画
アンケート調査
結果報告書
(当事者用)

令和 8 年6月
坂出市

目次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 報告書の見方	1
II 調査結果	2
1 回答者について	2
2 対象者について	3
(1)性別	3
(2)年齢	4
3 心身の状況について	5
(1)障がい者手帳について	5
(2)障がい区分について	10
(3)各種認定等について	10
(4)医療について	13
(5)支援について	20
4 あなたの生活のことについて	22
(1)同居人について	24
(2)暮らしの場所について	26
(3)日中の過ごし方について	30
(4)団体活動について	32
(5)暮らしの中で大事にしていること	33
(6)自由時間の過ごし方について	35
5 福祉サービスについて	45
(1)各種サービスの利用状況と利用希望	45
(2)情報の入手について	45
(3)サービスの利用について	57
6 仕事などについて	59
(1)世帯収入について	59
(2)経済状況について	60

(3)就労について	62
(4)就労支援について	78
7 障がい児への療育や教育について	81
(1)通所・通学していて感じること.....	81
(2)療育や教育について	82
8 生活全般について	89
(1)困りごとや相談について	89
(2)外出について	95
(3)意思の伝達について	100
(4)市民の理解について	103
(5)相談窓口について	103
(6)成年後見制度について	107
(7)地域共生社会について	113
(8)障がい者にとって住みよいまちづくり.....	115
9 新型コロナウイルス感染症について	115
(1)新型コロナウイルス感染症の際の困りごとについて.....	117
10 防災及び避難について	121
(1)災害時の行動について	121
(2)災害時の困りごとについて	124
11 ICT・デジタル活用について	128
(1)デジタル機器を使用した情報の取得、相談について.....	128
12 合理的配慮について	130
(1)障がい者差別について	130
(2)合理的配慮について	134
13 文化芸術やスポーツについて	138
(1)文化芸術やスポーツへの参加について	138
14 インクルーシブ教育について	140
(1)インクルーシブ教育について.....	140
15 精神障がい者の地域移行について	142
(1)精神障がい者の地域移行について	142

16	テレワークや多様な働き方について	146
	(1)多様な働き方について	146
17	SDGs について	149
	(1)SDGsについて	149
18	ヤングケアラーについて	153
	(1)身近なヤングケアラーについて	153
	(2)ヤングケアラーへの支援について	158
19	自由記述	161

I 調査概要

1 調査目的

市民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向等を把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

(1)調査対象

調査対象者	抽出方法
身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳の所持者	無作為抽出

(2)実施期間 令和8年3月9日～令和8年3月31日

(3)調査方法 郵送による配布・回収及び Web 調査

(4)配布・回収状況

配布数	有効回収数	有効回答率
1,000	562	56.2%

3 報告書の見方

(1)基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならない場合があります。

(2)質問文の中に、複数回答が可能な質問があるため、回答の合計が調査数を上回る場合があります。

(3)図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

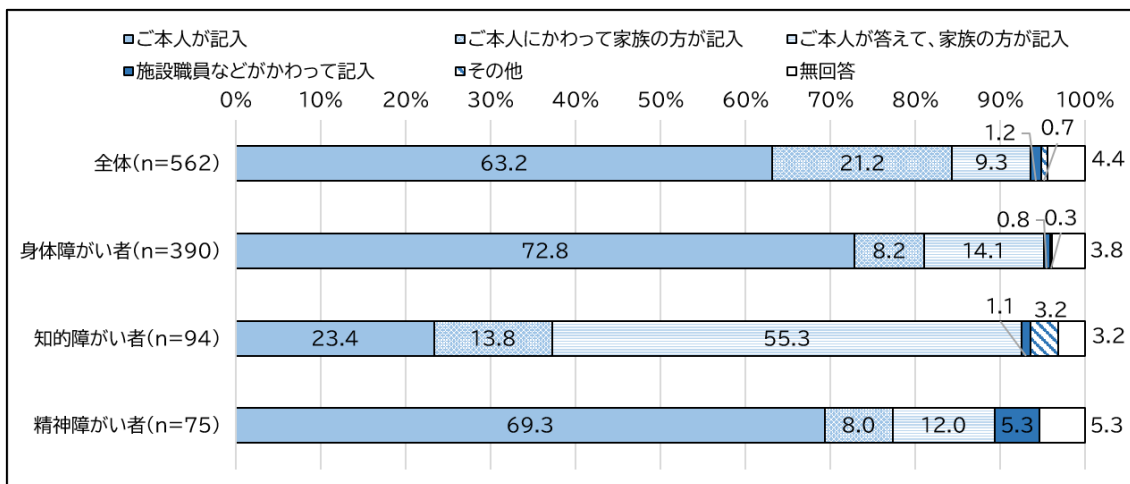
Ⅱ 調査結果

1 回答者について

調査に回答されるのはどなたですか。(1つに○)

調査の回答者は、「ご本人が記入」(63.2%)が過半数を占めています。次いで、「ご本人にかわって家族の方が記入」(21.2%)、「ご本人が答えて、家族の方が記入」(9.3%)と続いています。障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では、「ご本人が記入」が6割以上を占めていますが、知的障がい者では、「ご本人にかわって家族の方が記入」が55.3%を占めています。

図表1 回答者について(全体、障がい別)



※障がい別の総数について障がい区分が不明の回答が含まれており、総数と合致していません。

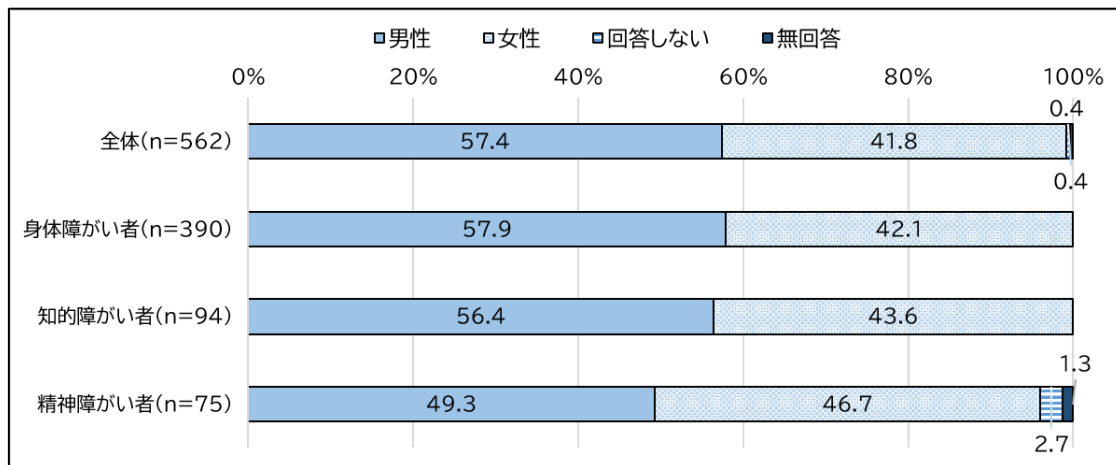
2 回答者について

(1)性別

問1 あなたの性別を、おうかがいします。(1つに○)

回答者の男女比をみると、男性が多くなっています。また、障がい別にみても、いずれも同様の傾向がみられ、男性の割合が女性の割合を上回っています。

図表2 本人の性別(全体、障がい別)

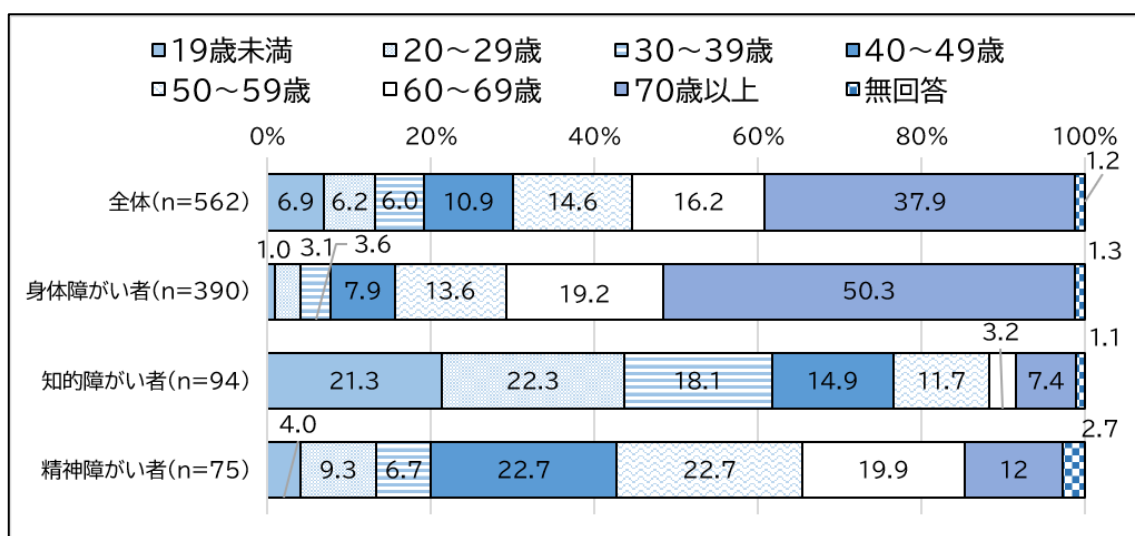


(2)年齢

問2 あなたの年齢は3月1日現在、満何歳ですか。数字をご記入ください。

年齢をみると、「70歳以上」(37.9%)の割合が最も多くなっています。また「60歳以上」(54.1%)でみると全体の5割以上を占めています。一方、知的障がい者では、「20～29歳」、精神障がい者では、「40～49歳」及び「50～59歳」が最も多くなっています。

図表3 本人の年齢(全体、障がい別)



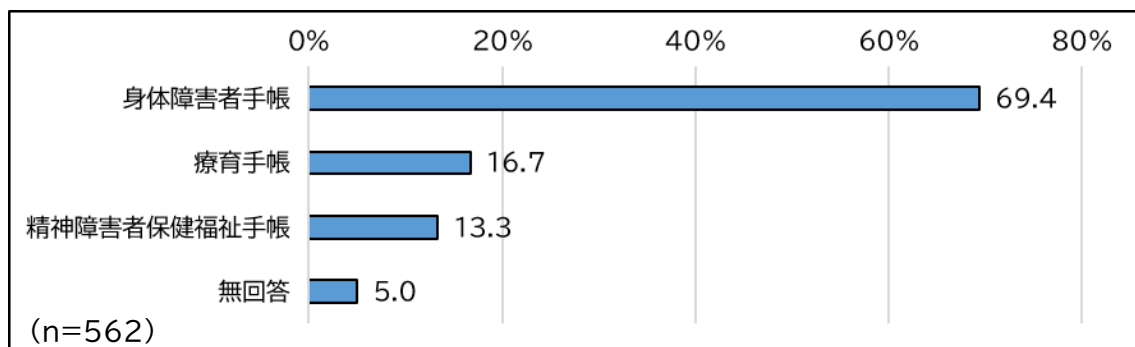
3 心身の状況について

(1)障がい者手帳について

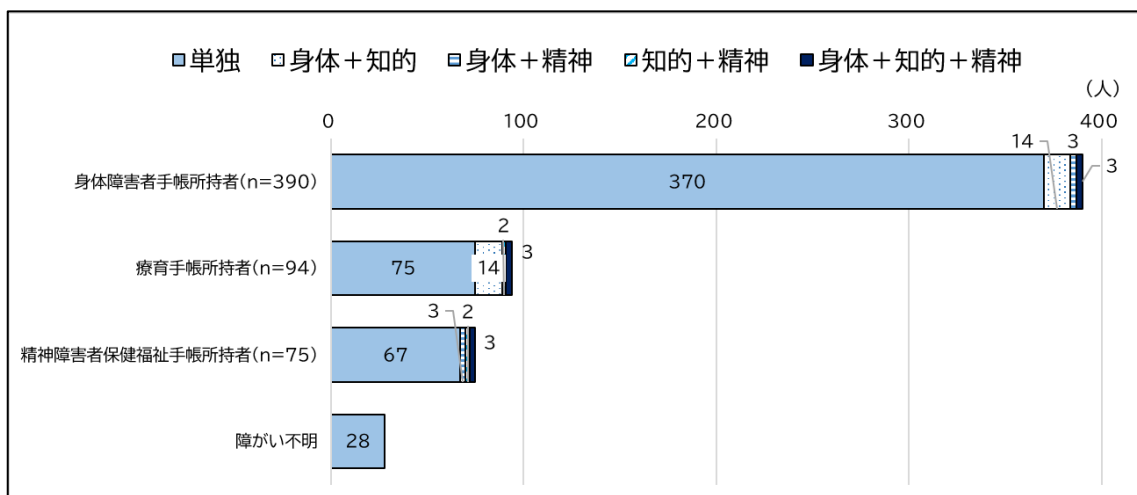
問3 あなたは次の手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の種類に○をつけてください。さらに、お持ちの場合は手帳の等級もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

障がい者手帳の所持状況をみると、身体障害者手帳所持者が390人(69.4%)、療育手帳所持者が94人(16.7%)、精神障害者保健福祉手帳所持者が75人(13.3%)となっています。

図表4 障がい者手帳の所持状況(全体/複数回答)



図表5 障がい者手帳の所持状況(障がい別)

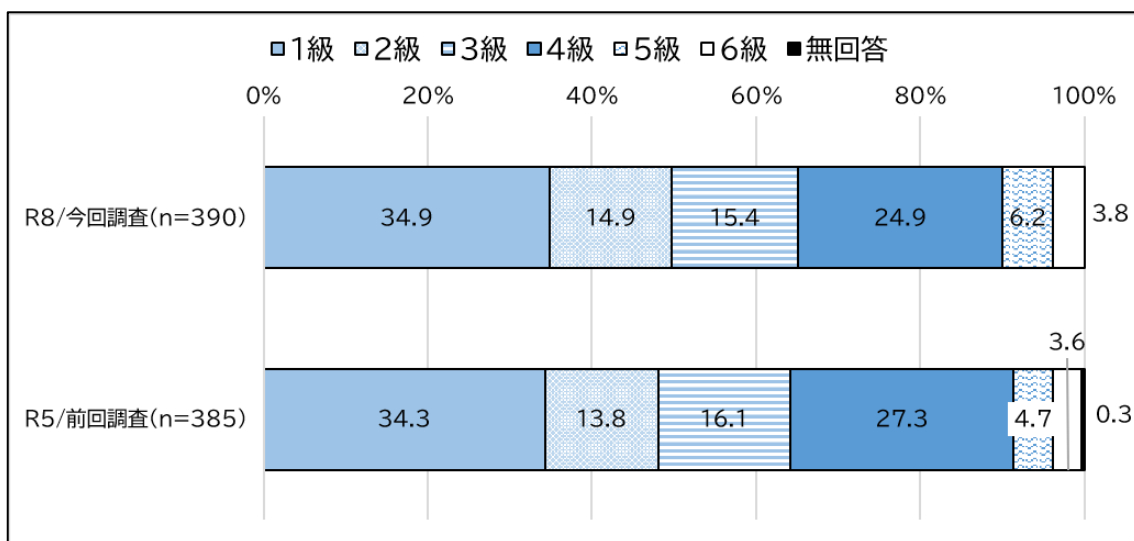


「※身体障害者手帳について」

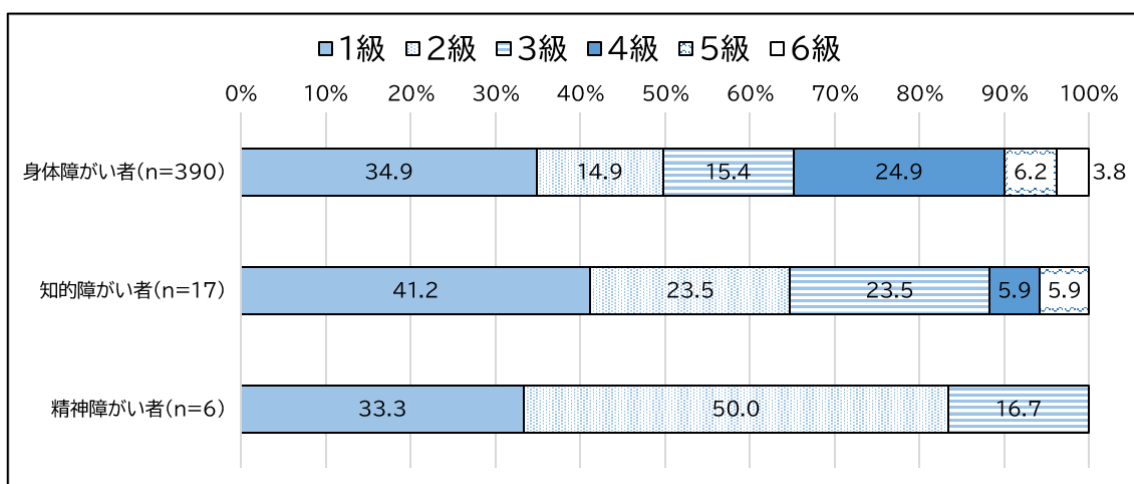
身体障害者手帳所持者では、「1級」(34.9%)の割合が最も多くなっています。前回調査と比較すると「1級」所持者が0.6ポイント増加しています。

障がい別にみると、知的障がい者で身体障害者手帳を所持している人では「1級」(41.2%)が最も多く、精神障がい者で身体障害者手帳を所持している人では「2級」(50.0%)が最も高くなっています。

図表6 身体障害者手帳の所持状況(全体、前回比較)



図表7 身体障害者手帳の所持状況(障がい別)

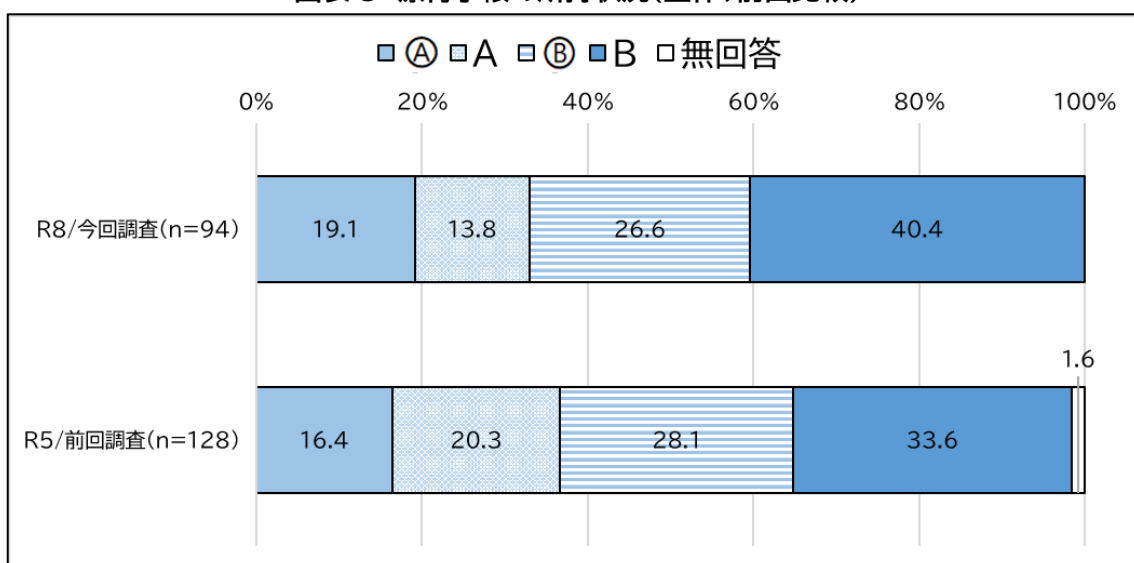


「※療育手帳について」

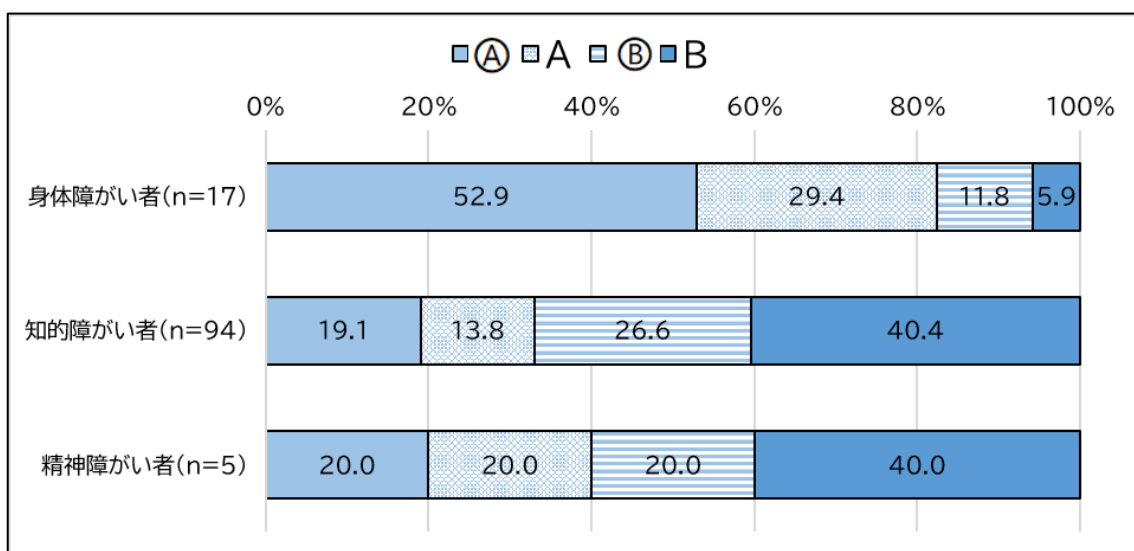
療育手帳所持者では、「B」(40.4%)の割合が最も多くなっています。前回調査と比較すると「B」が6.8ポイント増加しています。

障がい別にみると、身体障がい者で療育手帳を所持している人では「㊤」(52.9%)が最も多く、精神障がい者で療育手帳を所持している人では「B」(40.0%)が最も高いです。

図表 8 療育手帳の所持状況(全体、前回比較)



図表 9 療育手帳の所持状況(障がい別)

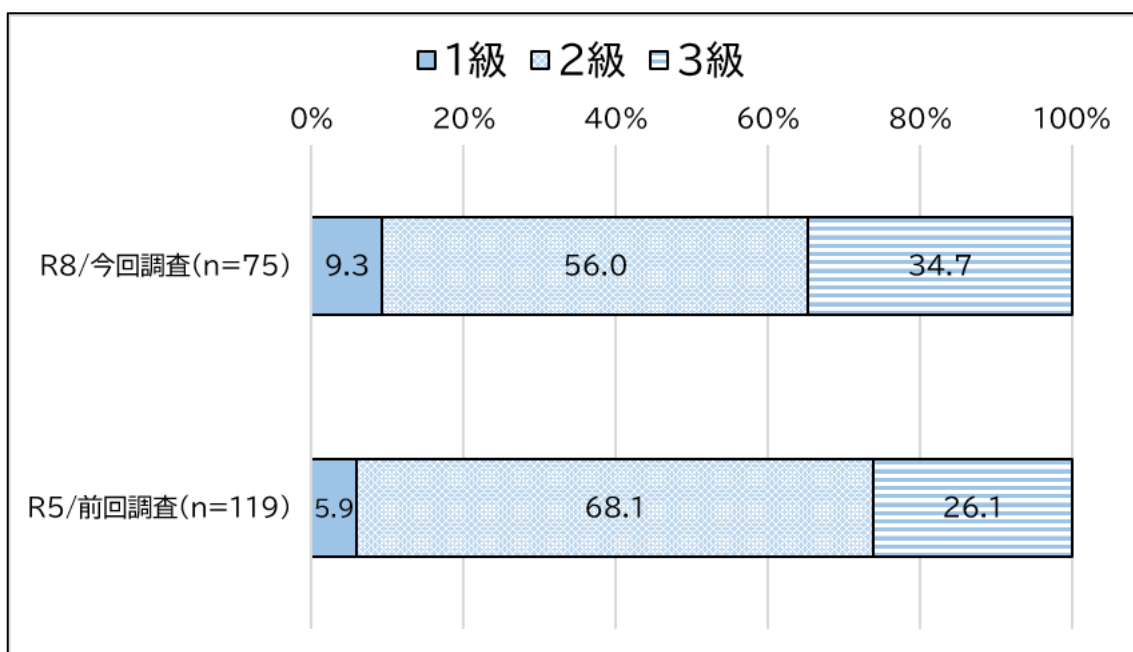


「※精神障害者保健福祉手帳について」

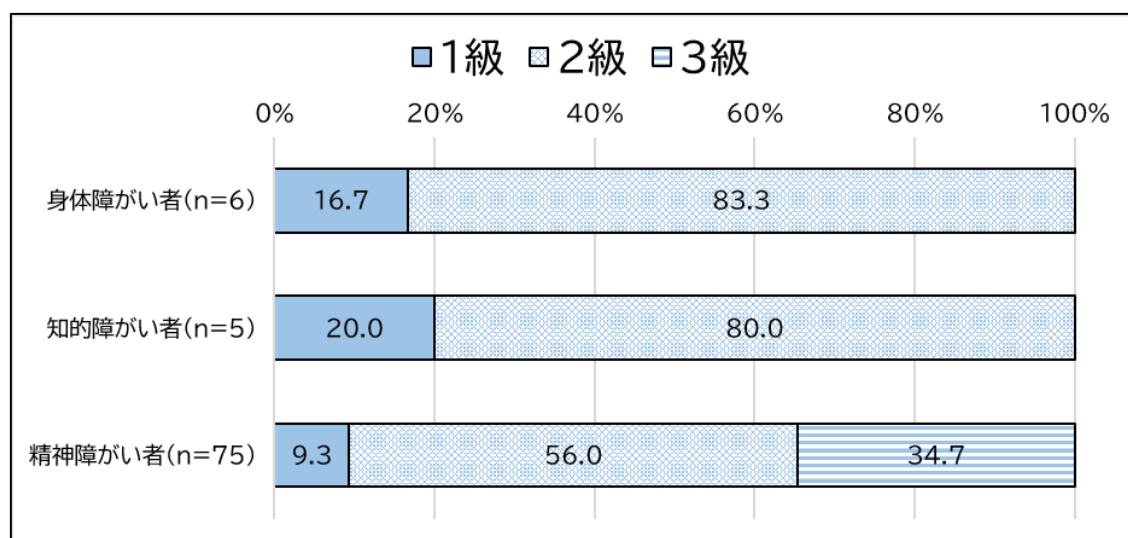
精神障害者保健福祉手帳所持者では、「2級」(56.0%)の割合が最も多くなっています。前回調査と比較すると、「2級」所持者は12.1ポイント減少しています。

障がい別にみると、身体障がい者、知的障がい者で精神障害者保健福祉手帳を所持している人では「2級」(身体 83.3%、知的 80.0%)が最も高いです。

図表 10 精神障害者保健福祉手帳の所持状況(全体、前回比較)



図表 11 精神障害者保健福祉手帳の所持状況(障がい別)

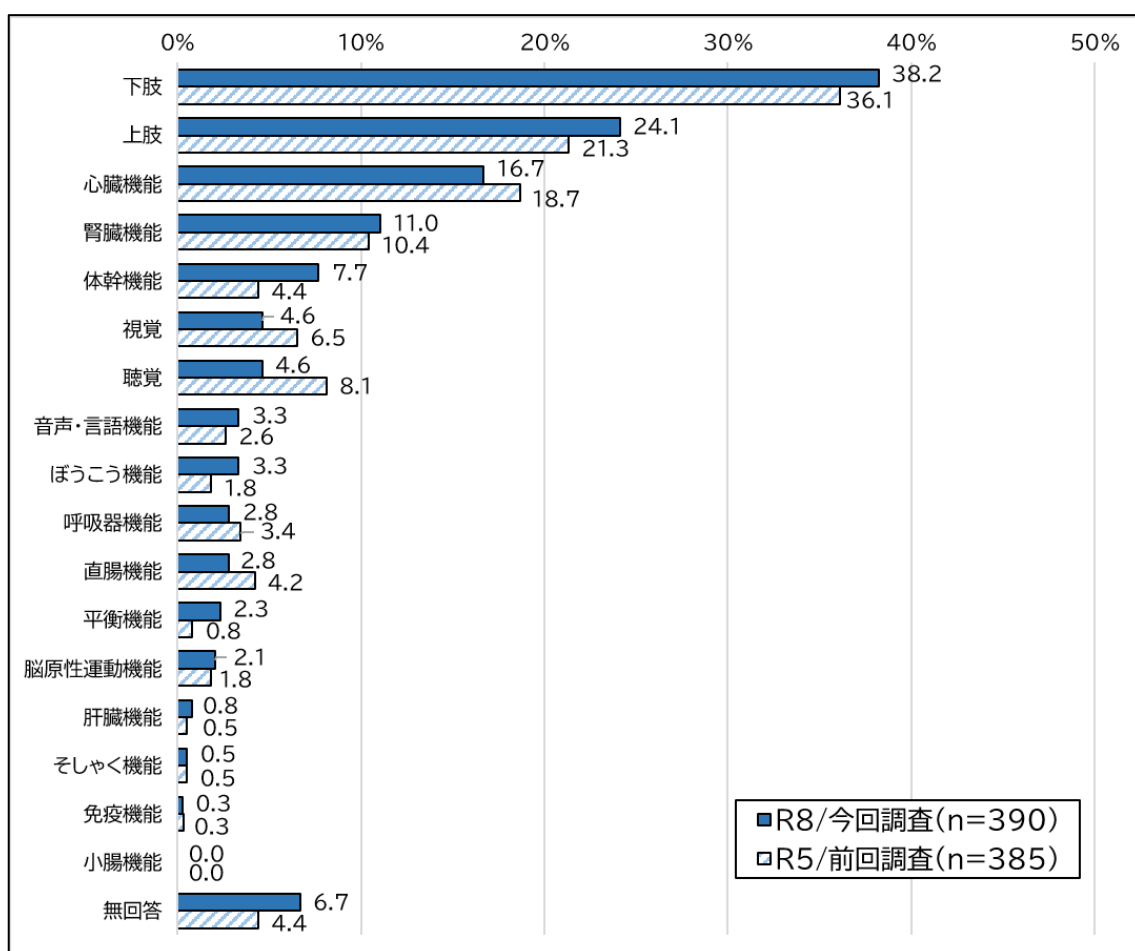


※身体障がい者手帳をお持ちの方

問4 身体障がい者手帳に記載された障がいの種類・部位は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

障がいの部位をみると、「下肢」(38.2%)が最も多く、次いで「上肢」(24.1%)、「心臓機能」(16.7%)、「腎臓機能」(11.0%)、「体幹機能」(7.7%)と続いています。前回調査と比較すると、「下肢」が2.1ポイント増加しています。

図表 12 障がいの種類・部位について(全体、前回比較/複数回答)

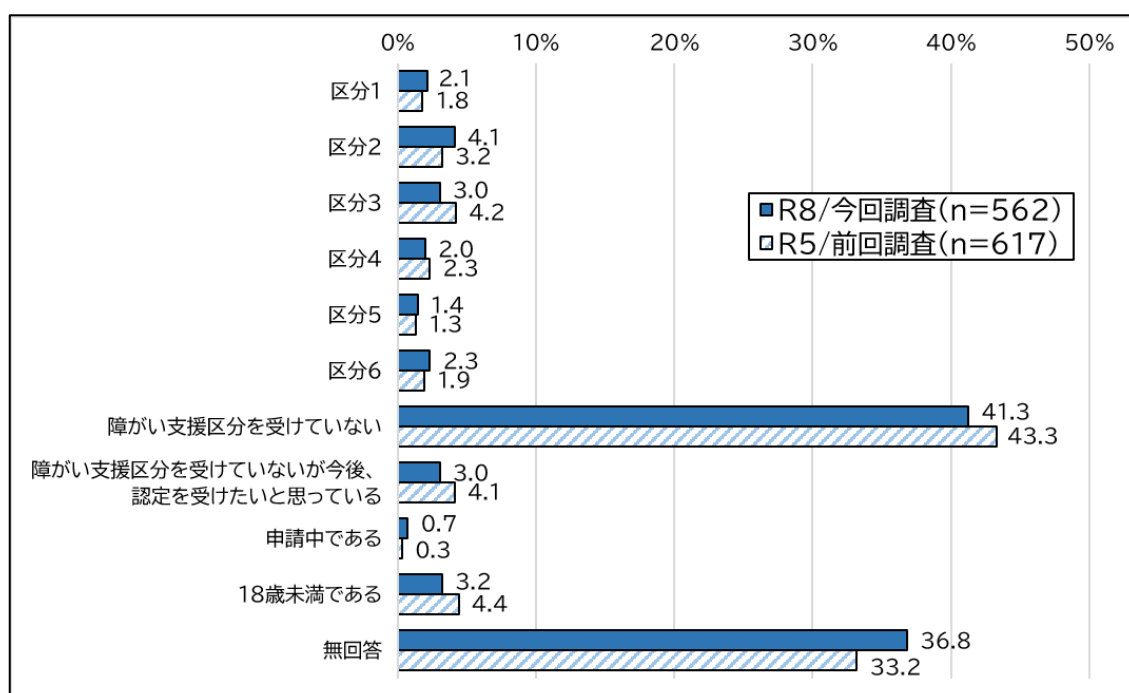


(2)障がい区分について

問5 あなたは、障がい支援区分認定を受けていますか。(1つに○)

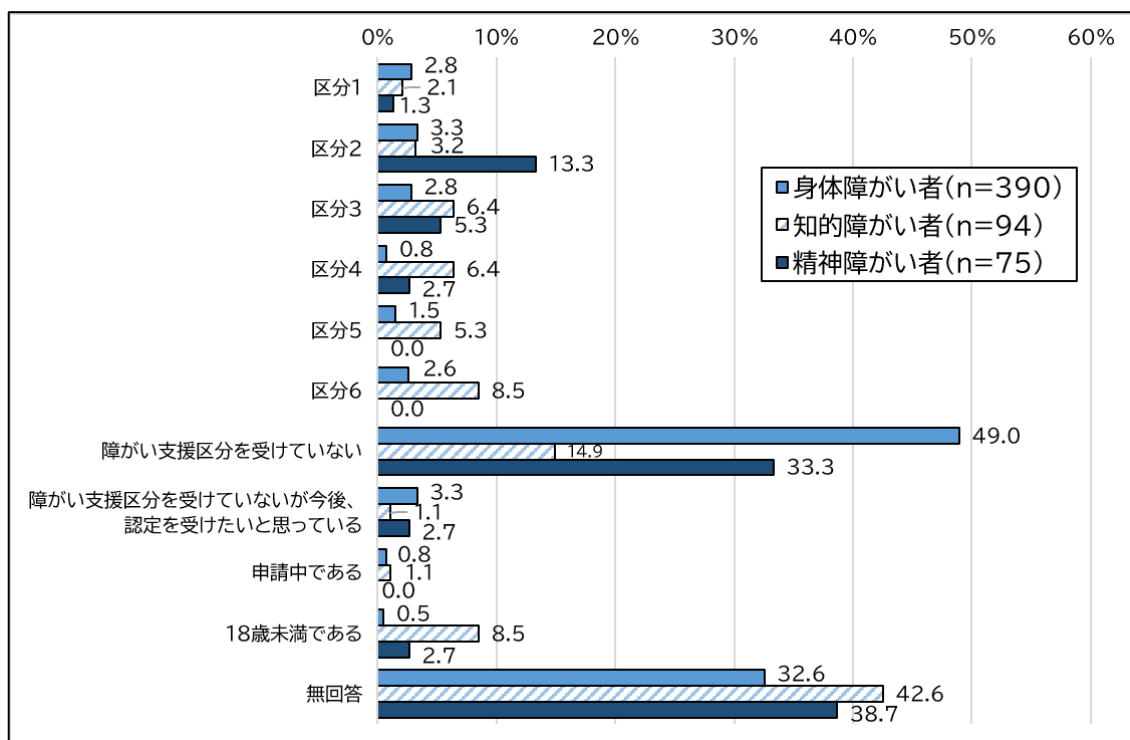
障がい区分認定の状況をみると、「障がい支援区分を受けていない」(41.3%)が最も多く、その割合は突出しています。前回調査と比較すると、「障がい支援区分を受けていない」が2.0ポイント減少しています。

図表13 障がい支援区分認定(全体、前回比較)



障がい別にみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者では、「障がい支援区分を受けていない」が最も多くなっており、特に身体障がい者ではその割合が突出しています。一方、区分認定を受けている人では、身体障がい者で「区分2」、知的障がい者で「区分6」、精神障がい者で「区分2」が高くなっています。

図表14 障がい支援区分認定(障がい別)

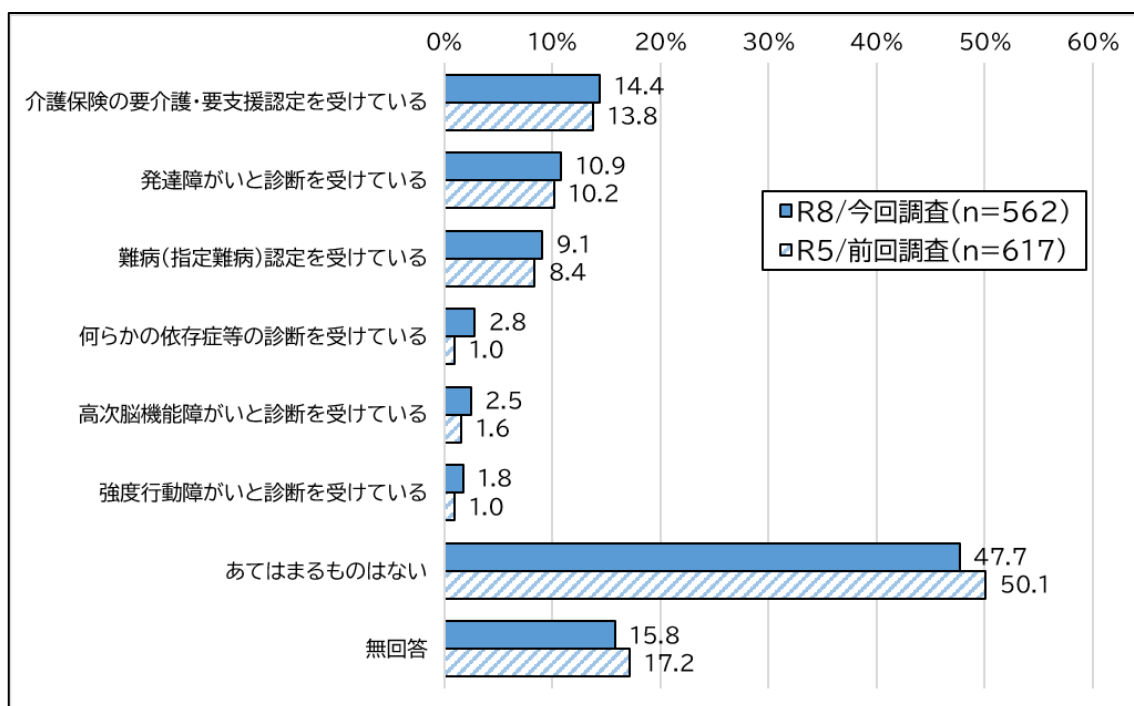


(3)各種認定等について

問6 あなたは、下記のどちらにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

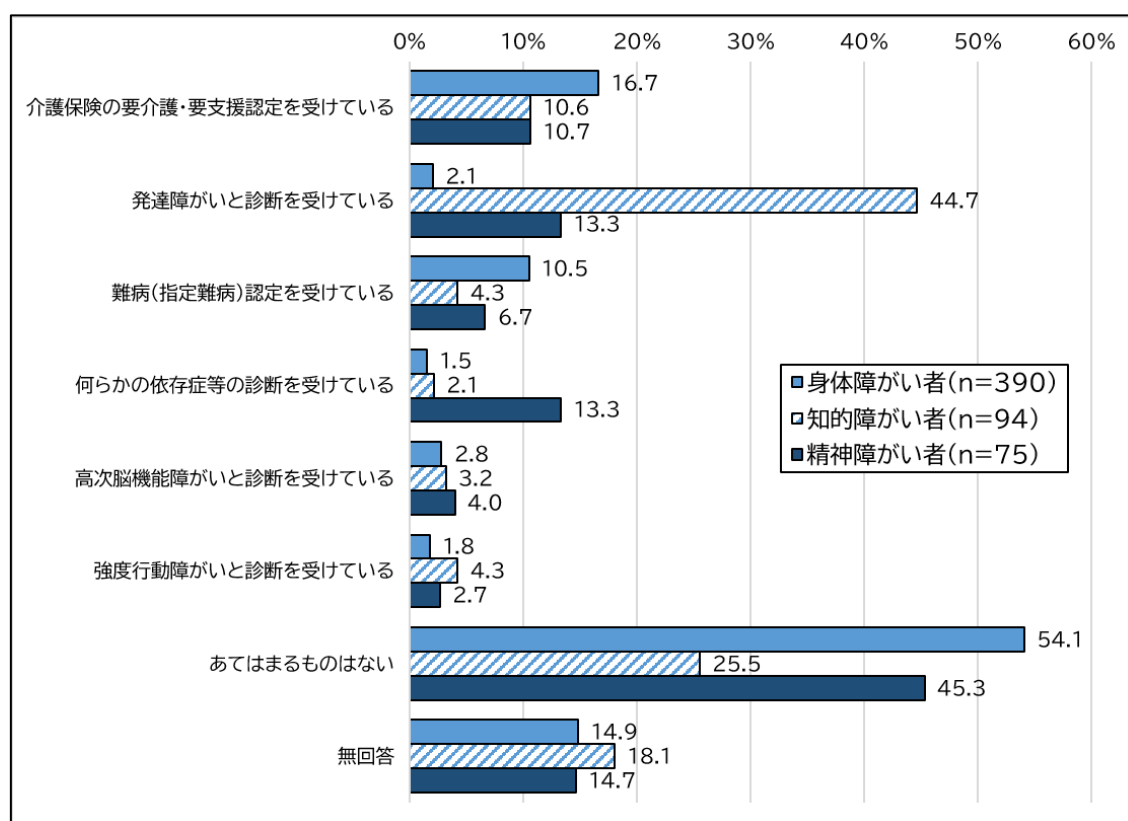
各種認定状況等をみると、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(14.4%)が最も多く、次いで「発達障がいと診断を受けている」(10.9%)、「難病(指定難病)認定を受けている」(9.1%)、「何らかの依存症等の診断を受けている」(2.8%)、「高次脳機能障がいと診断を受けている」(2.5%)、「強度行動障がいと診断を受けている」(1.8%)と続いています。前回調査と比較すると、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」が0.6ポイント増加しています。また全体でみると、「あてはまるものはない」は47.7%と突出しています。

図表15 各種認定等について(全体、前回比較/複数回答)



障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では「あてはまるものはない」が最も多くなっています。次いで身体障がい者では「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(16.7%)、「難病(指定難病)認定を受けている」(10.5%)と続いており、精神障がい者では「発達障がいと診断を受けている」、「何らかの依存症等の診断を受けている」(13.3%)、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(10.7%)と続いています。一方、知的障がい者では「発達障がいと診断を受けている」(44.7%)が最も多く、次いで「あてはまるものはない」(25.5%)、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(10.6%)となっています。

図表16 各種認定等について(障がい別/複数回答)

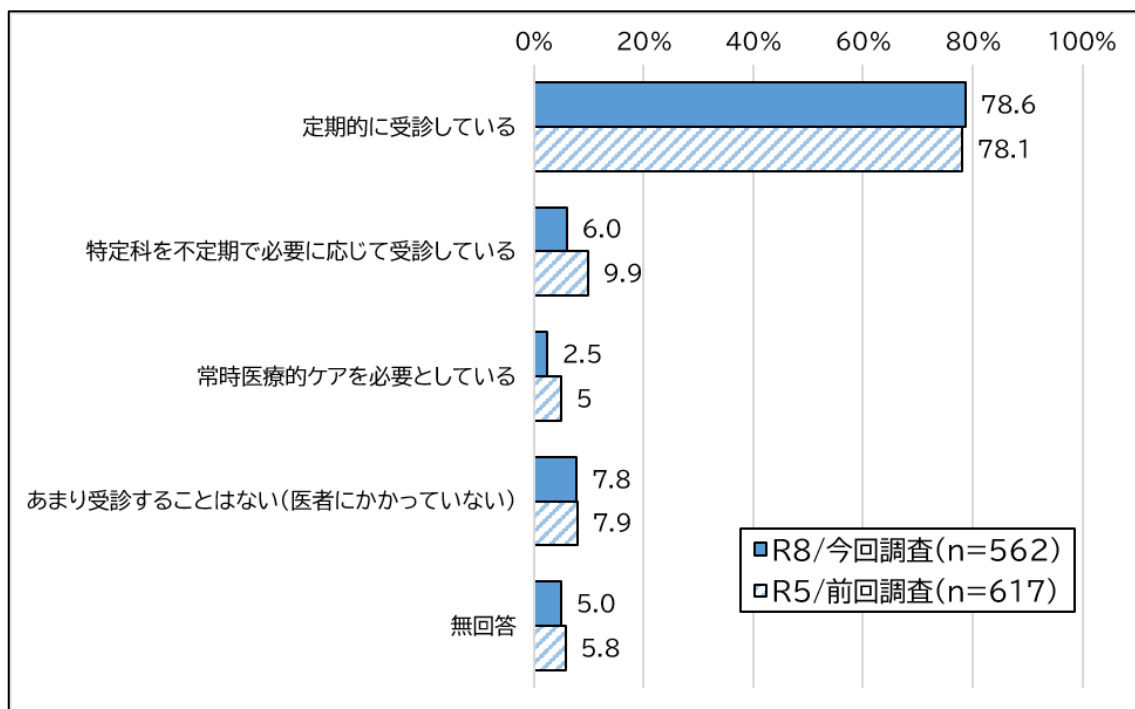


(4)医療について

問7 あなたは、定期的に医療機関での受診をしていますか。(1つに○)

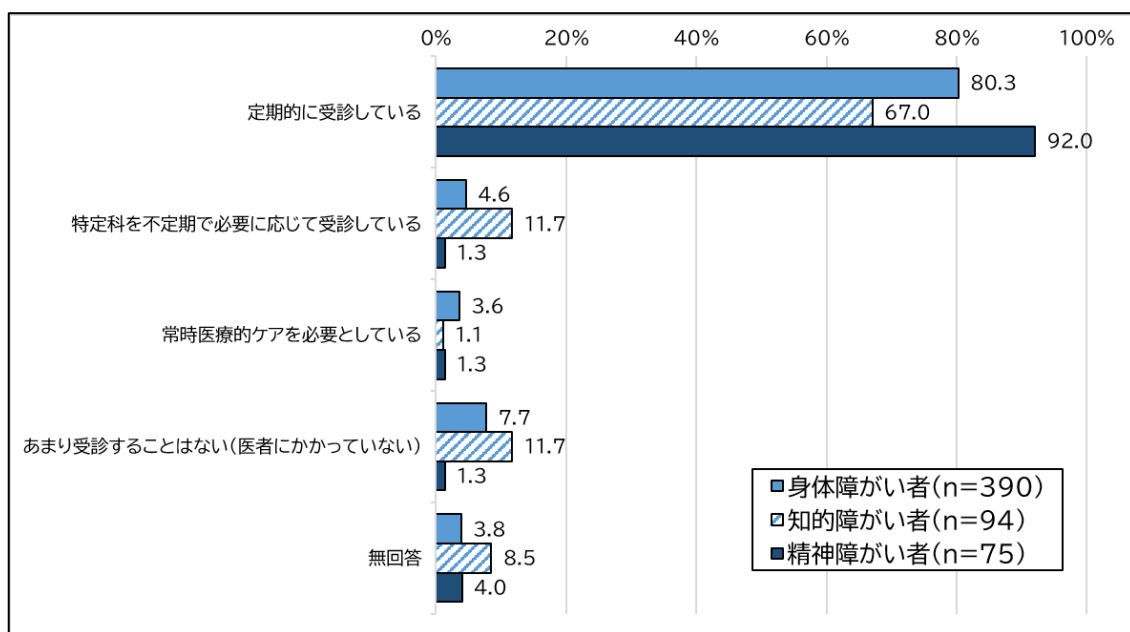
医療機関の受診状況をみると、「定期的に受診している」(78.6%)の割合が最も多く、突出しています。次いで、「あまり受診することはない(医者にかかっていない)」(7.8%)、「特定科を不定期で必要に応じて受診している」(6.0%)と続いています。一方、「常時医療的ケアを必要としている」は2.5%となっています。前回調査と比較すると、「定期的に受診している」が0.5ポイント増加しています。

図表17 定期的な医療機関の受診について(全体、前回比較)



障がい別にみると、障がいの種類に関わらず「定期的に受診している」が最も多くなっています。特に精神障がい者では9割を超えています。

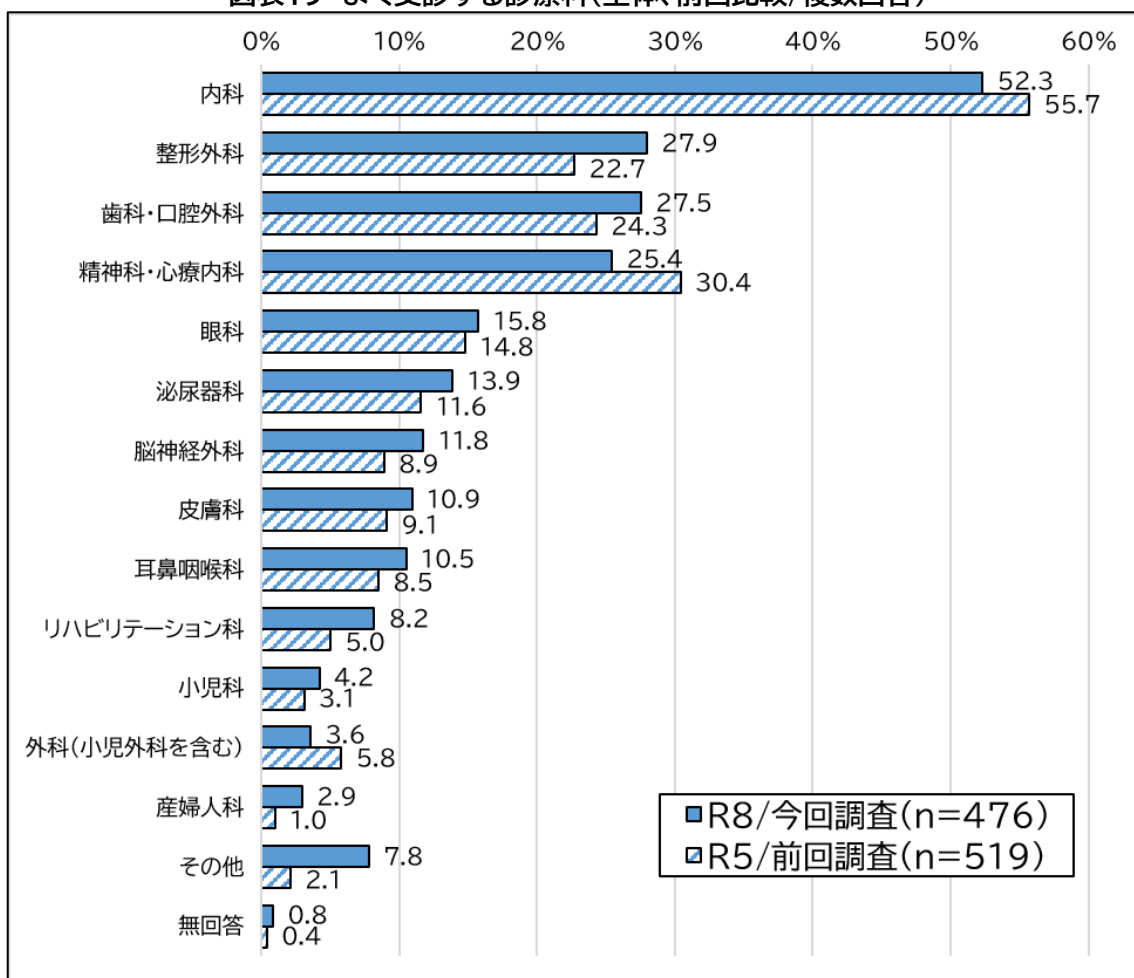
図表18 定期的な医療機関の受診について(障がい別/複数回答)



※問7で「定期的に受診している」、「特定科を不定期で必要に応じて受診している」と回答した方
問8 あなたがよく受診する診療科は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

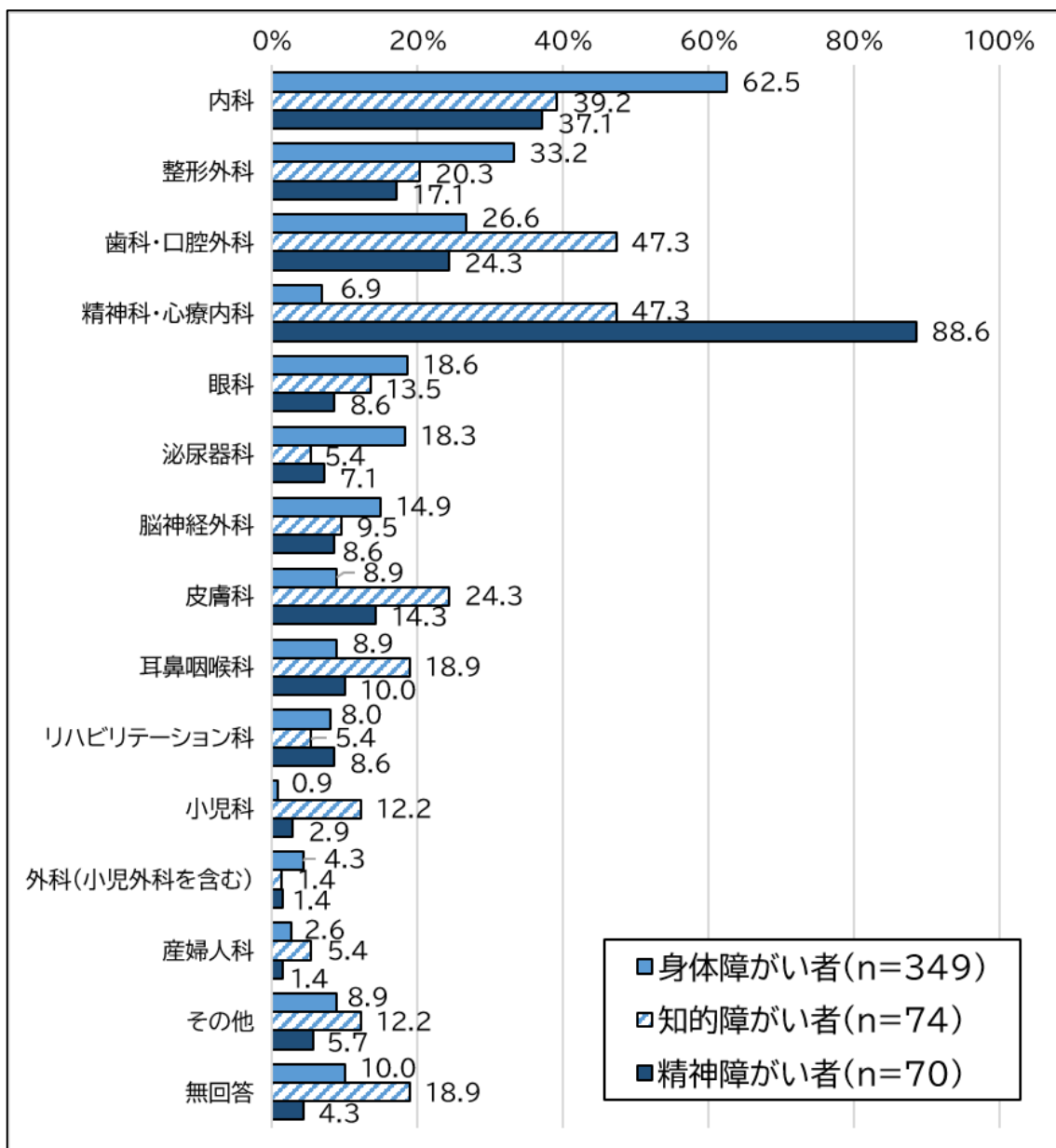
よく受診する診療科をみると、「内科」(52.3%)の割合が最も多く、突出しています。次いで、「整形外科」(27.9%)、「歯科・口腔外科」(27.5%)、「精神科・心療内科」(25.4%)、「眼科」(15.8%)と続いています。前回調査と比較すると、「内科」が3.4ポイント減少、「整形外科」が5.2ポイント増加しています。

図表19 よく受診する診療科(全体、前回比較/複数回答)



障がい別にみると、身体障がい者では、「内科」(62.5%)が最も多く、知的障がい者では、「歯科・口腔外科」、「精神科・心療内科」(47.3%)が最も多く、精神障がい者では、「精神科・心療内科」(88.6%)が最も多くなっています。

図表 20 よく受診する診療科(障がい別/複数回答)



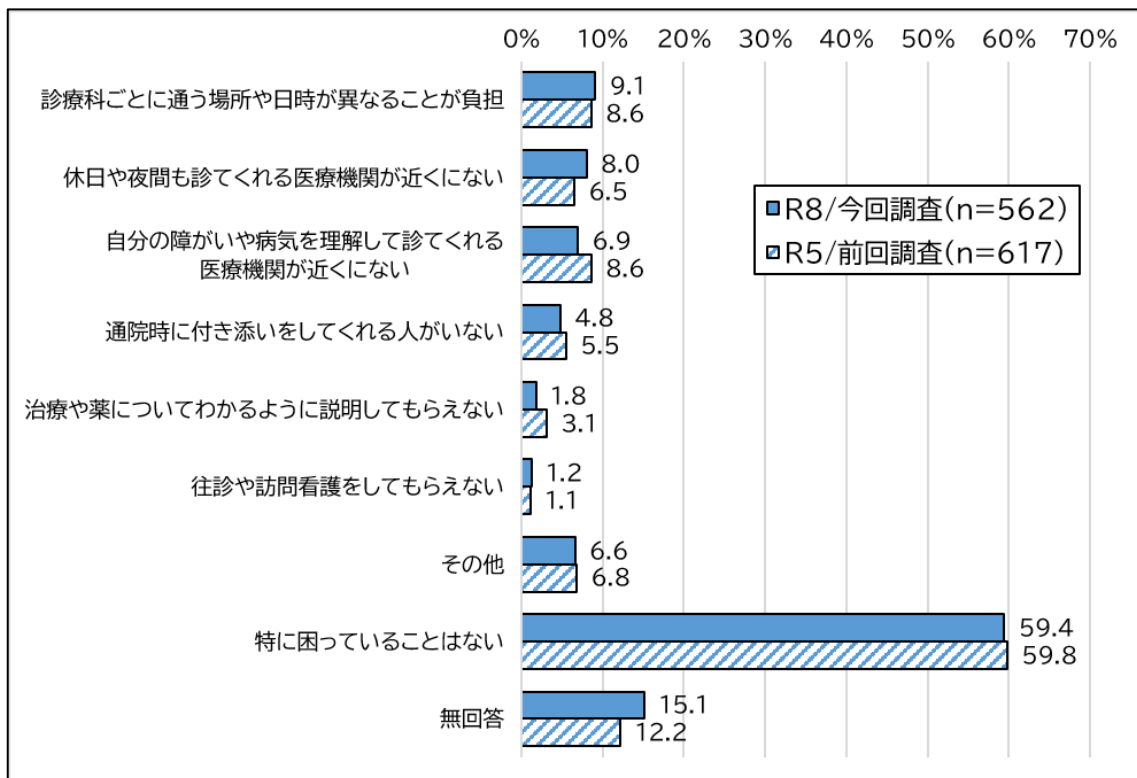
問9 あなたが、医療について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

医療について困っていることをみると、「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」(9.1%)の割合が最も多く、次いで「休日や夜間も診てくれる医療機関が近くにない」(8.0%)、「自分の障がいや病気を理解して診てくれる医療機関が近くにない」(6.9%)、「通院時に付き添いをしてくれる人がいない」(4.8%)、「治療や薬についてわかるように説明してもらえない」(1.8%)、「往診や訪問看護をしてもらえない」(1.2%)と続いています。

一方、5割以上の人々が、「特に困っていることはない」(59.4%)と回答しています。

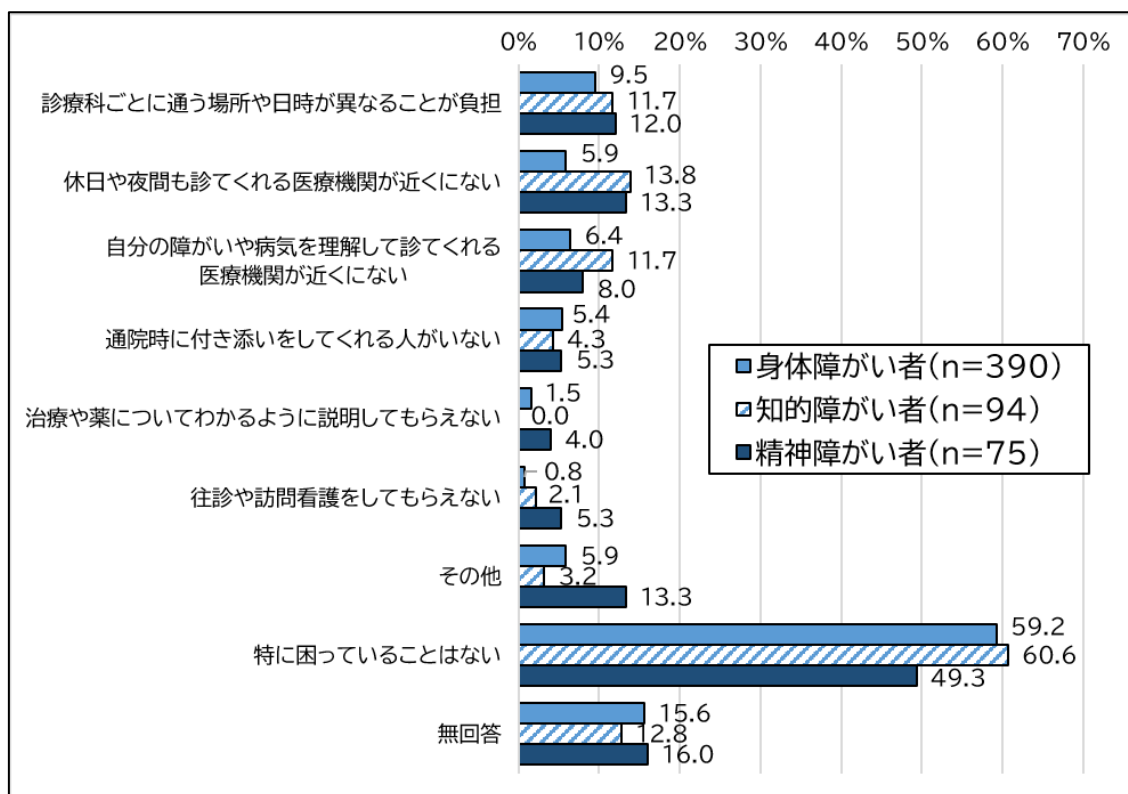
また前回調査と比較すると、「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」が 0.5 ポイント増加しています。

図表 21 医療について困っていること(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に困っていることについて内容をみると、身体障がい者では「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」(9.5%)、知的障がい者と精神障がい者では、「休日や夜間も診てくれる医療機関が近くにない」(知的 13.8%、精神 13.3%)がそれぞれ多くなっています。

図表 22 医療について困っていること(障がい別/複数回答)

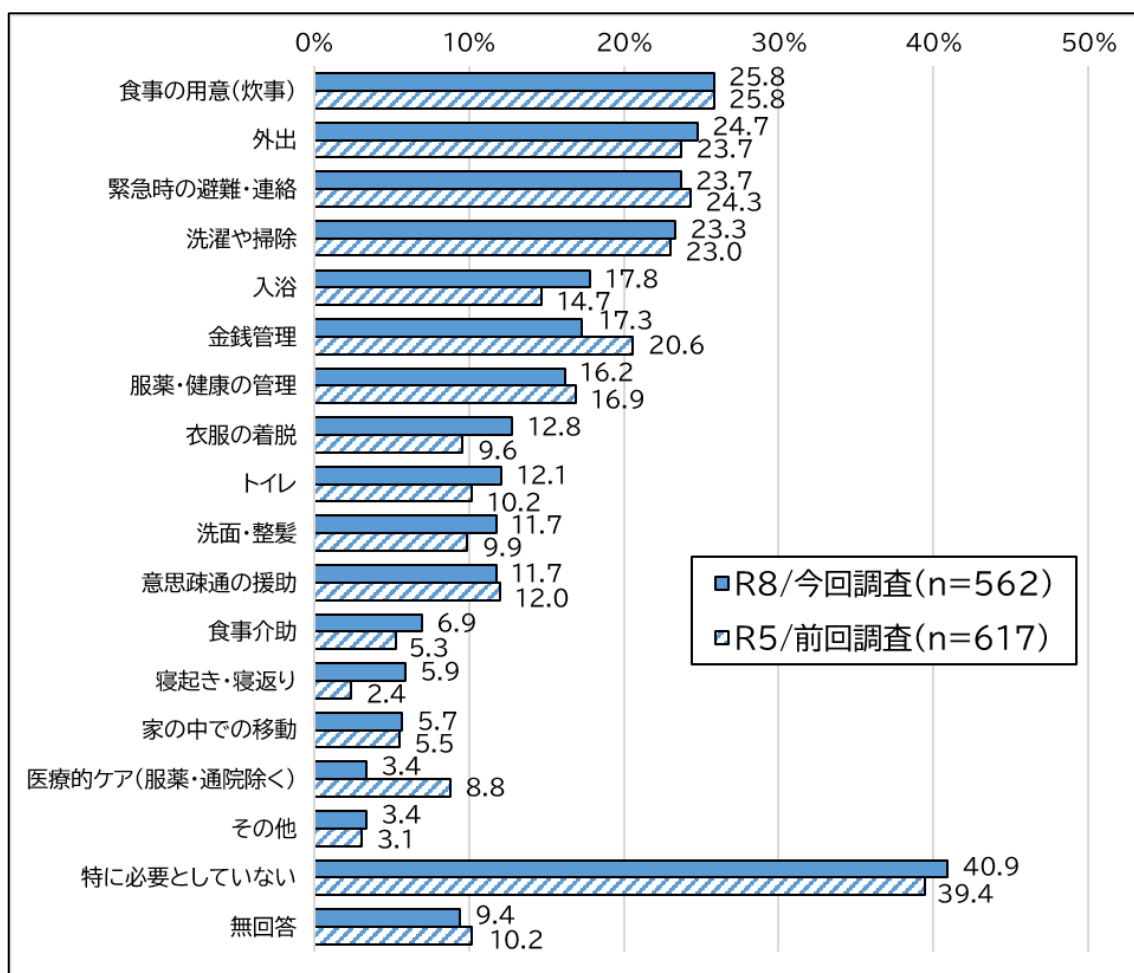


(5)支援について

問10 あなたが支援を必要とすることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

必要とする支援をみると、「食事の用意(炊事)」(25.8%)の割合が最も多く、次いで、「外出」(24.7%)、「緊急時の避難・連絡」(23.7%)、「洗濯や掃除」(23.3%)、「入浴」(17.8%)と続いています。一方、「特に必要としていない」は40.9%となっています。前回調査と比較すると、「外出」が1.0ポイント増加しています。

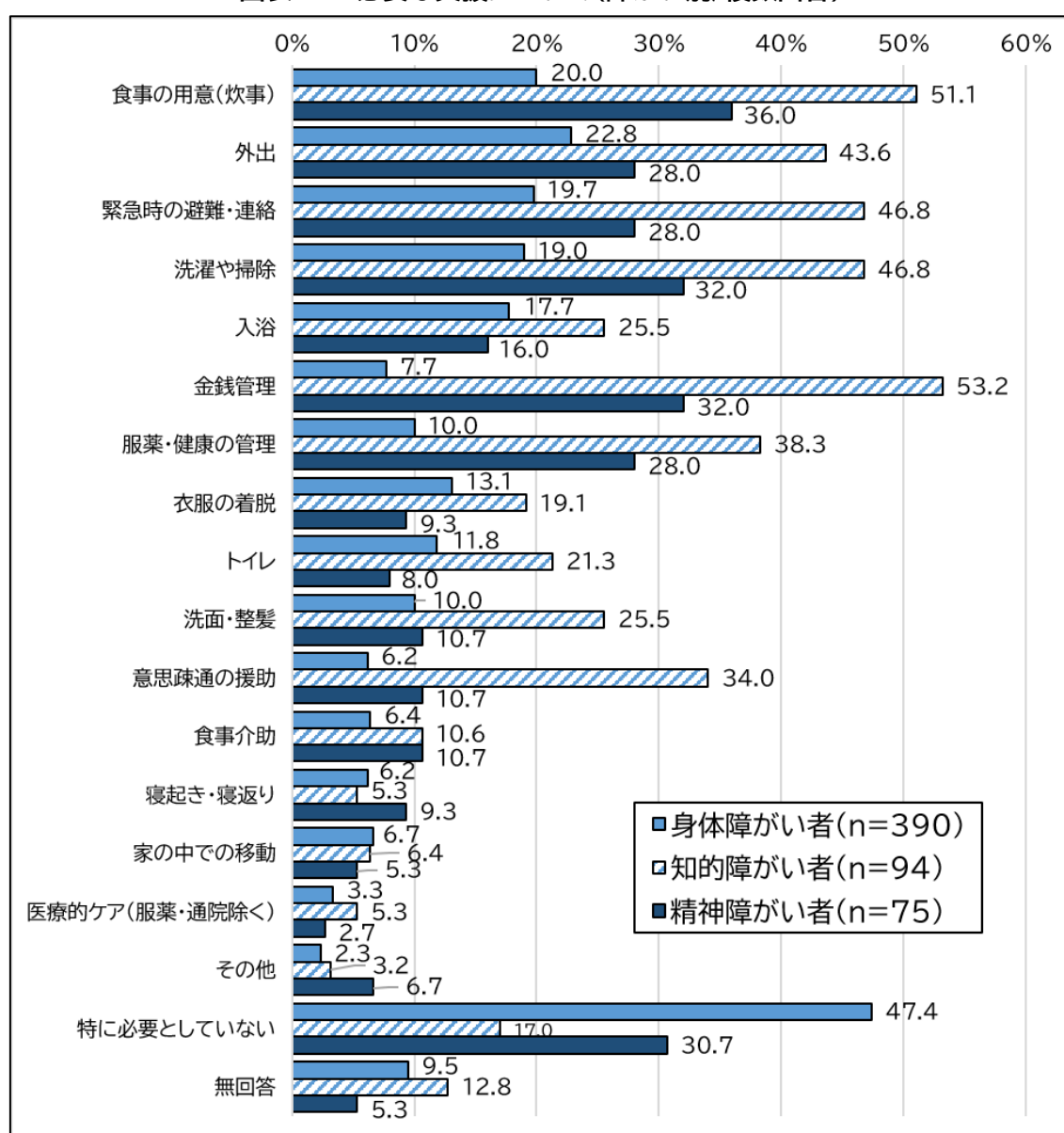
図表 23 必要な支援について(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に必要な支援についての内容をみると、身体障がい者では、「外出」(22.8%)や「食事の用意(炊事)」(20.0%)、知的障がい者では、「金銭管理」(53.2%)や「食事の用意(炊事)」(51.1%)、精神障がい者では、「食事の用意(炊事)」(36.0%)や「洗濯や掃除」、「金銭管理」(32.0%)が多くなっています。

また知的障がい者は、必要とされる支援それぞれの割合が身体障がい者、精神障がい者よりも多い傾向であり「金銭管理」、「食事の用意(炊事)」については5割を超えています。

図表 24 必要な支援について(障がい別/複数回答)

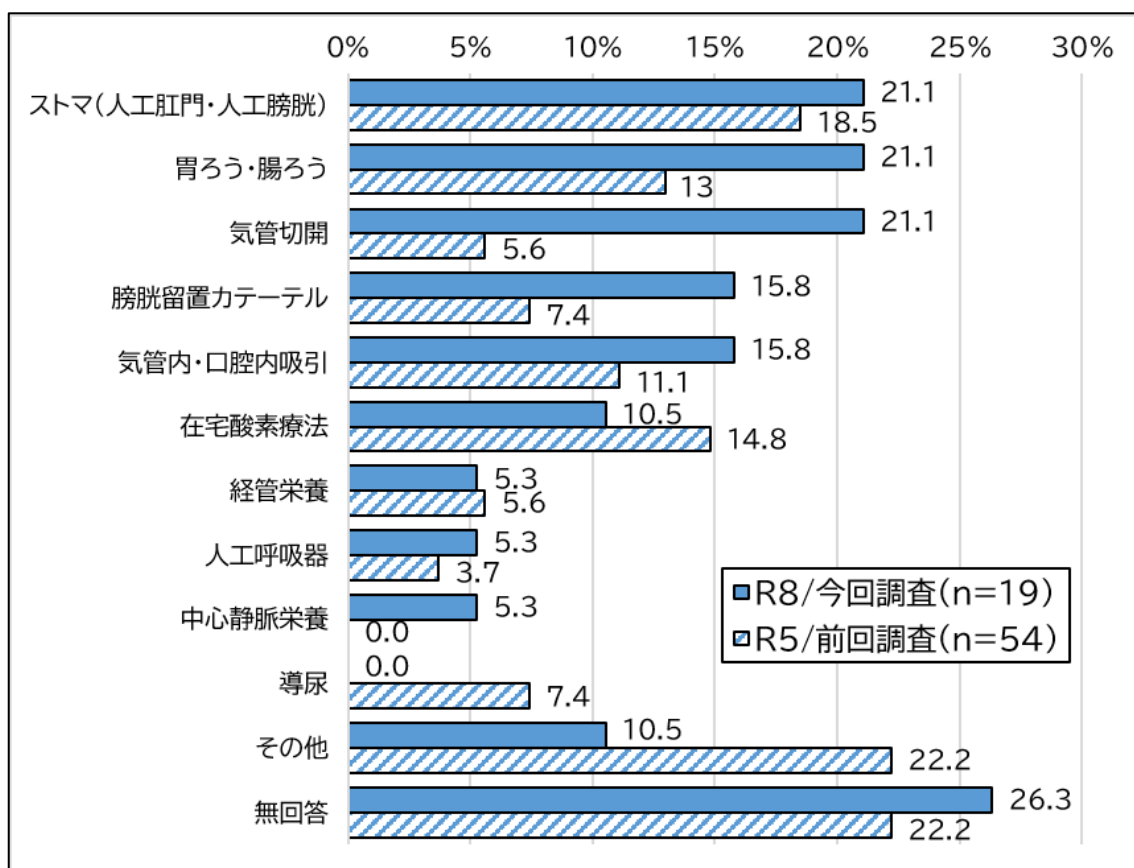


※問10で「医療的ケア(服薬・通院を除く)」と回答した方

問11 あなたは、具体的にどのような医療的ケア(服薬や通院を除く)が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

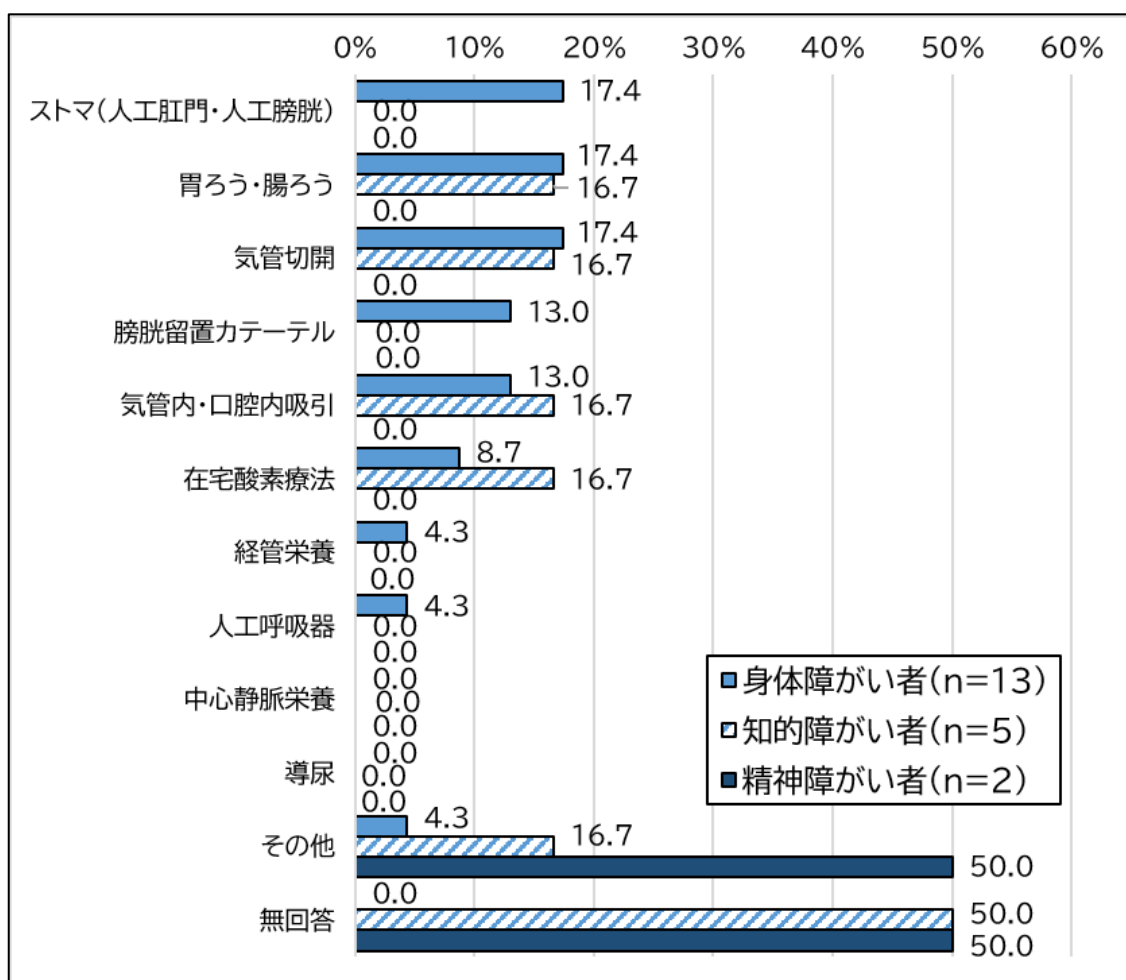
必要とする医療的ケアをみると、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」「胃ろう・腸ろう」「気管切開」(21.1%)の割合が最も多く、次いで、「膀胱留置カテーテル」「気管内・口腔内吸引」(15.8%)、「在宅酸素療法」(10.5%)と続いています。前回調査と比較すると、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」が 2.6 ポイント、「胃ろう・腸ろう」が 8.1 ポイント、「気管切開」が 15.5 ポイント増加しています。

図表 25 必要な医療的ケアについて(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に必要な医療的ケアについてみると、身体障がい者は、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」、「胃ろう・腸ろう」、「気管切開」(17.4%)が最も多く、知的障がい者は、「胃ろう・腸ろう」、「気管切開」、「気管内・口腔内吸引」、「在宅酸素療法」(16.7%)が最も多く、精神障がい者は「その他(定期的な注射、浣腸)」(50.0%)が最も多くなっています。

図表 26 必要な医療的ケアについて(障がい別/複数回答)



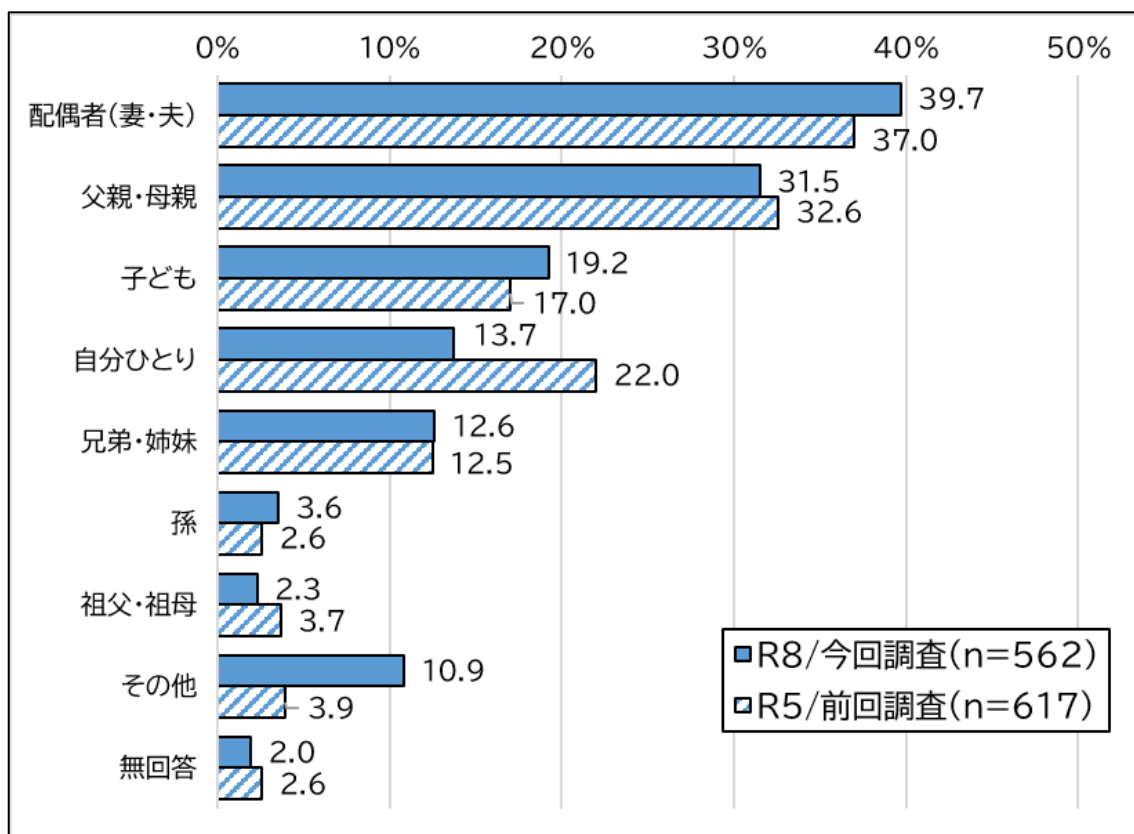
4 あなたの生活のことについて

(1)同居人について

問12 現在、一緒に暮らしている人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

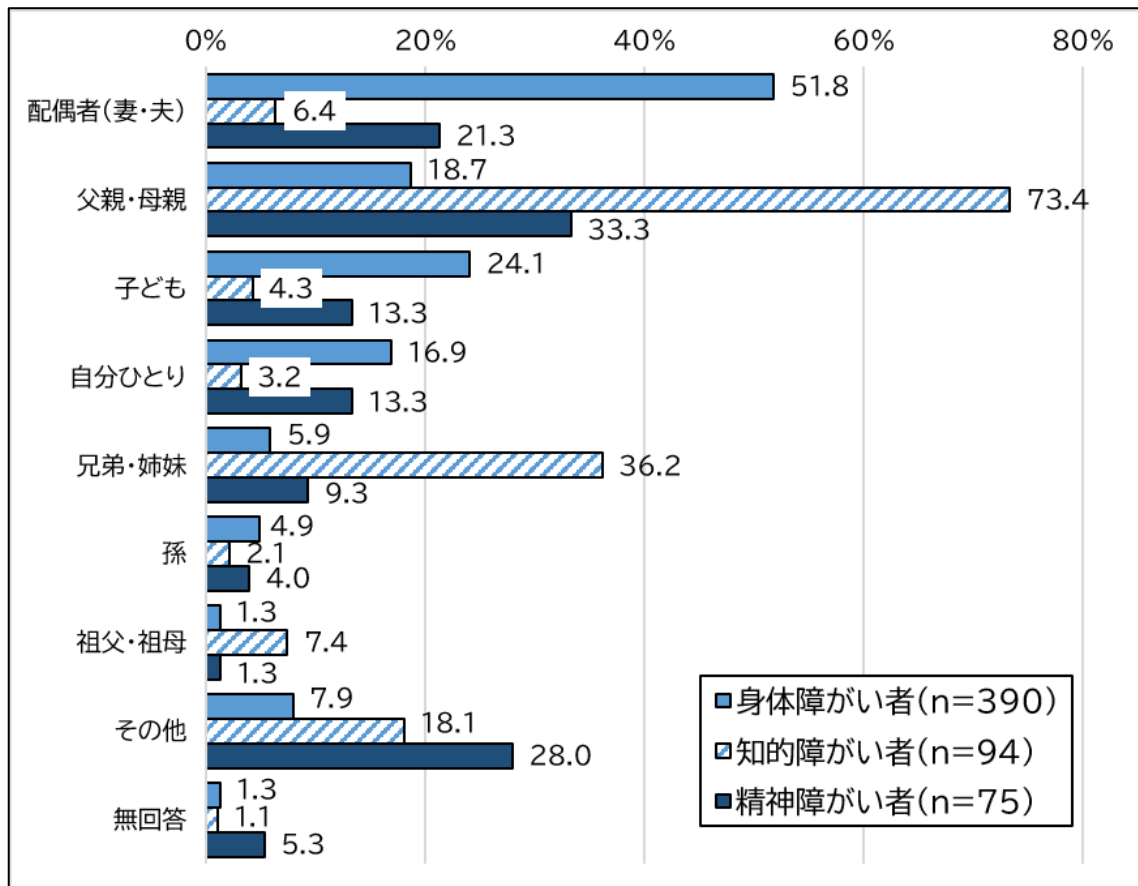
同居人をみると、「配偶者(妻・夫)」(39.7%)の割合が最も多く、次いで「父親・母親」(31.5%)、「子ども」(19.2%)、「自分ひとり」(13.7%)、「兄弟・姉妹」(12.6%)と続いています。前回の調査と比較すると、「配偶者(妻・夫)」が2.7ポイント増加しています。

図表 27 同居人について(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に同居人についてみると、身体障がい者は「配偶者(妻・夫)」(51.8%)、知的障がい者と精神障がい者は「父親・母親」(知的 73.4%、精神 33.3%)が最も多くなっています。

図表 28 同居人について(障がい別/複数回答)

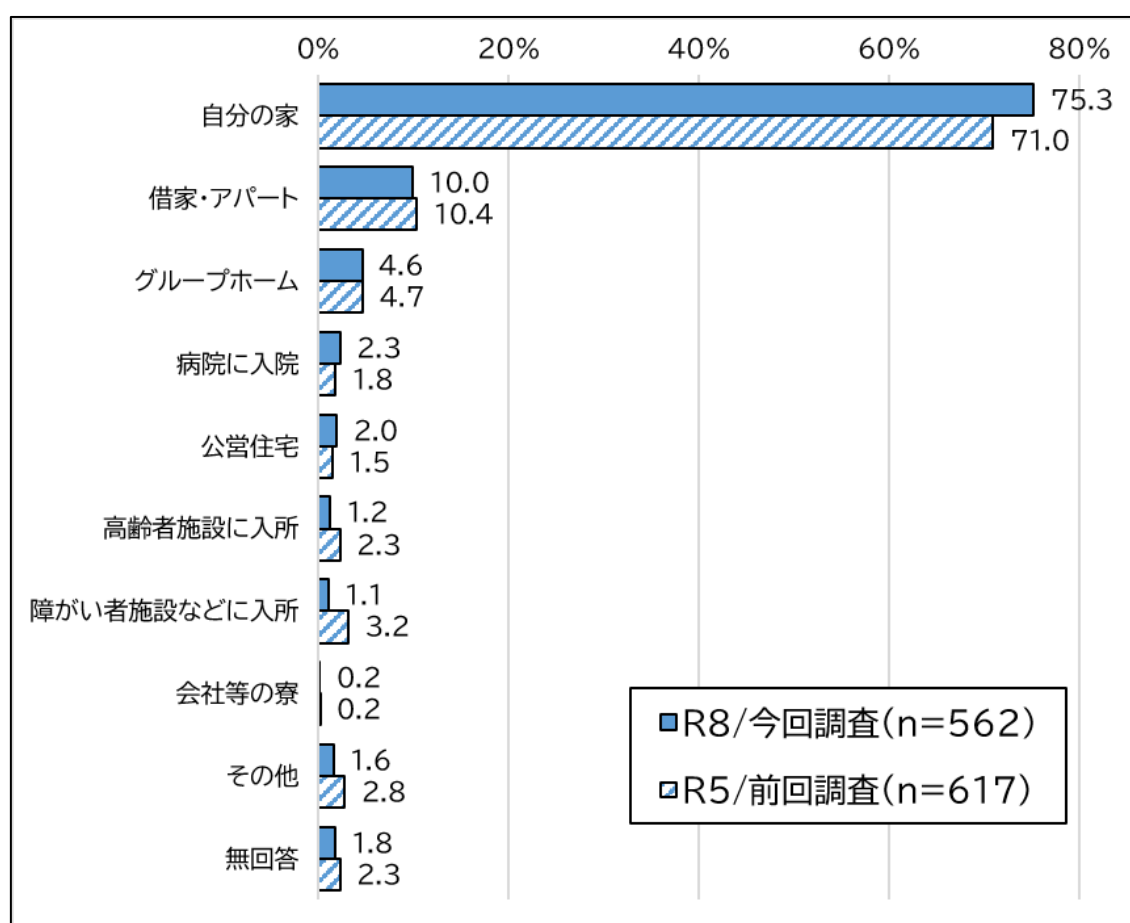


(2)暮らしの場所について

問13 現在のお住まいとして過ごされている場所はどこですか。(1つに○)

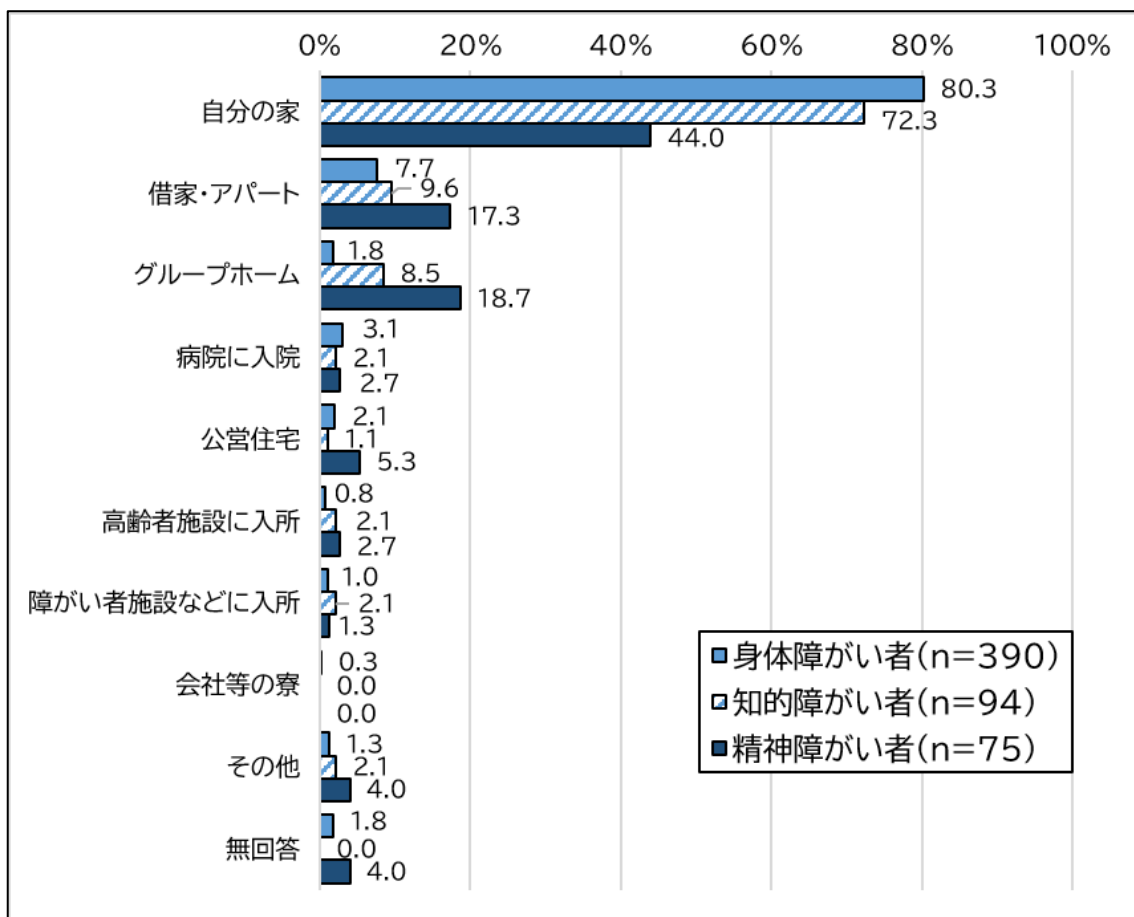
現在、居住している場所をみると、「自分の家」(75.3%)の割合が最も多く、突出しています。次いで、「借家・アパート」(10.0%)、「グループホーム」(4.6%)となっています。前回調査と比較すると、「自分の家」が4.3ポイント増加しています。

図表 29 現在の居住場所(全体、前回比較)



障がい別に居住場所をみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「自分の家」(身体 80.3%、知的 72.3%、精神 44.0%)と最も多くなっています。

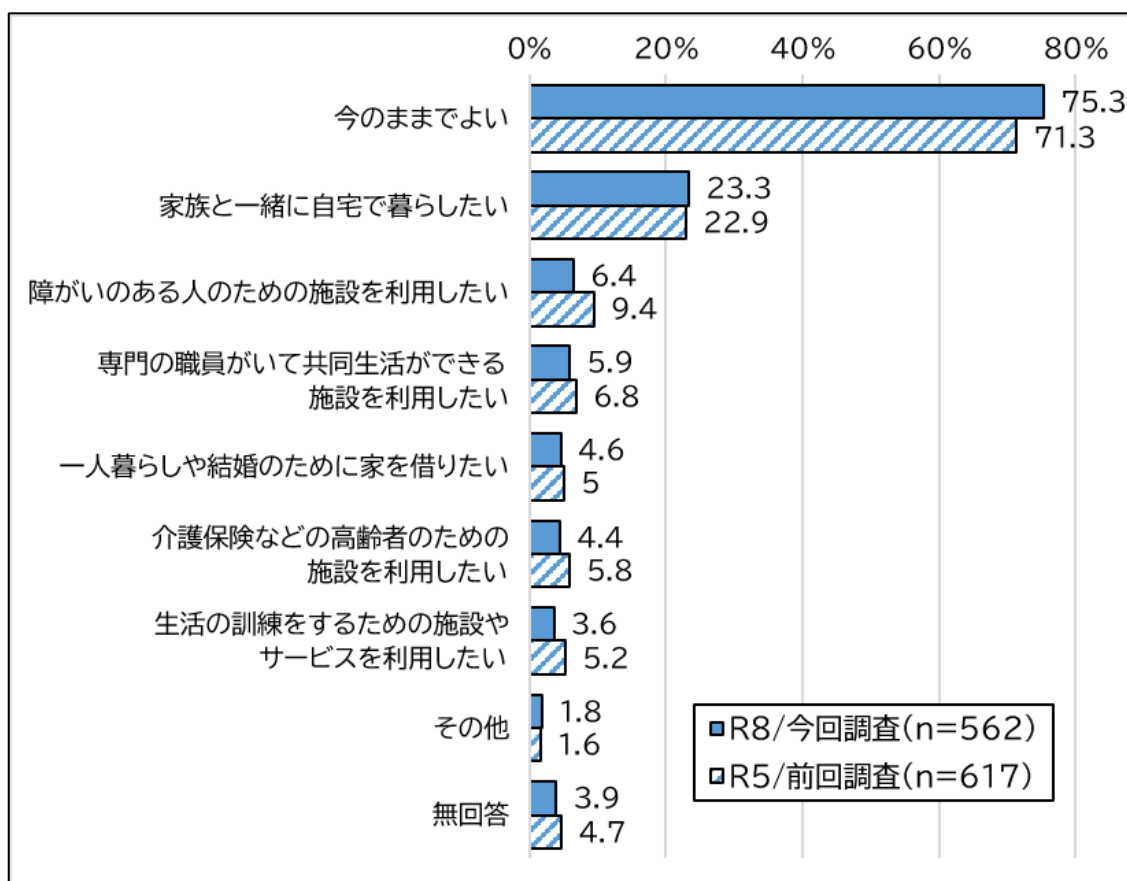
図表 30 現在の居住場所(障がい別)



問14 次にあげるいろいろな住まいのうち、今後、暮らしたいと思うのはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

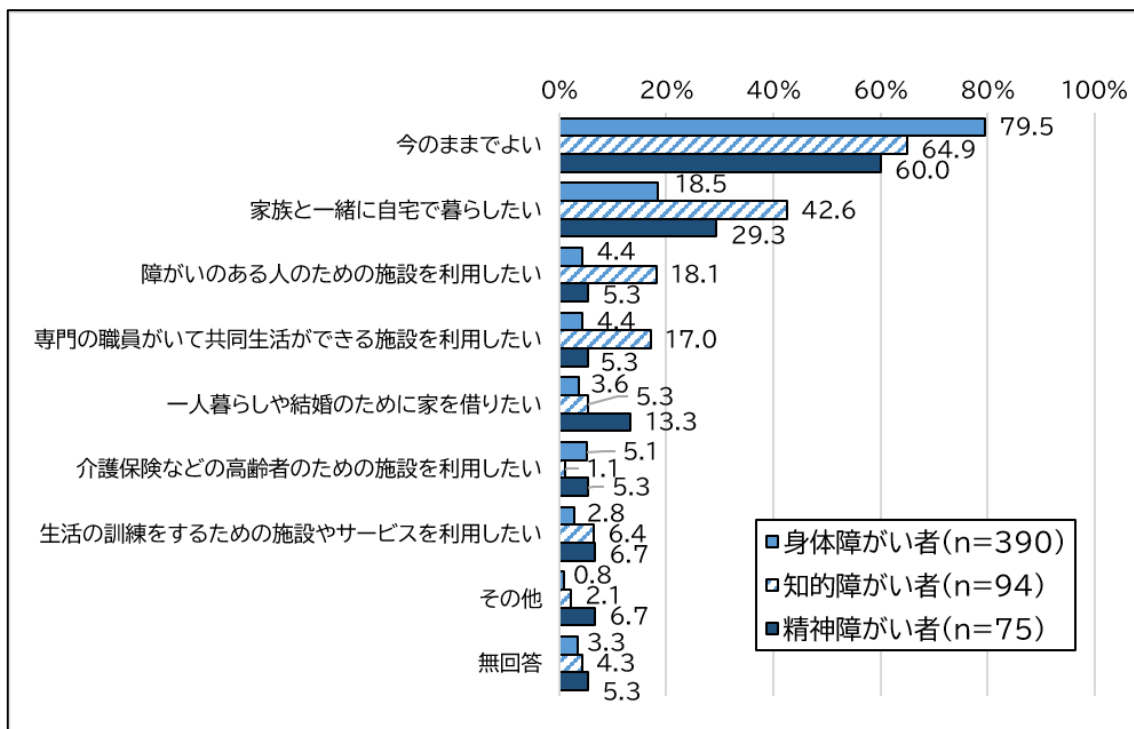
今後希望する居住場所をみると、「今のままでよい」(75.3%)の割合が最も多く、突出しています。次いで、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」(23.3%)、「障がいのある人のための施設を利用したい」(6.4%)と続いています。前回調査と比較すると、「今のままでよい」が4.0ポイント増加しています。

図表 31 今後希望する居住場所(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に今後希望する居住場所をみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「今のままでよい」(身体 79.5%、知的 64.9%、精神 60.0%)と最も多くなっています。いずれも 6 割を超えています。

図表 32 今後希望する居住場所(障がい別/複数回答)

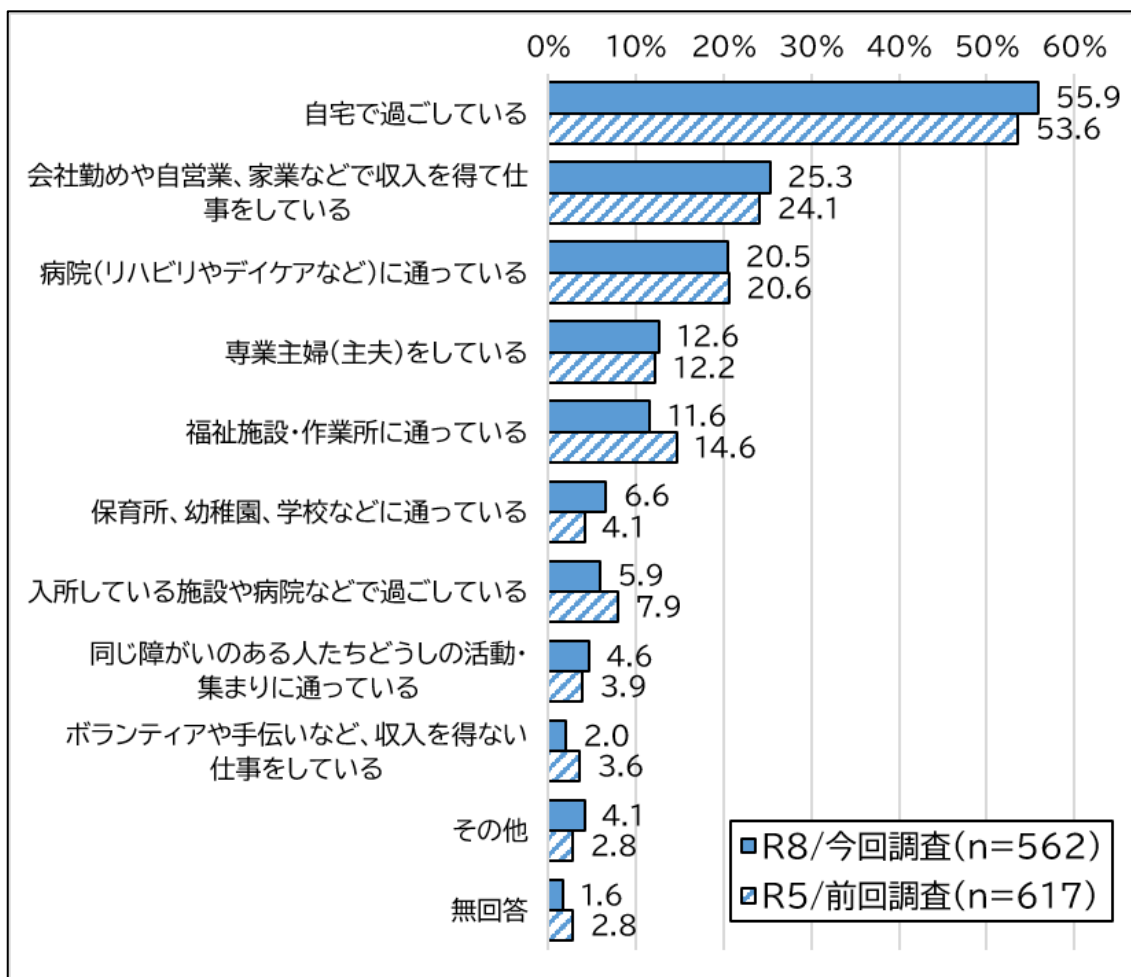


(3)日中の過ごし方について

問15 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。(主なもの3つまで○)

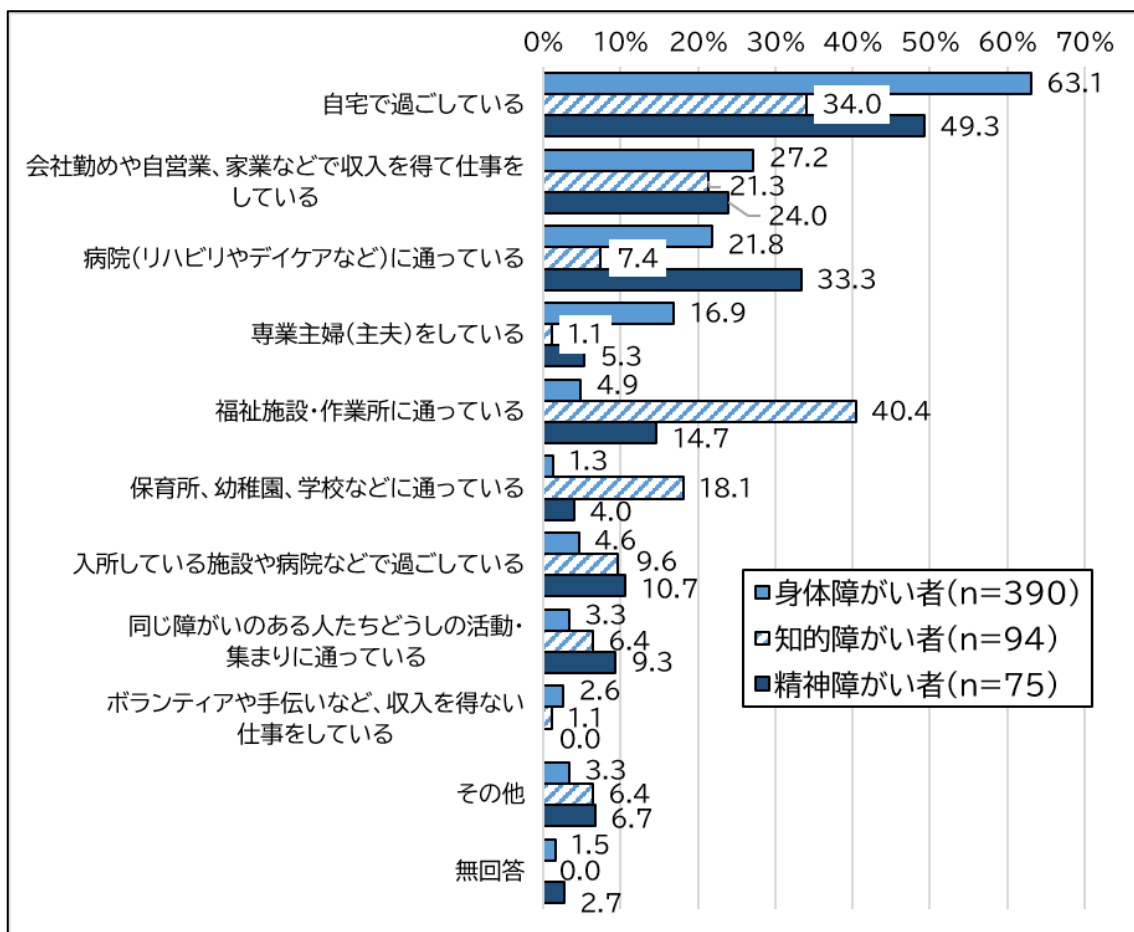
日中の過ごし方をみると、「自宅で過ごしている」(55.9%)の割合が最も多く、次いで、「会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」(25.3%)、「病院(リハビリやデイケアなど)に通っている」(20.5%)、「専業主婦(主夫)をしている」(12.6%)、「福祉施設・作業所に通っている」(11.6%)と続いています。前回調査と比較すると、「自宅で過ごしている」が2.3ポイント増加しています。

図表 33 日中活動について(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に日中の過ごし方をみると、身体障がい者、精神障がい者は「自宅で過ごしている」(身体 63.1%、精神 49.3%)と最も多くなっています。知的障がい者は「福祉施設・作業所に通っている」(40.4%)が最も多くなっています。

図表 34 日中活動について(全体、前回比較/複数回答)



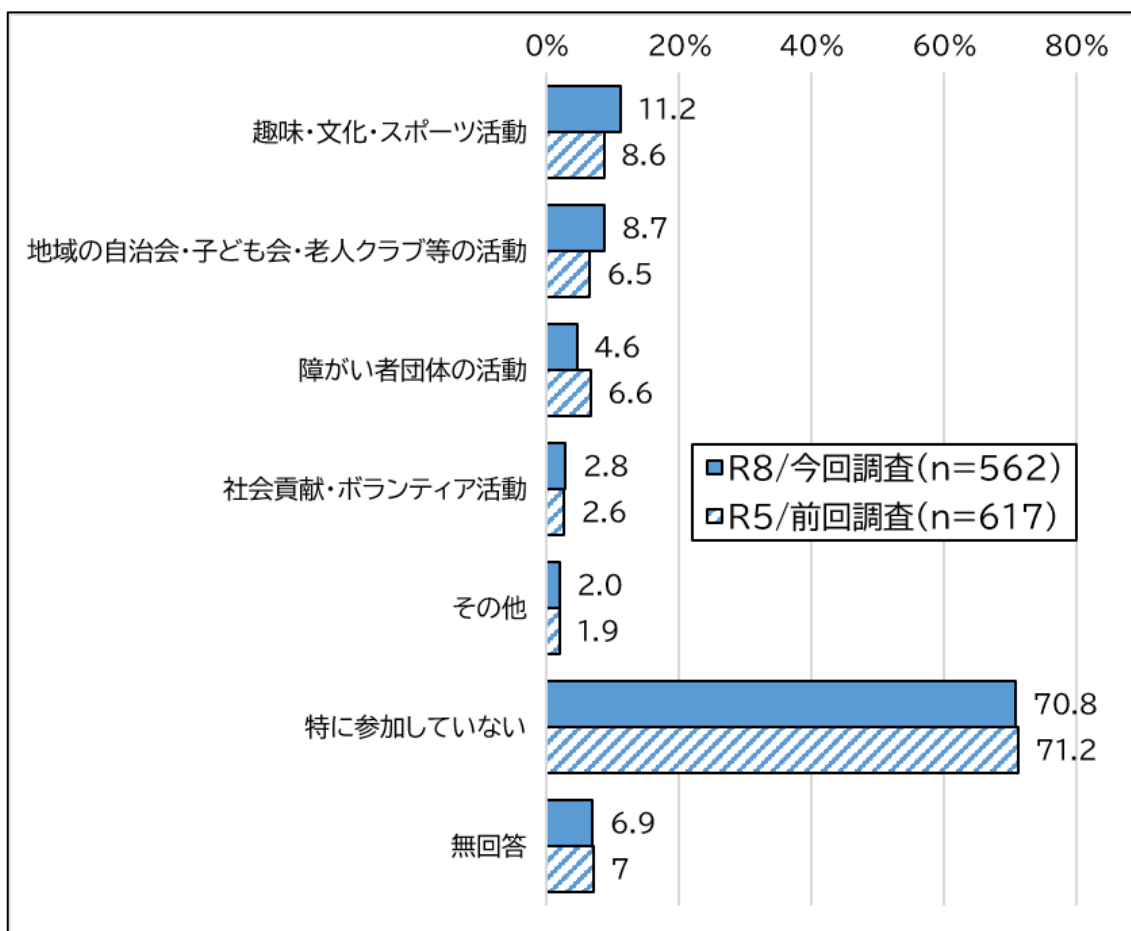
(4)団体活動について

問16 あなたが、仕事以外で参加している団体活動等は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

仕事以外で参加している団体活動をみると「趣味・文化・スポーツ活動」(11.2%)の割合が最も多く、次いで、「地域の自治会・子ども会・老人クラブ等の活動」(8.7%)、「障がい者団体の活動」(4.6%)、「社会貢献・ボランティア活動」(2.8%)と続いています。

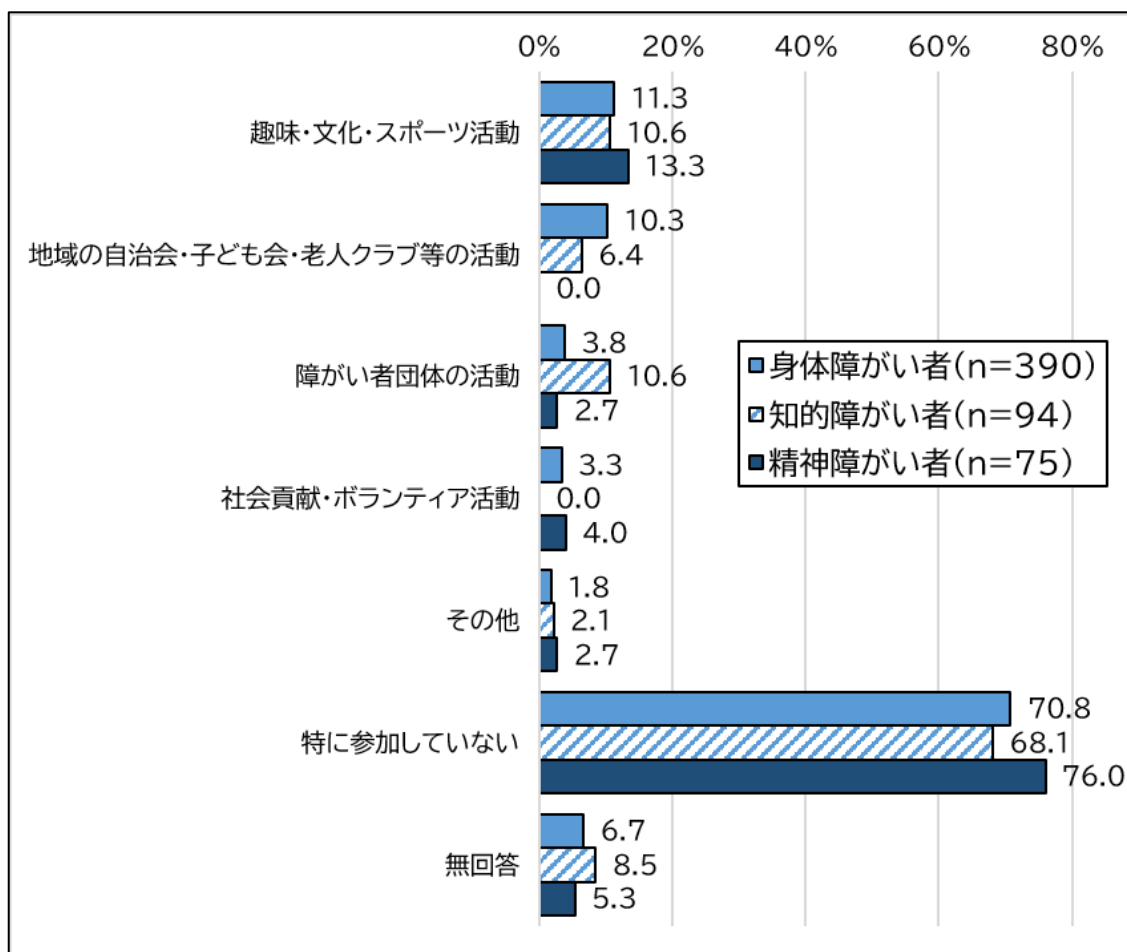
また、「特に参加していない」(70.8%)が最も多く、約7割の人が仕事以外の団体活動には参加していないと回答しています。前回調査と比較すると、「趣味・文化・スポーツ活動」が2.6ポイント増加しています。

図表 35 団体活動について(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に団体活動についてみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「特に参加していない」(身体 70.8%、知的 68.1%、精神 76.0%)と最も多くなっています。次いで身体障がい者、精神障がい者では「趣味・文化・スポーツ活動」(身体 11.3%、精神 13.3%)と続き、知的障がい者では「趣味・文化・スポーツ活動」、「障がい者団体の活動」(10.6%)と続いています。

図表 36 団体活動について(障がい別/複数回答)

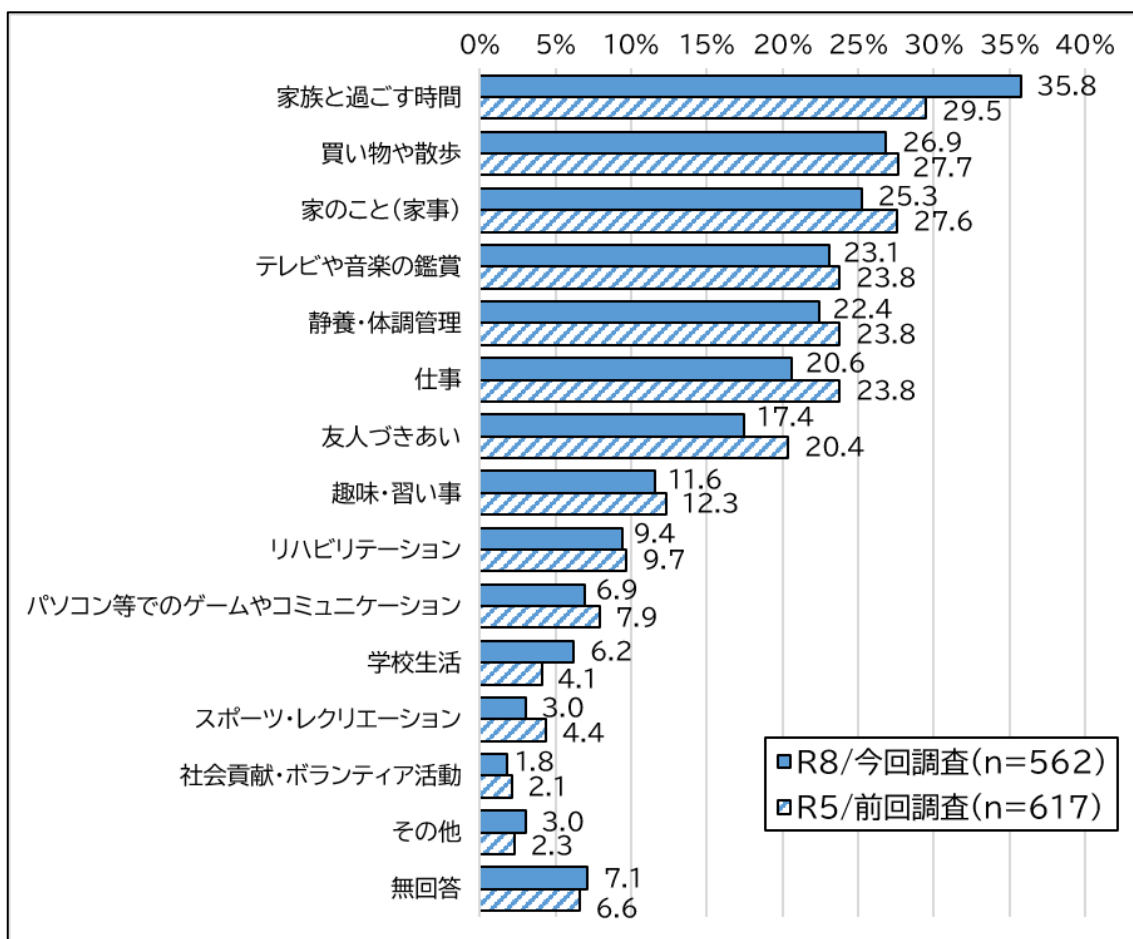


(5)暮らしの中で大事にしていること

問17 あなたが暮らしの中で特に大事にしていることは何ですか。(主なもの3つまで○)

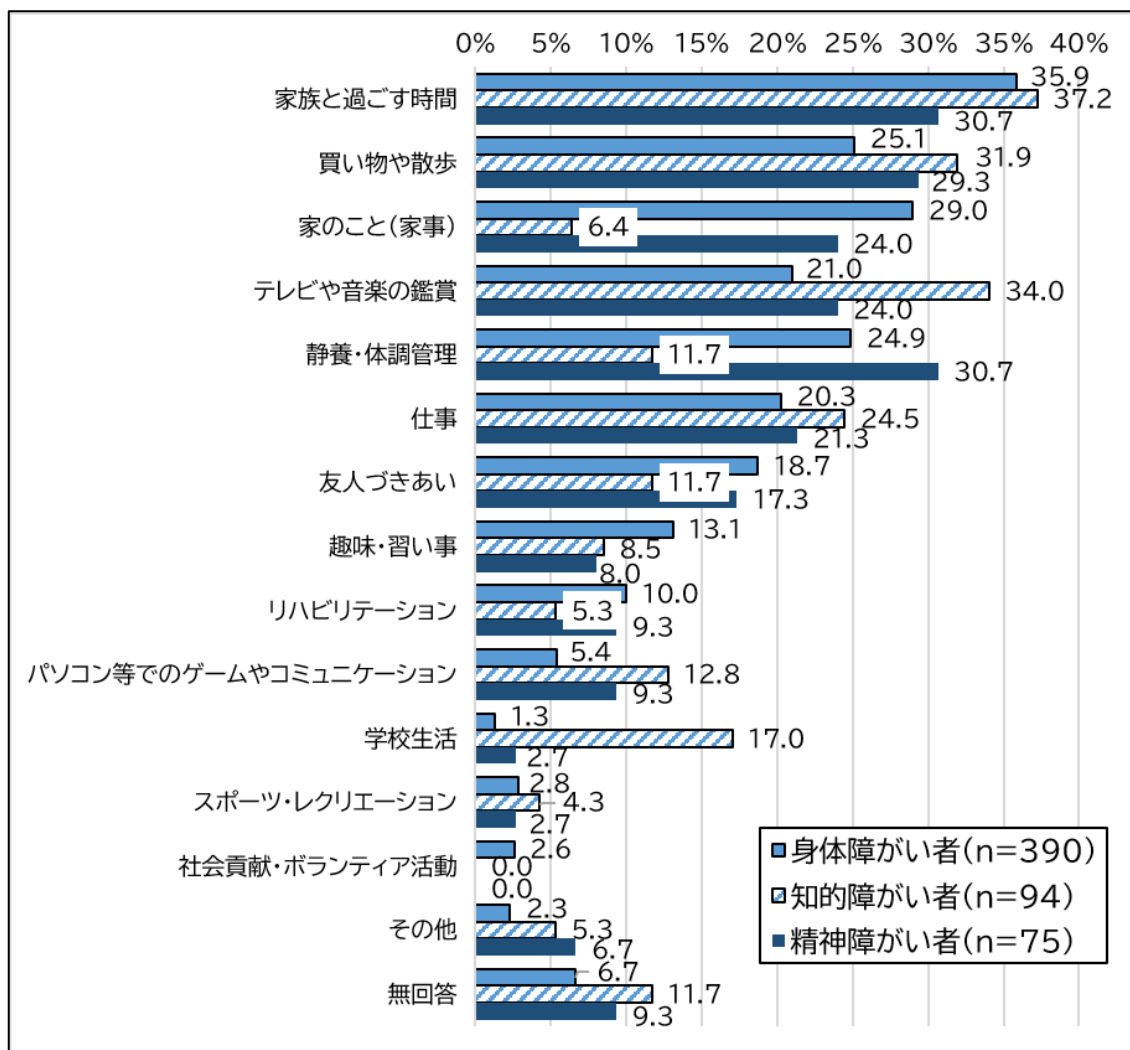
暮らしの中で大事にしていることをみると、「家族と過ごす時間」(35.8%)の割合が最も多く、次いで「買い物や散歩」(26.9%)、「家のこと(家事)」(25.3%)、「テレビや音楽の鑑賞」(23.1%)、「静養・体調管理」(22.4%)と続いています。前回調査と比較すると、「家族と過ごす時間」が 6.3 ポイント増加しています。

図表 37 暮らしの中で特に大事にしていること(全体、前回比較/複数回答)



障がい別に暮らしの中で大事にしていることをみると、身体障がい者、知的障がい者では「家族と過ごす時間」(身体 35.9%、知的 37.2%)が最も多く、精神障がい者では「家族と過ごす時間」、「静養・体調管理」(30.7%)が最も多くなっています。

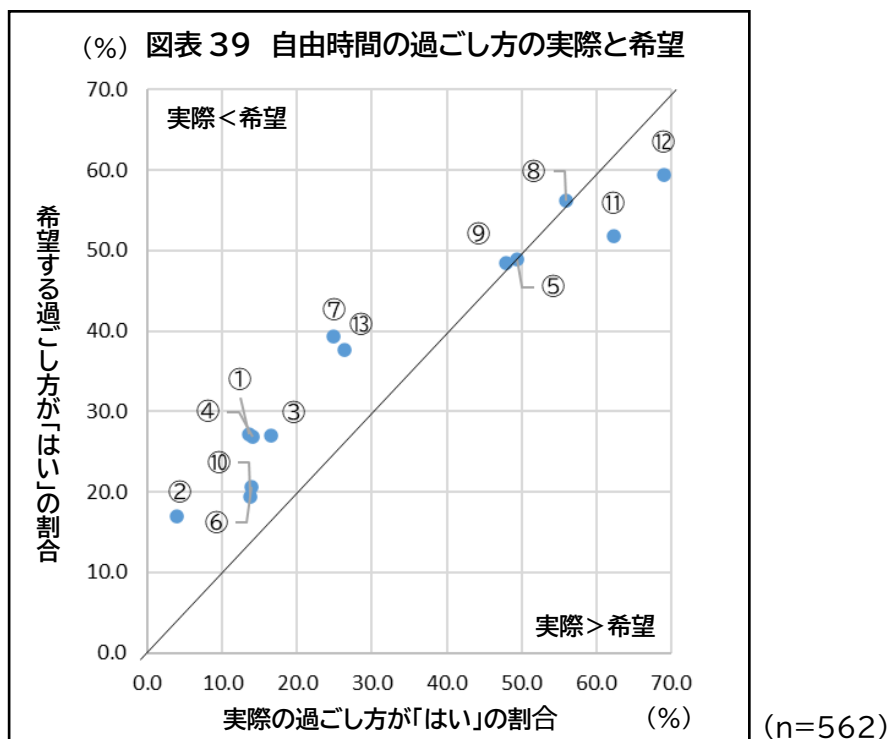
図表 38 暮らしの中で特に大事にしていること(障がい別/複数回答)



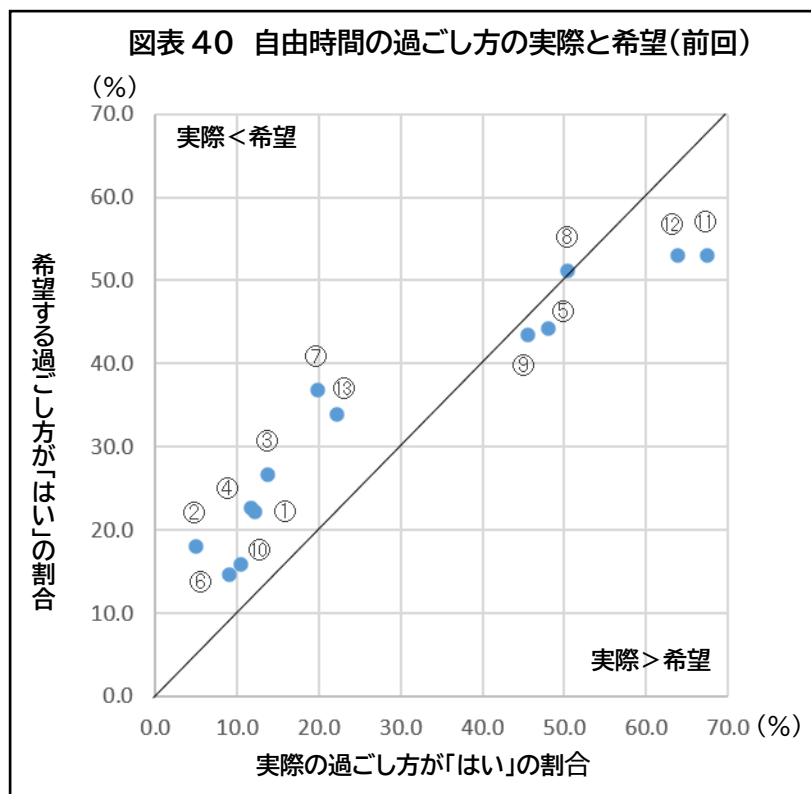
(6)自由時間の過ごし方について

問18 あなたは、自由時間をどのように過ごしていますか。また、どのように過ごしたいですか。(①から⑬のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

自由時間の過ごし方の実際と希望を比較すると、実際の「はい」の割合よりも、希望の「はい」の割合が大きい(実際<希望)代表的なものは、「①習い事やサークル、趣味に参加する」、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」、「④釣りやキャンプ、ドライブなど屋外の趣味をして過ごす」、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」、「⑬友人や知人と集まって過ごす」などとなっています。



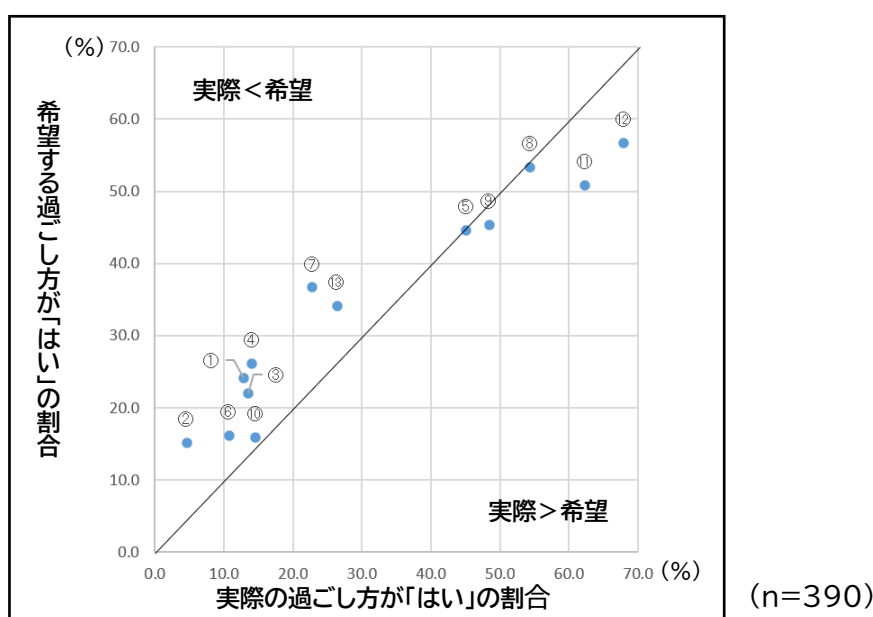
項目	実際 (%)	希望 (%)
① 習い事やサークル、趣味に参加する	13.5	27.2
② 資格取得やパソコン講座などの勉強をする	3.9	16.9
③ ジョギングや球技、水泳など、運動をする	16.5	27.0
④ 釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	14.1	26.9
⑤ 読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	49.5	48.9
⑥ 遊興施設(カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど)へ出かける	13.9	20.6
⑦ 美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	24.9	39.3
⑧ 買い物や食事、飲み会などに出かける	55.9	56.2
⑨ 美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	47.9	48.4
⑩ 地域の集まりやボランティアなどに参加する	13.7	19.4
⑪ 家で、一人でゆっくり過ごす	62.3	51.8
⑫ 家で家族と過ごす	69.0	59.4
⑬ 友人や知人と集まって過ごす	26.3	37.7



項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事サークル、趣味に参加する	11.7	22.7
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	4.9	18.0
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	13.8	26.7
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	12.2	22.2
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	48.1	44.2
⑥遊興施設(カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど)へ出かける	10.4	15.9
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	19.8	36.8
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	50.4	51.1
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	45.5	43.4
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	9.1	14.7
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	67.4	53.0
⑫家で家族と過ごす	63.9	53.0
⑬友人や知人と集まって過ごす	22.2	33.9

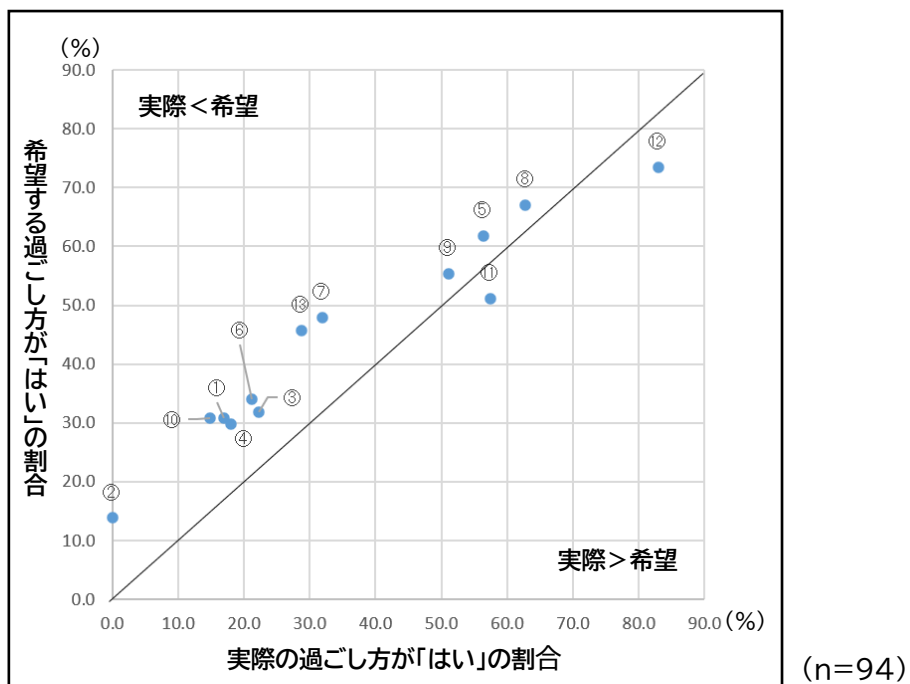
障がい別にみると、身体障がい者では「①習い事サークル、趣味に参加する」、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」、「④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす」、「⑥遊興施設(カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど)へ出かける」、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」、「⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する」、「⑬友人や知人と集まって過ごす」などは、いずれの障がい種別においても『実際<希望』の領域にあり、希望通りに過ごせていない人が多くみられる項目です。特に実際と希望の割合差が大きいものは、身体障がい者では「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」(13.9 ポイント差)となっています。知的障がい者では「⑬友人や知人と集まって過ごす」(17.0 ポイント差)となっています。精神障がい者では「①習い事サークル、趣味に参加する」、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」(26.7 ポイント差)となっています。

図表 41 自由時間の過ごし方の実際と希望(身体障がい者)



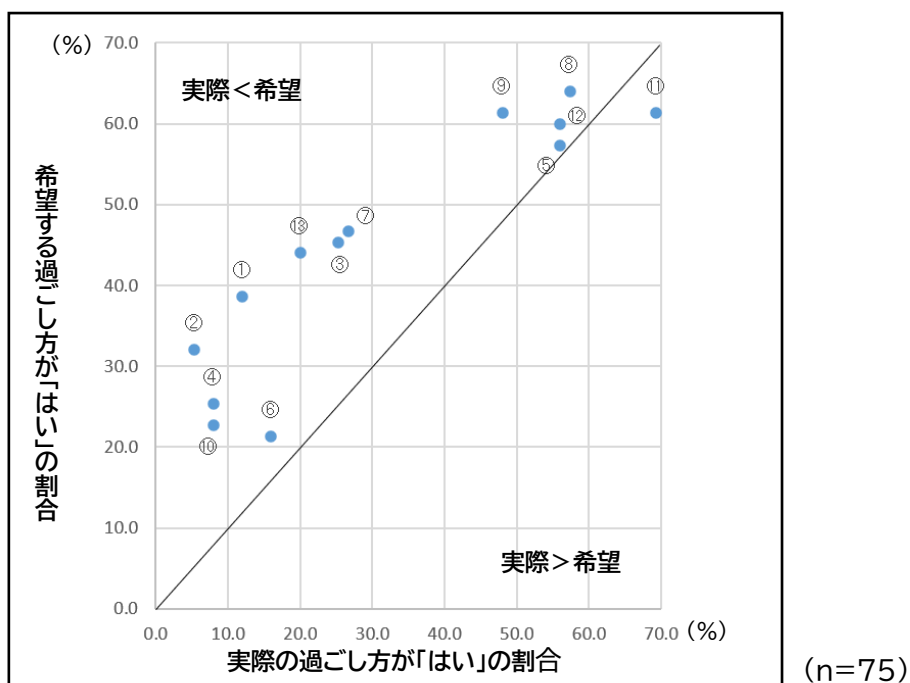
項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事サークル、趣味に参加する	12.8	24.1
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	4.6	15.1
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	13.6	22.1
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	14.1	26.2
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	45.1	44.6
⑥遊興施設(カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど)へ出かける	10.8	16.2
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	22.8	36.7
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	54.4	53.3
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	48.5	45.4
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	14.6	15.9
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	62.3	50.8
⑫家で家族と過ごす	67.9	56.7
⑬友人や知人と集まって過ごす	26.4	34.1

図表 42 自由時間の過ごし方の実際と希望(知的障がい者)



項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事サークル、趣味に参加する	17.0	30.9
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	0.0	13.8
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	22.3	31.9
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	18.1	29.8
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	56.4	61.7
⑥遊興施設(カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど)へ出かける	21.3	34.0
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	31.9	47.9
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	62.8	67.0
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	51.1	55.3
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	14.9	30.9
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	57.4	51.1
⑫家で家族と過ごす	83.0	73.4
⑬友人や知人と集まって過ごす	28.7	45.7

図表 43 自由時間の過ごし方の実際と希望(精神障がい者)



項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事サークル、趣味に参加する	12.0	38.7
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	5.3	32.0
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	25.3	45.3
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	8.0	25.3
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	56.0	57.3
⑥遊興施設(カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど)へ出かける	16.0	21.3
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	26.7	46.7
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	57.3	64.0
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	48.0	61.3
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	8.0	22.7
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	69.3	61.3
⑫家で家族と過ごす	56.0	60.0
⑬友人や知人と集まって過ごす	20.0	44.0

※実際に、希望通りに過ごすために必要だと思うこと(代表的な意見を抜粋して掲載しています。)

健康な体や健康問題の解決 33 件
健康である事。
体力の向上 気力。
自分の体を大切にしながら積極的に行動する事が必要。
病気の治癒だが難病のため無理だと思う。
若い時は出来たのが近ごろは動きが悪くなったので注意しなくてはいけなくなった。
私は走れません。ですから外での活動は散歩ぐらいしかできません。
ウォーキングでダイエットや友達と遊ぶ。
現在の病気を早く治して外へ出る事が出来れば幸せです。
足が不自由である為健常者よりも何をするにしても時間を要する。1 日 24 時間ではすべてのことをこなせない。
高齢で下肢に障がいがあるので、1日でも長く歩ける様に、散歩を続けています。又、認知症の防ぎ方はわからないが、読書、ナンプレゲーム等をやっています。
歩行が自由に出来たらもう少し活動的になれるような気がします。同じような人の集まりが香川にあれば教えてほしい、肺移植した人。

金銭、時間など 33 件
時間とお金。
親の時間と金銭面の余裕がない。時間と経済的な余裕が必要。
金銭的余裕。
ある程度のお金が必要。そのために出費を抑え貯金する。
今の生活保護費では外で遊ぶ余裕が無いのももう少し生活費が多ければ心に少し余裕が出来ると思います。
時間が必要。
平日に家族と一緒に掛ける時間を作る事。
自分の時間を少しでも多く過ごしたいです。
家での過ごし方を考え直し、時間を作るようにする。
子供が成長し時間が出来たら。
ゆっくりできる時間があれば良い。
旅行に行くのが楽しみなのに時間がとりづらい病院に通う日が多すぎる。

人間関係、周囲の協力・理解 29件
人との交流。
周囲の理解。
コミュニケーション能力。
家族との関係構築。
近所付き合い。
友達づくり。
一人では無理なので付き添ってくれる人がいれば可能だと思う。
一緒に障がいに対して理解のある人の付き添いや、又理解のある所や行きやすい雰囲気 の所が増えれば良いと思っている。
一緒に行動してくれる人が必要だと思う。家族で行動する場合は良いがいつも家族がいる わけではなく行動が制限される。
一人で色々なことをすることができない(ボランティアや支援してくれる人が必要である) 今は移動を親が行っているが親が年を取り車の運転などが出来なくなった時、人の助けが 必要となるのであろうと思われる。

本人の意識や考え方 14件
自分のやる気。
勇気とやる気。初めての所や初対面の方と会うのはコミュニケーションが難しい事があるの で。
決断と行動力。
積極的な取り組み。
思っていることを行動に移す力。
勉強したいことを見つけて調べて取り組む事。
パートの仕事でもストレスはあるものでそれを自分が散歩だったり買物一つにしても気分転 換になる事をすればいい。自分のご褒美的な事で一人映画を月二回程度で自分時間を満喫 しています。

福祉・介護・医療などのサービス(支援) 14件
本人を理解してくれ一緒に活動し本人の意思を伝えてくれるヘルパーさんや、支援者の方が絶対に必要です。また 穏やかに過ごせる公共の場所や静かに過ごせるための場所の確保。地域としては公共の交通機関が少ないし、自分が行きたい場所まで自由に行くことがとても難しい。車が必ず必要な地域に住んでいるために交通費がとてもかかる。その補助も必要となる。
家の中で歩行器で自分で歩けるようになるための支援。
重度の子について親の最低限の希望で、はいに〇したが必要なのは施設での人員の確保と研修。
近くにケアが必要。
出かける先々に大人用のオムツ交換が安全にできるスペースや設備が必要。酸素ボンベ、吸引機、注入関連の持ち物などの必需品が多く、身体面などよく知ってくれている人の支援が必要。
組織的団体等の後押し支援が大切だと思う。また、人間同士仲間作りや絆作り等の施設の場が必要と思うと共に福祉活動の内容などの講師など呼んでの説明会や講演等を行う。
認知症の治療薬。

情報提供、イベント企画 13 件
障がい者にもわかりやすく説明していますという案内があればありがたいです。
情報を集めたり体験などに参加する。
情報やそこに参加するための支援。
地域の集まりボランティアの情報が入ってこない。
地域での集まりがどういうものがあるのかあまり知らない。又、知っている限り面白そうにないから。
障がい者が参加できるイベントを市が主催してほしい。
資格取得などに関する機会の情報が有れば参加してみたい。

移動(交通)手段の支援 13 件
集合する場所や交通の手段がない。
公共交通機関が充実していれば最寄り駅への移動通院のための移動がしやすくなる。今の田舎の現状では移動手段に困る時がある。
買物(道の駅・産地直送)等行きたいが車いす介護車両が欲しい。
出かけるときの交通手段。家族に頼るだけでなく一人で気軽に出かけられたらうれしい。
手話を一から習いたいのにタクシー代もなくデマンドタクシーも近くに乗り場があるのに乗り場をタクシー運転手が知らずタクシーに乗れないし、小遣いが少ないため払えない。
市内循環バスなどあればいいと思う。病院等へ行く時家族がいないとどこにも行けない。最近タクシーも予約していないと来てくれない。
気軽に車椅子で玄関からの出入りやバスに乗ることができれば可能になるかとも思います。
車椅子での安全な移動、車いす用トイレの充実。

集まれる場所(整備含む) 4件
集まる場所が無い。
障がい者でも集まれる場所(近く)で運動や遊びなど通える施設が有ればと思う。
公民館など自由に使える所があると良いと思います。
仕事にエネルギー(体・心)を使い切ってしまう余力がなくなっている。可能ならばそういった人でも気兼ねなく好きな時だけ利用できるスペースや話す場所(障がいの特性などで難しい事もあると思いますが)あればいいなと思います。

その他 16 件
発達障がいがあっても、通える習い事や移動支援などがあれば嬉しい。
習い事をしていたのですが、全部やめて今は何もしていないので親としては一つでも何でもいいのでしてもらいたいです。本人のやる気次第ですがスポーツ関係をしてもらいたいです。
希望する過ごし方は実際の過ごし方で今は出来ている。
障がいがあるのではなかなか外に向かない。
外出するにも大変ですのでほとんど家にいます。出来るだけ手押し車で外に出て歩くようがんばっています。

5 福祉サービスについて

(1)各種サービスの利用状況と利用希望

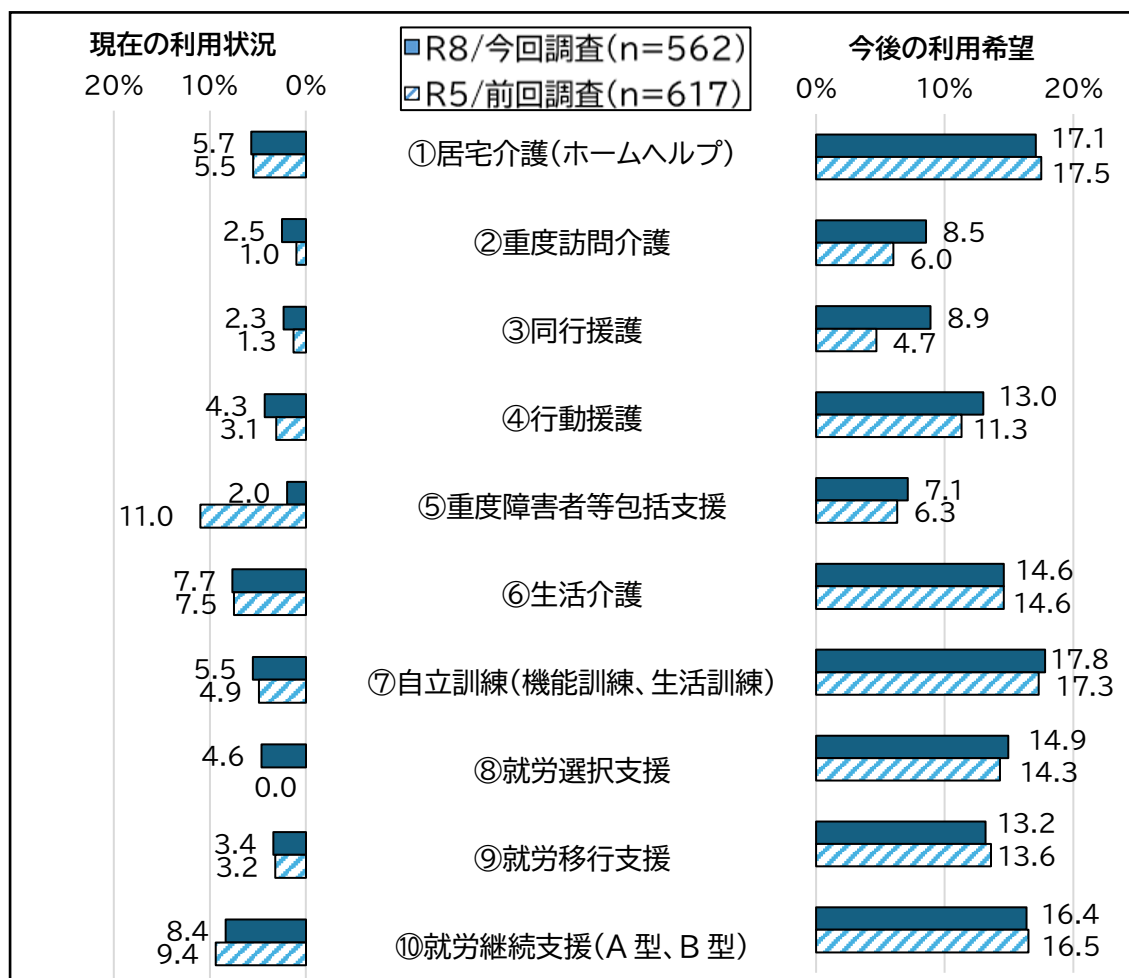
問19 以下の各種サービスについて、利用していますか、今後利用したいですか。(①から⑤のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

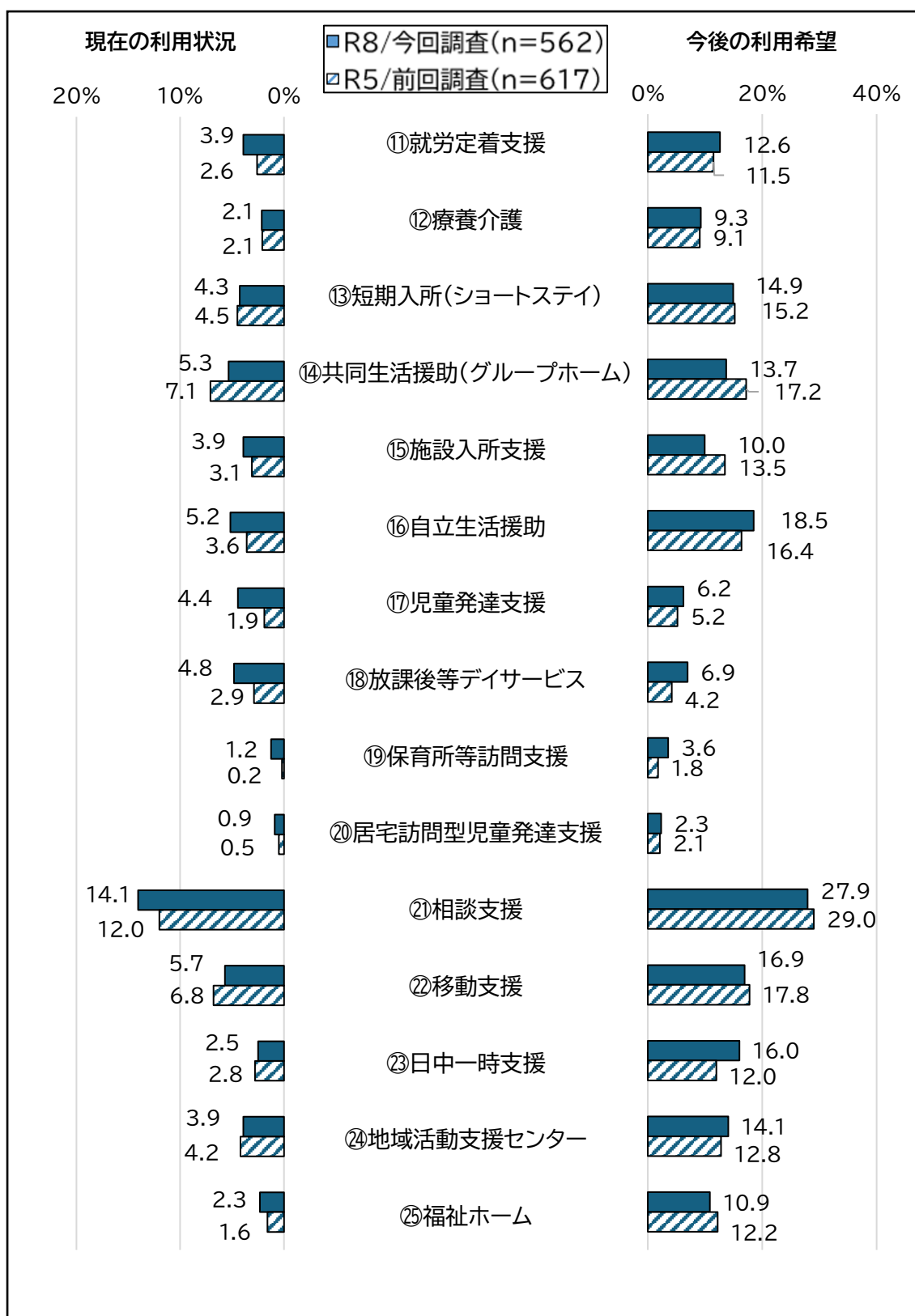
現在のサービスの利用状況についてみると、「②相談支援」が14.1%と最も多く、次いで「⑩就労継続支援(A型、B型)」(8.4%)、「⑥生活介護」(7.7%)となっています。

今後の利用希望については、「②相談支援」が27.9%と最も多く、次いで「⑩自立生活援助」(18.5%)、「⑦自立訓練(機能訓練、生活訓練)」(17.8%)となっています。

また、現在の利用状況に比べて、今後の利用希望の割合が大きく上回っているサービスは、「②相談支援」(13.8ポイント)、「③日中一時支援」(13.5ポイント)、「⑩自立生活援助」(13.3ポイント)、「⑦自立訓練(機能訓練、生活訓練)」(12.3ポイント)などとなっています。

図表 44 現在の利用状況と今後の利用希望(全体、前回比較)



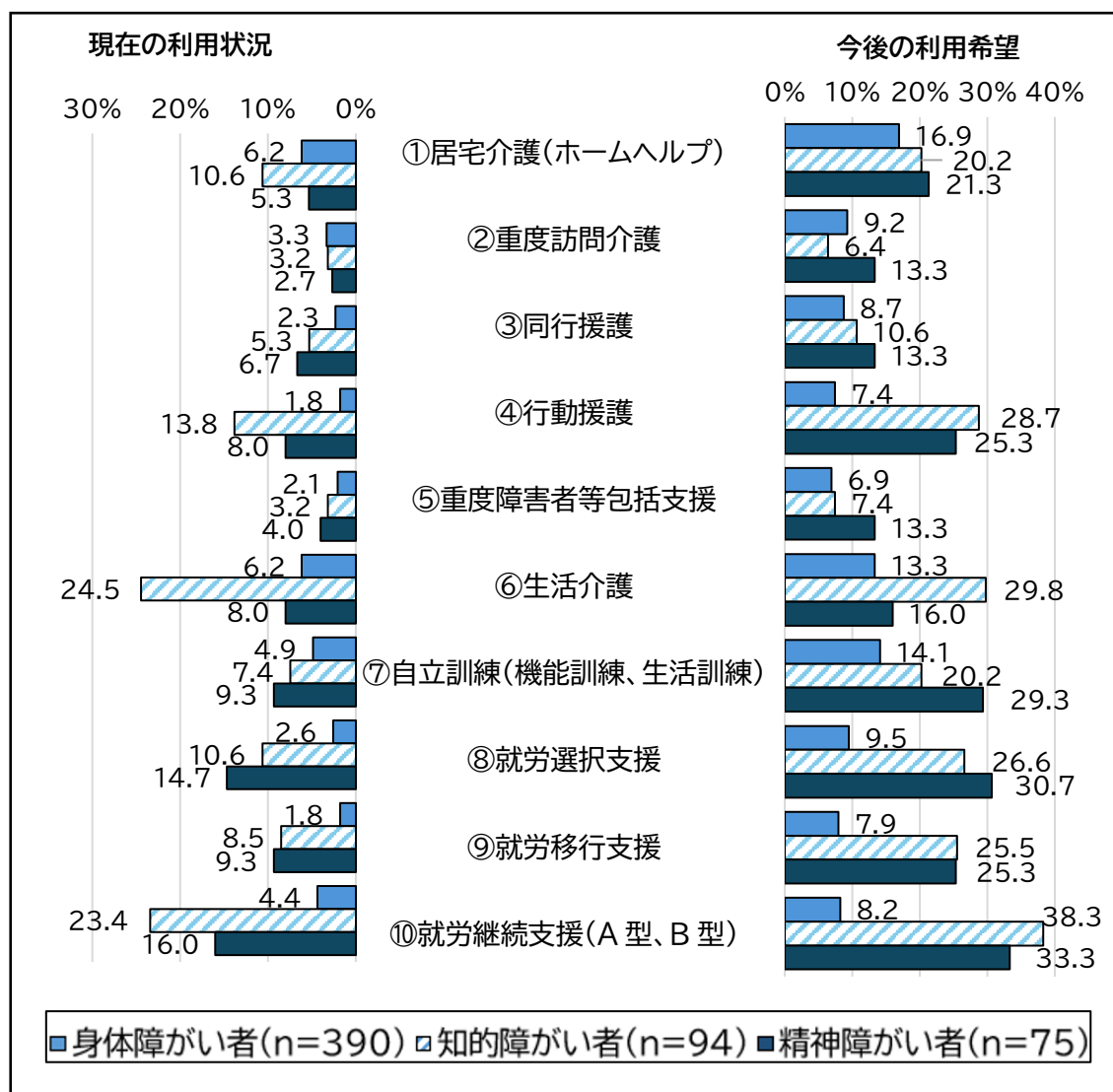


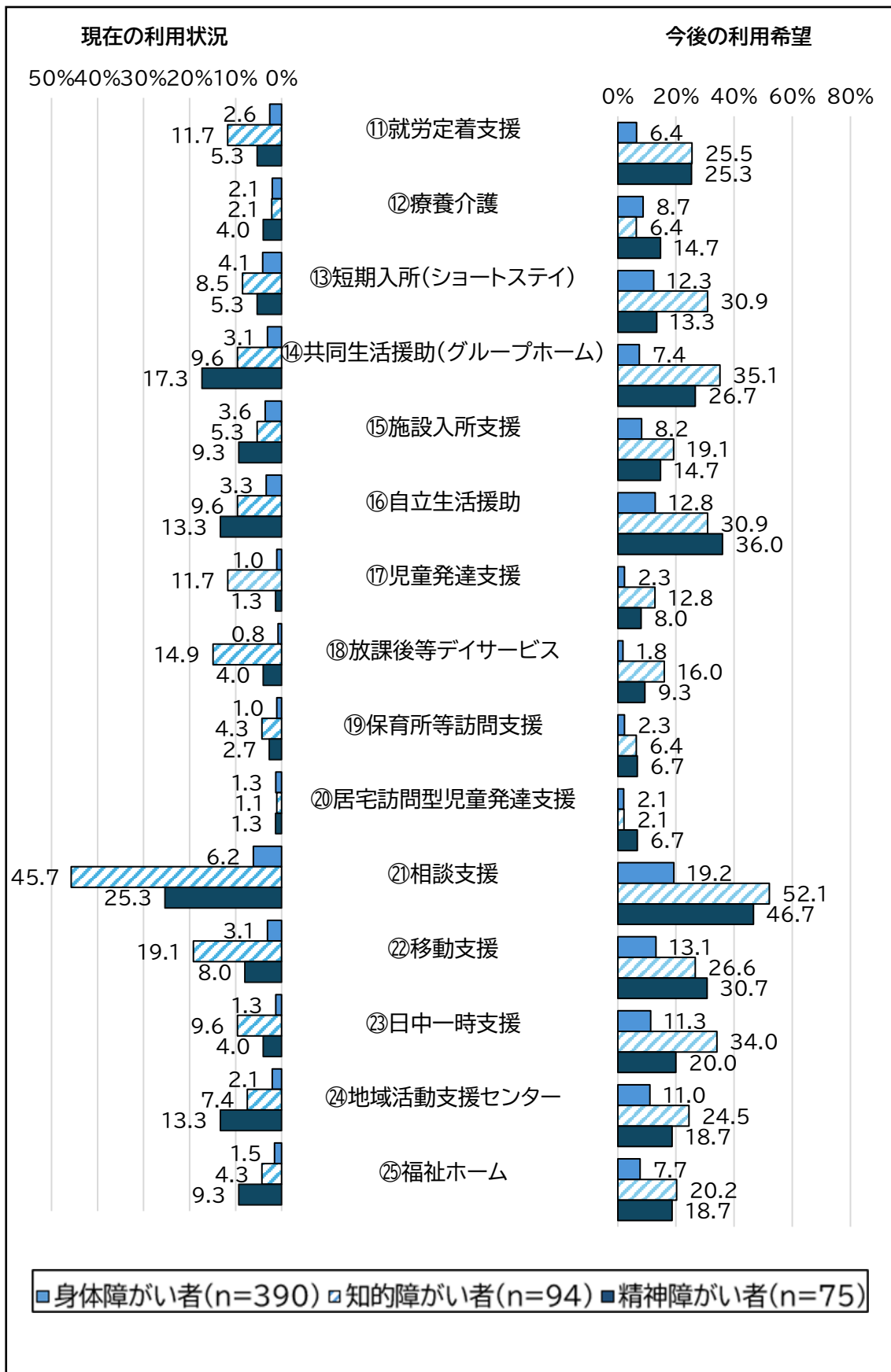
障がい別にみると、現在利用者が多いサービスは、身体障がい者では「①居宅介護（ホームヘルプ）」、「⑥生活介護」、「②相談支援」、知的障がい者、精神障がい者では「②相談支援」となっています。

今後の利用希望者が最も多いサービスは、いずれの障がい種別においても「②相談支援」となっています。

現在の利用状況と今後の利用希望の割合差は最も大きいサービスは身体障がい者では「②相談支援」（13.0 ポイント差）、知的障がい者では「③日中一時支援」（24.4 ポイント差）、精神障がい者では「⑩自立生活援助」、「②移動支援」（22.7 ポイント差）となっています。

図表 45 現在の利用状況と今後の利用希望(障がい別)

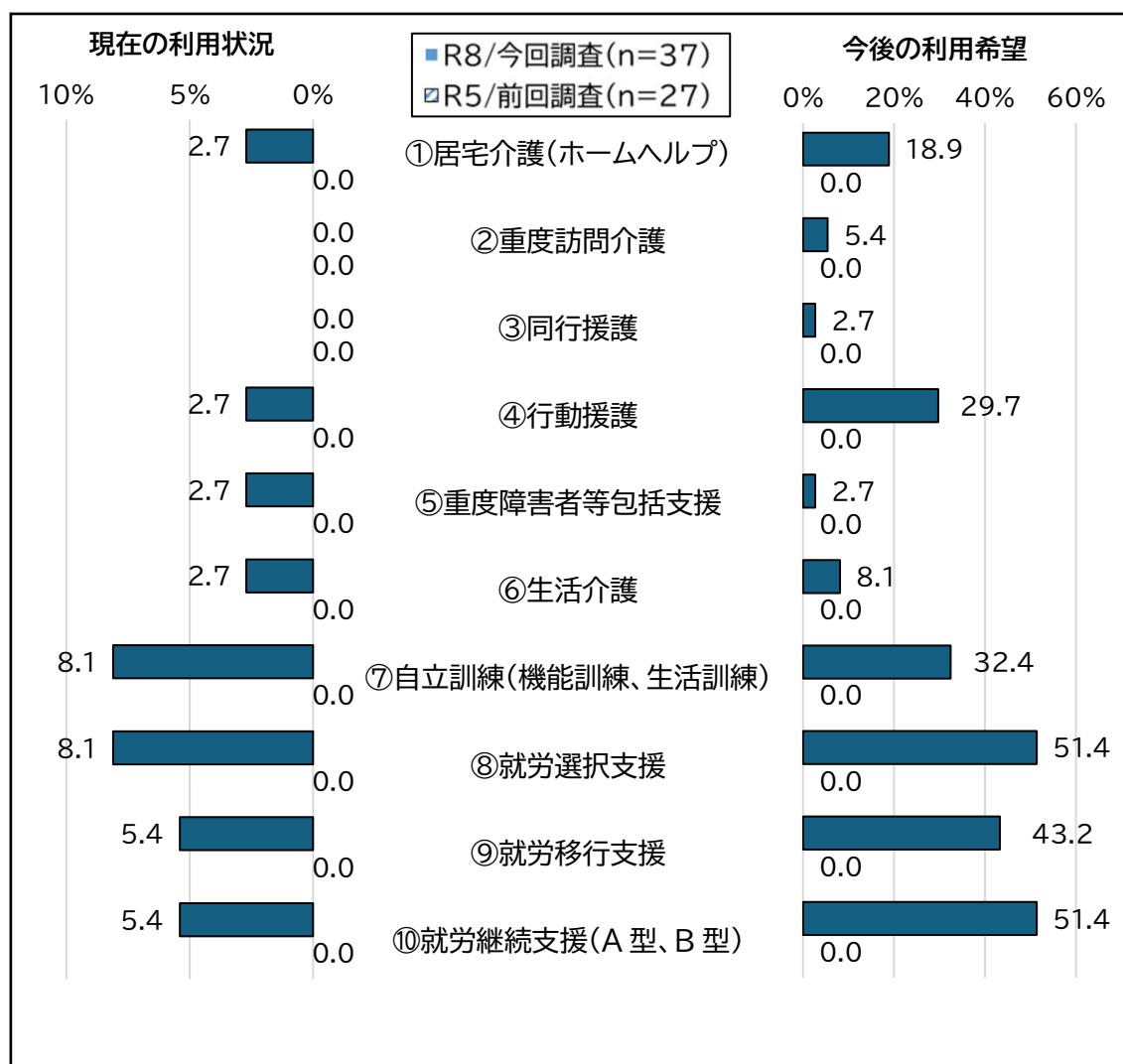


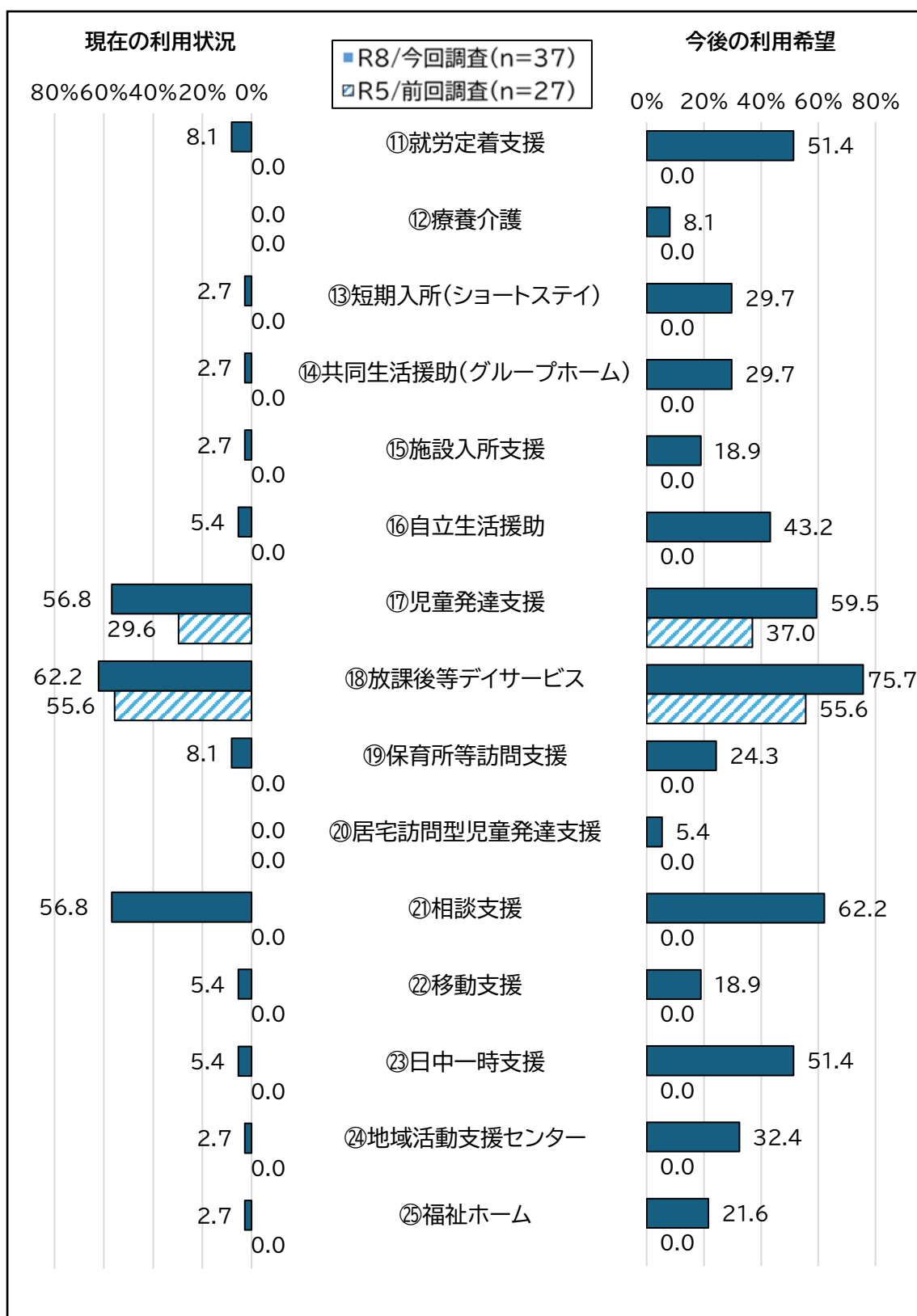


18 歳未満の回答者における、利用状況等については「⑩放課後等デイサービス」(62.2%)と最も多く、次いで「⑪児童発達支援」、「⑫相談支援」(56.8%)と続いています。ほとんどの項目にて現在の利用者よりも利用希望者が上回っている状況です。

前回調査と比較すると、「⑪児童発達支援」及び「⑩放課後等デイサービス」について現在利用者と今後の利用希望者ともに増加しています。

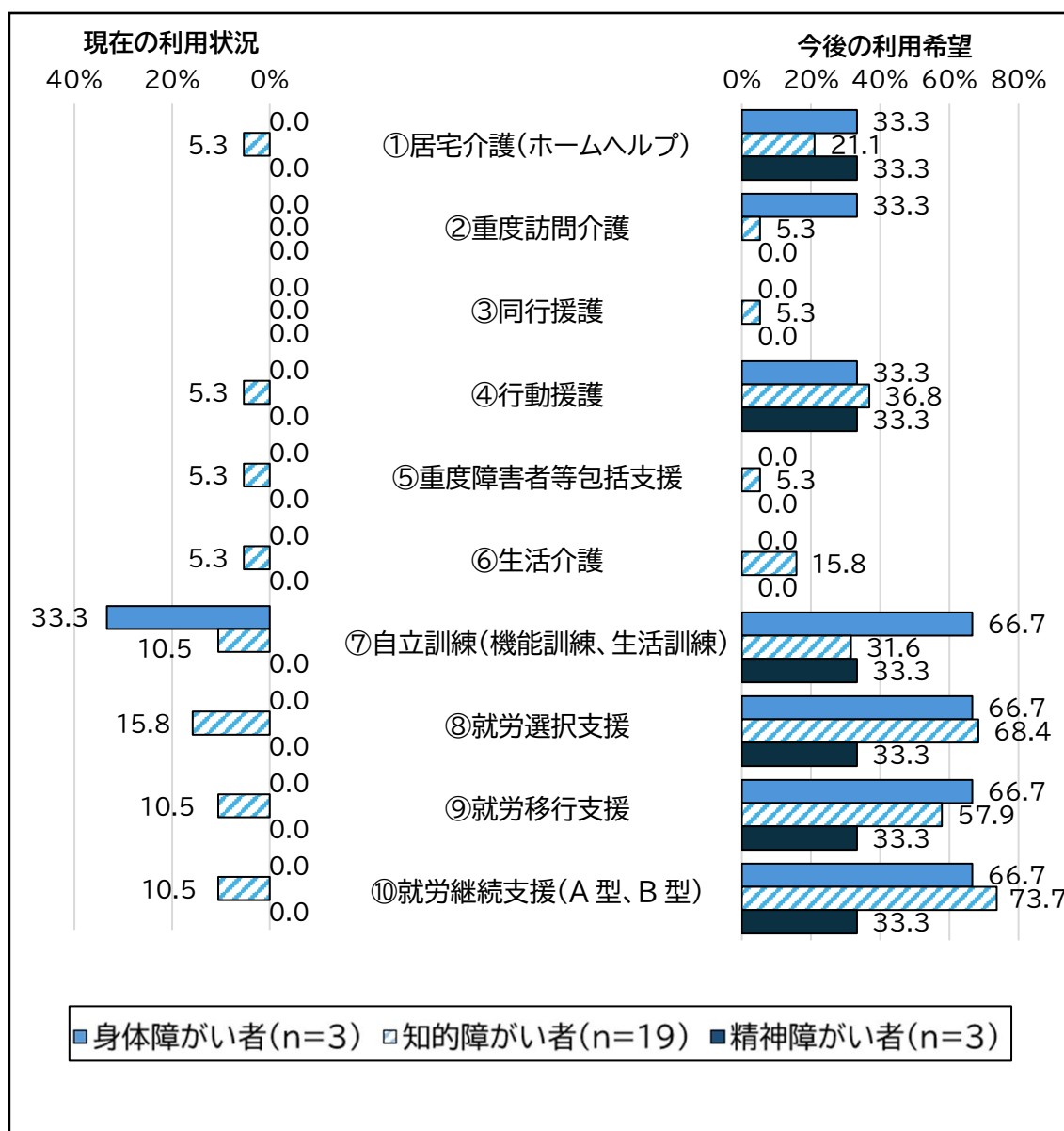
図表 46 現在の利用状況と今後の利用希望(全体:18 歳未満のみ)

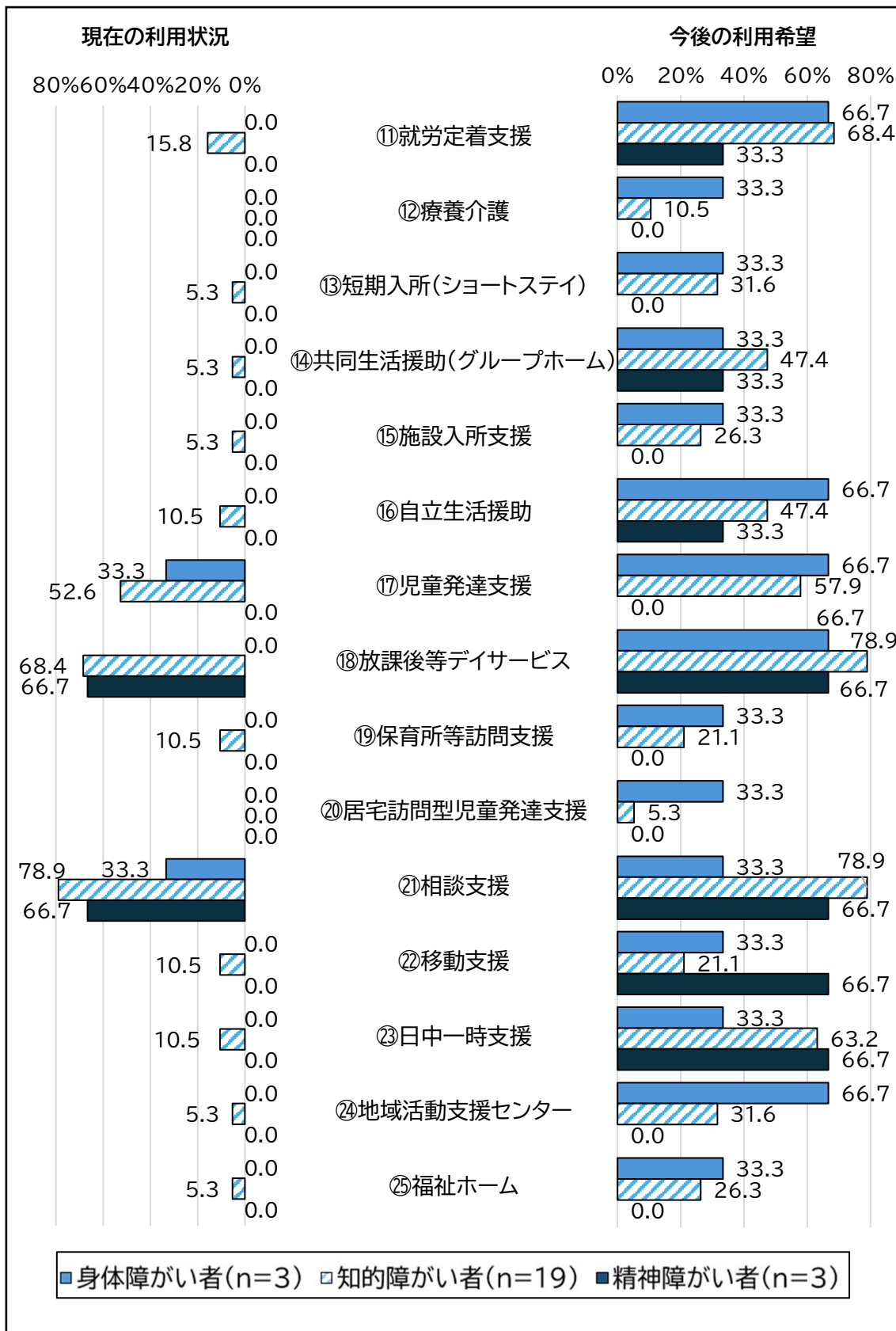




18歳未満の回答者における、障がい別にみると、利用状況等について身体障がい者では「⑦自立訓練(機能訓練、生活訓練)」、「⑩児童発達支援」、「⑫相談支援」(33.3%)、知的障がい者では「⑬放課後等デイサービス」(68.4%)、精神障がい者では「⑬放課後等デイサービス」、「⑫相談支援」(66.7%)が最も多くなっています。今後の利用希望については障がい種別に限らず「⑬放課後等デイサービス」の希望が多い状況となっています。

図表 47 現在の利用状況と今後の利用希望(障がい別:18歳未満のみ)





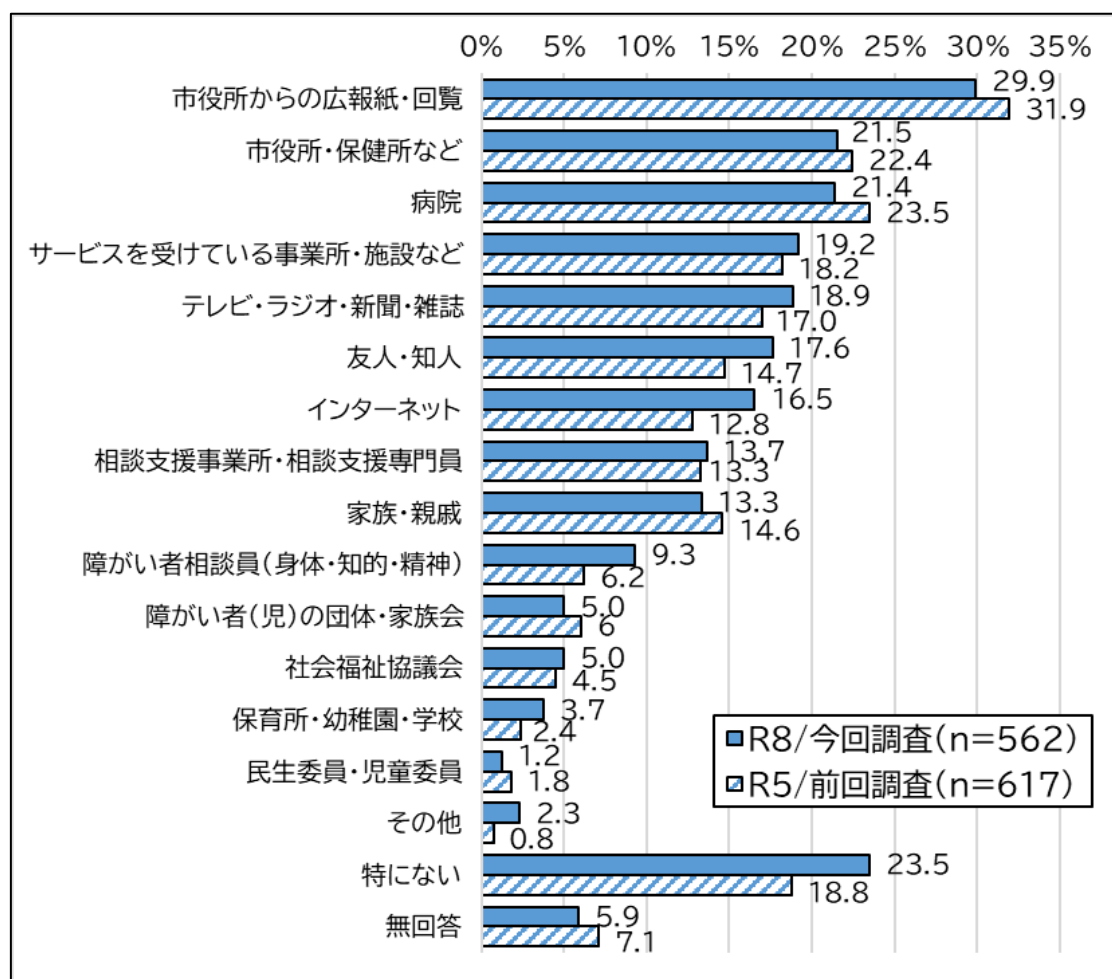
(2)情報の入手について

問20 サービスに関する情報をどこから入手していますか。(主なもの5つまで○)

サービスに関する情報の入手先をみると、「市役所からの広報紙・回覧」(29.9%)の割合が最も多く、次いで、「市役所・保健所など」(21.5%)、「病院」(21.4%)、「サービスを受けている事業所・施設など」(19.2%)、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(18.9%)と続いています。前回調査と比較すると、「友人・知人」が 2.9 ポイント、「インターネット」が 3.7 ポイント増加しています。

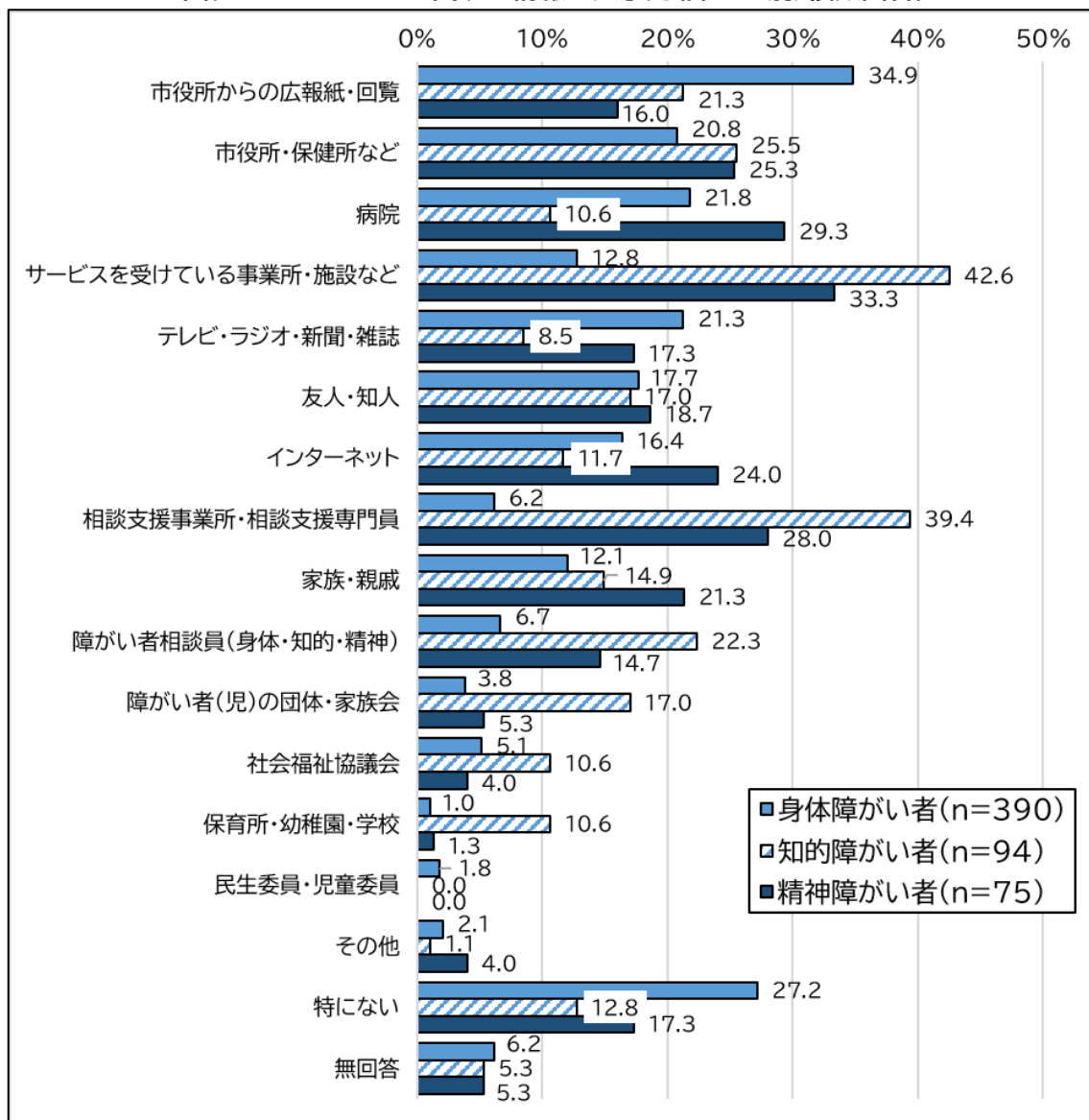
一方、「特にない」の割合は23.5%で、全体で見ると 2 位となっています。

図表 48 サービスに関する情報の入手先(全体、前回比較/複数回答)



障がい別にみると、身体障がい者では「市役所からの広報紙・回覧」(34.9%)、知的障がい者、精神障がい者では「サービスを受けている事業所・施設など」(知的 42.6%、精神 33.3%)が最も多くなっています。

図表 49 サービスに関する情報の入手先(障がい別/複数回答)

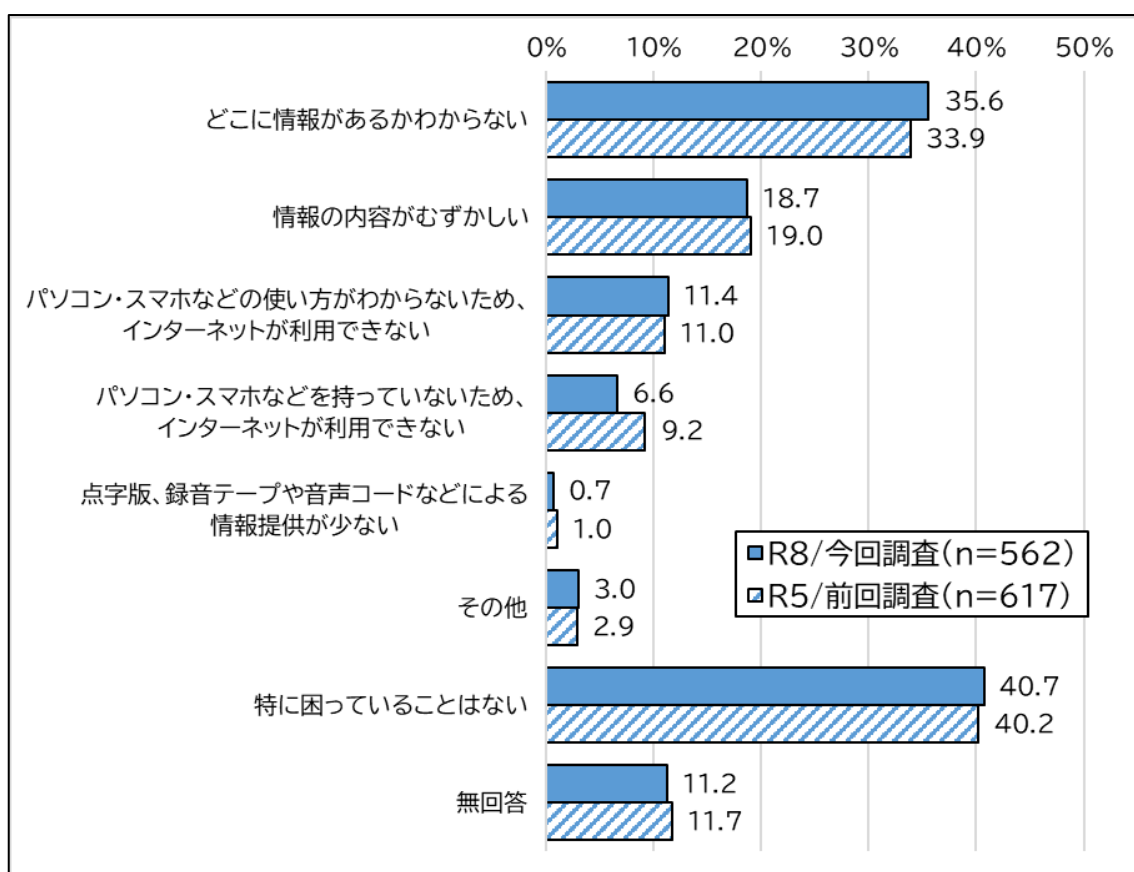


問21 福祉に関する情報の入手についてあなたが困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

情報を入手する際に困っていることをみると、「どこに情報があるかわからない」(35.6%)の割合が最も多く、次いで「情報の内容がむずかしい」(18.7%)、「パソコン・スマホなどの使い方がわからないため、インターネットが利用できない」(11.4%)、「パソコン・スマホなどを持っていないため、インターネットが利用できない」(6.6%)、「点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない」(0.7%)と続いています。前回調査と比較すると、「どこに情報があるかわからない」が1.7ポイント増加しています。

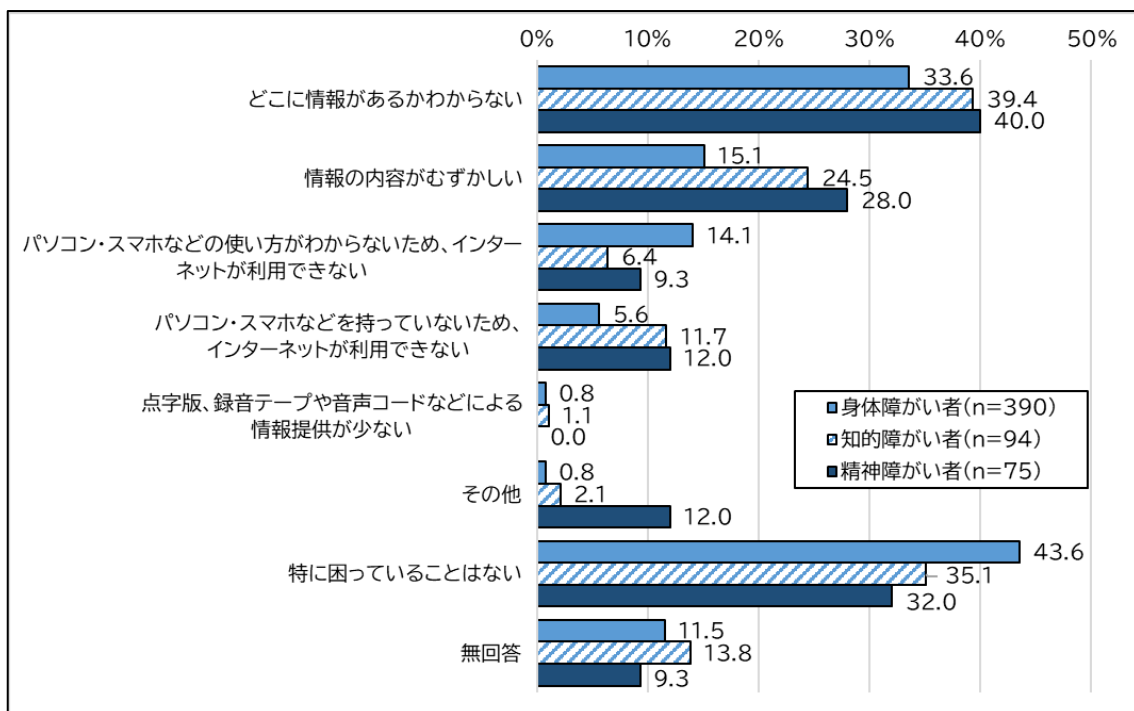
一方、「特に困っていることはない」は40.7%であり、全体で見ると最も多くなっています。

図表 50 福祉に関する情報の入手で困っていること(全体、前回調査/複数回答)



障がい別に福祉に関する情報の入手で困っていることとみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「どこに情報があるかわからない」(身体 33.6%、知的 39.4%、精神 40.0%)が最も多くなっています。

図表 51 福祉に関する情報の入手で困っていること(障がい別/複数回答)



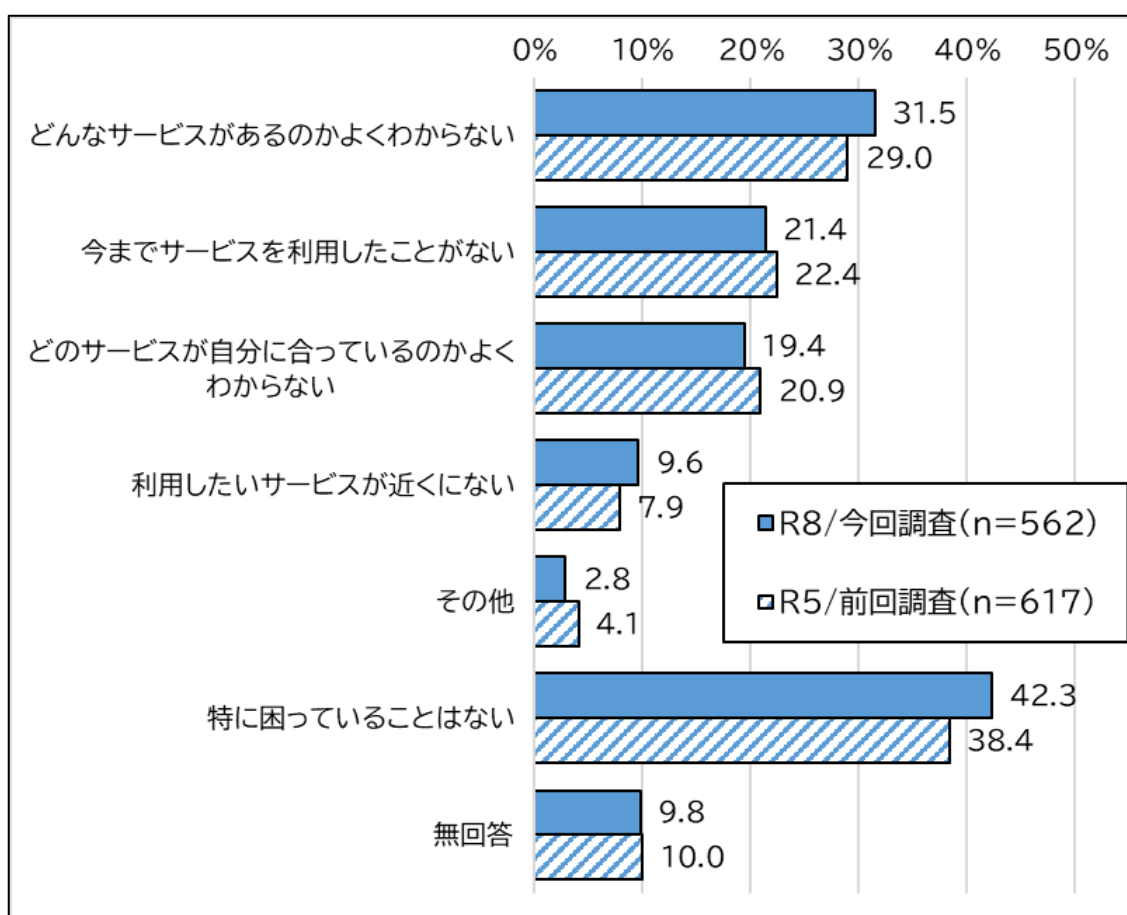
(3)サービスの利用について

問22 これまでサービスの利用について不満や困ったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

サービスの利用について不満や困ったことがあったかをみると、「どんなサービスがあるのかよくわからない」(31.5%)の割合が最も多く、次いで「今までサービスを利用したことがない」(21.4%)、「どのサービスが自分に合っているのかよくわからない」(19.4%)、「利用したいサービスが近くにない」(9.6%)と続いています。前回調査と比較すると、「どんなサービスがあるのかよくわからない」が2.5ポイント増加しています。

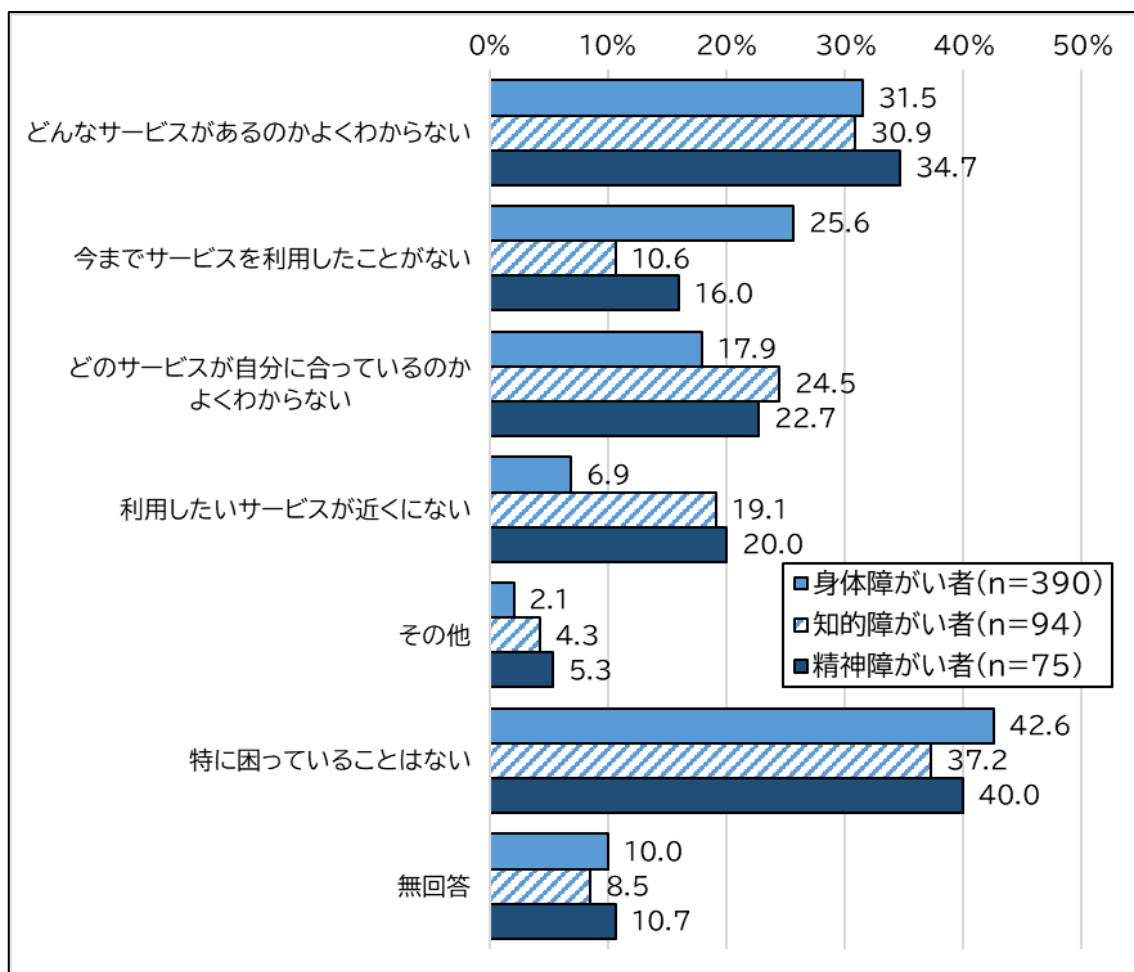
一方、「特に困っていることはない」は42.3%であり、全体で見ると最も多くなっています。

図表 52 サービス利用についての不満など(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「どんなサービスがあるのかよくわからない」(身体 31.5%、知的 30.9%、精神 34.7%)が最も多くなっています。

図表 53 サービス利用についての不満など(障がい別/複数回答)



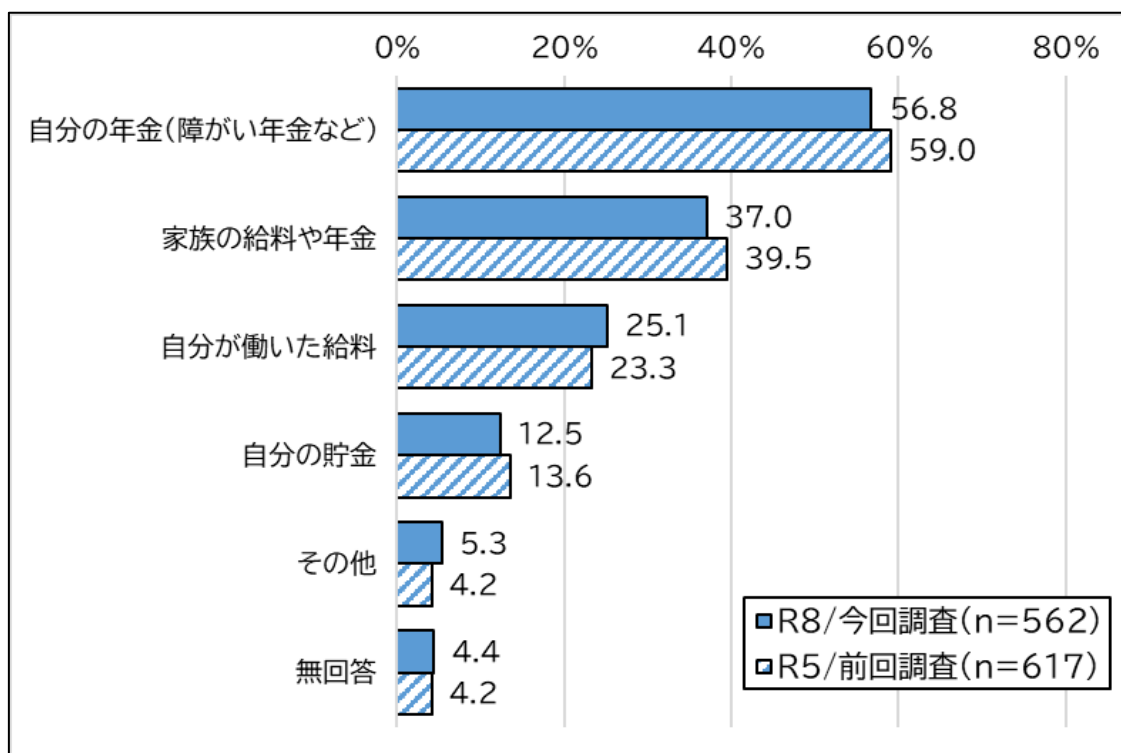
6 仕事などについて

(1)世帯収入について

問23 あなたの世帯の主な収入源は何ですか。(主なもの2つまで○)

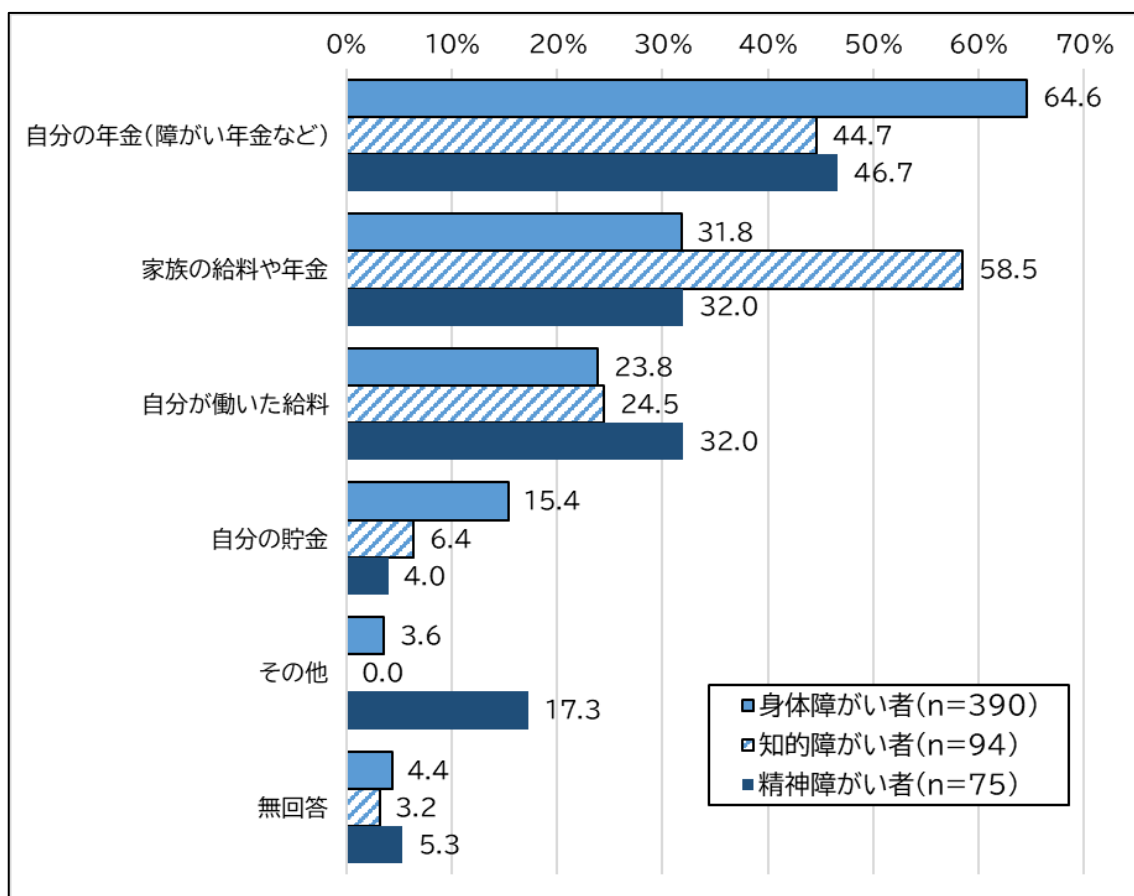
世帯の主な収入源をみると、「自分の年金(障がい年金など)」(56.8%)の割合が最も多く、次いで「家族の給料や年金」(37.0%)、「自分が働いた給料」(25.1%)、「自分の貯金」(12.5%)と続いています。前回調査と比較すると、「自分が働いた給料」が1.8ポイント増加しています。

図表 54 世帯の収入源について(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「自分の年金(障がい年金など)」(身体 64.6%、精神 46.7%)が最も多くなっています。知的障がい者では「家族の給料や年金」(58.5%)が最も多くなっています。

図表 55 世帯の収入源について(障がい別/複数回答)



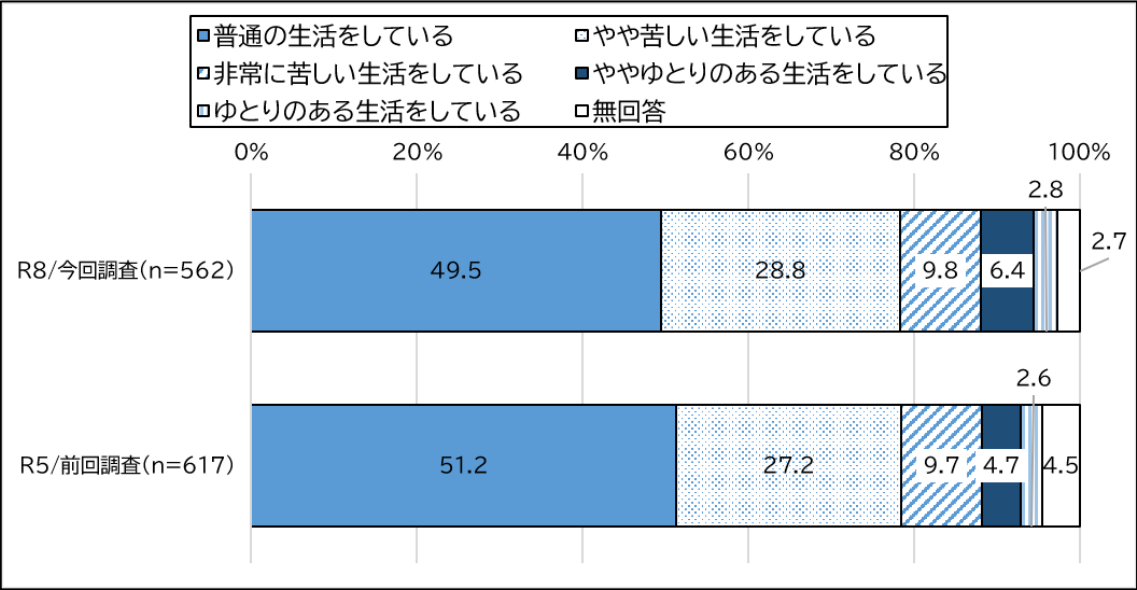
(2)経済状況について

問24 あなたの経済的な生活状況は、次のどれに近いと思いますか。(1つに○)

生活状況についてみると、「普通の生活をしている」(49.5%)の割合が最も多く、次いで「やや苦しい生活をしている」(28.8%)、「非常に苦しい生活をしている」(9.8%)と続いています。

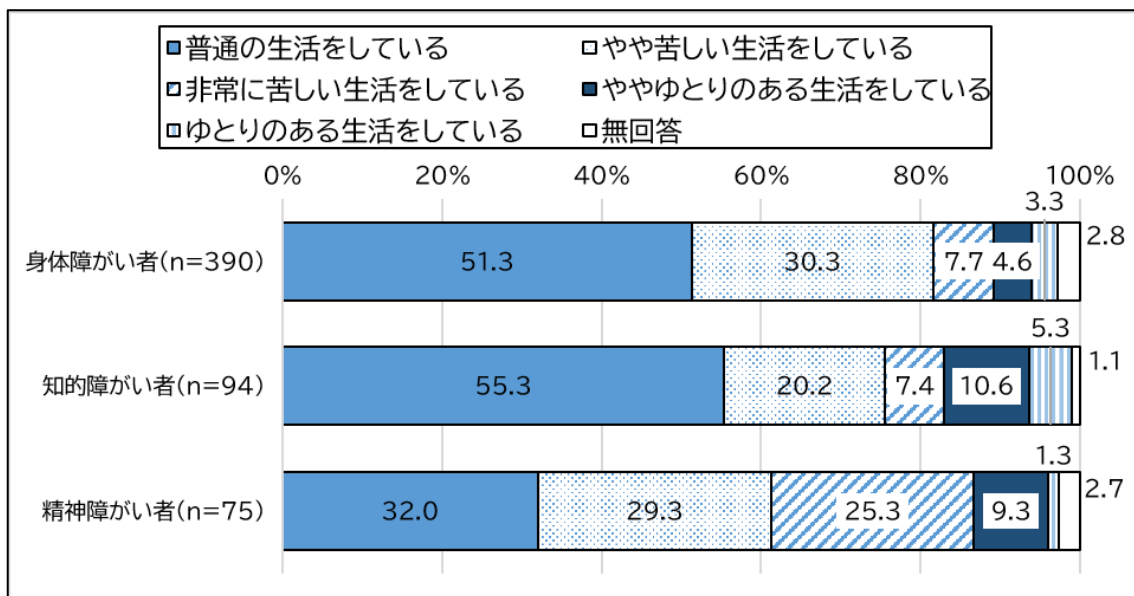
また、「やや苦しい生活をしている」と「非常に苦しい生活をしている」を合わせた『苦しい生活をしている』人は38.6%となっている一方で、「ややゆとりのある生活をしている」と「ゆとりのある生活をしている」を合わせた『ゆとりのある生活をしている』人は9.2%と1割以下にとどまっています。前回調査と比較すると、「普通の生活をしている」が1.7ポイント減少し「やや苦しい生活をしている」が1.6ポイント増加しています。

図表 56 現在の生活状況について(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「普通の生活をしている」(身体 51.3%、知的 55.3%、精神 32.0%)が最も多くなっています。

図表 57 現在の生活状況について(障がい別、前回比較)

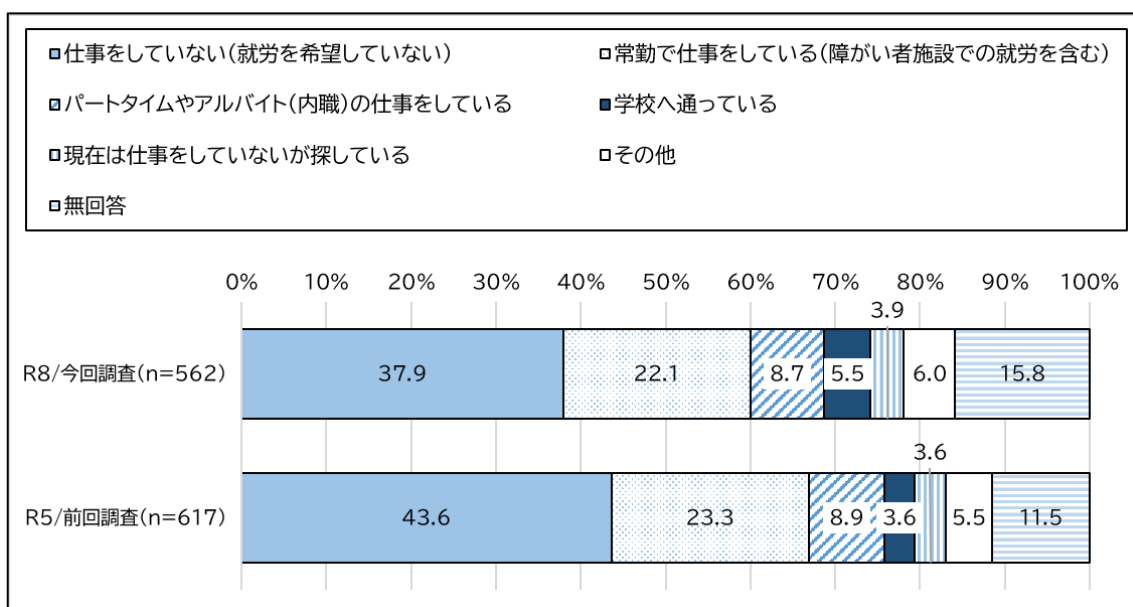


(3)就労について

問25 就労の状況や形態は次のどれですか。(1つに○)

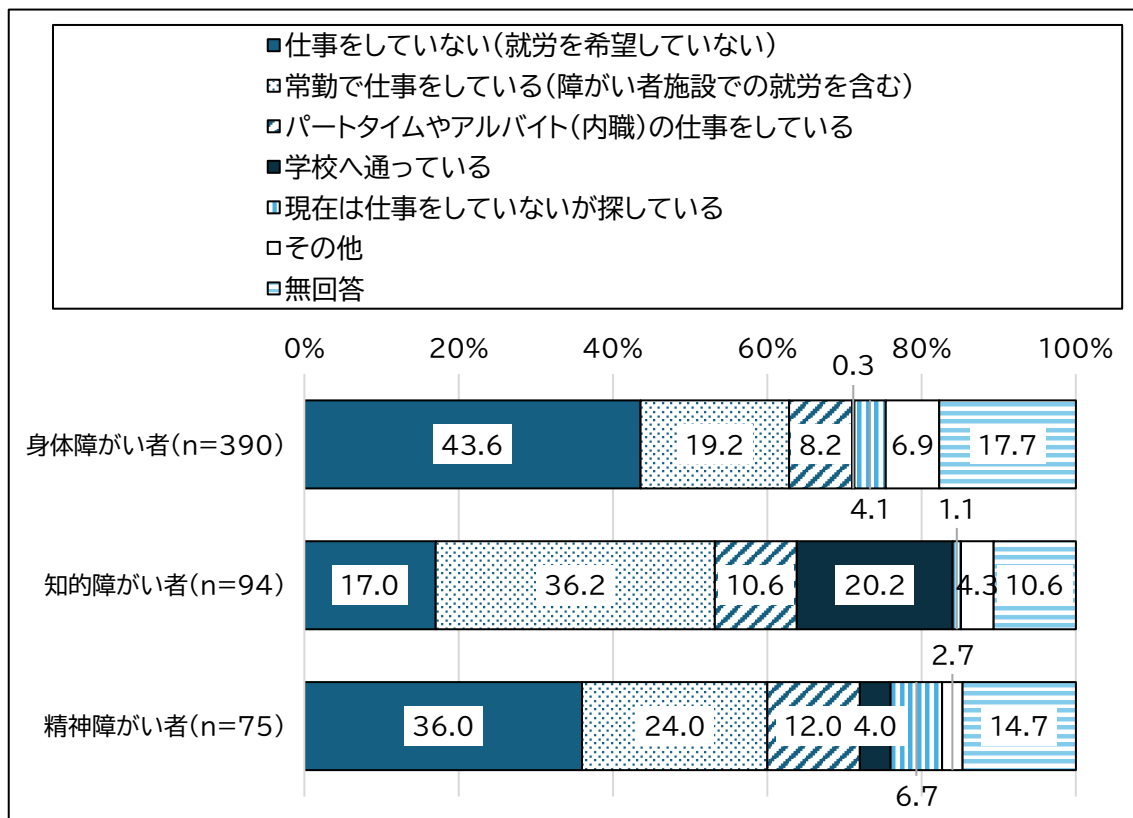
就労状況や形態をみると、「仕事をしていない(就労を希望していない)」(37.9%)の割合が最も多く、次いで、「常勤で仕事をしている(障がい者施設での就労を含む)」(22.1%)、「パートタイムやアルバイト(内職)の仕事をしている」(8.7%)と続いており、何らかの形で『就労している』人は全体の30.8%を占めています。前回調査と比較すると、「仕事をしていない(就労を希望していない)」が 5.7 ポイント減少しています。

図表 58 就労状況について(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「仕事をしていない(就労を希望していない)」(身体 43.6%、精神 36.0%)、知的障がい者では「常勤で仕事をしている(障がい者施設での就労を含む)」(36.2%)が最も多くなっています。

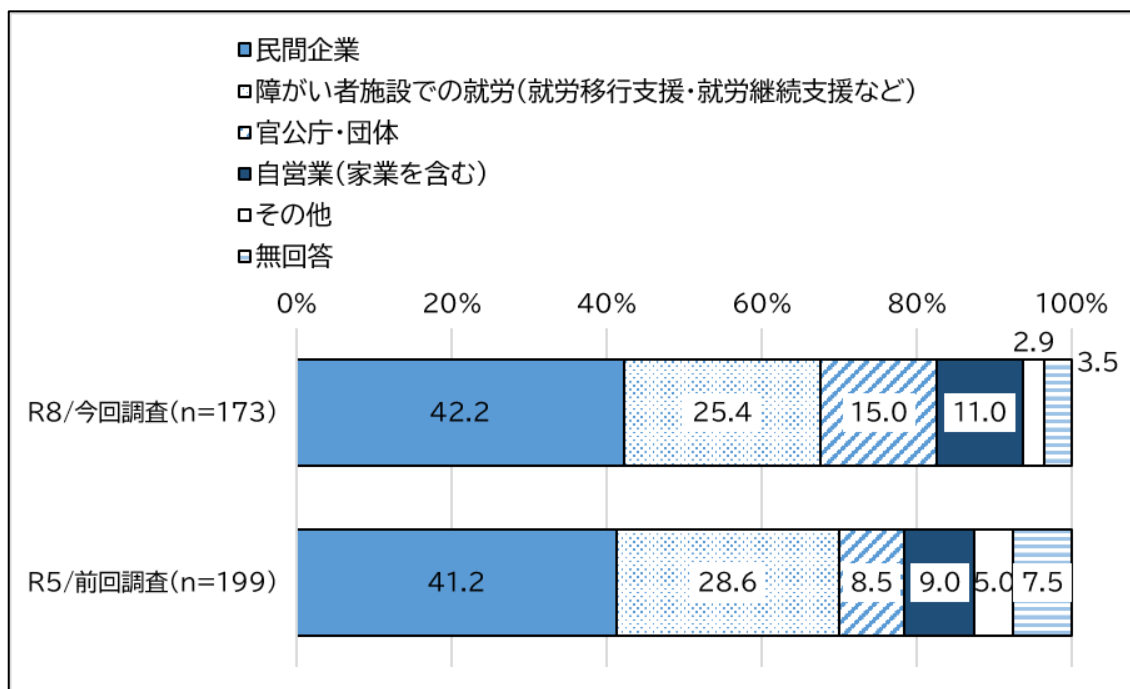
図表 59 就労状況について(障がい別)



※問25で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
問25-1 就労先は次のどれですか。(1つに○)

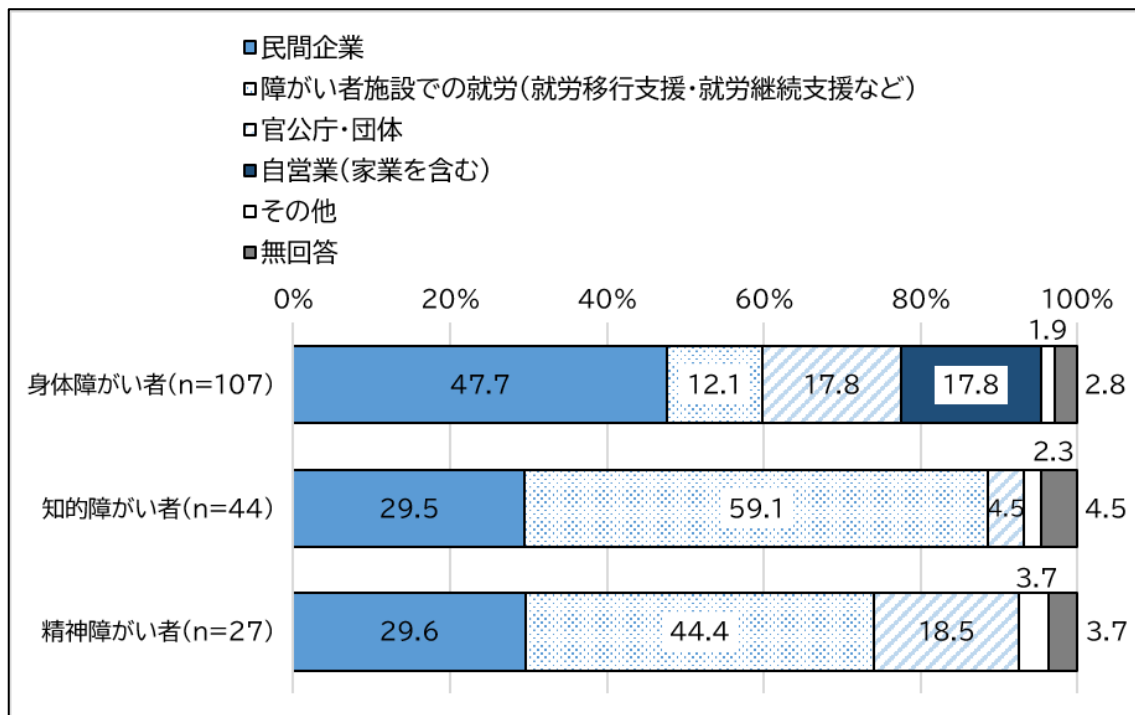
就労者の就労先をみると、「民間企業」の割合が42.2%と最も多く、次いで「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援など)」(25.4%)と続いています。前回調査と比較すると、「民間企業」が1.0ポイント増加しています。

図表 60 就労先について(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者では「民間企業」(47.7%)、知的障がい者、精神障がい者では「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援)」(知的 59.1%、精神 44.4%)が最も多くなっています。

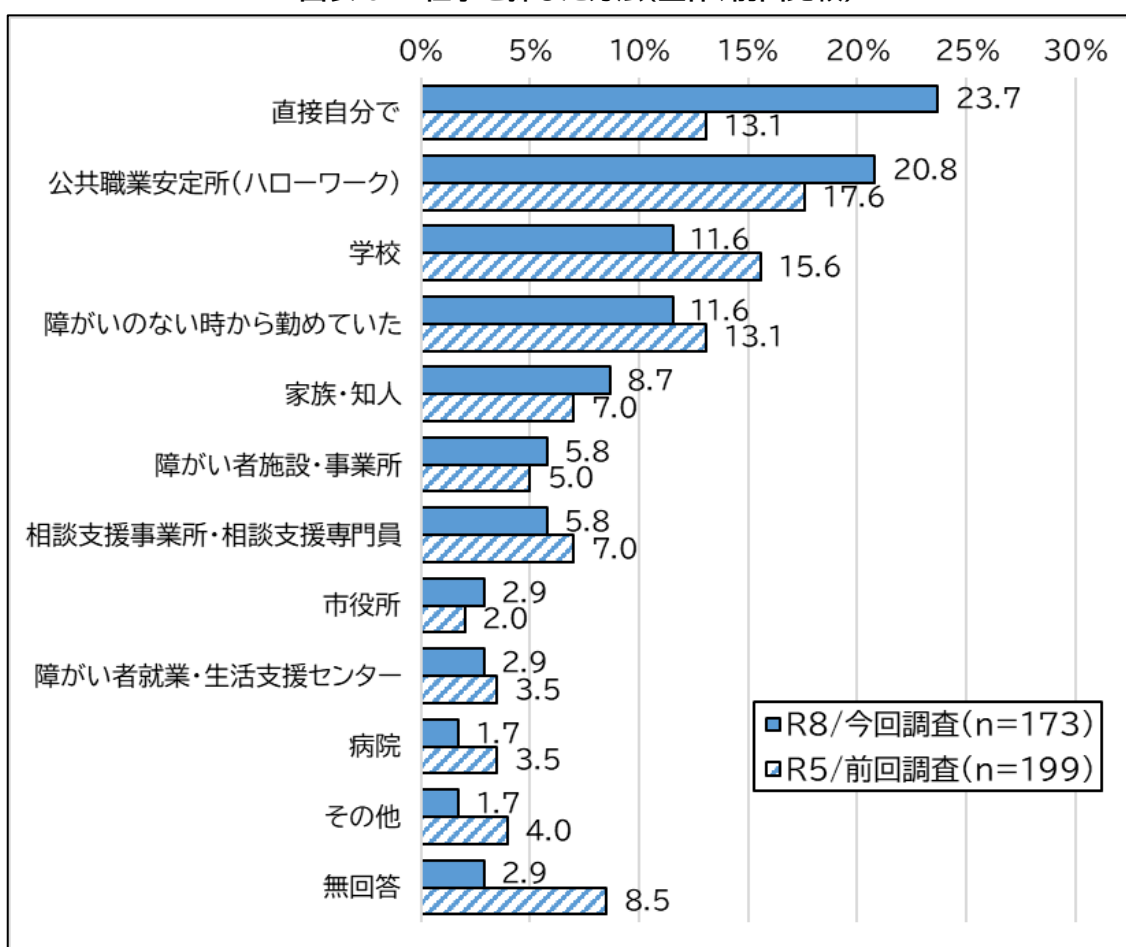
図表 61 就労先について(障がい別)



※問25で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
問25-2 あなたは、今の仕事はどのようにして探しましたか。(1つに○)

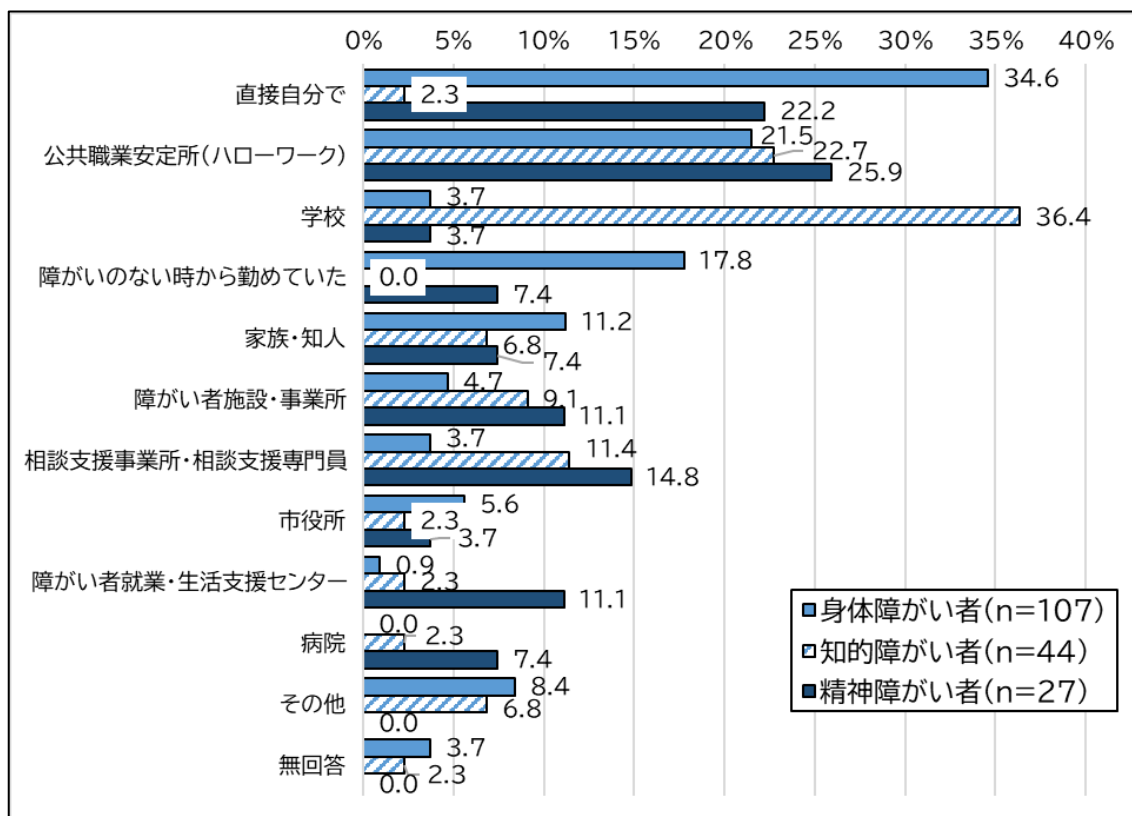
今の仕事を探した方法を見ると、「直接自分で」(23.7%)の割合が最も多く、次いで「公共職業安定所(ハローワーク)」(20.8%)、「学校」(11.6%)、「障がいのない時から勤めていた」(11.6%)、「家族・知人」(8.7%)、「障がい者施設・事業所」(5.8%)と続いています。前回調査と比較すると、「直接自分で」が10.6ポイント増加しています。

図表 62 仕事を探した方法(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者では「直接自分で」(34.6%)、知的障がい者では、「学校」(36.4%)、精神障がい者では「公共職業安定所(ハローワーク)」(25.9%)が最も多くなっています。

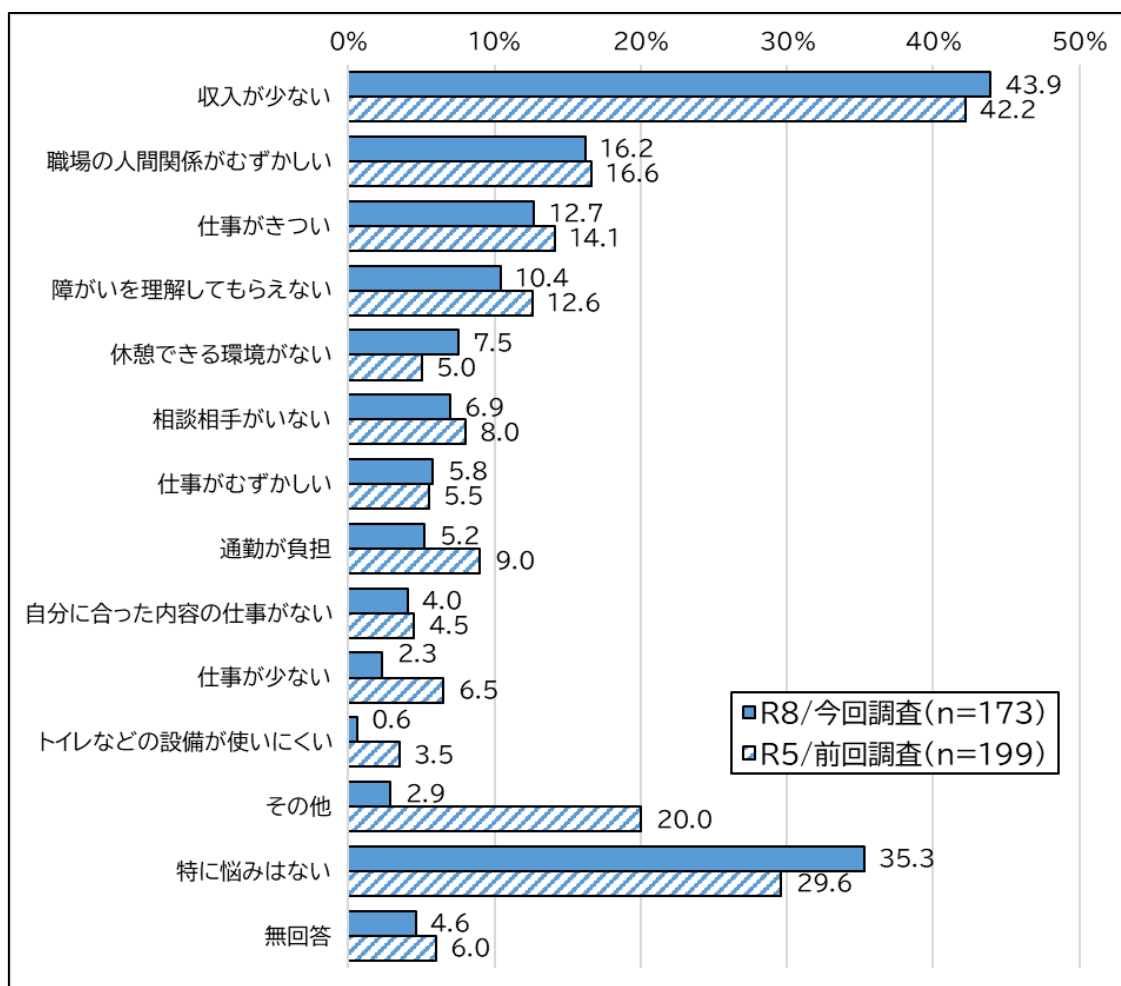
図表 63 仕事を探した方法(障がい別)



※問25で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
問25-3 仕事をする上での悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

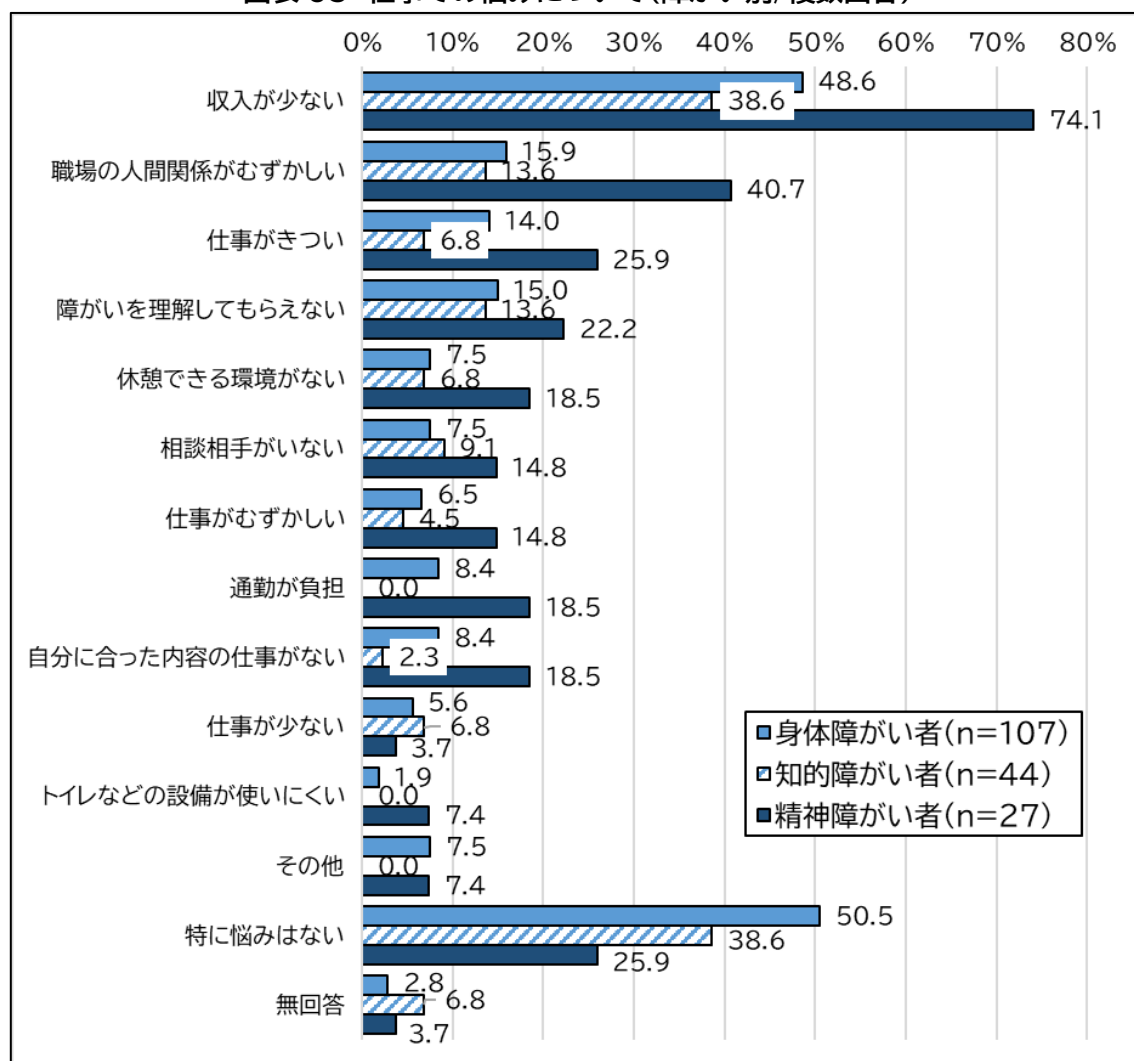
仕事をする上での悩みをみると、「収入が少ない」(43.9%)の割合が最も多くなっています。また、「職場の人間関係がむずかしい」(16.2%)、「仕事がきつい」(12.7%)、「障がいを理解してもらえない」(10.4%)、「休憩できる環境がない」(7.5%)、「相談相手がない」(6.9%)なども多くなっています。前回調査と比較すると、「収入が少ない」が1.7ポイント増加しています。一方、「特に悩みはない」は35.3%となっており、「収入が少ない」に次いで多くなっています。

図表 64 仕事での悩みについて(全体、前回比較/複数回答)



障がい別で仕事での悩みをみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「収入が少ない」(身体 48.6%、知的 38.6%、精神 74.1%)が最も多くなっています。精神障がい者では7割を超えています。

図表 65 仕事での悩みについて(障がい別/複数回答)

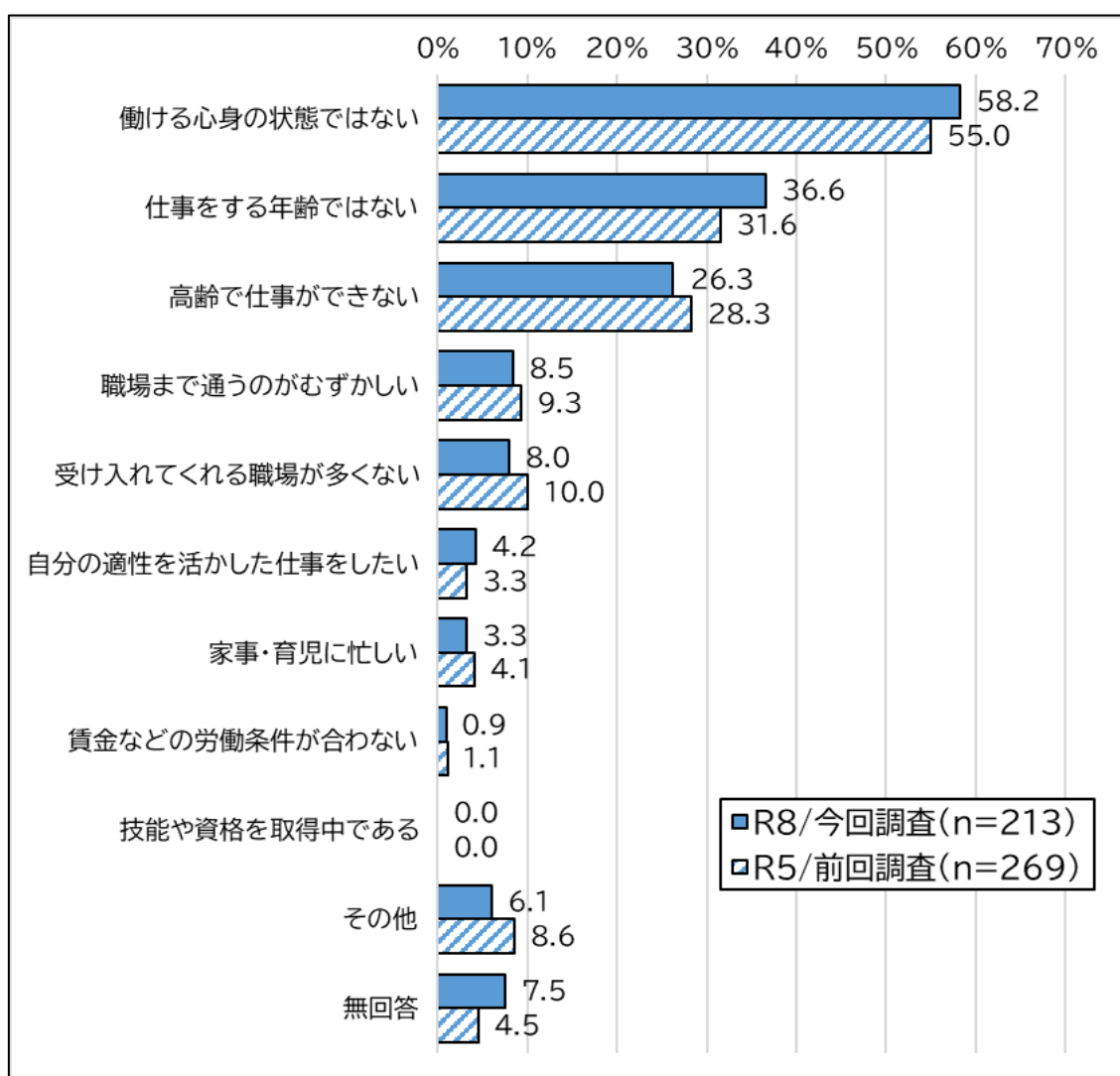


※問25で「仕事をしていない」と回答した方

問25-4 現在仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

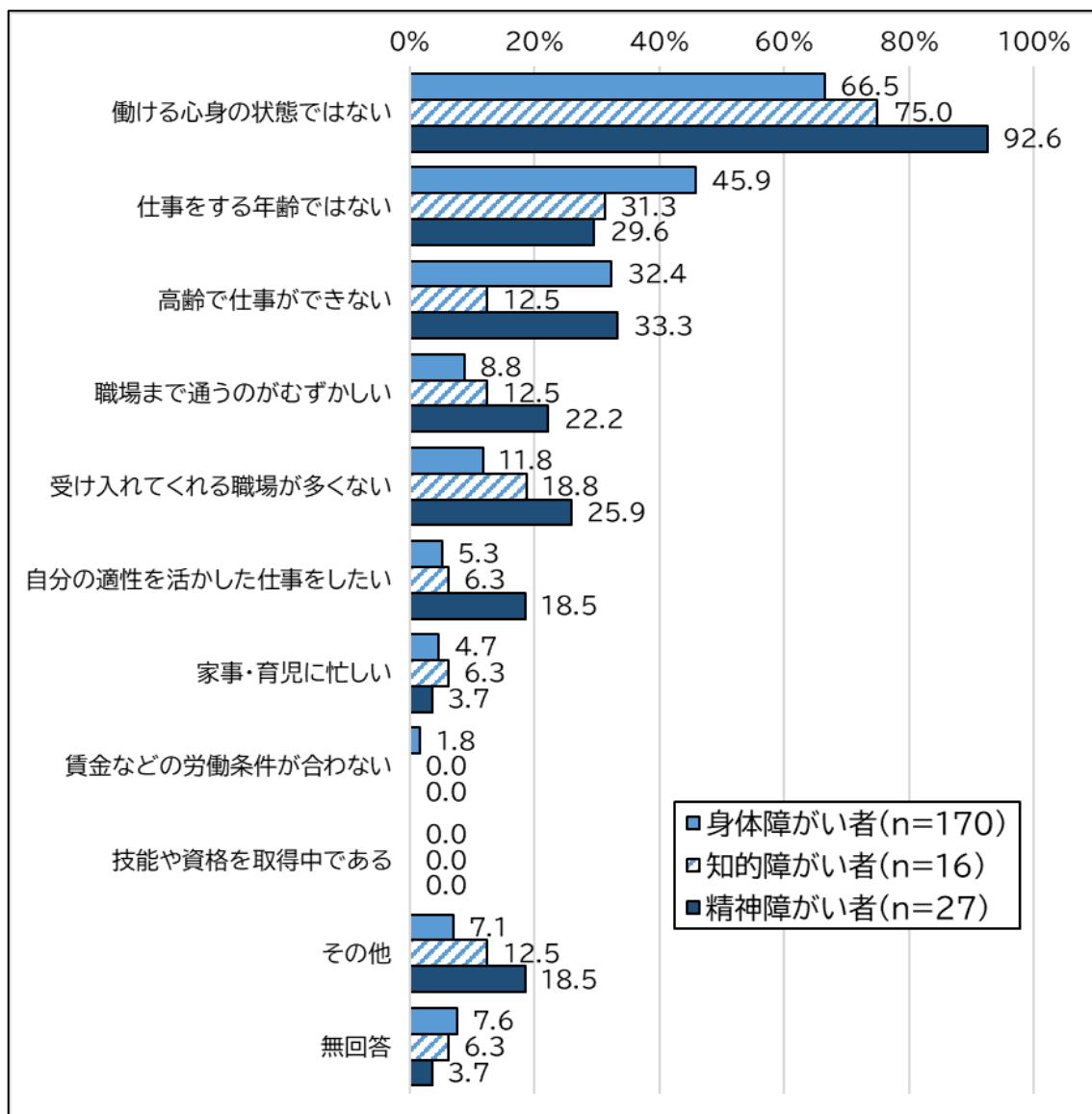
現在仕事をしていない理由をみると、「働ける心身の状態ではない」(58.2%)の割合が最も多く、次いで「仕事をする年齢ではない」(36.6%)、「高齢で仕事ができない」(26.3%)、「職場まで通うのがむずかしい」(8.5%)、「受け入れてくれる職場が多くない」(8.0%)と続いています。前回調査と比較すると、「働ける心身の状態ではない」が3.2ポイント増加しています。

図表 66 仕事をしていない理由(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「働ける心身の状態ではない」(身体 66.5%、知的 75.0%、精神 92.6%)が最も多くなっています。精神障がい者では「働ける心身の状態ではない」が 9 割を超えています。

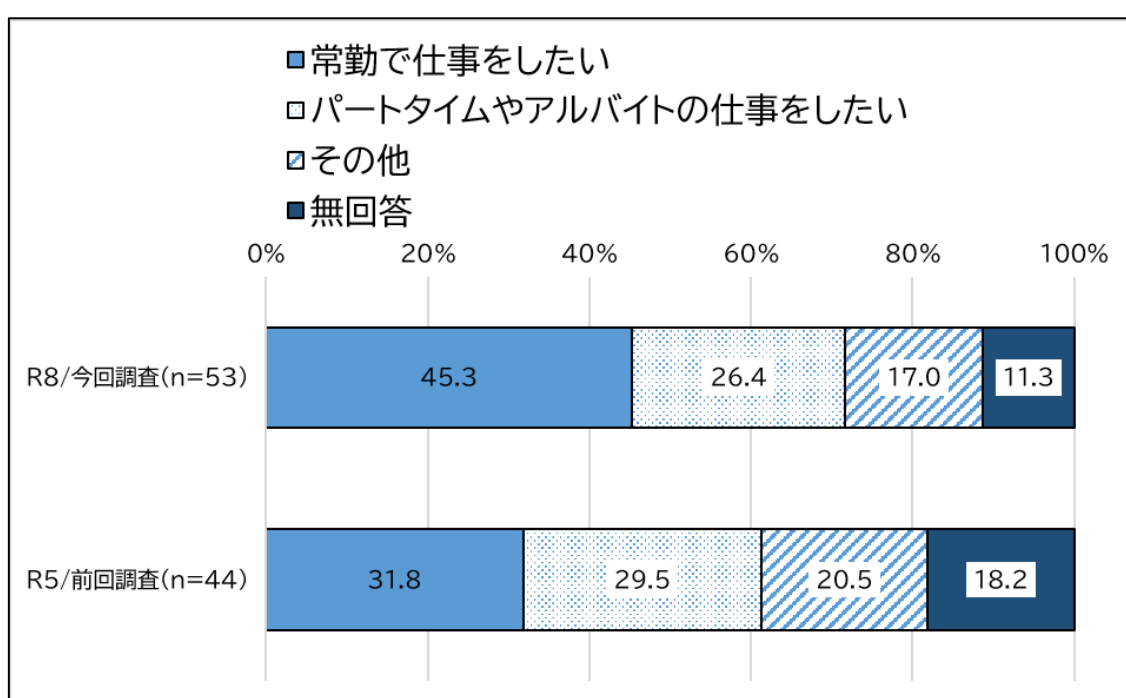
図表 67 仕事をしていない理由(障がい別/複数回答)



※問25で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
問25-5 あなたはどのような就労形態で仕事をしたいですか。(1つに○)

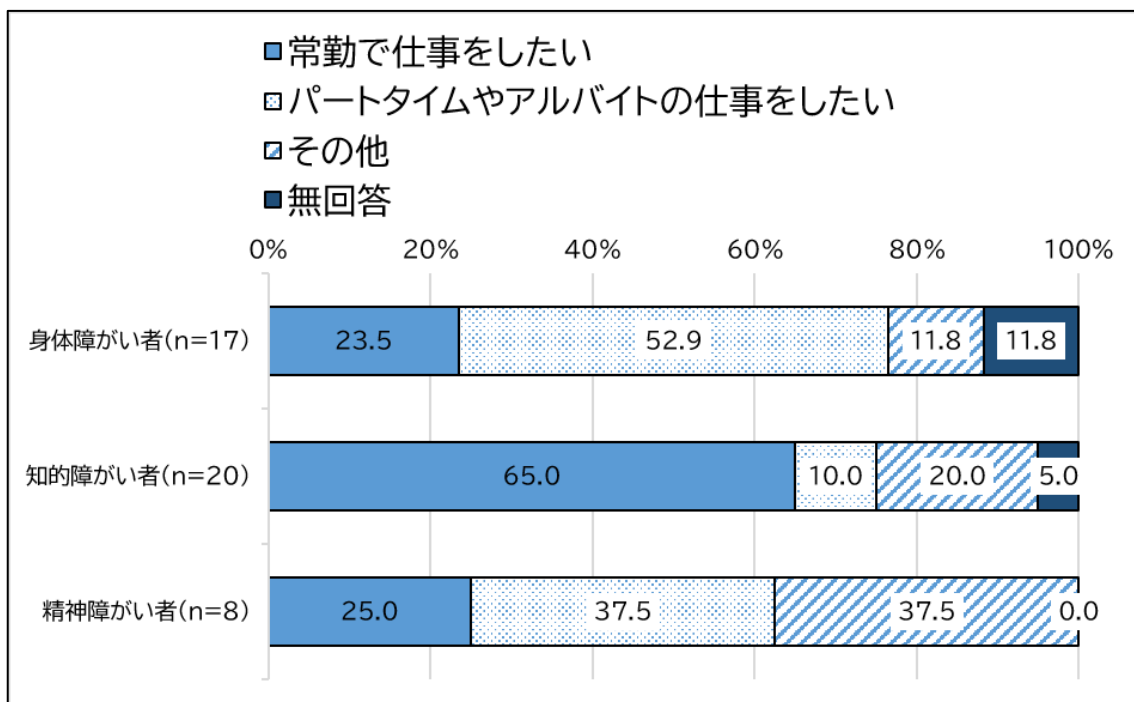
現在仕事を探している、または、通学中の人が希望する就労形態をみると、「常勤で仕事をしたい」が45.3%、「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」が26.4%となっています。前回調査と比較すると、「常勤で仕事をしたい」が13.5ポイント増加しています。

図表 68 希望就労形態(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者では「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」(52.9%)、知的障がい者では「常勤で仕事をしたい」(65.0%)、精神障がい者では「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」、「その他」(37.5%)が最も多くなっています。

図表 69 希望就労形態(障がい別)

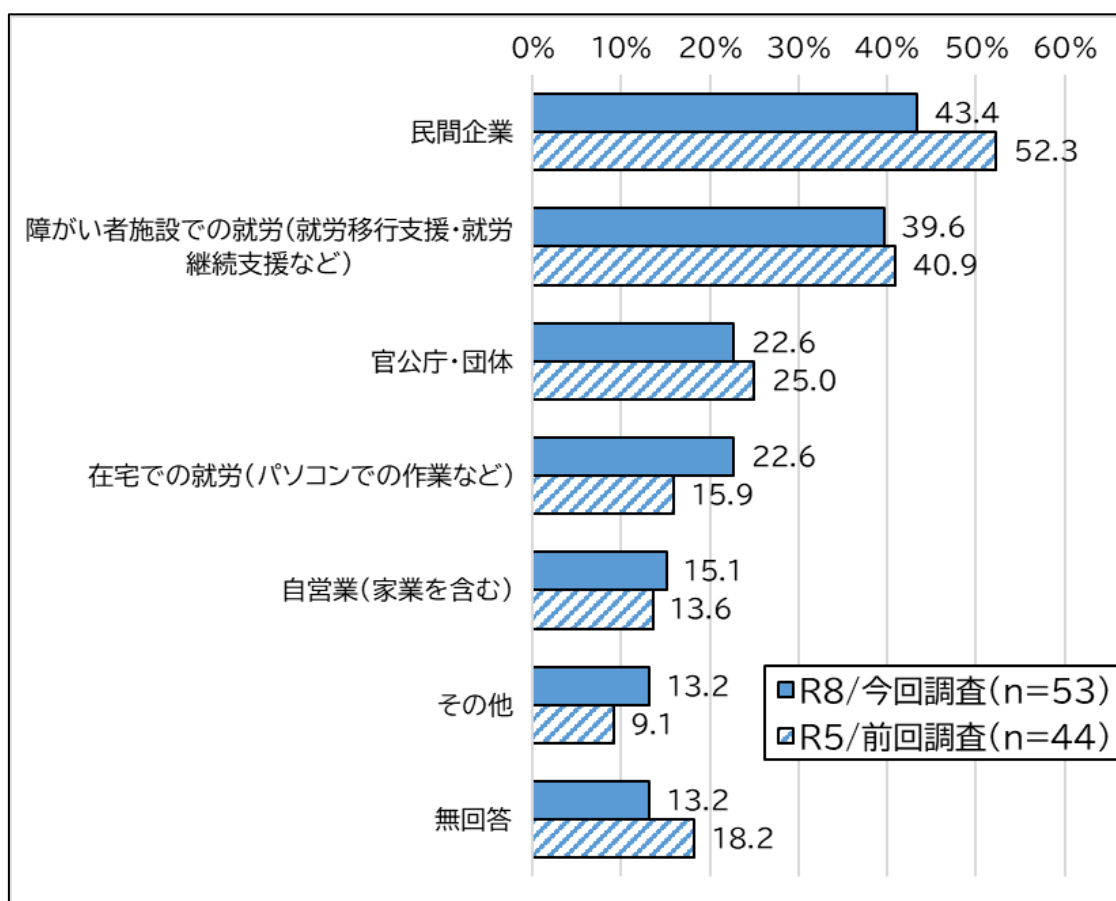


「その他」記述内容
就労支援 B 型を利用したい
まだ考えたことがない
まだ小学生なので分からない

※問25で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
問25-6 あなたはどのような就労先を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

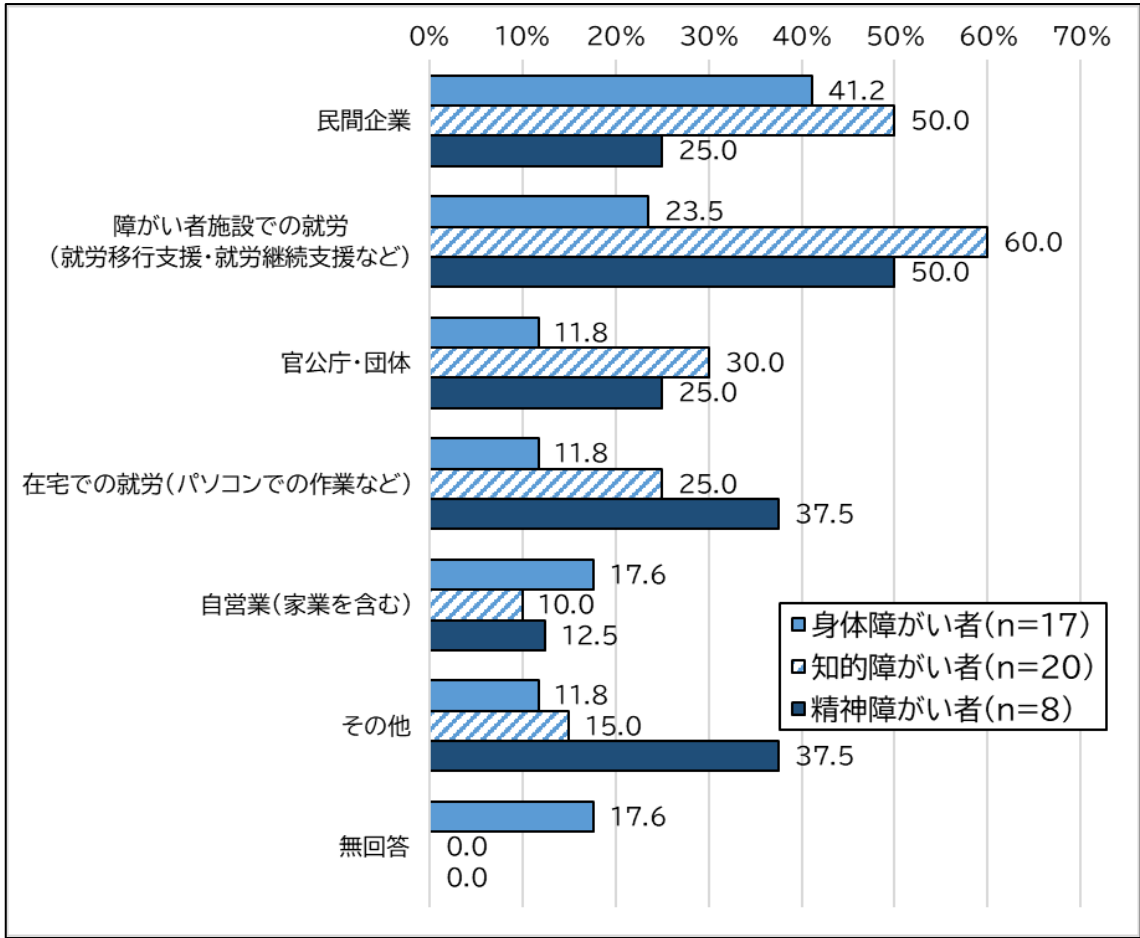
現在仕事を探している、または、通学中の人が希望する就労先をみると、「民間企業」(43.4%)の割合が最も多く、次いで「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援など)」(39.6%)、「官公庁・団体」(22.6%)、「在宅での就労(パソコンでの作業など)」(22.6%)、「自営業(家業を含む)」(15.1%)と続いています。前回調査と比較すると、「在宅での就労(パソコンでの作業など)」が 6.7 ポイント増加しています。

図表 70 就労先の希望(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「民間企業」(41.2%)、知的障がい者、精神障がい者では「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援など)」(知的 60.0%、精神 50.0%)が最も多くなっています。

図表 71 就労先の希望(障がい別/複数回答)

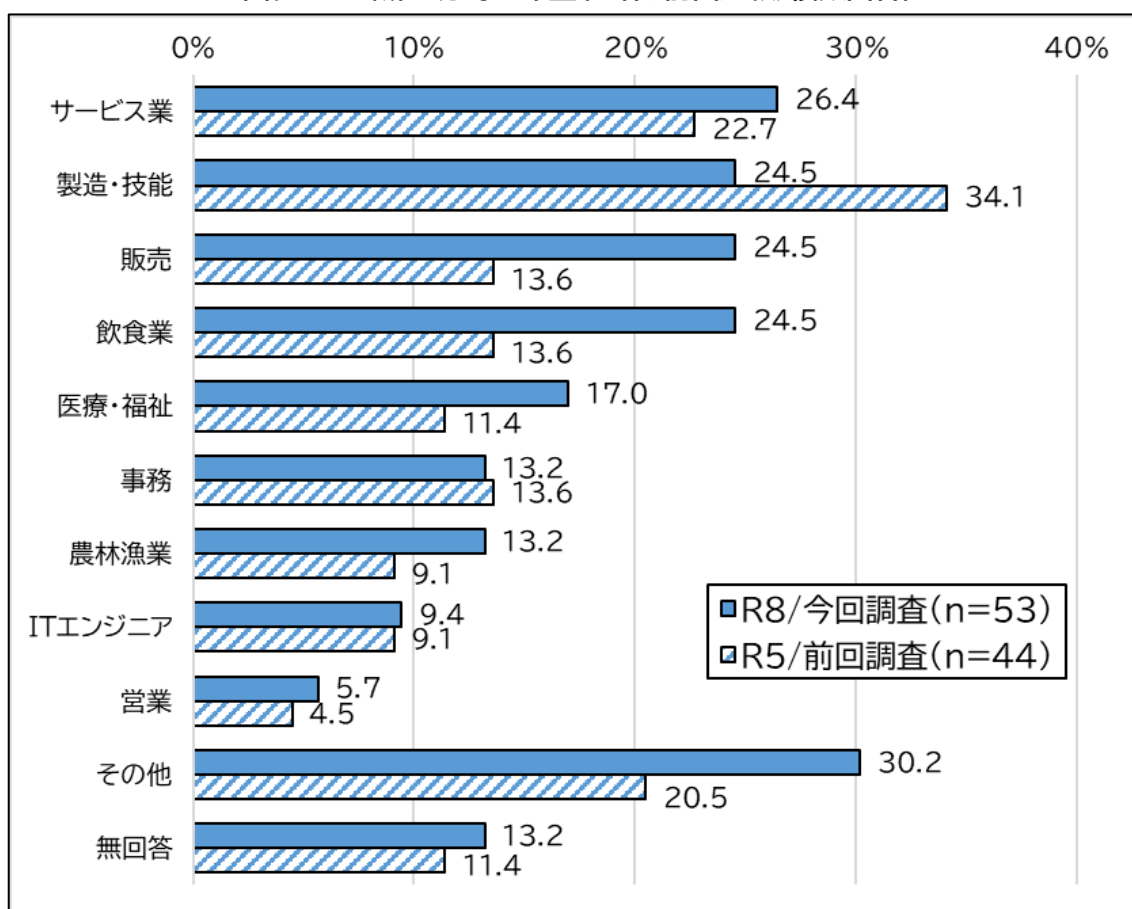


「その他」記述内容
受入れてくれる所 ブラックでない所
わからない
一般企業の障がい者枠
まだ小学生なので分からない

※問25で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
問25-7 あなたはどのような職種・分野を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

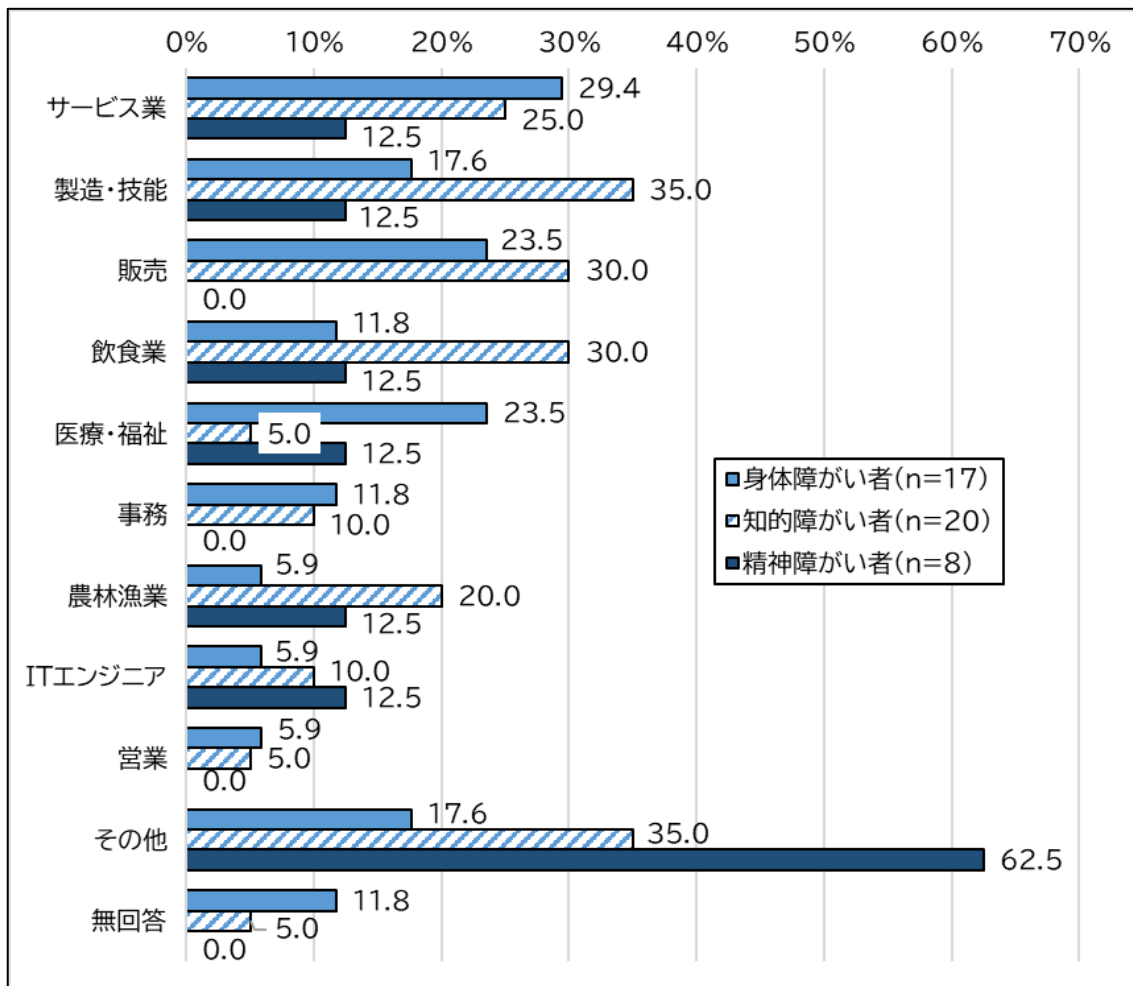
現在仕事を探している、または、通学中の人が、希望する職種・分野をみると、「サービス業」(26.4%)の割合が最も多く、次いで「製造・技能」(24.5%)、「販売」(24.5%)、「飲食業」(24.5%)、「医療・福祉」(17.0%)と続いています。前回調査と比較すると、「サービス業」が3.7ポイント増加、「製造・技能」が9.6ポイント減少しています。

図表 72 職種・分野の希望(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「サービス業」(29.4%)、知的障がい者では「製造・技能」(35.0%)、精神障がい者では「サービス業」、「製造・技能」、「飲食業」、「医療・福祉」、「農林漁業」、「IT エンジニア」(12.5%)が最も多くなっています。

図表 73 職種・分野の希望(障がい別/複数回答)



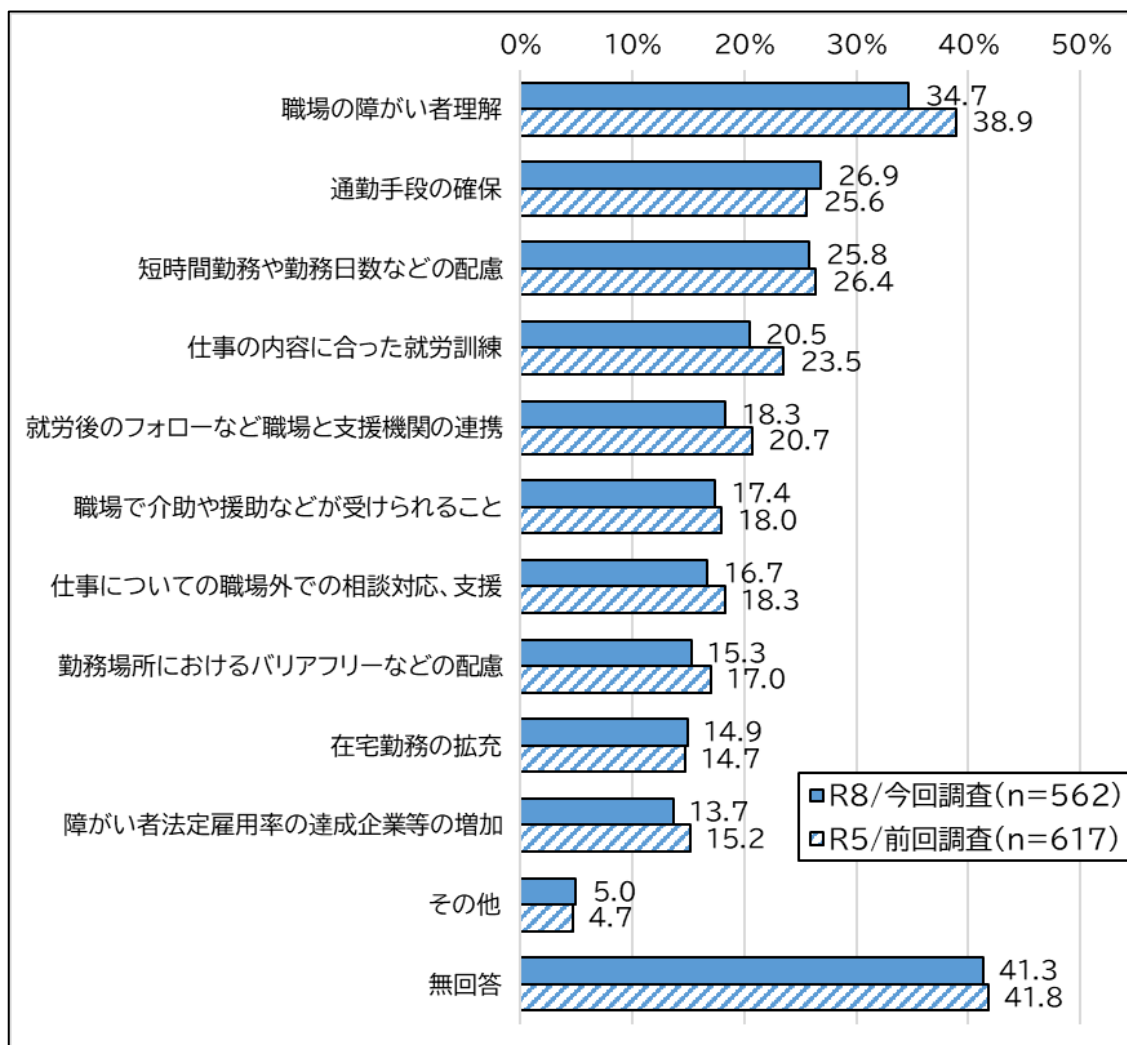
「その他」記述内容
あんまマッサージ
清掃
動物ペットショップ
まだ小学生なので分からない
わからない
何があるのかどこまで出来るかわからない
あてはまるものはない

(4)就労支援について

問26 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

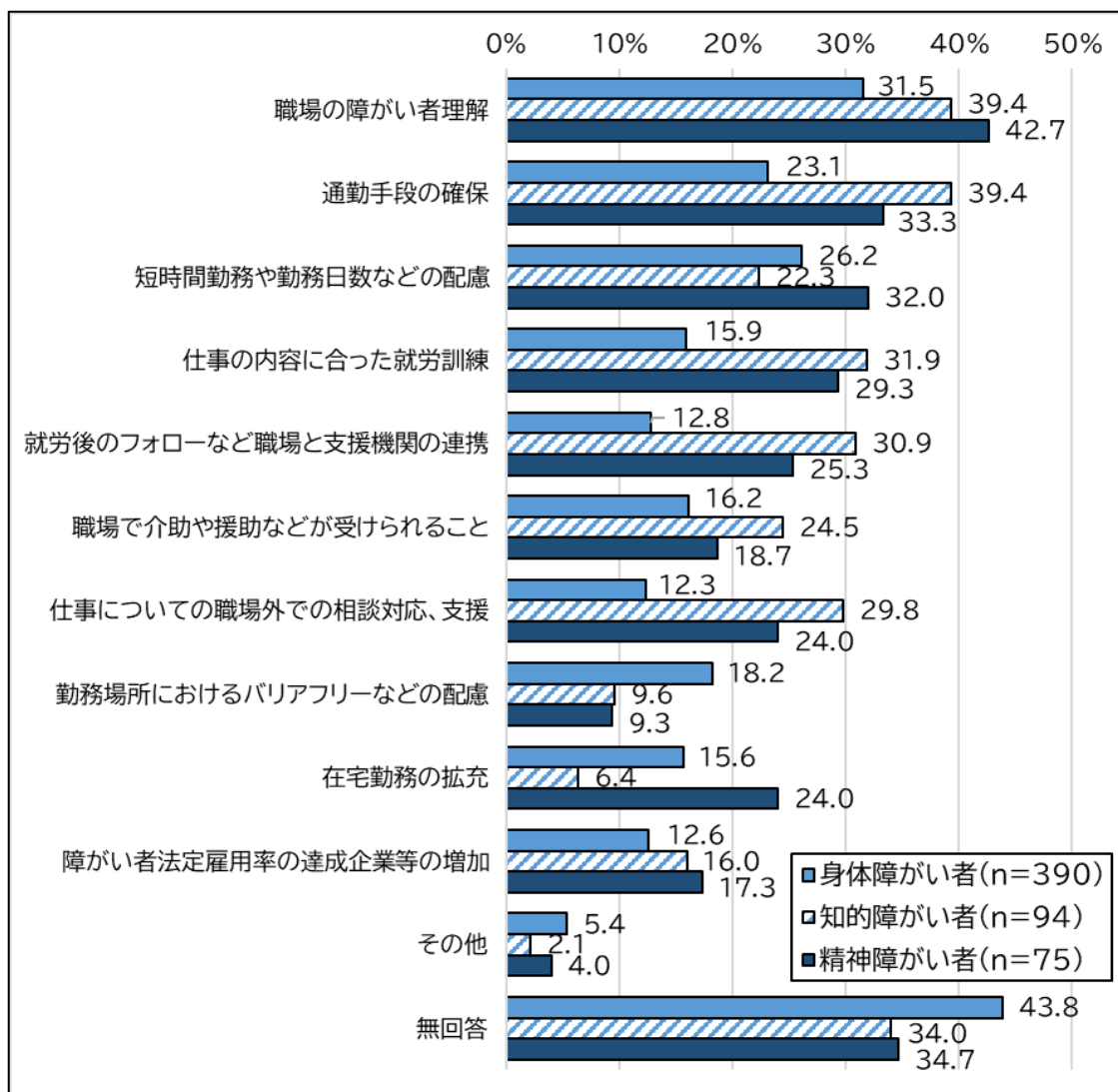
障がい者の就労支援として必要だと思うことをみると、「職場の障がい者理解」(34.7%)の割合が最も多く、次いで「通勤手段の確保」(26.9%)、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」(25.8%)、「仕事の内容に合った就労訓練」(20.5%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(18.3%)と続いています。前回調査と比較すると、「職場の障がい者理解」が4.2ポイント減少しました。

図表 74 就労支援として必要だと思うもの(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「職場の障がい者理解」(身体 31.5%、精神 42.7%)、知的障がい者では「職場の障がい者理解」、「通勤手段の確保」(39.4%)が最も多くなっています。

図表 75 就労支援として必要だと思うもの(障がい別/複数回答)



7 障がい児への療育や教育について

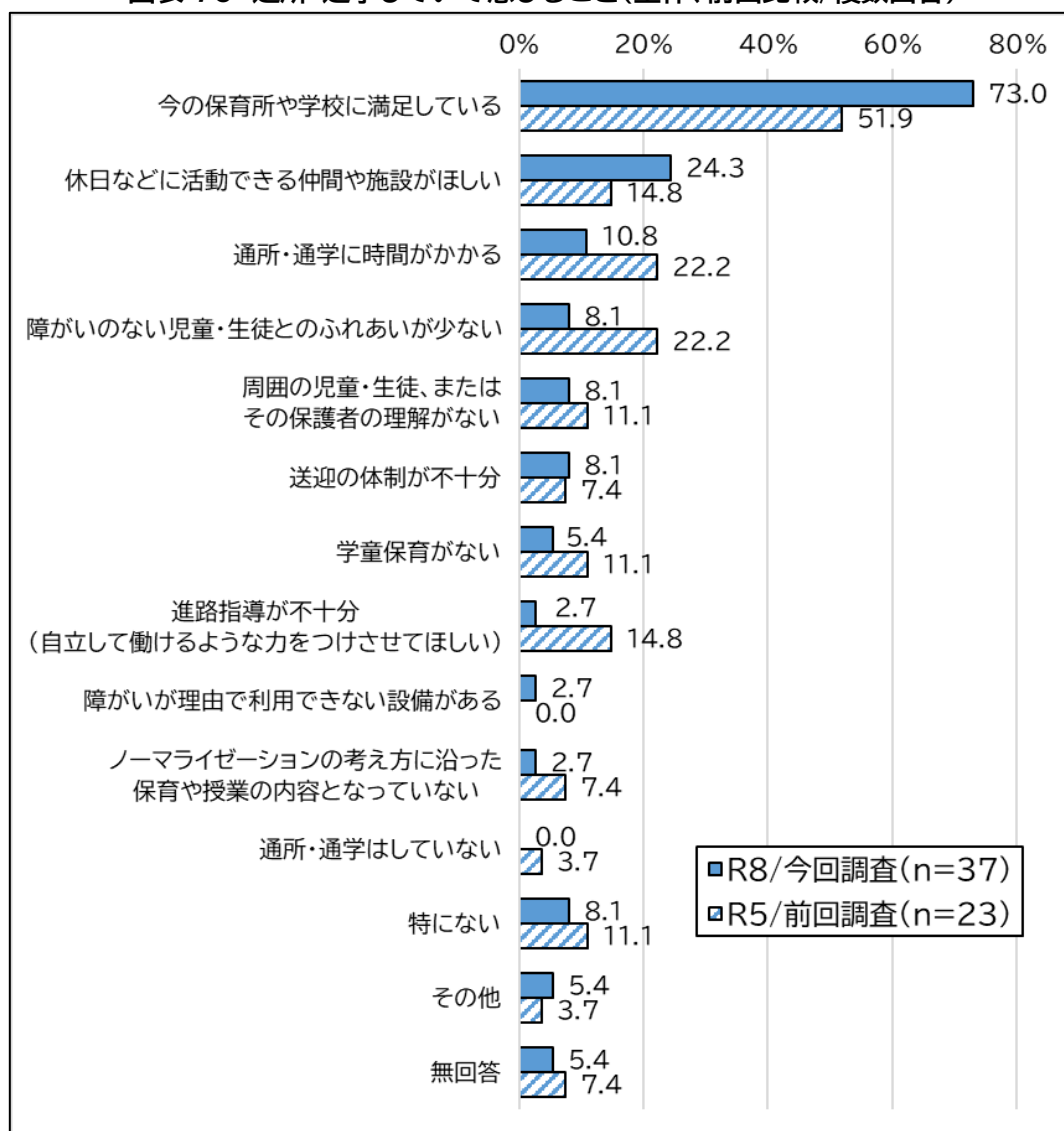
(1)通所・通学していて感じること

※宛名のご本人が18歳未満の方

問27 通所・通学していて、感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

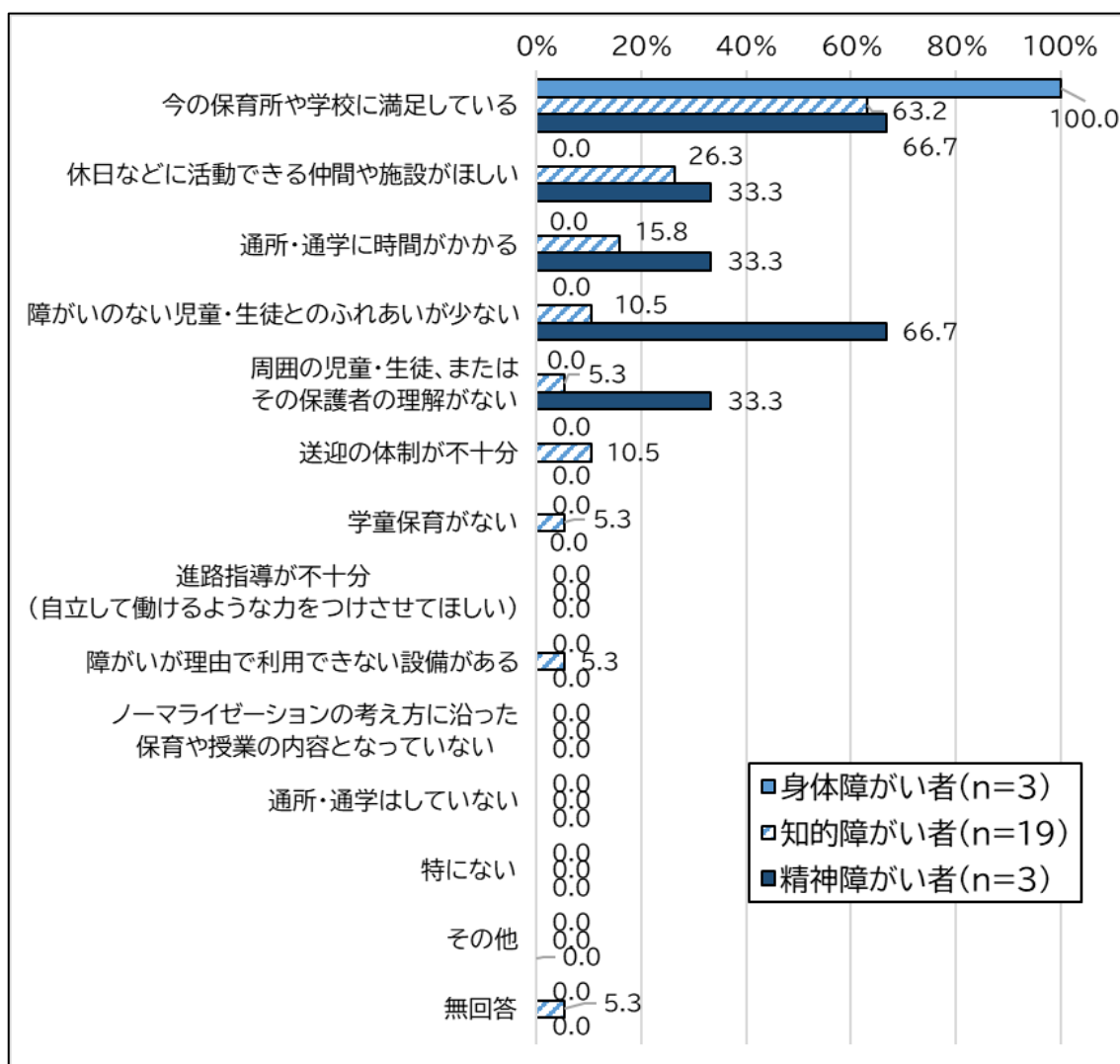
通所・通学していて感じることをみると、「今の保育所や学校に満足している」(73.0%)の割合が最も多く、突出しています。前回調査と比較すると、「今の保育所や学校に満足している」が21.1ポイント増加しています。

図表 76 通所・通学していて感じること(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「今の保育所や学校に満足している」(身体 100%、知的 63.2%)、精神障がい者では「今の保育所や学校に満足している」、「障がいのない児童・生徒とのふれあいが少ない」(66.7%)が最も多くなっています。

図表 77 通所・通学して感じる事(障がい別/複数回答)



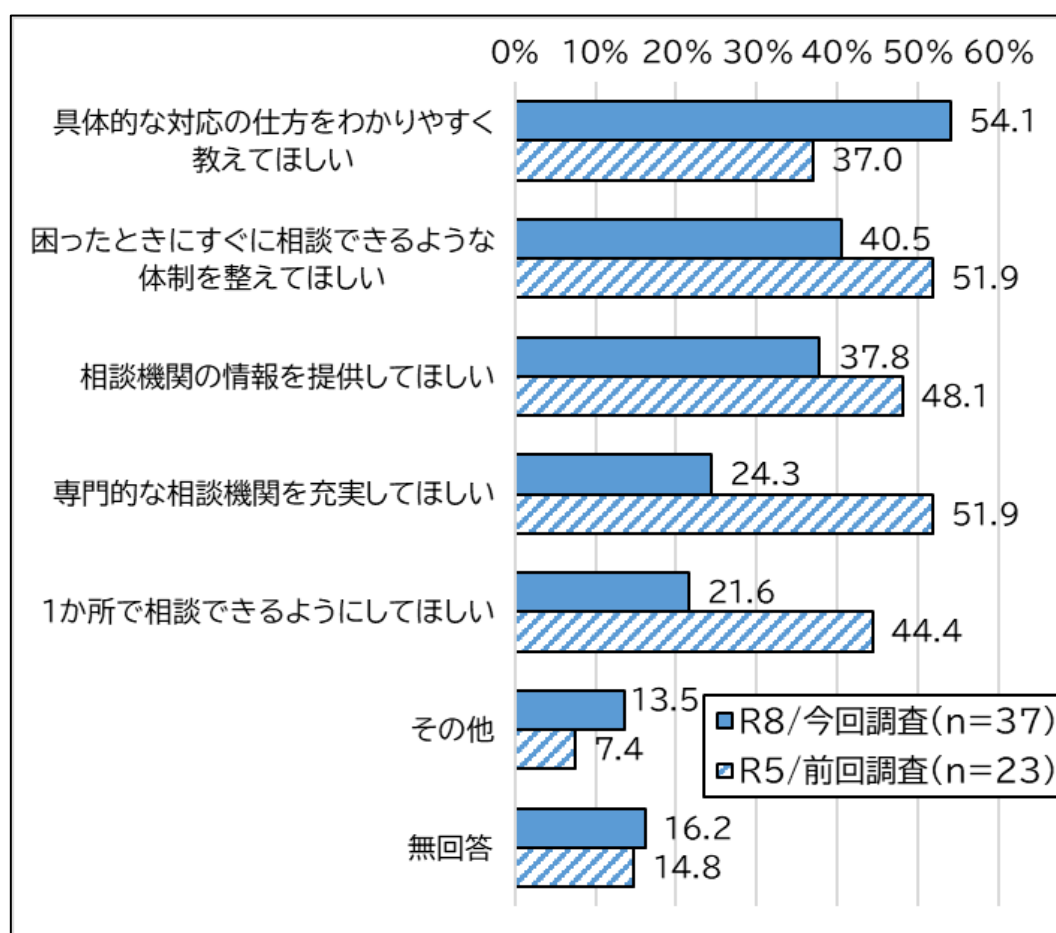
(2)療育や教育について

※宛名のご本人が18歳未満の方

問28 あなたは療育や教育に関する相談について望むことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

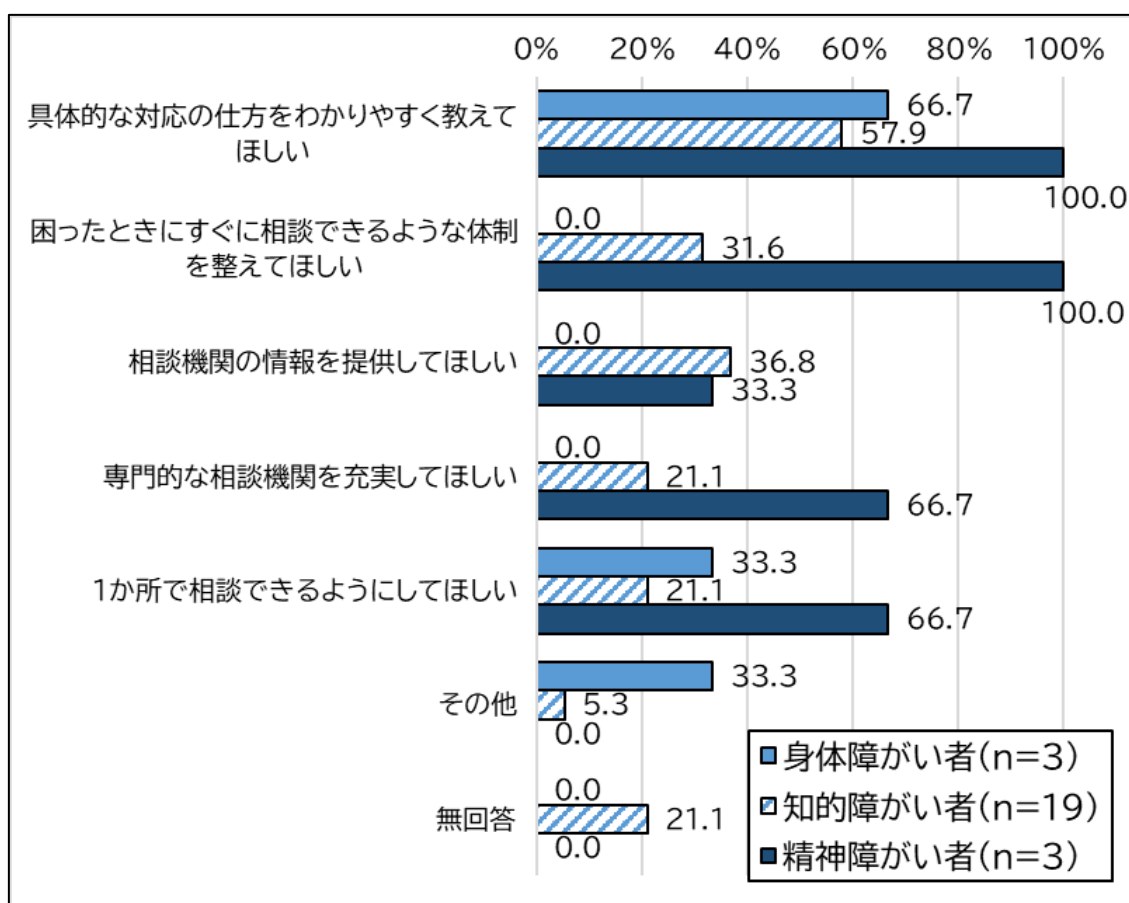
療育や教育に関する相談で望むことをみると、「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」(54.1%)の割合が最も多く、次いで「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」(40.5%)、「相談機関の情報を提供してほしい」(37.8%)、「専門的な相談機関を充実してほしい」(24.3%)、「1か所で相談できるようにしてほしい」(21.6%)と続いています。前回調査と比較すると、「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」が17.1ポイント増加しています。

図表 78 療育や教育に関する相談について望むこと(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」(身体 66.7%、知的 57.9%)、精神障がい者では「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」(100.0%)が最も多くなっています。

図表 79 療育や教育に関する相談について望むこと(障がい別/複数回答)

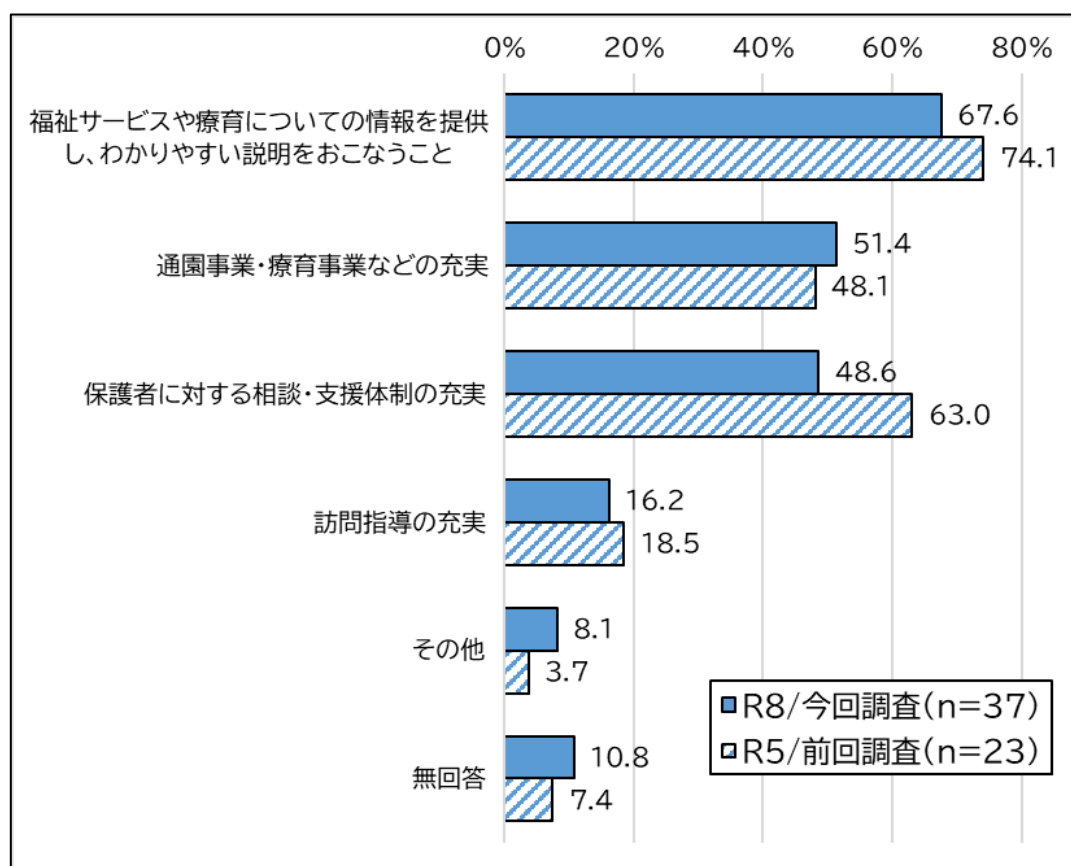


※宛名のご本人が18歳未満の方

問29 あなたは乳幼児期における母子保健や療育に関わることでどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

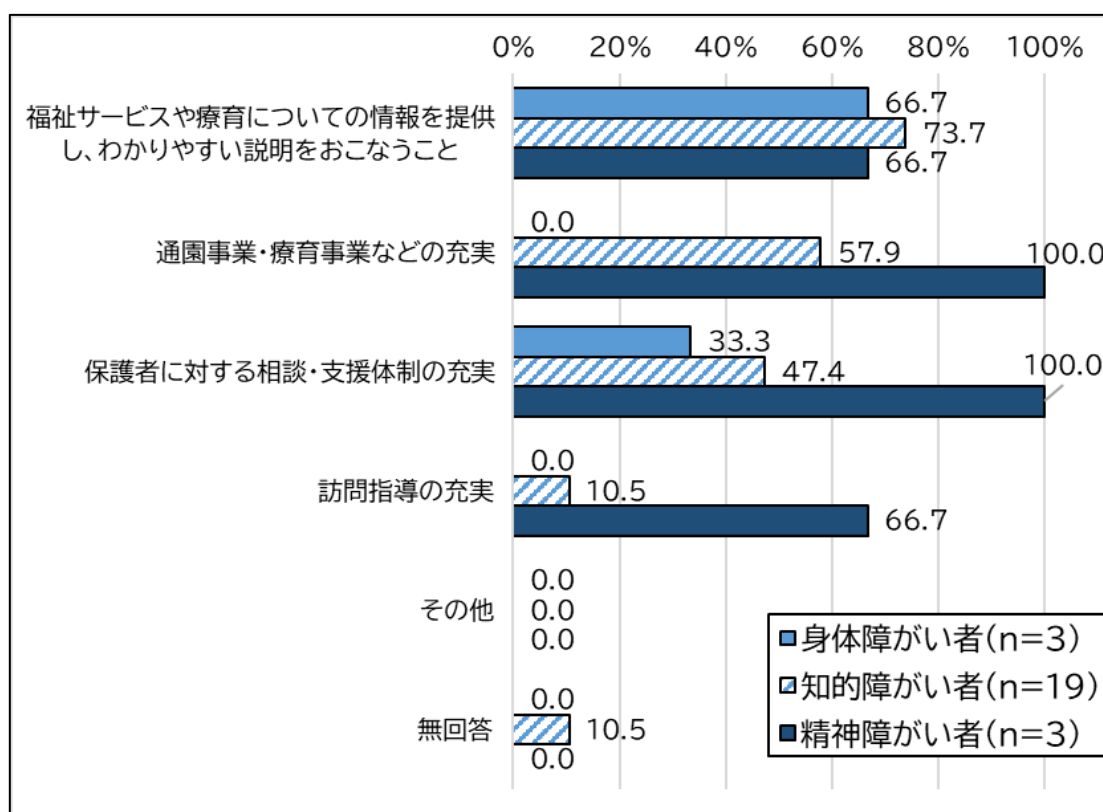
乳幼児期における母子保健や療育に関わることで望むことをみると、「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」(67.6%)の割合が最も多く、次いで「通園事業・療育事業などの充実」(51.4%)、「保護者に対する相談・支援体制の充実」(48.6%)となっています。前回調査と比較すると、「通園事業・療育事業などの充実」が3.3ポイント増加しています。

図表 80 母子保健や療育に関わることで望むこと(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」(身体 66.7%、知的 73.7%)、精神障がい者では「通園事業・療育事業などの充実」、「保護者に対する相談・支援体制の充実」(100.0%)が最も多くなっています。

図表 81 母子保健や療育に関わることで望むこと(障がい別/複数回答)

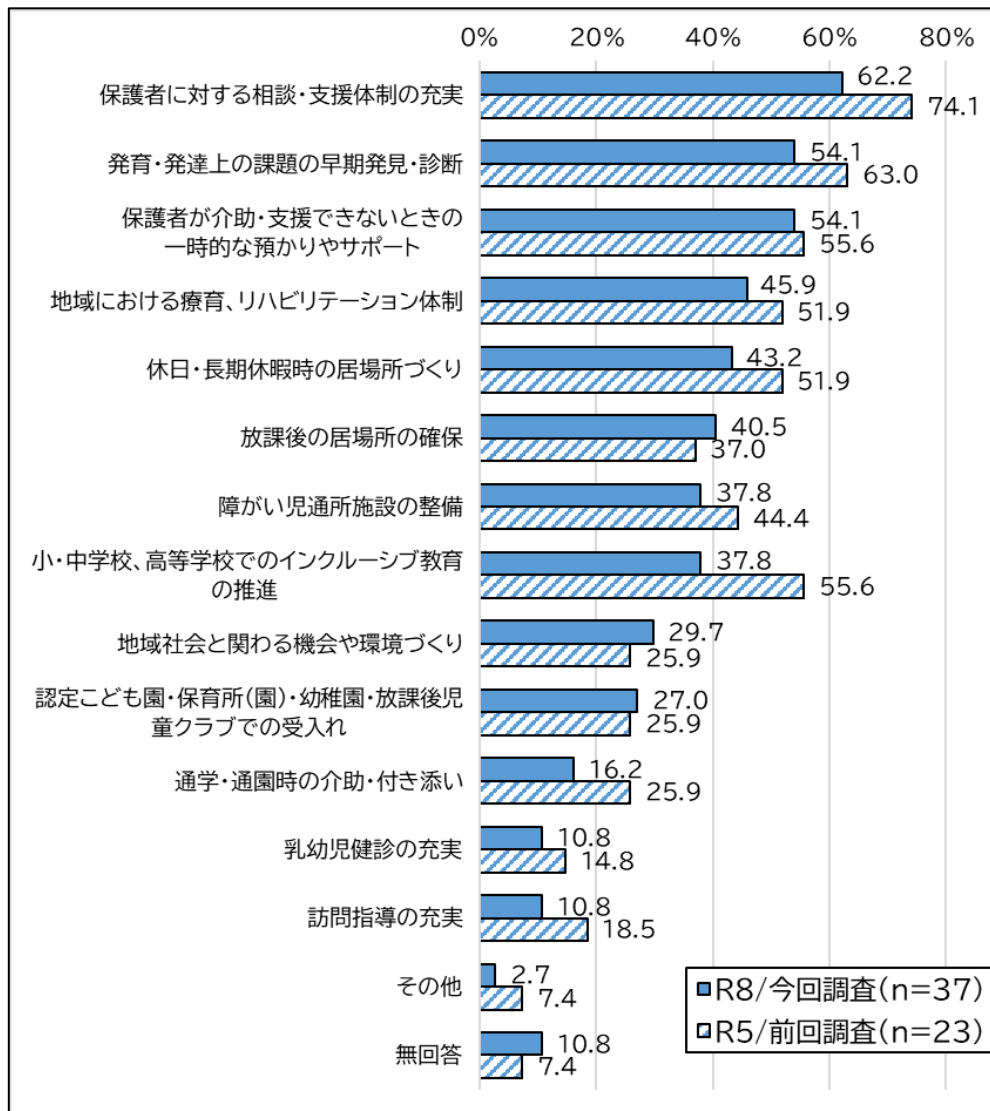


※宛名のご本人が18歳未満の方

問30 発達に課題のある子どものための施策やサービスなどで、あなたが特に重要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

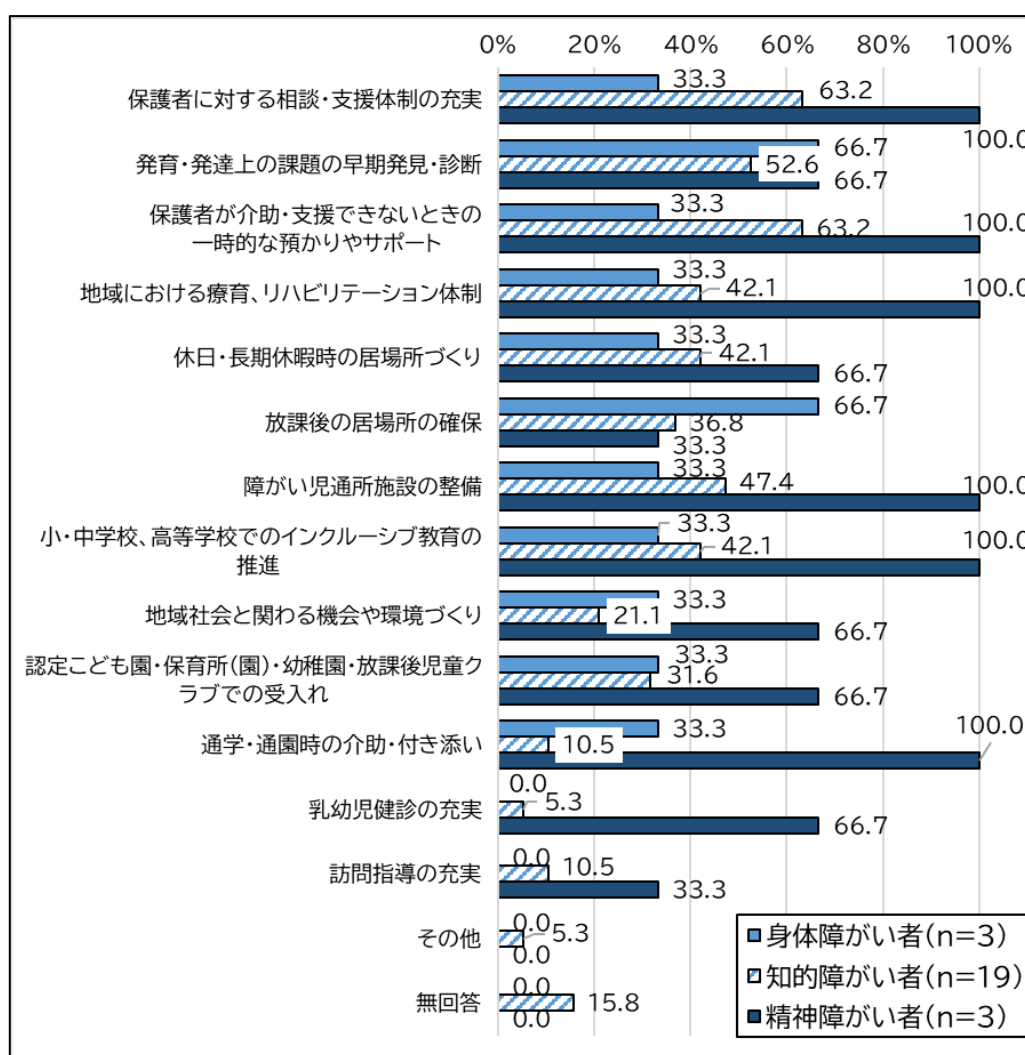
発達に課題のある子どものための施策等で重要だと思うものについてみると、「保護者に対する相談・支援体制の充実」(62.2%)の割合が最も多く、次いで「発育・発達上の課題の早期発見・診断」「保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート」(54.1%)、「地域における療育、リハビリテーション体制」(45.9%)、「休日・長期休暇時の居場所づくり」(43.2%)、「放課後の居場所の確保」(40.5%)と続いています。前回調査と比較すると、「保護者に対する相談・支援体制の充実」が11.9ポイント減少しています。

図表 82 発達支援の施策・サービスで重要と思うもの(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「発育・発達上の課題の早期発見・診断」(66.7%)、知的障がい者では「保護者に対する相談・支援体制の充実」、「保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート」(63.2%)精神障がい者では「保護者に対する相談・支援体制の充実」、「保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート」、「地域における療育・リハビリテーション体制」、「障がい児通所施設の整備」、「小・中学校、高等学校でのインクルーシブ教育の推進」、「通学・通園時の介助・付き添い」(100.0%)が最も多くなっています。

図表 83 発達支援の施策・サービスで重要と思うもの(障がい別/複数回答)



「その他」記述内容

(放課後の居場所)小学校卒業してから療養手帳
が無くても受入れる場所が欲しい

8 生活全般について

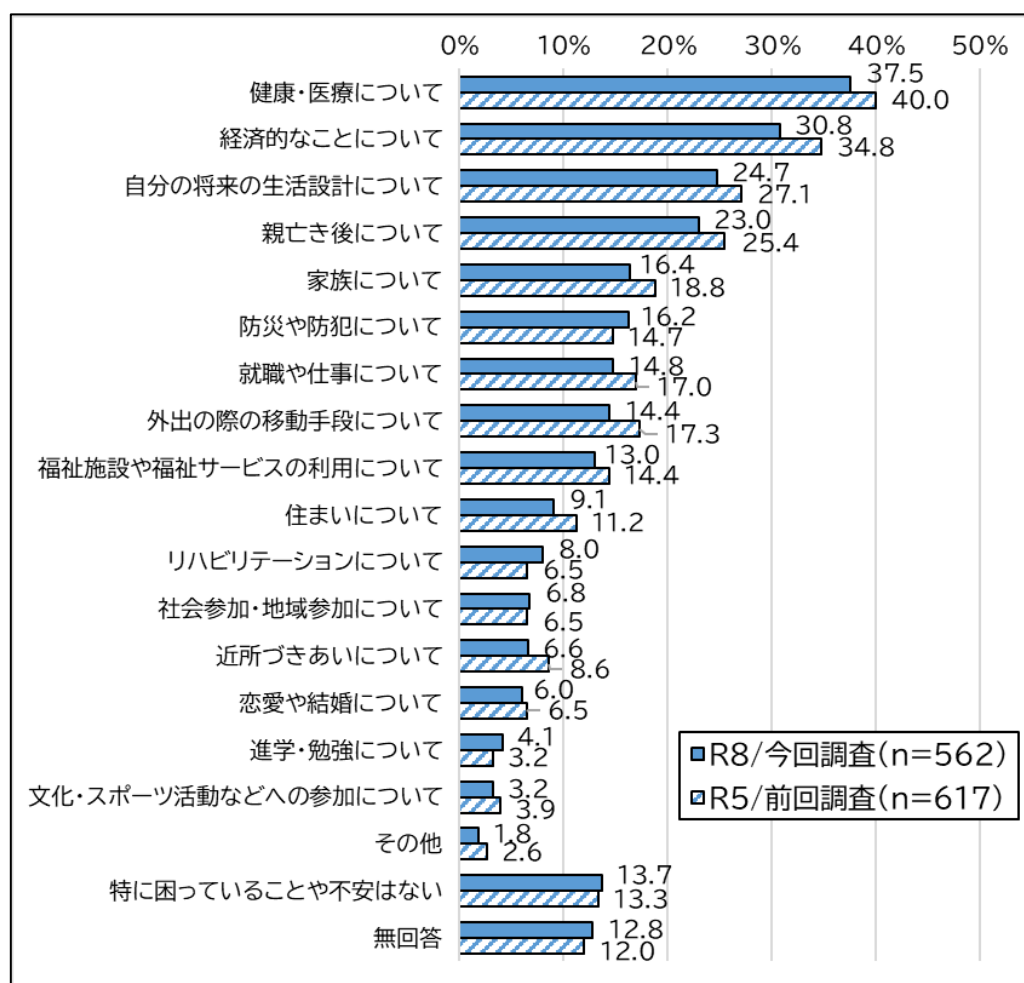
(1) 困りごとや相談について

問31 現在あなたが困ったり、不安に思っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在困ったり、不安に思っていることについてみると、「健康・医療について」の割合が37.5%と最も多く、次いで「経済的なことについて」(30.8%)、「自分の将来の生活設計について」(24.7%)、「親亡き後について」(23.0%)、「家族について」(16.4%)などとなっています。前回調査と比較すると、「健康・医療について」が2.5ポイント減少しています。

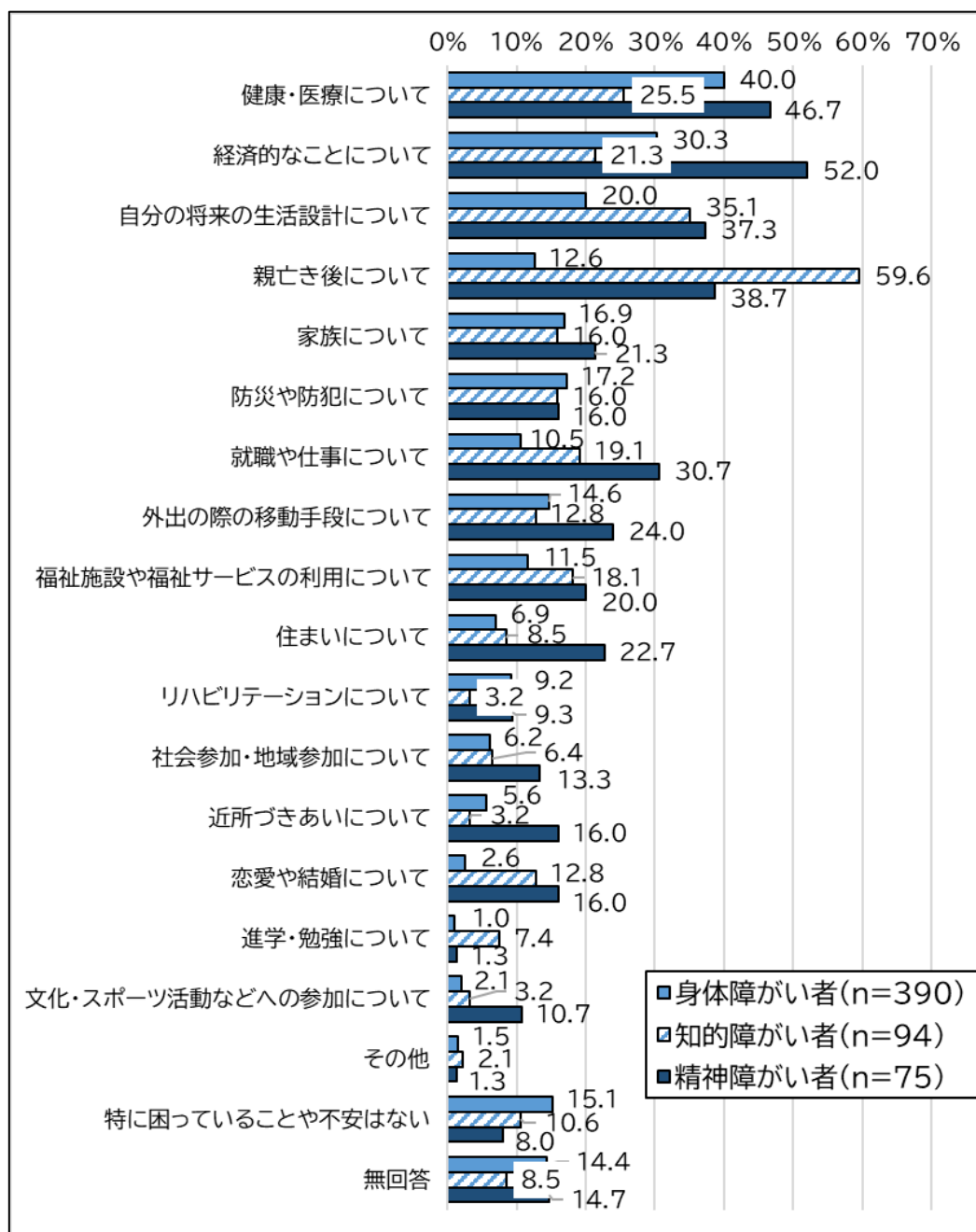
また、「特に困っていることはない」は13.7%で全体では第9位となっています。

図表 84 困りごとや不安に思っていること(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「健康・医療について」(40.0%)、知的障がい者では「親亡き後について」(59.6%)精神障がい者では「経済的なことについて」(52.0%)が最も多くなっています。

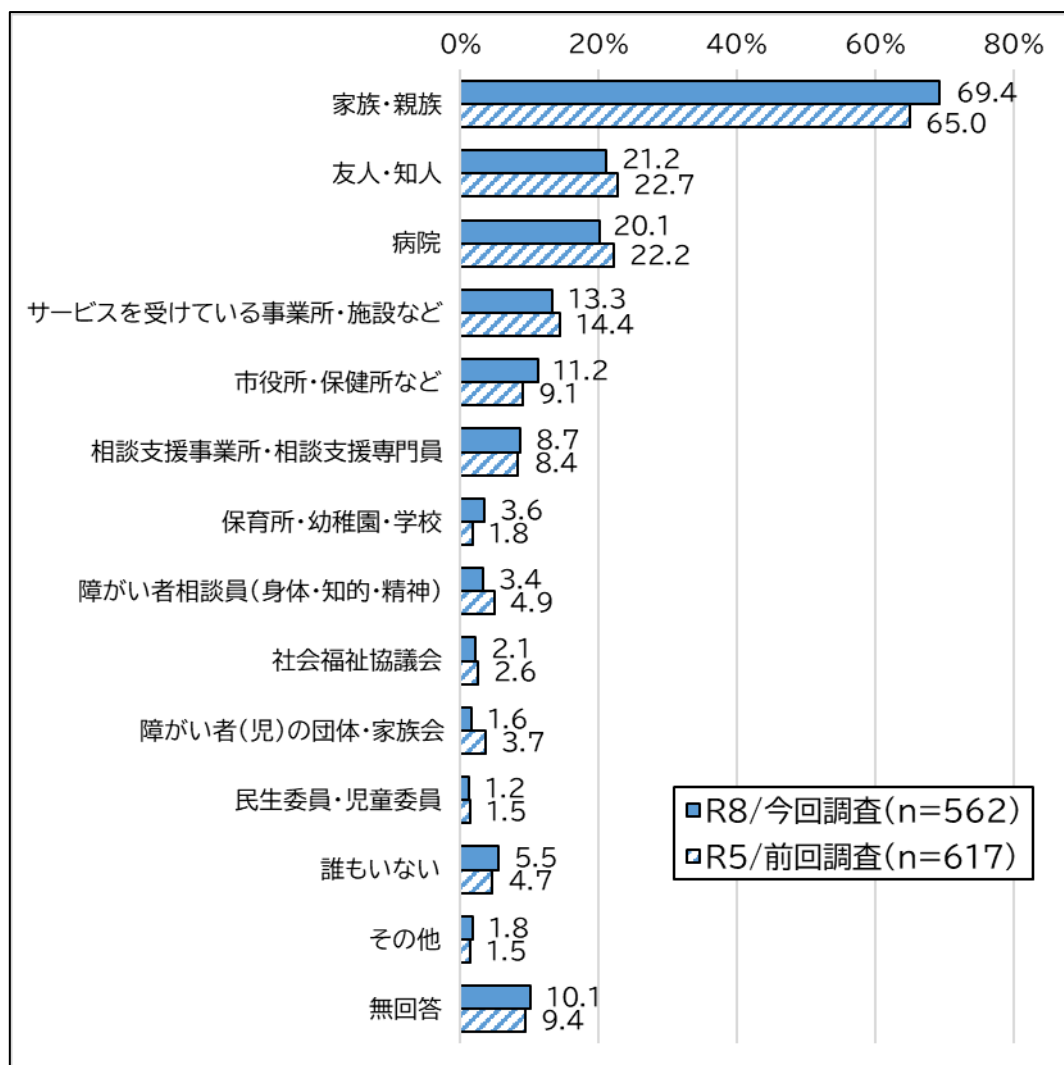
図表 85 困りごとや不安に思っていること(障がい別/複数回答)



問32 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(主なもの3つまで○)

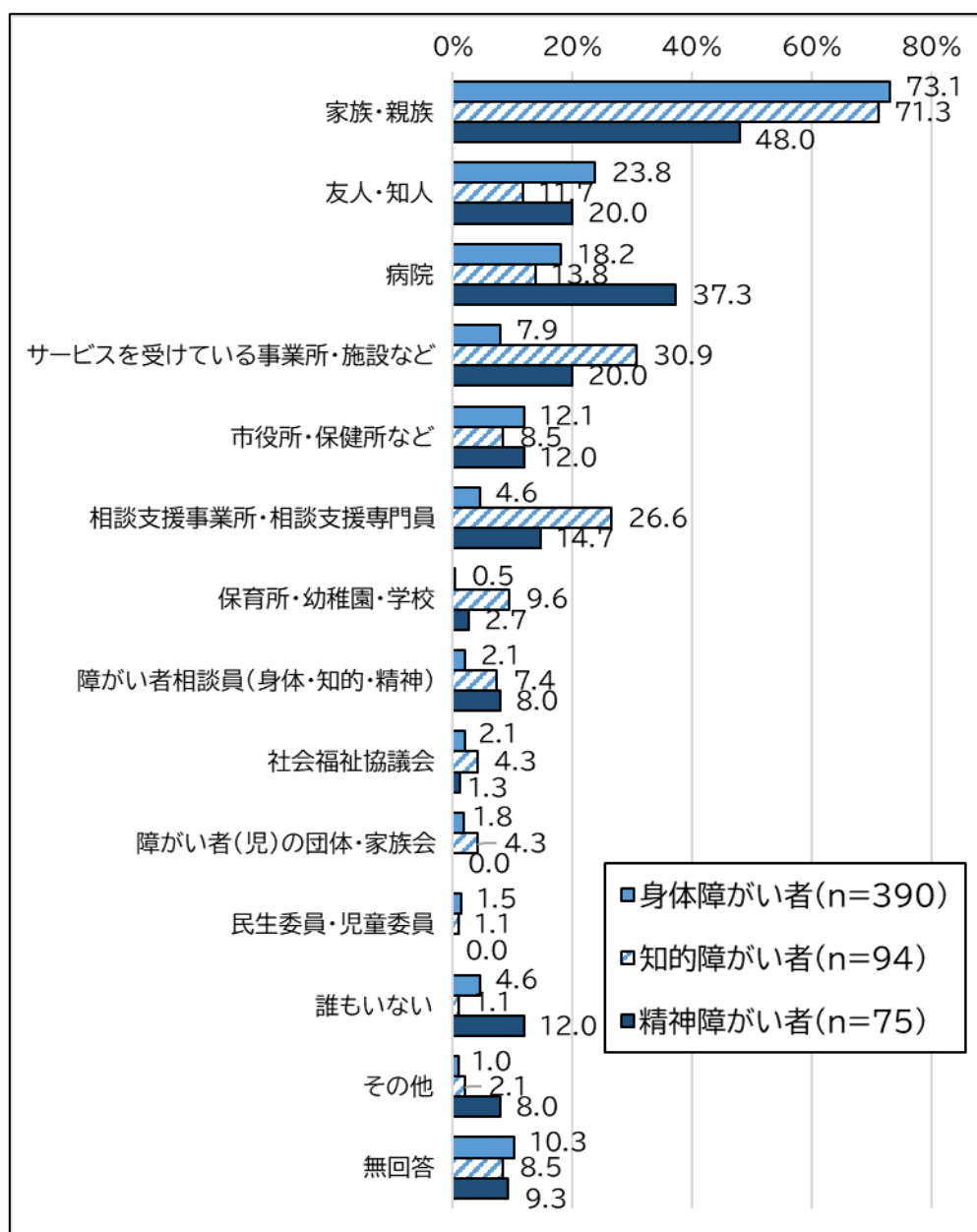
悩みや困ったことを相談する相手についてみると、「家族・親族」の割合が69.4%と最も多く、突出しています。次いで「友人・知人」(21.2%)、「病院」(20.1%)となっています。前回調査と比較すると、「家族・親族」が4.4ポイント増加しています。

図表 86 悩みの相談相手(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「家族・親族」(身体 73.1%、知的 71.3%、精神 48.0%)が最も多くなっています。

図表 87 悩みの相談相手(障がい別/複数回答)

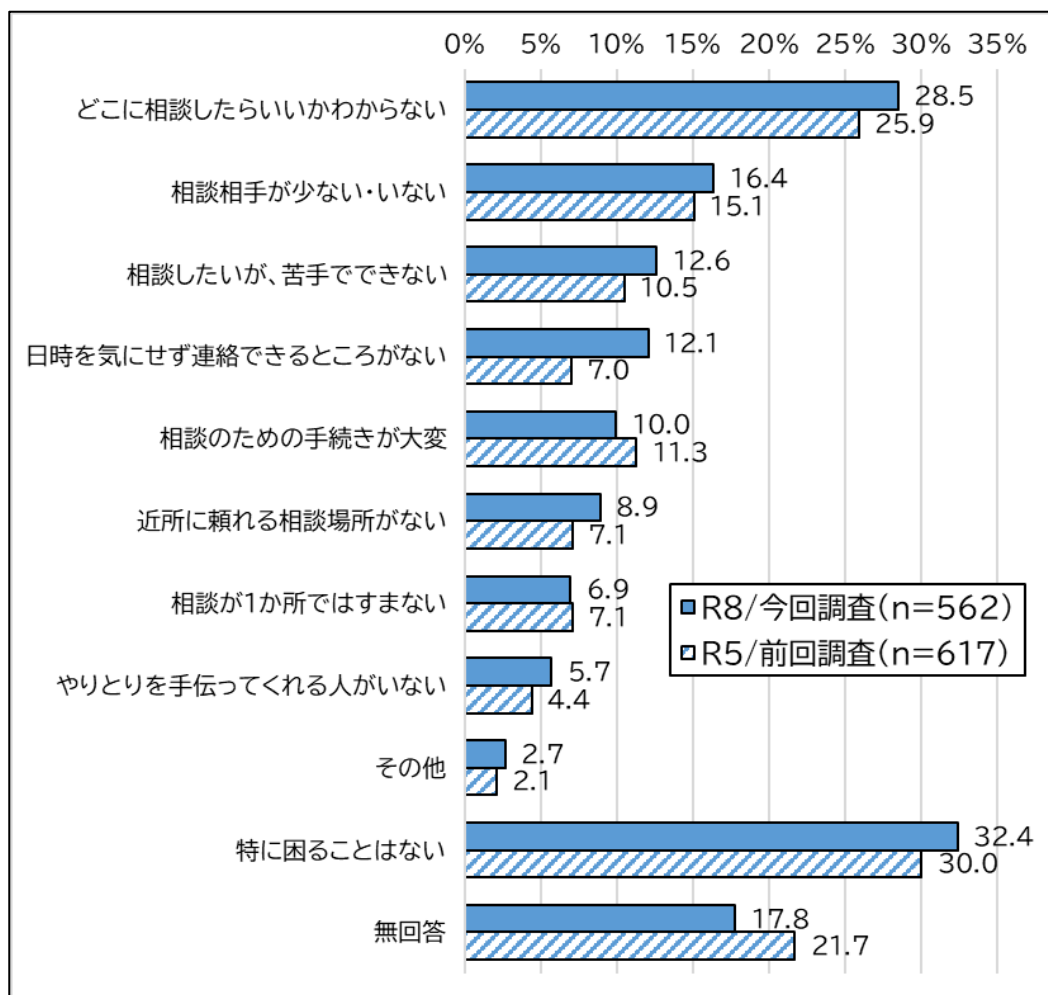


問33 あなたが相談したい時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

相談時に困ることについてみると、「どこに相談したらいいかわからない」の割合が28.5%と高く、次いで「相談相手が少ない・いない」(16.4%)、「相談したいが、苦手でできない」(12.6%)、「日時を気にせず連絡できるところがない」(12.1%)、「相談のための手続きが大変」(10.0%)などとなっています。前回調査と比較すると、「どこに相談したらいいかわからない」が2.6ポイント増加しています。

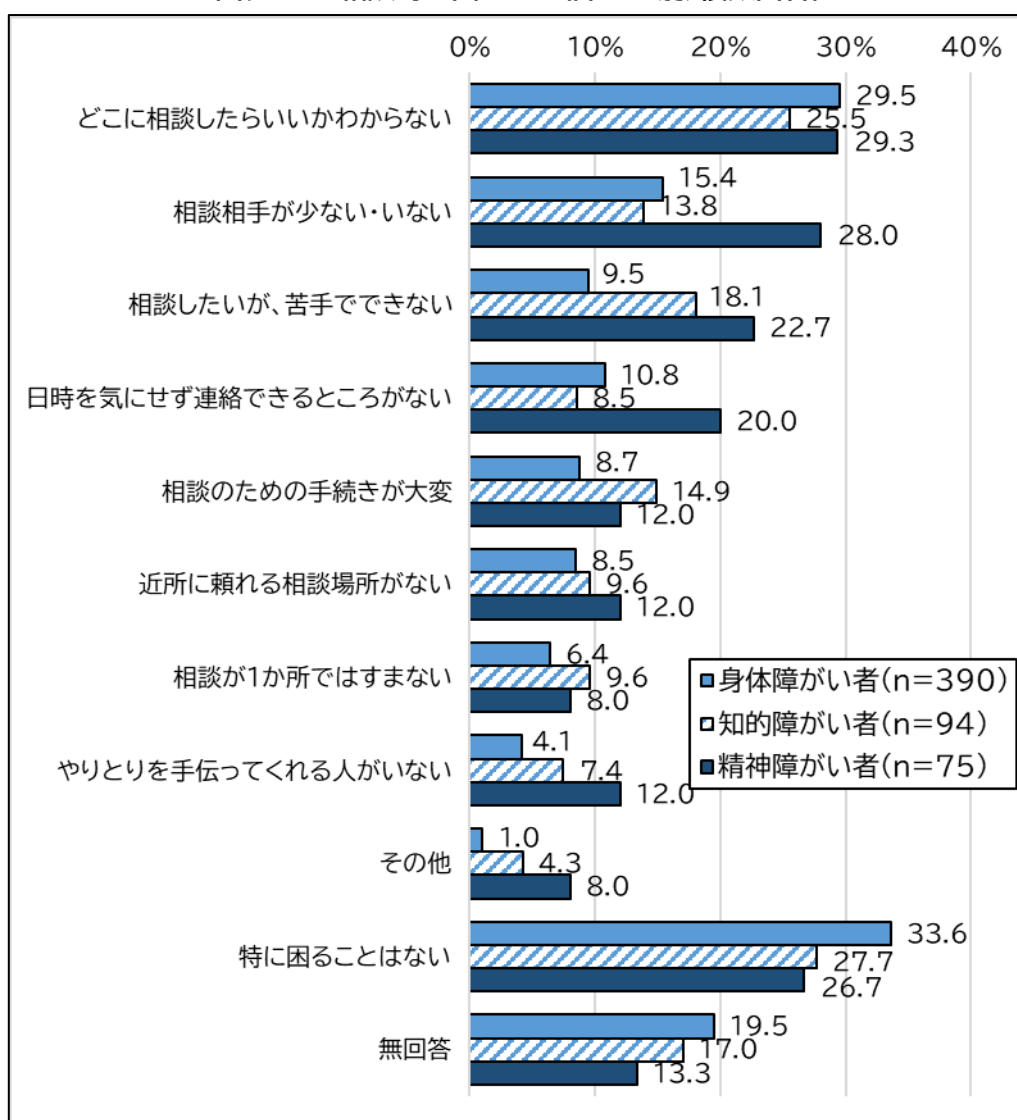
また、「特に困ることはない」は32.4%となっており、全体の第1位となっています。

図表 88 相談時に困ること(全体、前回比較/複数回答)



障がい別で相談時に困ることをみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「どこに相談したらいいかわからない」(身体 29.5%、知的 25.5%、精神 29.3%)が最も多くなっています。

図表 89 相談時に困ること(障がい別/複数回答)

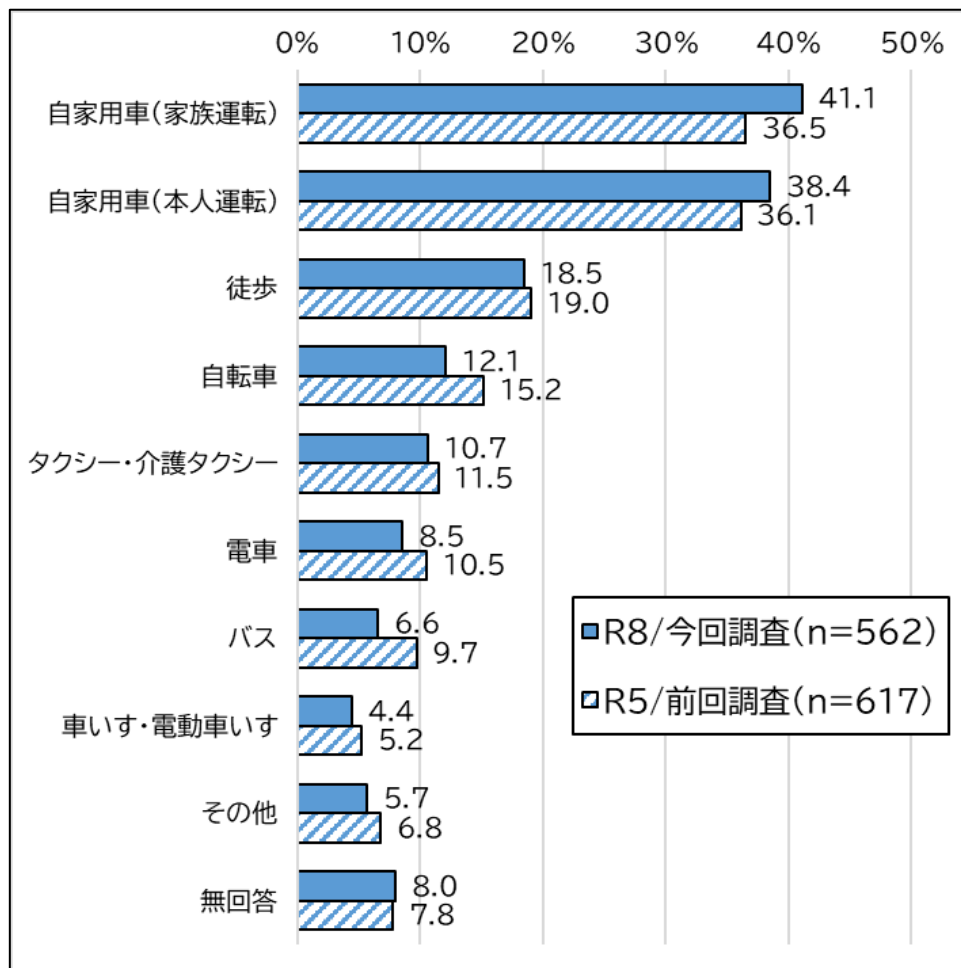


(2)外出について

問34 通勤や通学、施設や病院への通院など、外出する際の交通手段は何ですか。(主なものの3つまで○)

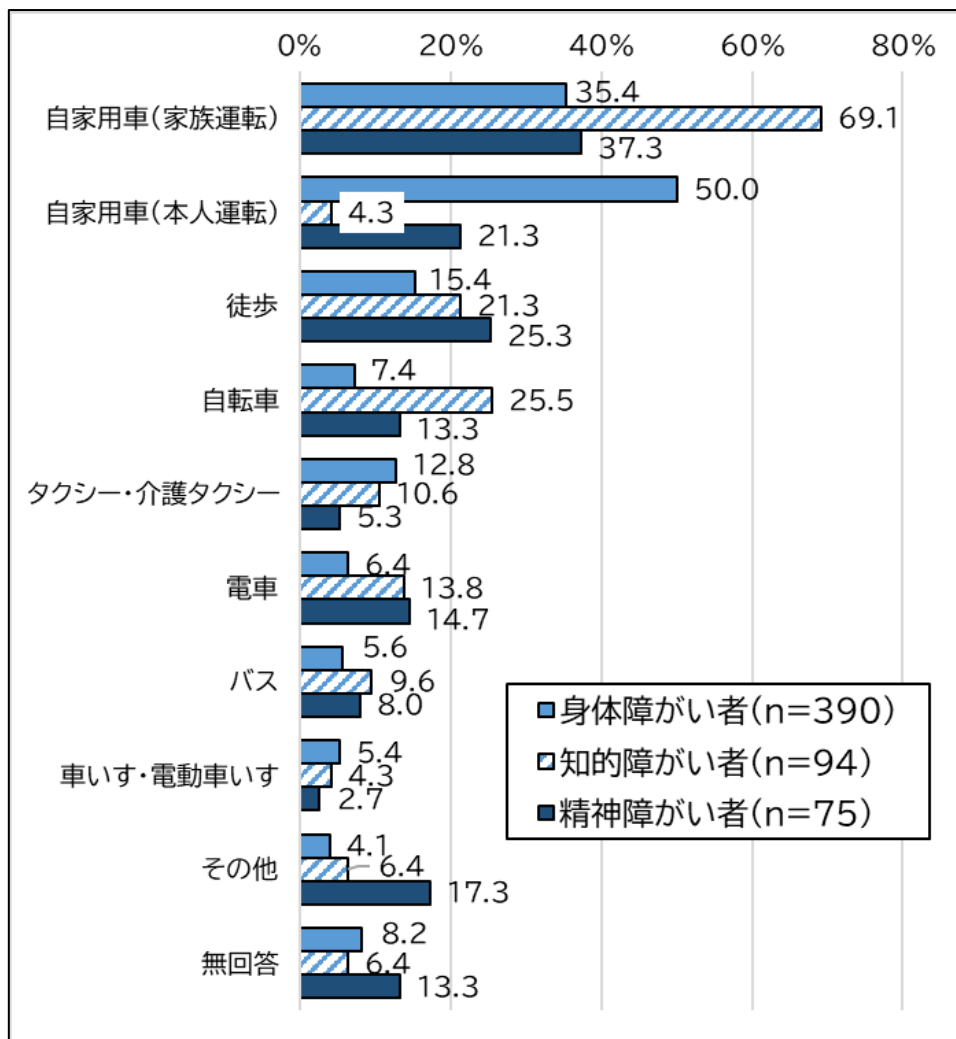
通勤や通学、通院等の外出する際の交通手段についてみると、「自家用車(家族運転)」の割合が41.1%と最も多く、次いで「自家用車(本人運転)」(38.4%)となっており、自家用車で移動が多くなっています。続いて、「徒歩」(18.5%)、「自転車」(12.1%)、「タクシー・介護タクシー」(10.7%)などとなっています。前回調査と比較すると、「自家用車(家族運転)」が4.6ポイント、「自家用車(本人運転)」が2.3ポイント増加しています。

図表 90 外出時の交通手段(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「自家用車(本人運転)」(50.0%)、知的障がい者、精神障がい者では「自家用車(家族運転)」(知的 69.1%、精神 37.3%)が最も多くなっています。

図表 91 外出時の交通手段(障がい別/複数回答)

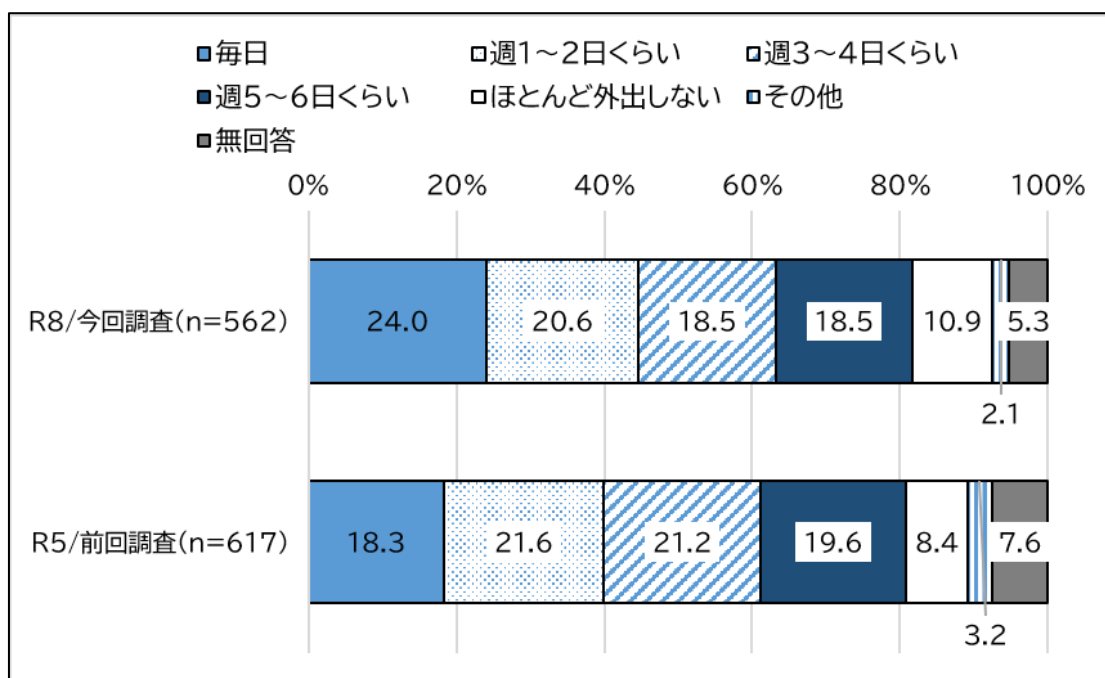


問35 現在どのくらいの頻度で外出していますか。(1つに○)

外出の頻度をみると、「毎日」の割合が24.0%と最も多く、次いで「週1～2日くらい」(20.6%)、「週3～4日くらい」・「週5～6日くらい」(18.5%)となっています。前回調査と比較すると、「毎日」が5.7ポイント増加しています。

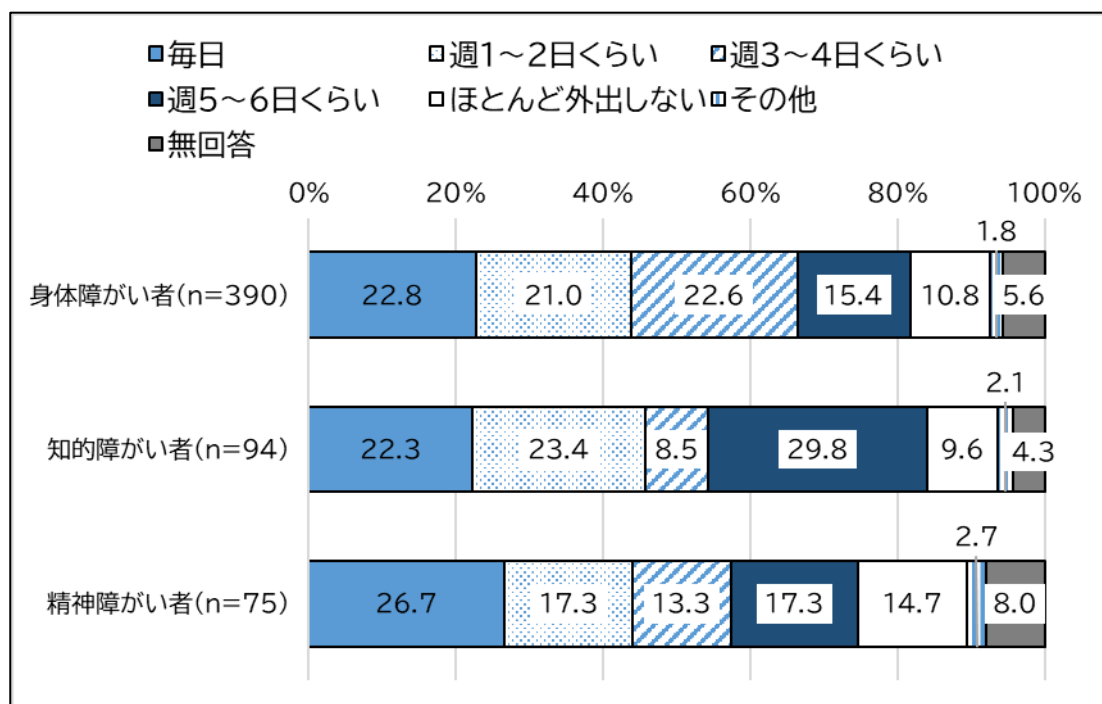
一方、「ほとんど外出しない」は10.9%と約1割を占めています。

図表 92 外出の頻度について(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「毎日」(身体 22.8%、精神 26.7%)、知的障がい者では「週 5～6 日くらい」(29.8%)が最も多くなっています。

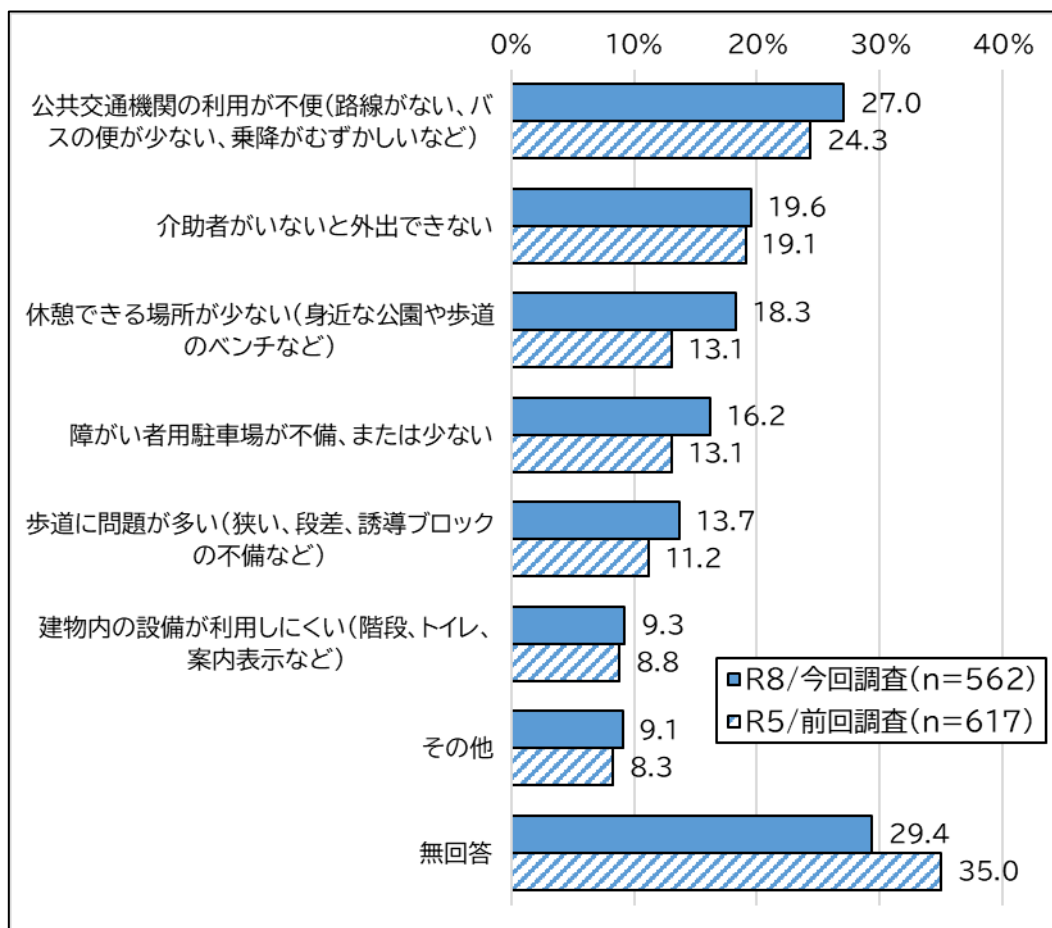
図表 93 外出の頻度について(障がい別、前回比較)



問36 外出のとき、不便に感じたり困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

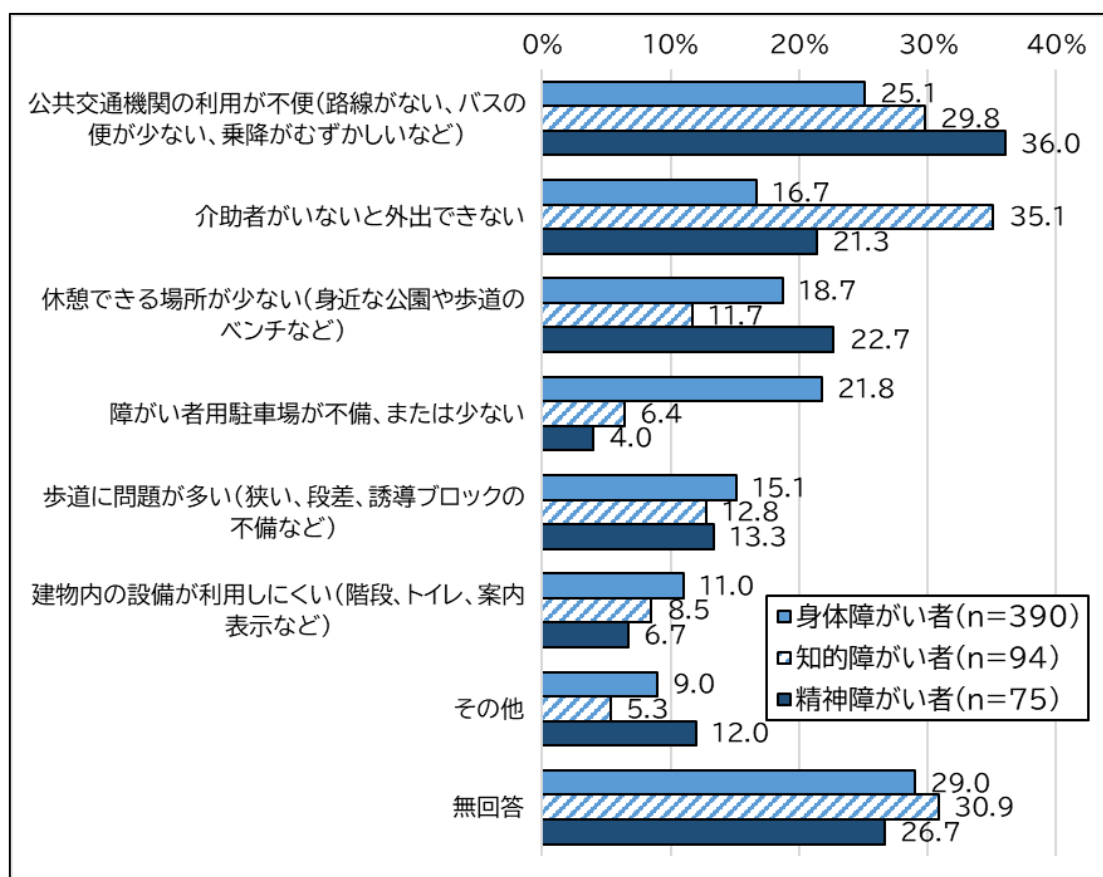
外出時に不便に感じたり、困ることについてみると、「公共交通機関の利用が不便(路線がない、バスの便数が少ない、乗降がむずかしいなど)」の割合が27.0%と最も多く、次いで「介助者がいないと外出できない」(19.6%)、「休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)」(18.3%)などとなっています。前回調査と比較すると、「公共交通機関の利用が不便(路線がない、バスの便が少ない、乗降がむずかしいなど)」が2.7ポイント増加しています。

図表 94 外出時に不便に感じる事(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「公共交通機関の利用が不便(路線がない、バスの便が少ない、乗降がむずかしいなど)」(身体 25.1%、精神 36.0%)、知的障がい者では「介助者がいないと外出できない」(35.1%)が最も多くなっています。

図表 95 外出時に不便に感じること(障がい別/複数回答)



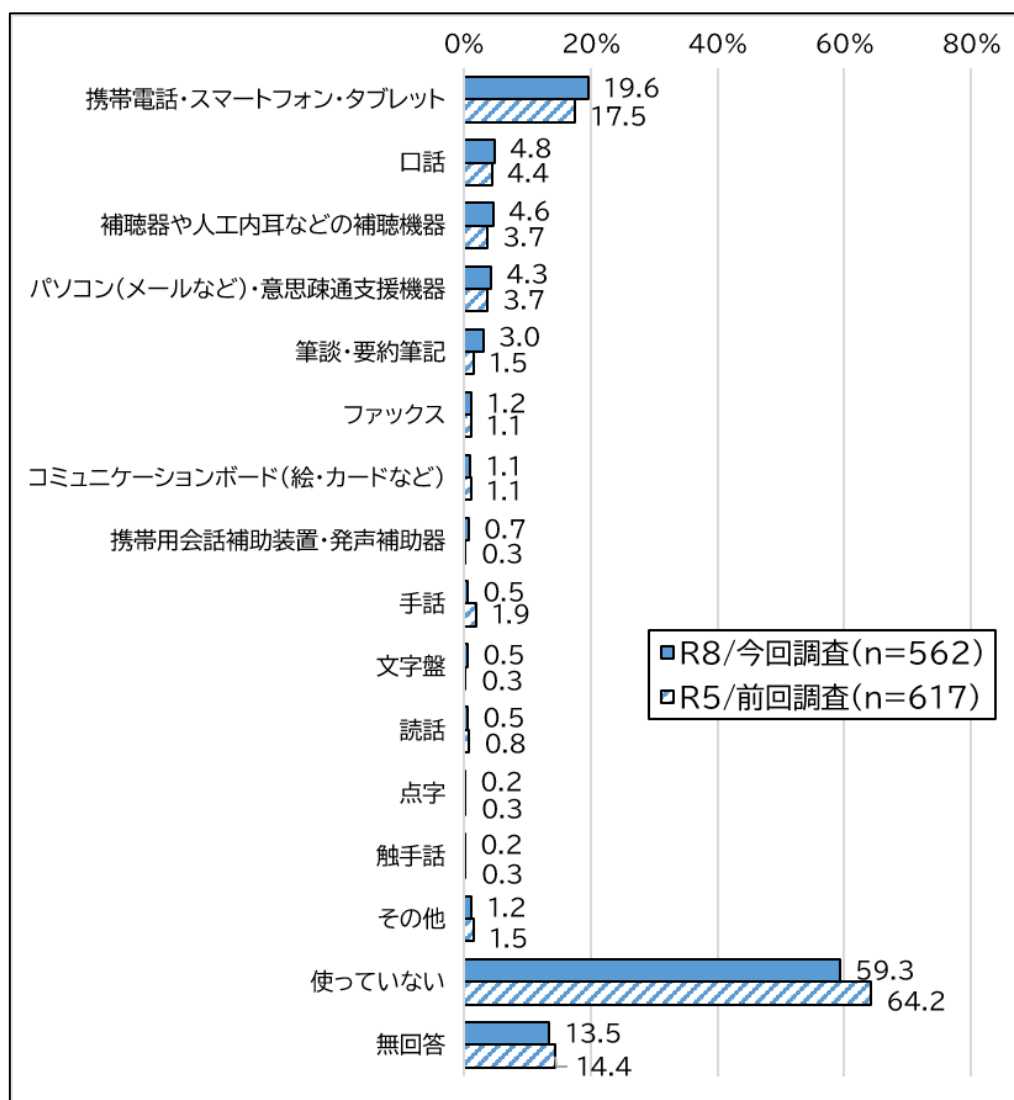
(3)意思の伝達について

問37 あなたは、意思の伝達を図る場合、特別な技術や用具を使っていますか。(あてはまるものすべてに○)

意思の伝達において使用している技術や用具についてみると、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」の割合が19.6%と最も多く、次いで「口話」(4.8%)、「補聴器や人工内耳などの補聴機器」(4.6%)などとなっています。前回調査と比較すると、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」が2.1ポイント増加しています。

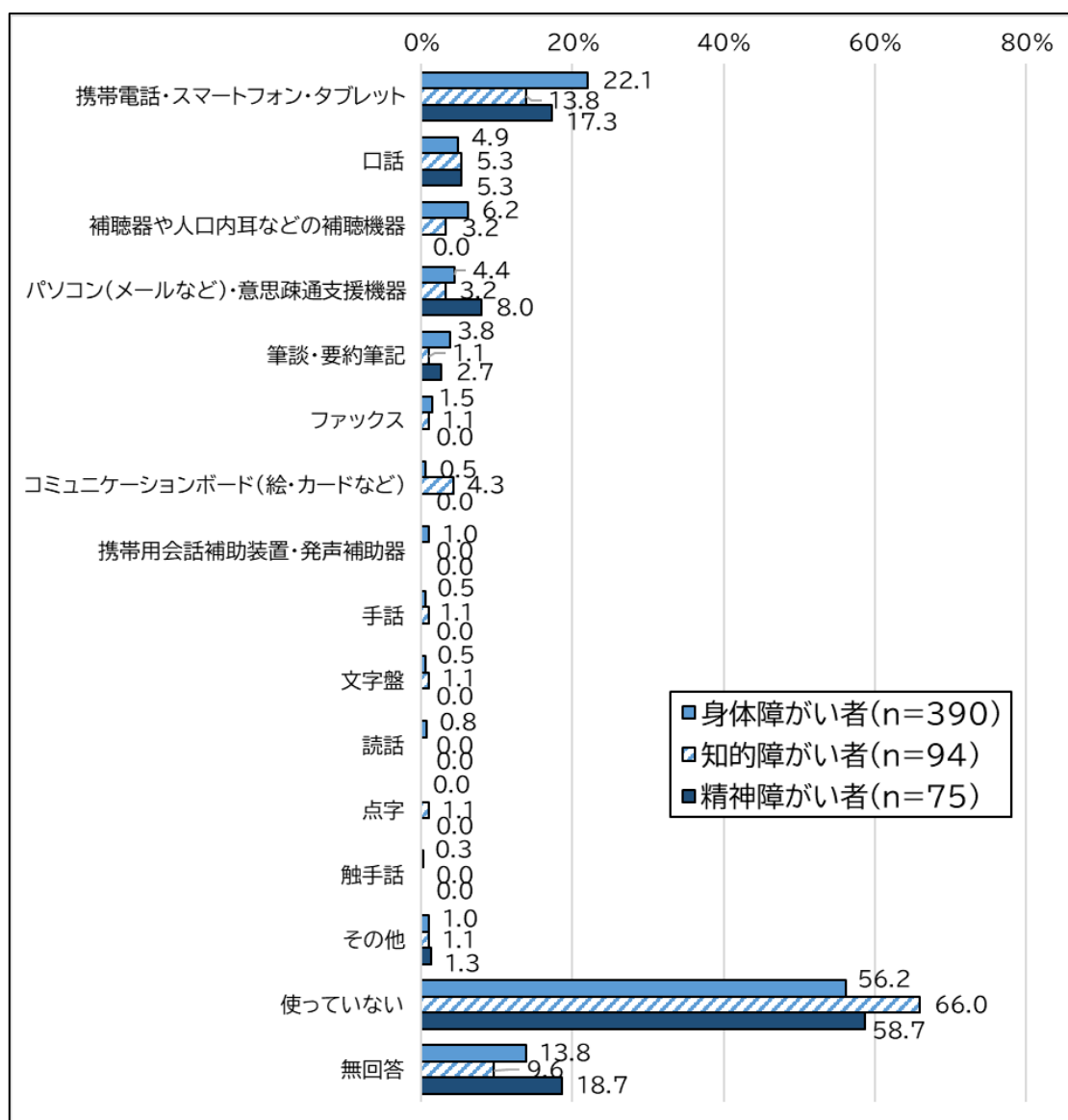
一方、「使っていない」は59.3%となっており、全体の5割以上を占めています。

図表 96 意思の伝達において使用している技術や用具(全体、前回比較/複数回答)



障がい別で使用している技術や用具をみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「携帯電話・スマートフォン・タブレット」(身体 22.1%、知的 13.8%、精神 17.3%)が最も多くなっています。

図表 97 意思の伝達において使用している技術や用具(障がい別/複数回答)



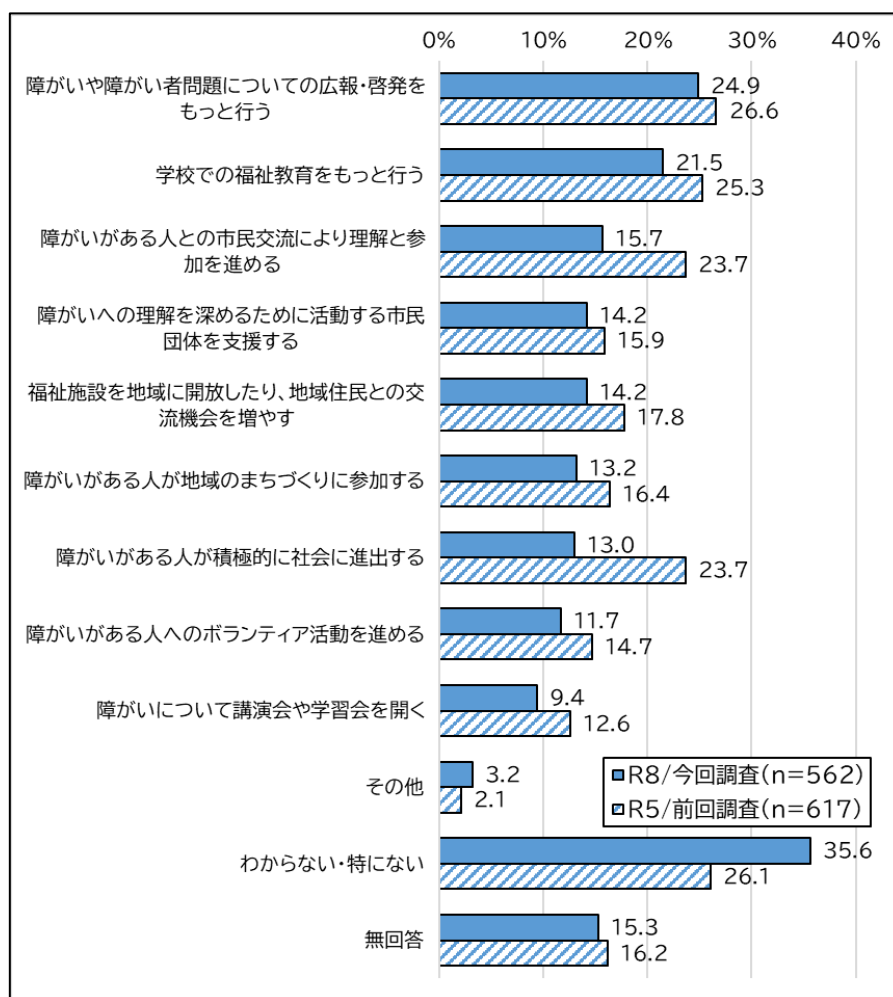
(4)市民の理解について

問38 市民が障がいがある人への理解を深めるためには、何が必要だと考えますか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいがある人への理解を深めるために必要なことについてみると、「障がいや障がい者問題についての広報・啓発をもっと行う」の割合が24.9%と最も多く、次いで「学校での福祉教育をもっと行う」(21.5%)、「障がいがある人との市民交流により理解と参加を進める」(15.7%)、「障がいへの理解を深めるために活動する市民団体を支援する」・「福祉施設を地域に開放したり、地域住民との交流機会を増やす」(14.2%)などとなっています。前回調査と比較すると、理解を深めるために必要だと思うことが減少傾向となっています。

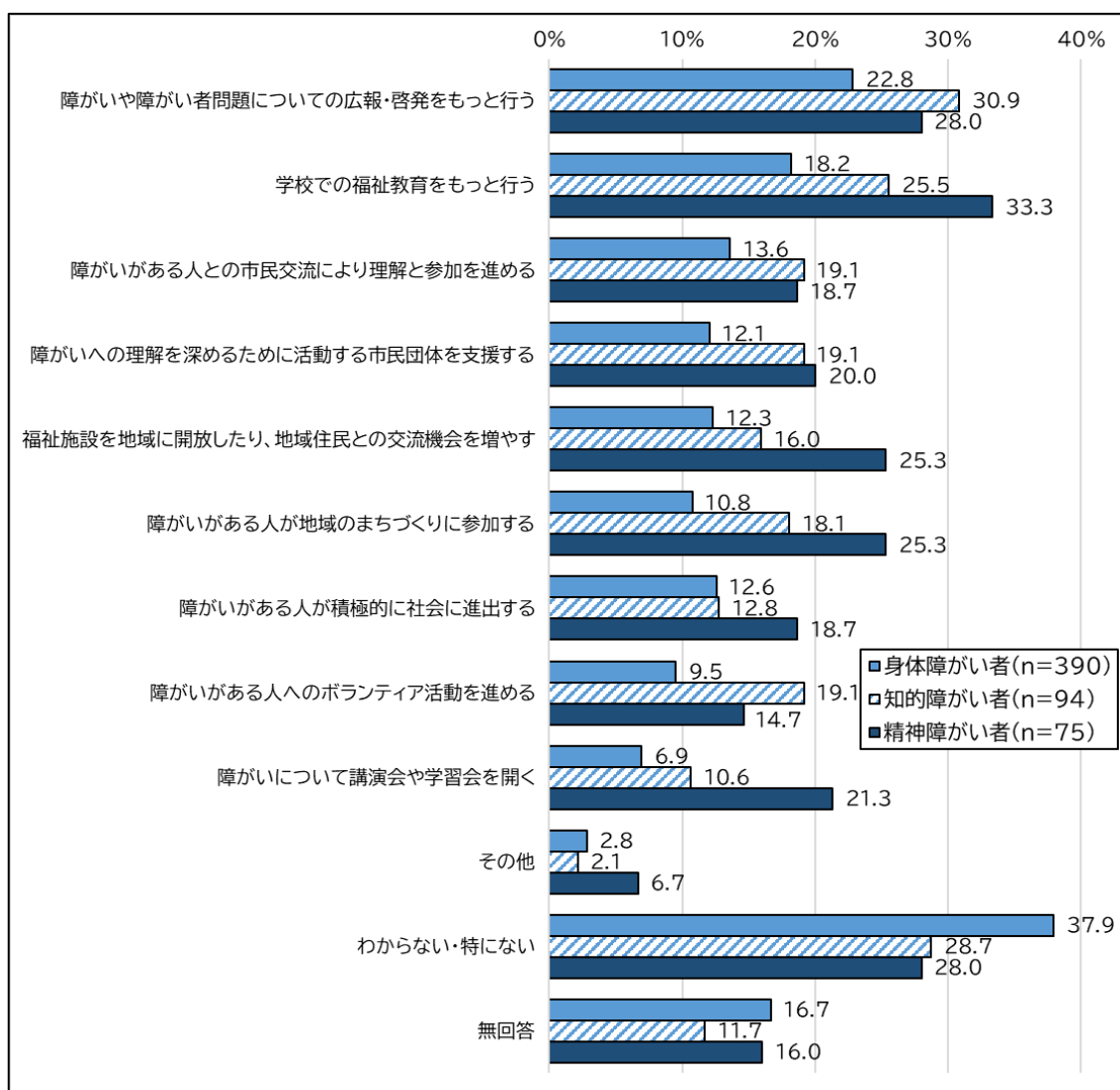
一方、「わからない・特にない」は35.6%となっており、全体では1位となっています。

図表 98 障がいがある人への理解を深めるために必要だと思うこと(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「障がいや障がい者問題についての広報・啓発をもっと行う」(身体 22.8%、知的 30.9%)、精神障がい者では「学校での福祉教育をもっと行う」(33.3%)が最も多くなっています。

図表 99 障がいがある人への理解を深めるために必要だと思うこと(障がい別/複数回答)

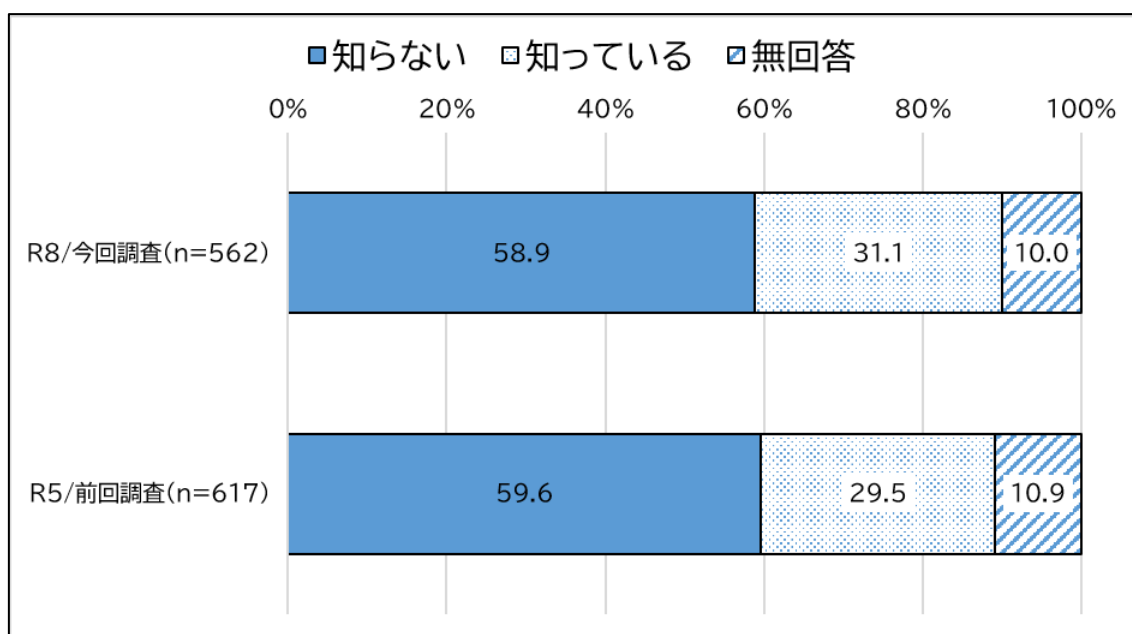


(5)相談窓口について

問39 あなたは、差別や偏見などを受けたときに、相談できる窓口(市役所、社会福祉協議会、相談支援事業所など)があることを知っていますか。(1つに○)

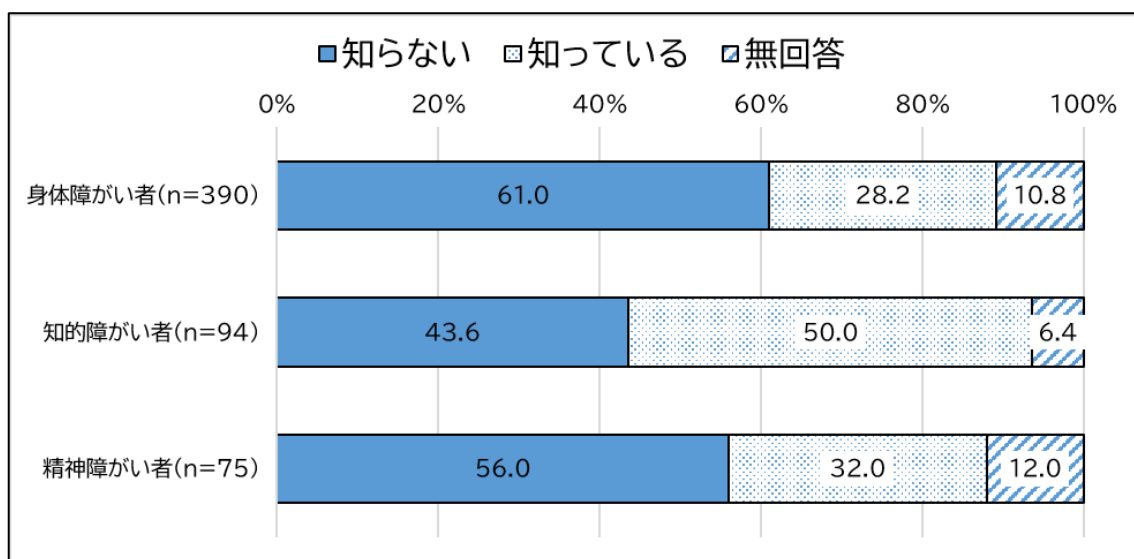
差別や偏見などを受けた際に相談できる窓口の認知状況についてみると、「知っている」は31.1%、「知らない」が58.9%となっています。前回調査と比較すると、「知っている」が1.6ポイント増加しています。

図表 100 差別や偏見などを受けた際に相談できる窓口の認知状況(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「知らない」(身体 61.0%、精神 56.0%)、知的障がい者では「知っている」(50.0%)が最も多くなっています。知的障がい者については相談できる窓口の認知状況が 5 割となっています。

図表 101 差別や偏見などを受けた際に相談できる窓口の認知状況(障がい別)



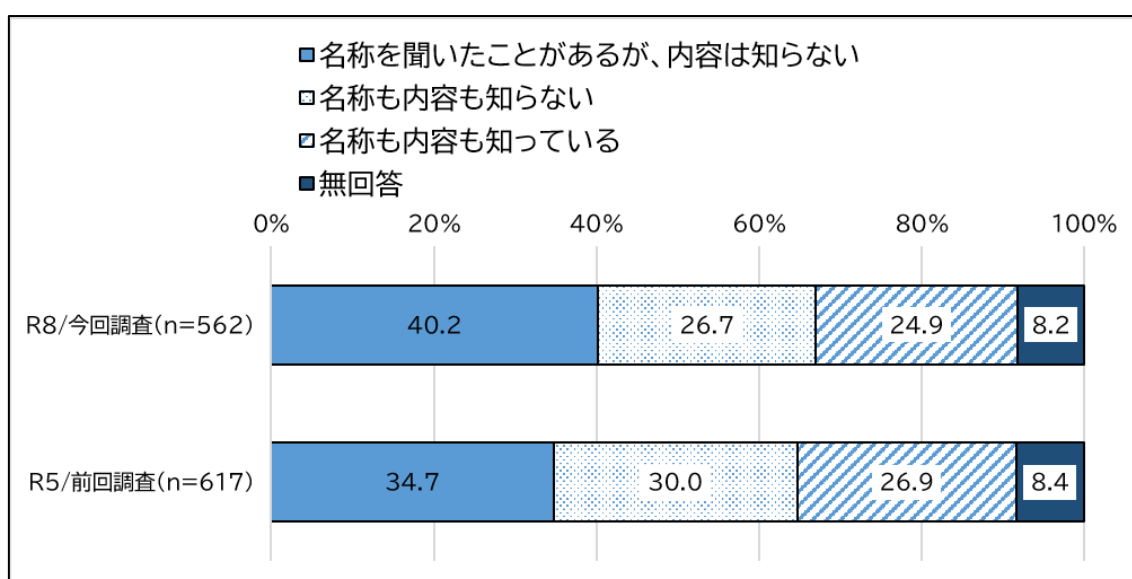
(6)成年後見制度について

問40 あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。(1つに○)

成年後見制度の認知状況についてみると、「名称も内容も知っている」は24.9%、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が40.2%、「名称も内容も知らない」は26.7%となっています。前回調査と比較すると、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が5.5ポイント増加しています。

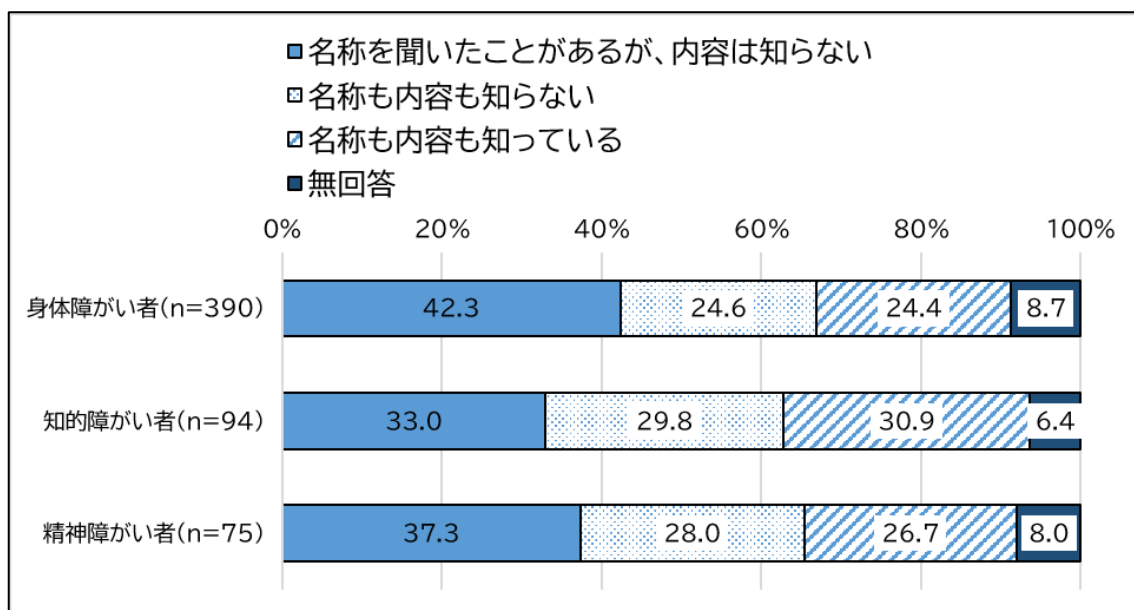
また、「名称も内容も知っている」と「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合を合わせると、『名前を知っている、または聞いたことがある人』の割合は65.1%となっています。

図表 102 成年後見制度の認知状況(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」(身体 42.3%、知的 33.0%、精神 37.3%)が最も多くなっています。

図表 103 成年後見制度の認知状況(障がい別)

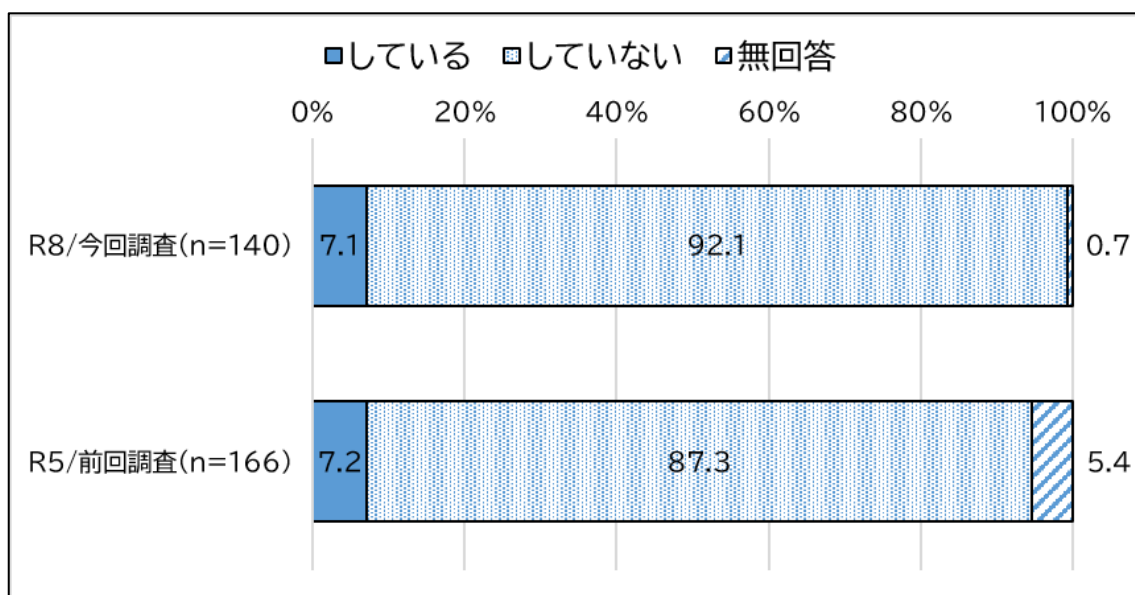


※問40で「名称も内容も知っている」と回答した方

問 40-1 あなたは「成年後見制度」を利用していますか。(1つに○)

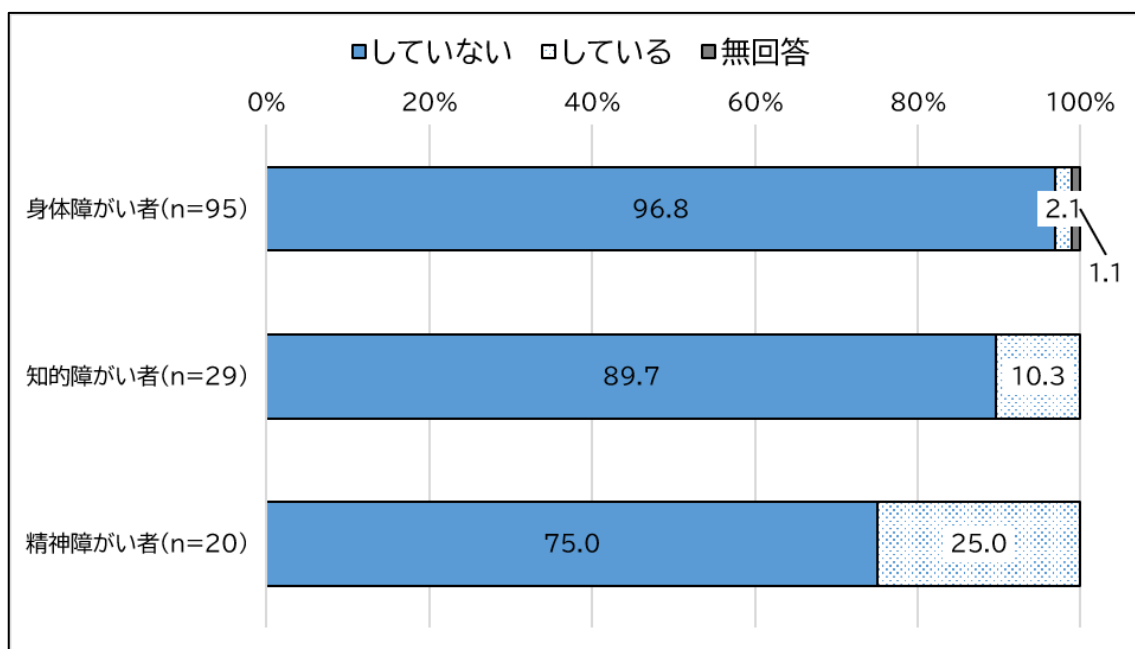
成年後見制度の名称も内容も知っている人の制度の利用状況についてみると、「している」は7.1%と低くなっています。一方、「していない」が92.1%となっており、制度は知っているが、利用していない人が大半を占めています。前回調査と比較すると、「していない」が4.8ポイント増加しています。

図表 104 成年後見制度の利用状況(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「していない」(身体 96.8%、知的 89.7%、精神 75.0%)が最も多くなっています。

図表 105 成年後見制度の利用状況(障がい別)

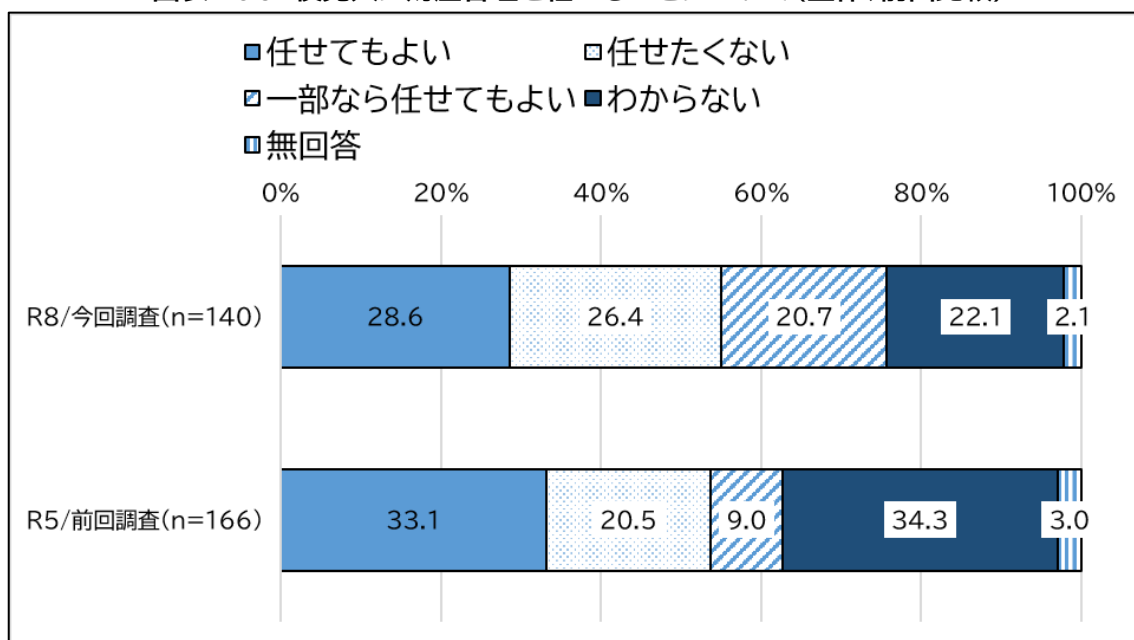


※問40で「名称も内容も知っている」と回答した方

問 40-2 あなたは、自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見制度」を利用し、後見人に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに○)

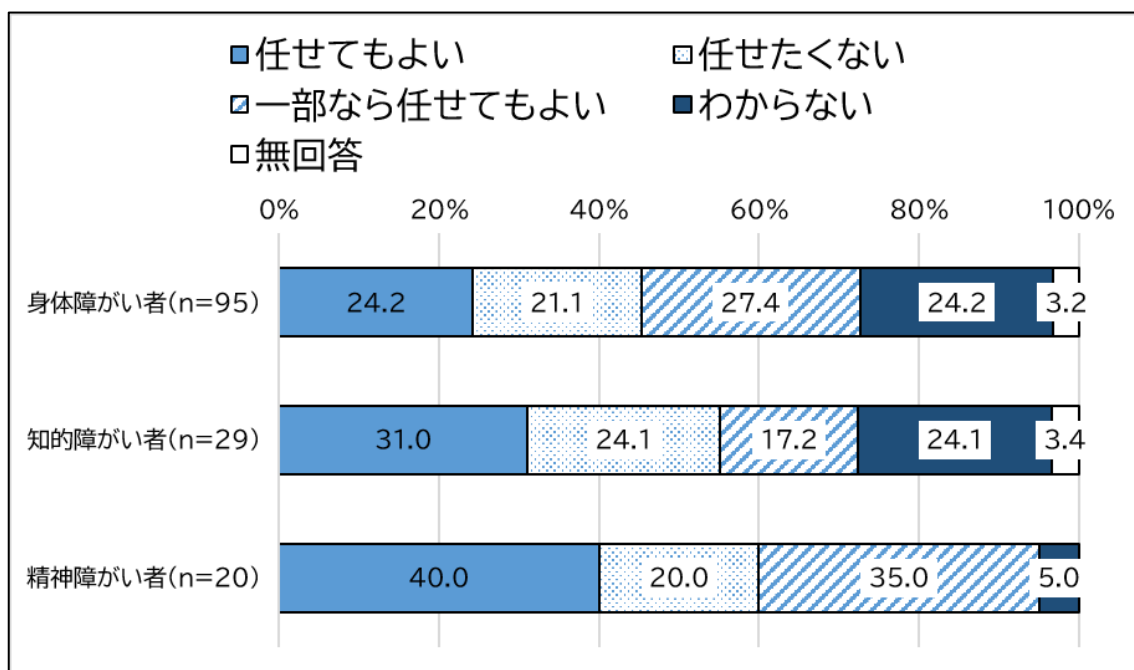
成年後見制度を利用し、後見人に財産管理などを任せることをどう思うかについてみると、「任せてもよい」の割合が28.6%と最も高いものの、「任せたくない」が26.4%、「わからない」が22.1%と僅差となっており、意見が分かれる結果となっています。前回調査と比較すると、「一部なら任せてもよい」が11.7ポイント増加しています。

図表 106 後見人に財産管理を任せることについて(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者では「一部なら任せてもよい」(27.4%)、知的障がい者、精神障がい者では「任せてもよい」(知的 31.0%、精神 40.0%)、が最も多くなっています。

図表 107 後見人に財産管理を任せることについて(障がい別)



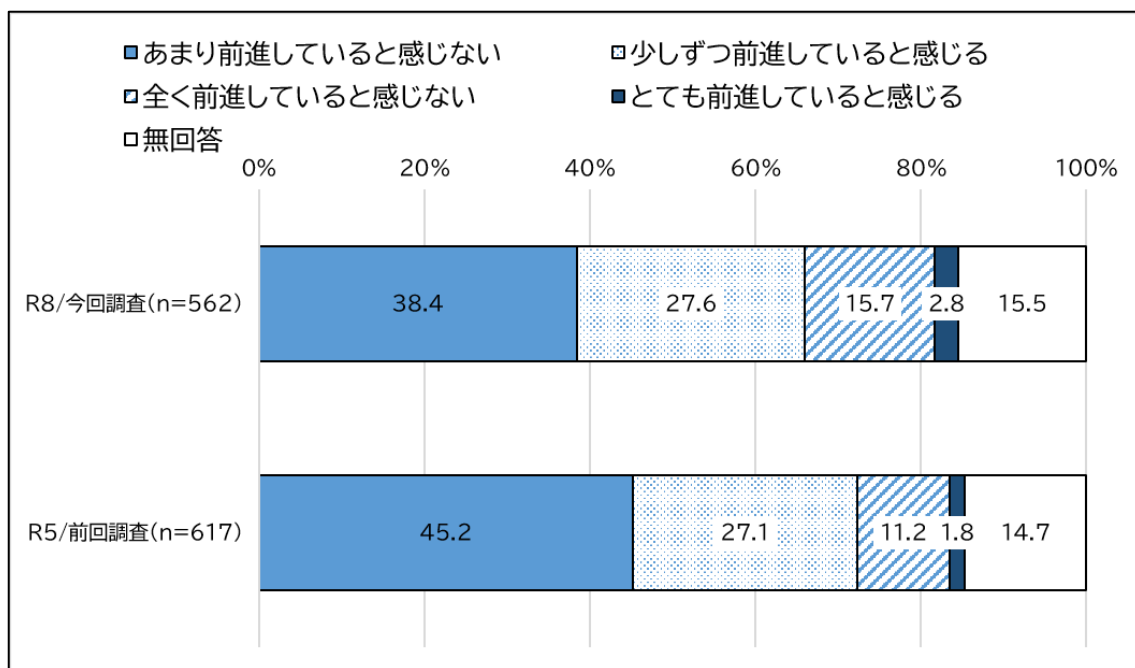
(7)地域共生社会について

問41 あなたは、世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じますか。(1つに○)

世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じるかについてみると、「あまり前進していると感じない」の割合が38.4%と最も多くなっています。さらに「全く前進していると感じない」(15.7%)を合わせた『前進していると感じない』の割合は、54.1%と5割を超えています。前回調査と比較すると、「あまり前進していると感じない」が6.8ポイント減少しています。

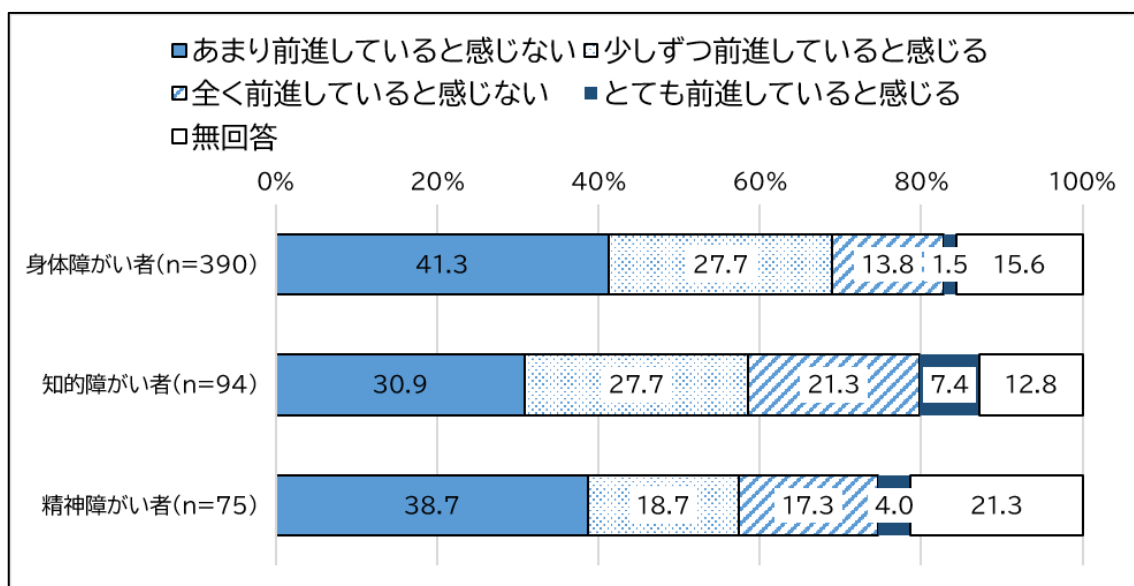
一方、「とても前進していると感じる」(2.8%)、「少しずつ前進していると感じる」(27.6%)を合わせた『前進していると感じる』の割合は、30.4%となっています。

図表 108 地域共生社会について(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「あまり前進していると感じない」(身体 41.3%、知的 30.9%、精神 38.7%)が最も多くなっています。

図表 109 地域共生社会について(障がい別)

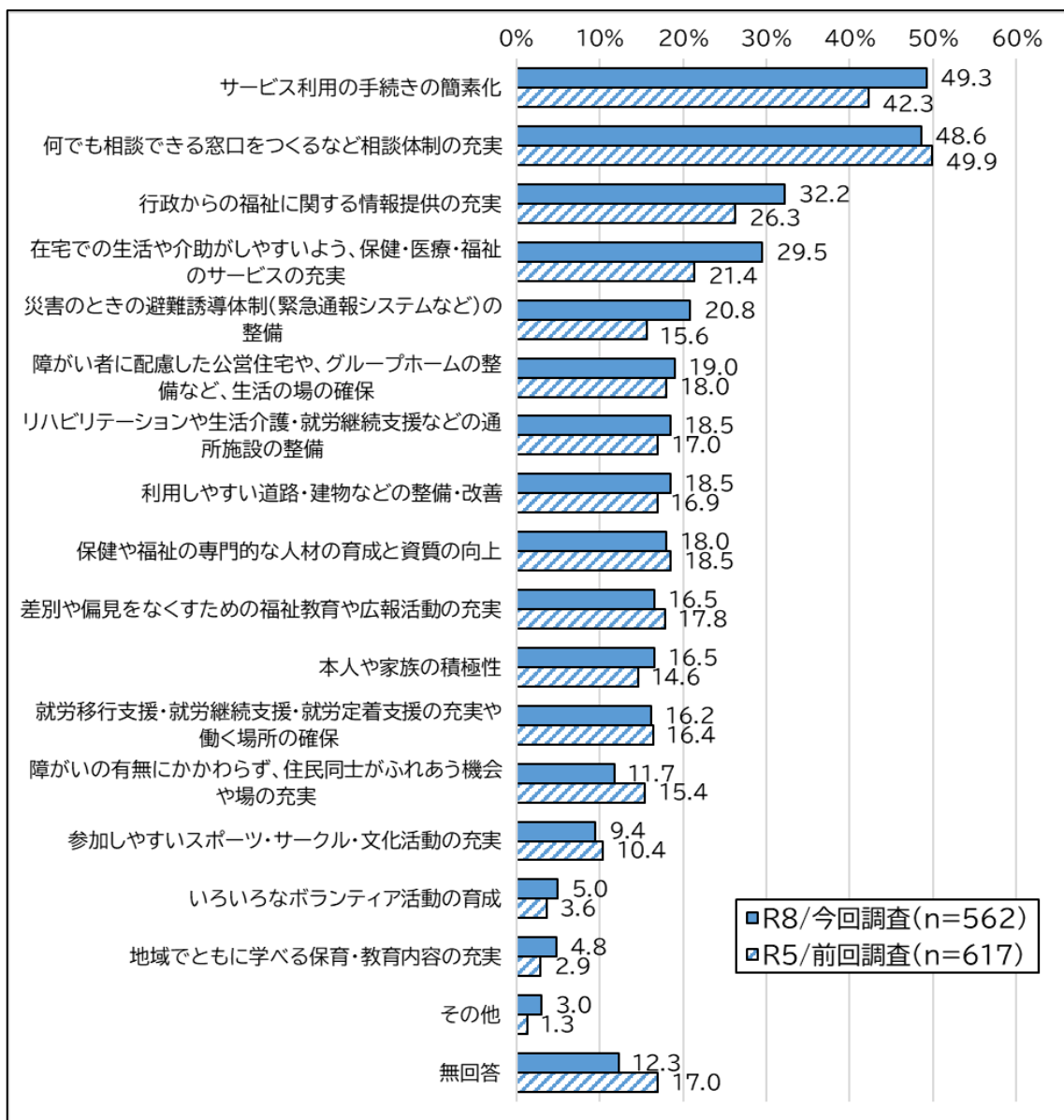


(8)障がい者にとって住みよいまちづくり

問42 障がいのある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(主なもの5つまで○)

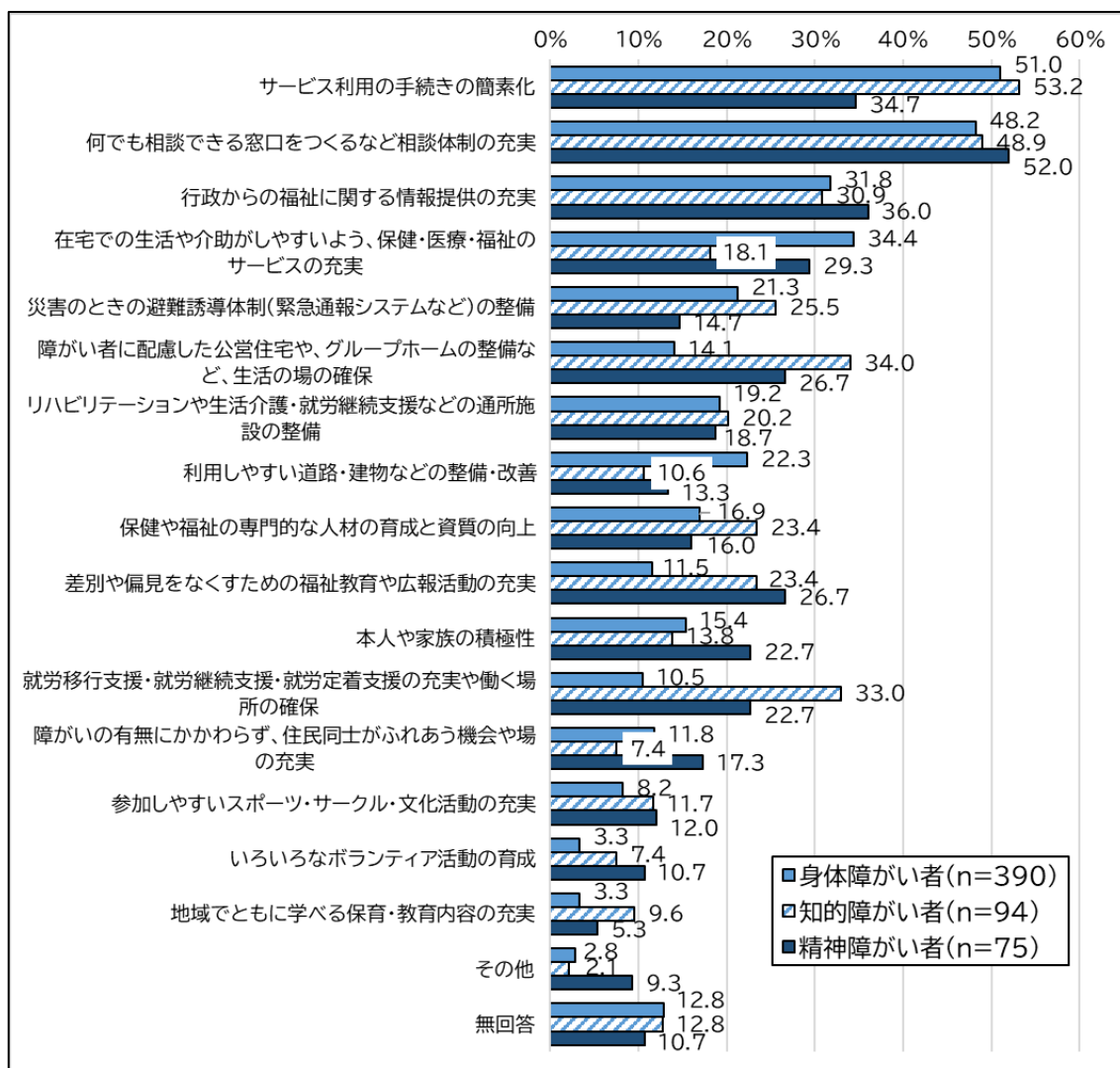
障がい者が住みよいまちづくりに必要なことについては、「サービス利用の手続きの簡素化」(49.3%)の割合が最も多く、次いで「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」(48.6%)となっています。前回調査と比較すると、「サービス利用手続きの簡素化」が7.0ポイント増加しています。

図表 110 障がい者が住みよいまちづくりに必要だと思うこと(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「サービス利用の手続きの簡素化」(身体 51.0%、知的 53.2%)、精神障がい者では「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」(52.0%)が最も多くなっています。

図表 111 障がい者が住みよいまちづくりに必要だと思うこと(障がい別/複数回答)



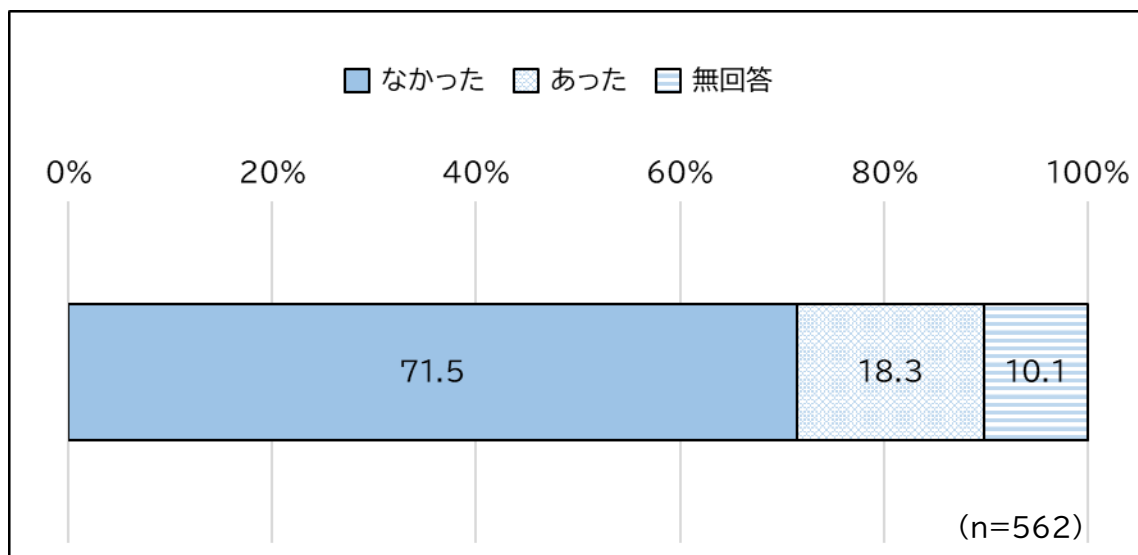
9 新型コロナウイルス感染症について

(1)新型コロナウイルス感染症の際の困りごとについて

問43 新型コロナウイルス感染症の際に、障がいのある方やその家族が困ったことはありましたか？(1 つに○)

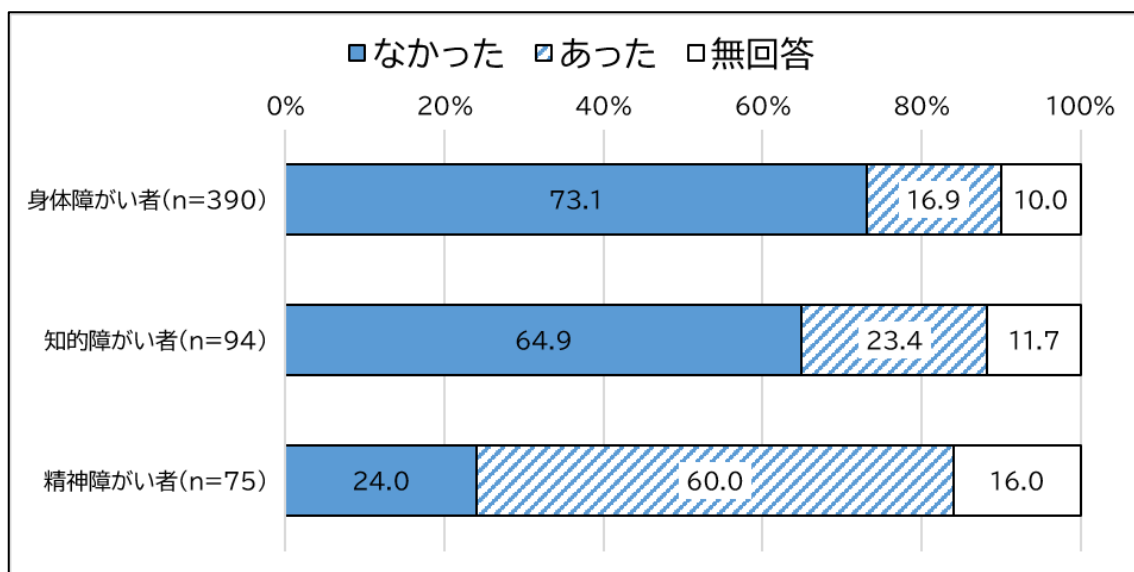
新型コロナウイルス感染症の際の困りごとについてみると、「あった」の割合が18.3%、「なかった」が71.5%となっています。

図表 112 新型コロナウイルス感染症の際の困りごとについて(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「なかった」(身体 73.1%、知的 64.9%)、精神障がい者では「あった」(60.0%)が最も多くなっています。精神障がい者については新型コロナウイルス感染症の際に困りごとがあった方が 6 割となっています。

図表 113 新型コロナウイルス感染症の際の困りごとについて(障がい別)

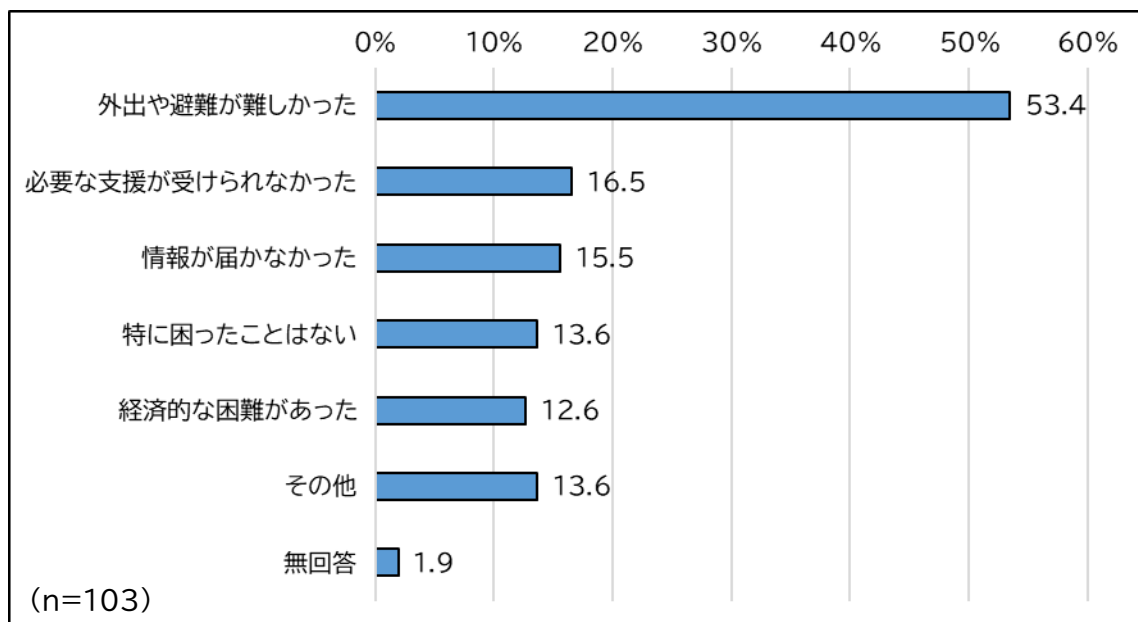


※問43 で「あった」と回答した方

問44 どのような場面で困ったと感じましたか？(あてはまるものすべてに○)

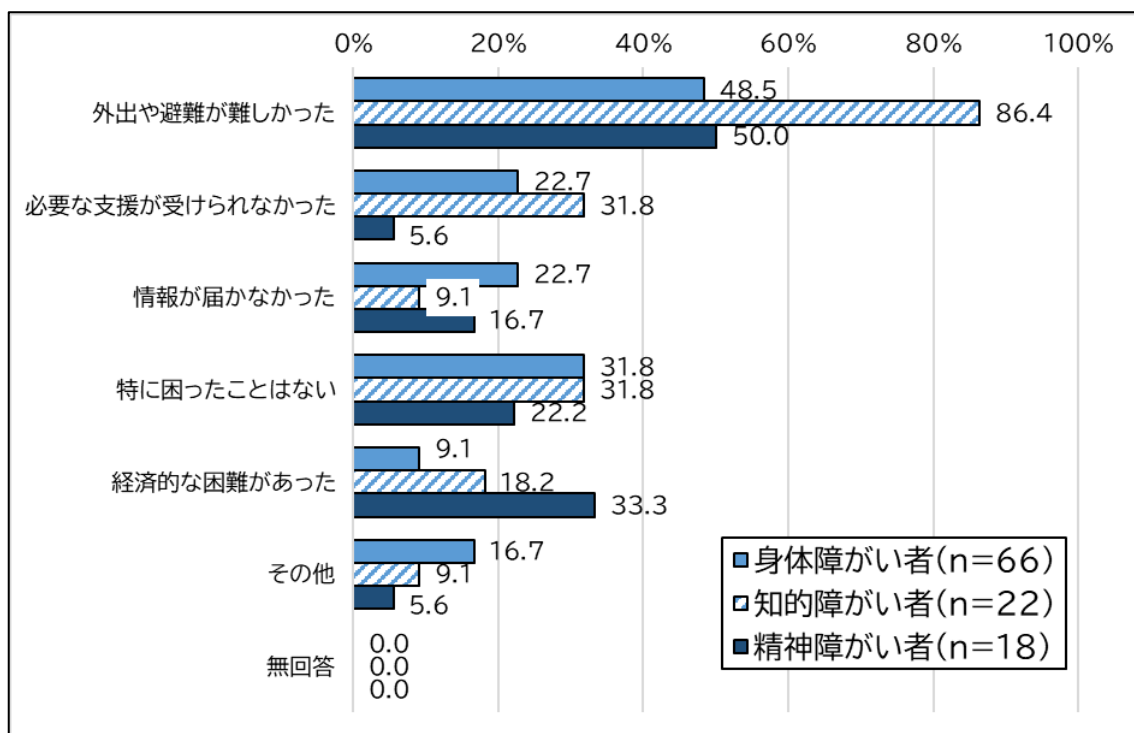
新型コロナウイルス感染症の際に困りごとがあった人についてその内容をみると、「外出や避難が難しかった」(53.4%)の割合が最も多く、突出しています。次いで「必要な支援が受けられなかった」(16.5%)、「情報が届かなかった」(15.5%)、「特に困ったことはない」(13.6%)、「経済的な困難があった」(12.6%)となっています。

図表 114 新型コロナウイルス感染症の際の困りごとの内容について(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「外出や避難が難しかった」(身体 48.5%、知的 86.4%、精神 50.0%)が最も多くなっています。

図表 115 新型コロナウイルス感染症の際の困りごとの内容について(障がい別/複数回答)



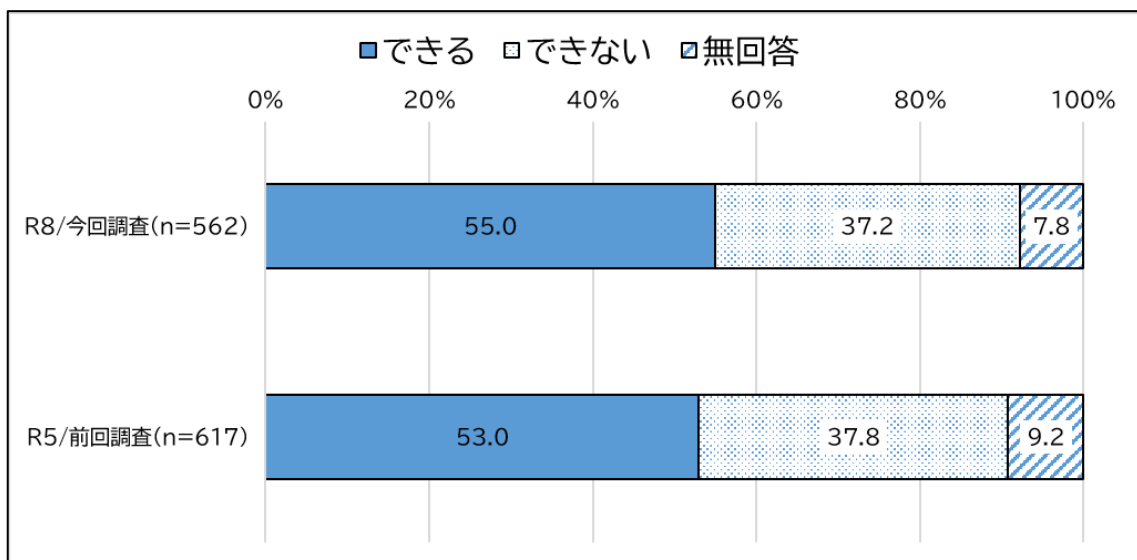
10 防災及び避難について

(1)災害時の行動について

問45 火事や地震などの災害発生時に、あなたは自力で避難できますか。(1 つに○)

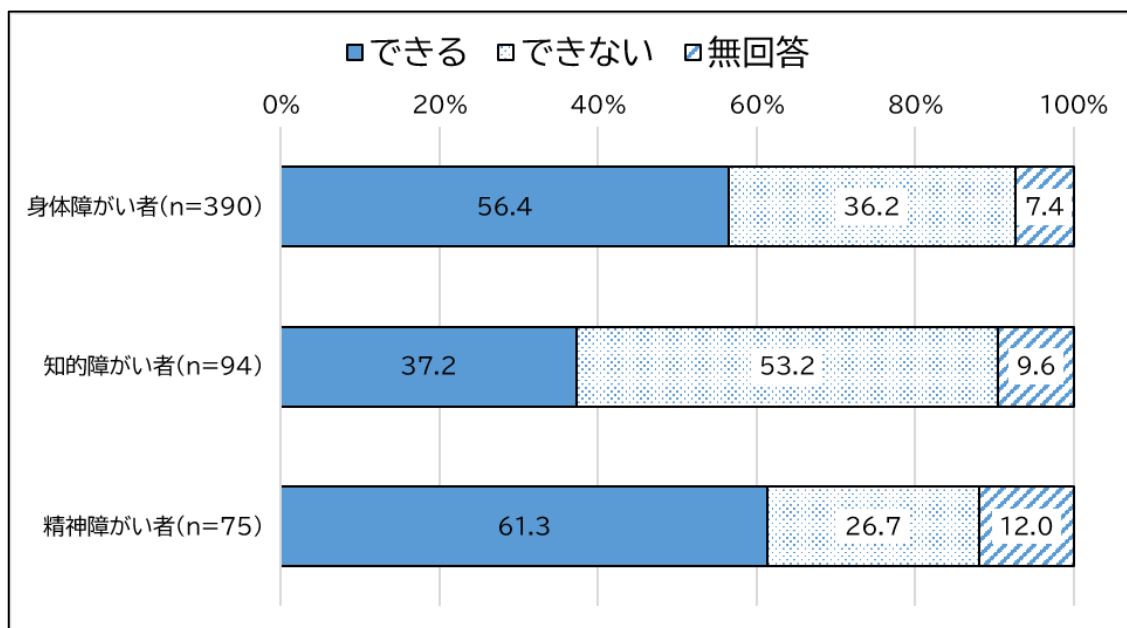
火事や地震などの災害発生時に、自力で避難できるかについてみると、「できる」が55.0%と過半数を占め、「できない」は37.2%となっています。前回調査と比較すると、「できる」が2.0ポイント増加しています。

図表 116 自力で避難ができるかについて(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「できる」(身体 56.4%、精神 61.3%)、知的障がい者では「できない」(53.2%)が最も多くなっています。知的障がい者の5割以上が災害発生時に自力で避難ができないと回答しています。

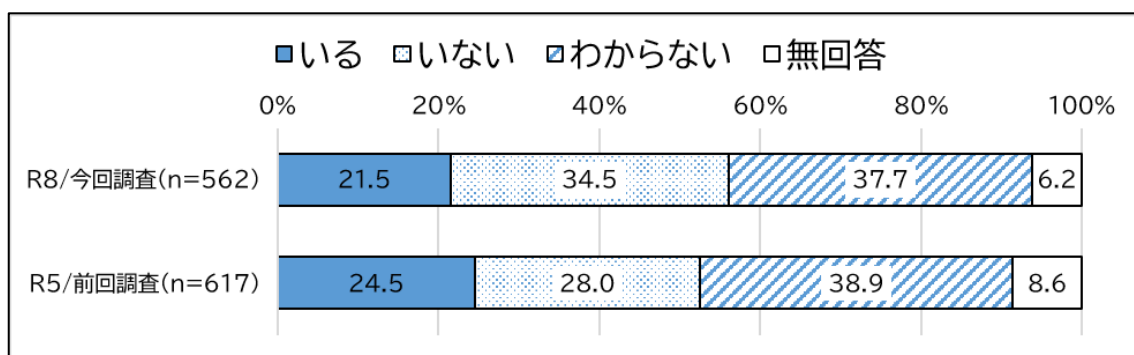
図表 117 自力で避難ができるかについて(障がい別)



問46 火事や地震などの災害発生時に、家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(1 つに○)

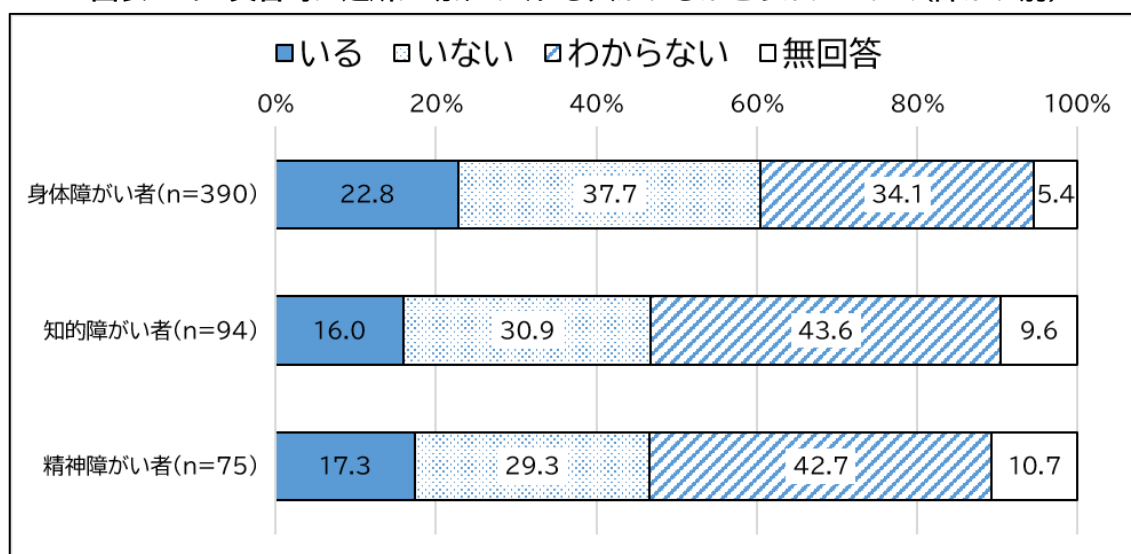
災害時に近所に助けてくれる人がいるかについてみると、「いる」の割合が21.5%であるのに対し、「いない」は34.5%と13.0ポイント上回っています。また、「わからない」は37.7%と最も多くなっています。前回調査と比較すると、災害時に近所に助けてくれる人が「いる」と回答した方が3.0ポイント減少し、「いない」が6.5ポイント増加しています。

図表 118 災害時に近所に助けてくれる人がいるかどうかについて(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者では「いない」(37.7%)、知的障がい者、精神障がい者では「わからない」(知的 43.6%、精神 42.7%)が最も多くなっています。

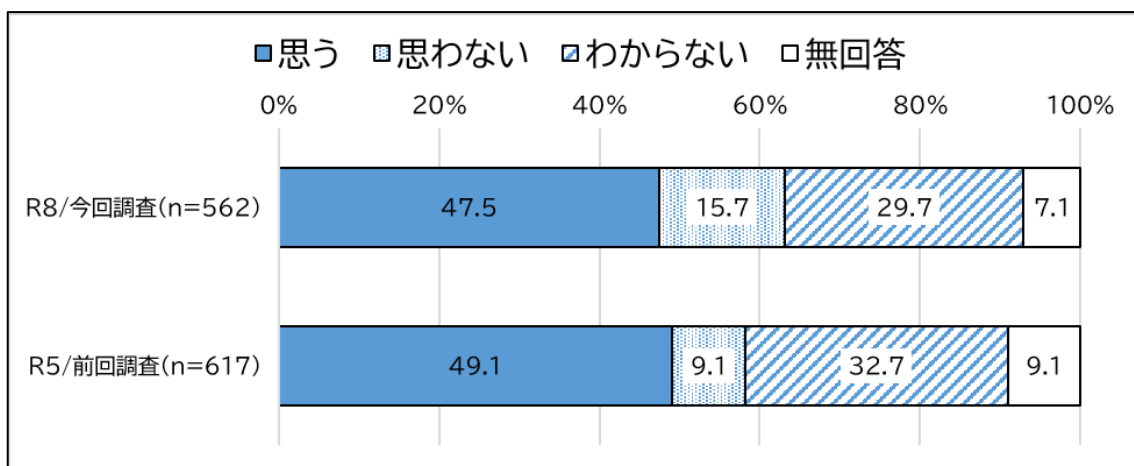
図表 119 災害時に近所に助けてくれる人がいるかどうかについて(障がい別)



問47 あなたは災害時に地域の方に避難を手伝ってもらいたいと思いますか。(1つに○)

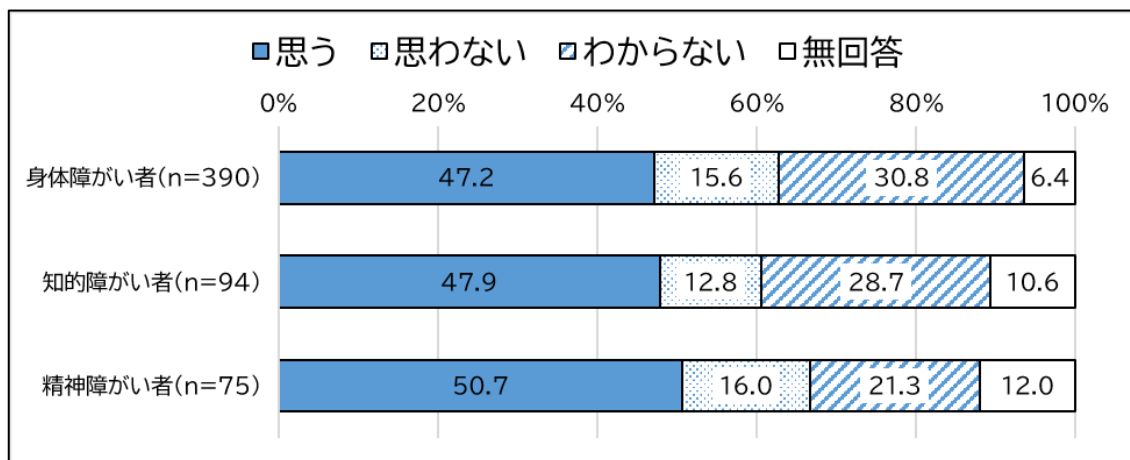
災害時に地域の方に避難を手伝ってもらいたいと思うかについてみると、「思う」の割合が47.5%と最も多く、次いで「わからない」が29.7%、「思わない」が15.7%となっています。前回調査と比較すると、「思う」が1.6ポイント減少しています。

図表 120 災害時に地域の人に避難を手伝ってほしいかどうかについて(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「思う」(身体 47.2%、知的 47.9%、精神 50.7%)が最も多くなっています。

図表 121 災害時に地域の人に避難を手伝ってほしいかどうかについて(障がい別)

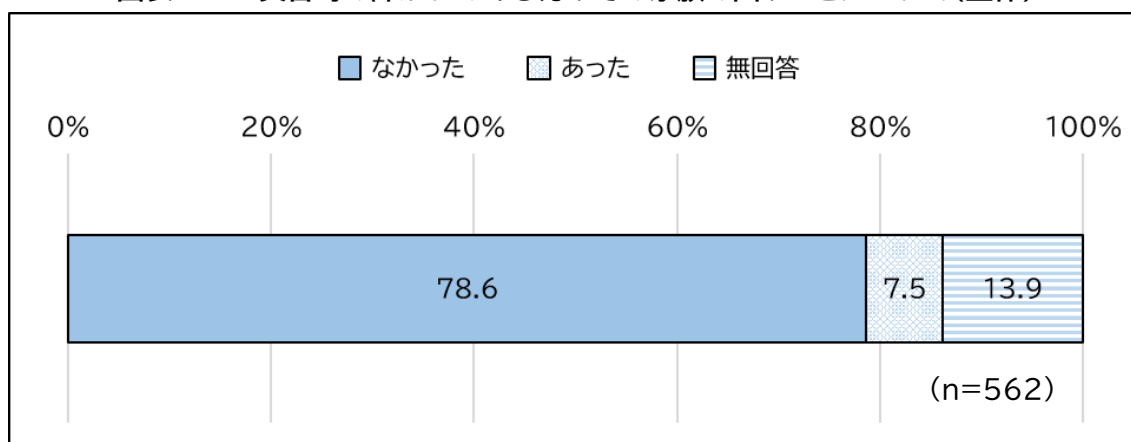


(2)災害時の困りごとについて

問48 地震・台風などの災害時に、障がいのある方やその家族が困ったことはありましたか？(1つに○)

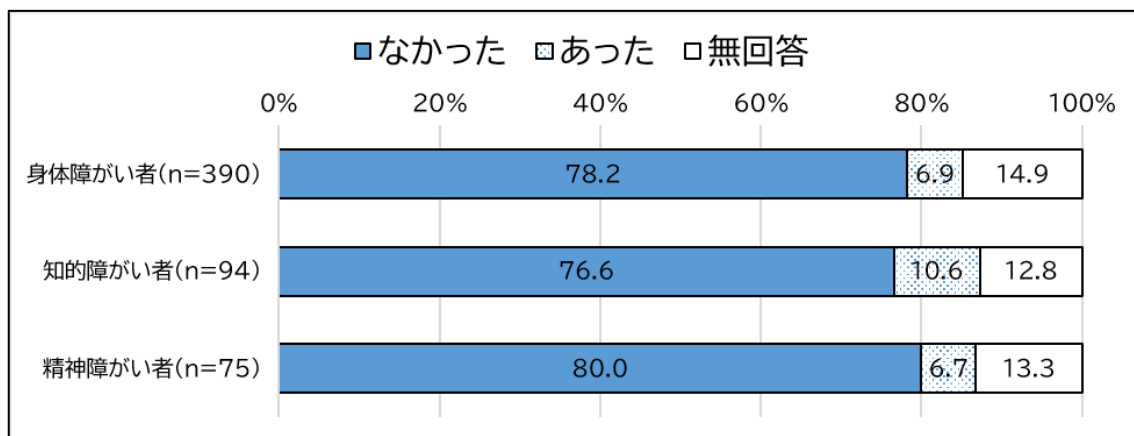
災害時に地域の方に障がいのある方やその家族が困ったことがあったかどうかについてみると、「あった」の割合が7.5%、「なかった」が78.6%となっています。

図表 122 災害時の障がいのある方やその家族の困りごとについて(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「なかった」(身体 78.2%、知的 76.6%、精神 80.0%)が最も多くなっています。

図表 123 災害時の障がいのある方やその家族の困りごとについて(障がい別)

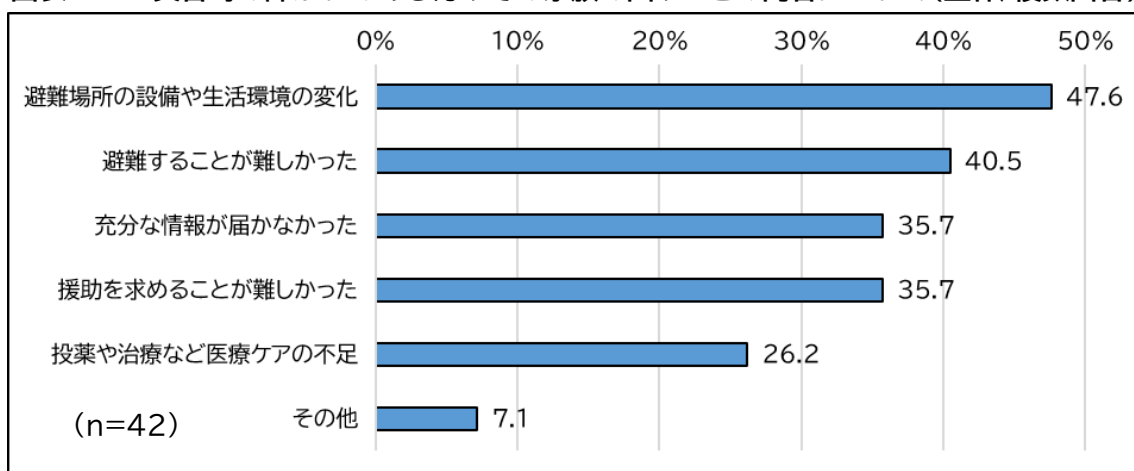


※問48で「あった」と回答した方

問49 どのような場面で困ったと感じましたか？(あてはまるものすべてに○)

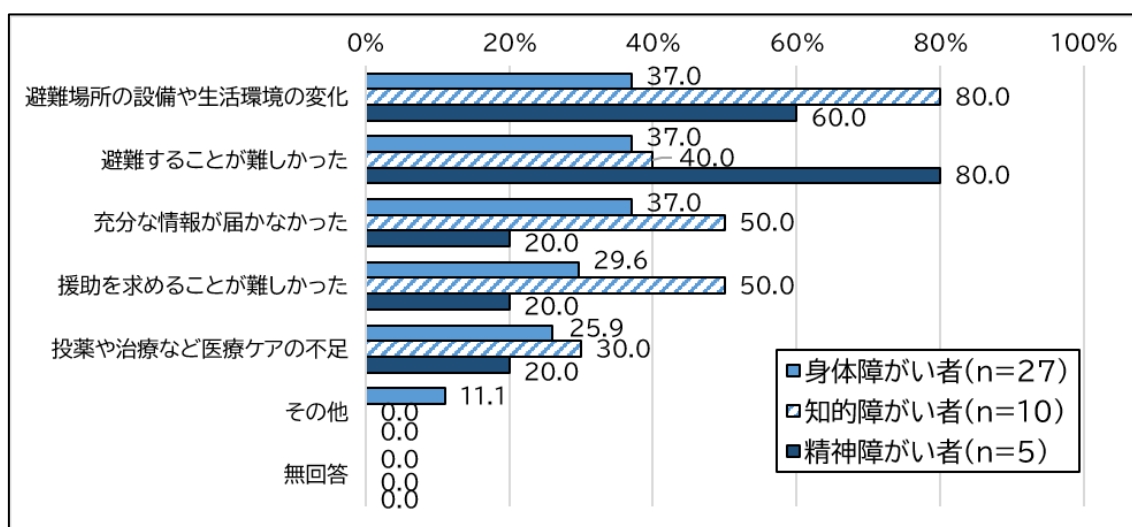
災害時に地域の方に障がいのある方やその家族が困ったことの内容についてみると、「避難場所の設備や生活環境の変化」(47.6%)の割合が最も多く、次いで「避難することが難しかった」(40.5%)、「十分な情報が届かなかった」・「援助を求めることが難しかった」(35.7%)、「投薬や治療など医療ケアの不足」(26.2%)となっています。

図表 124 災害時の障がいのある方やその家族の困りごとの内容について(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「避難場所の設備や生活環境の変化」、「避難することが難しかった」、「十分な情報が届かなかった」(37.0%)、知的障がい者では「避難場所の設備や生活環境の変化」(80.0%)、精神障がい者では「避難することが難しかった」(80.0%)が最も多くなっています。

図表 125 災害時の障がいのある方やその家族の困りごとの内容について(障がい別/複数回答)



「その他」記述内容
障がいの理解
避難場所が遠い

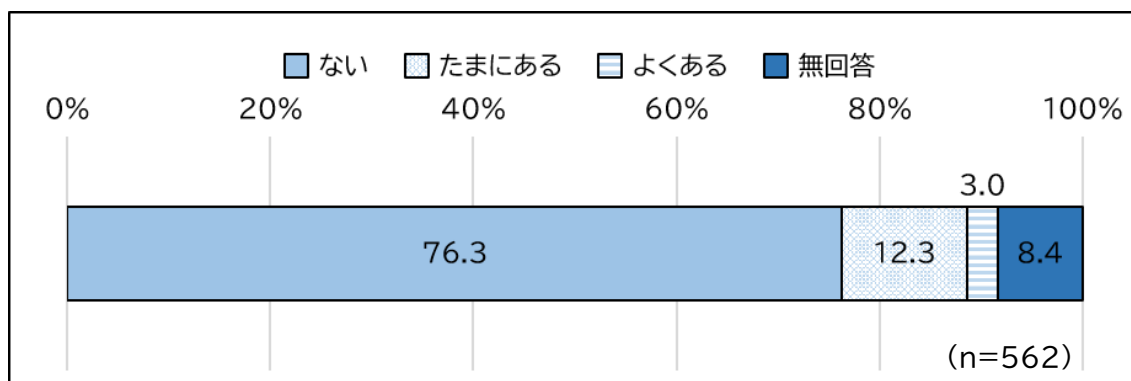
11 ICT・デジタル活用について

(1) デジタル機器を使用した情報の取得、相談について

問50 パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器を使用した、行政手続きや福祉サービス等の情報の取得、相談などしたことはありますか？(1 つに○)

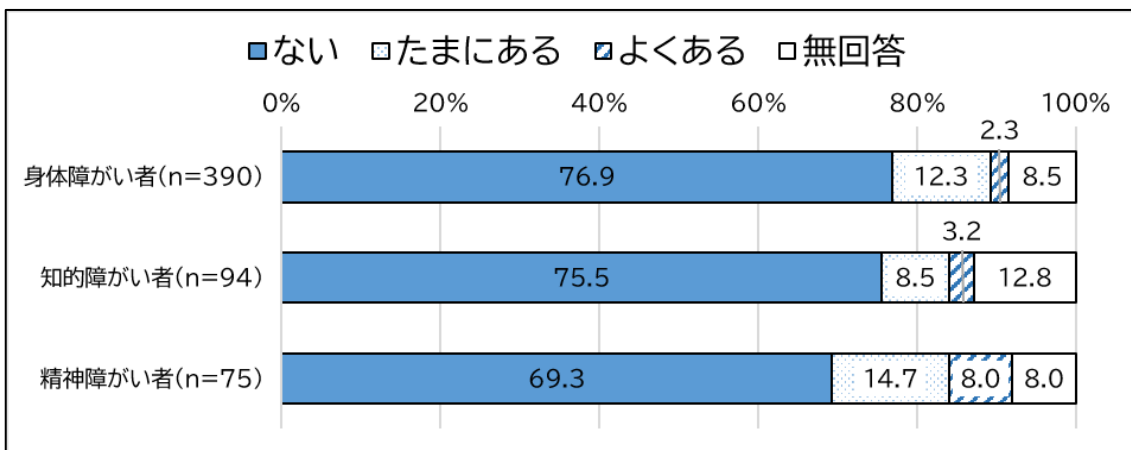
パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器を使用した、行政手続きや福祉サービス等の取得、相談経験についてみると、「よくある」の割合が3.0%、「たまにある」が12.3%、「ない」が76.3%となっており、全体の7割以上が取得、相談したことがない状況になっています。

図表 126 パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器を使用した、行政手続きや福祉サービス等の取得、相談経験について(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「ない」(身体 76.9%、知的 75.5%、精神 69.3%)が最も多くなっています。

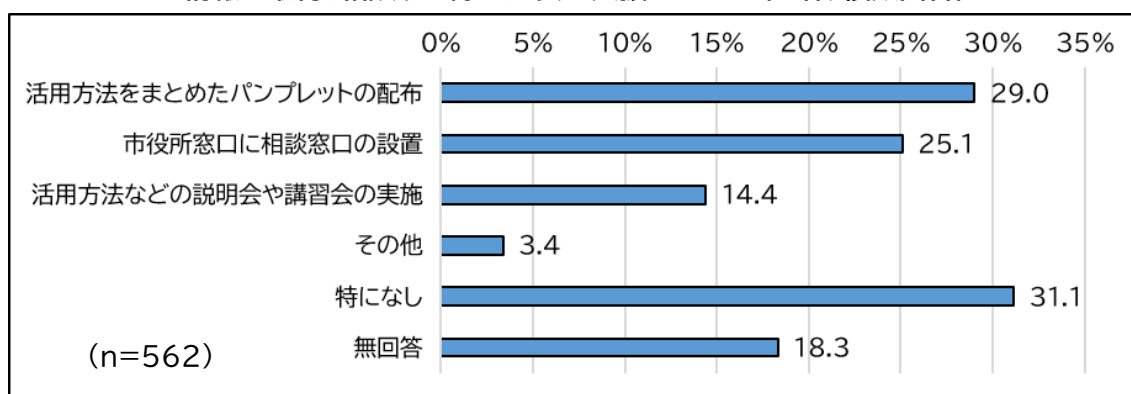
図表 127 パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器を使用した、行政手続きや福祉サービス等の取得、相談経験について(障がい別)



問51 デジタル機器を使用した行政手続きや福祉サービス等の情報の取得、相談する際にどのような支援があると活用したいと感じますか？(あてはまるものすべてに○)

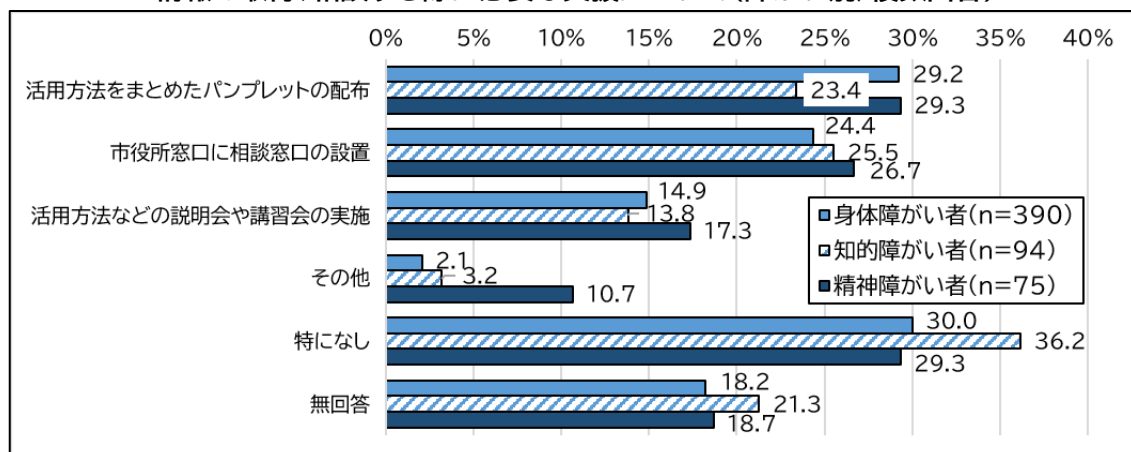
デジタル機器を使用した行政手続きや福祉サービス等の情報の取得、相談する際に必要な支援についてみると、「活用方法をまとめたパンフレットの配布」(29.0%)の割合が最も多くなっており、次いで「市役所窓口相談窓口の設置」(25.1%)、「活用方法などの説明会や講習会の実施」(14.4%)となっています。一方、「特になし」が31.1%となっており、全体で1位となっています。

図表 128 デジタル機器を使用した行政手続きや福祉サービス等の情報の取得、相談する際に必要な支援について(全体/複数回答)



障がい別で必要な支援をみると、身体障がい者、精神障がい者では「活用方法をまとめたパンフレットの配布」(身体 29.2%、精神 29.3%)、知的障がい者では「市役所窓口相談窓口の設置」(25.5%)が最も多くなっています。

図表 129 デジタル機器を使用した行政手続きや福祉サービス等の情報の取得、相談する際に必要な支援について(障がい別/複数回答)



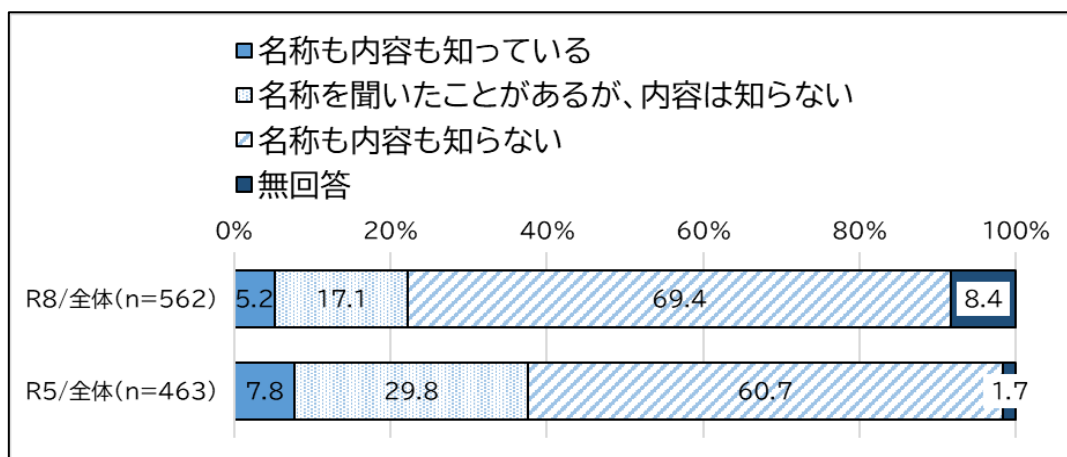
12 合理的配慮について

(1)障がい者差別について

問52 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

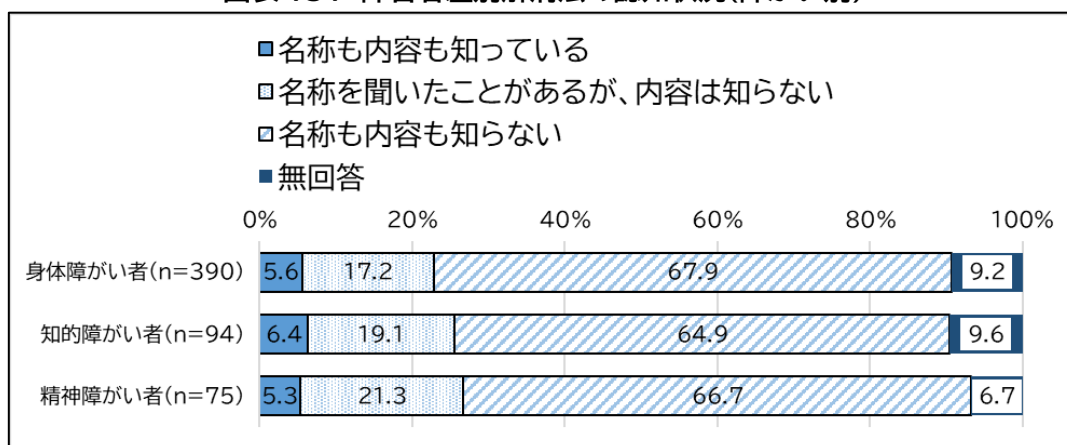
「障害者差別解消法」の認知状況についてみると、「名称も内容も知っている」は5.2%にとどまり、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が17.1%、「名称も内容も知らない」は69.4%となっています。前回調査と比較すると「名称も内容も知らない」が8.7ポイント増加しています。

図表 130 障害者差別解消法の認知状況(全体、前回比較)



障がい別で必要な支援をみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「名称も内容も知らない」(身体 67.9%、知的 64.9%、精神 66.7%)が最も多くなっています。

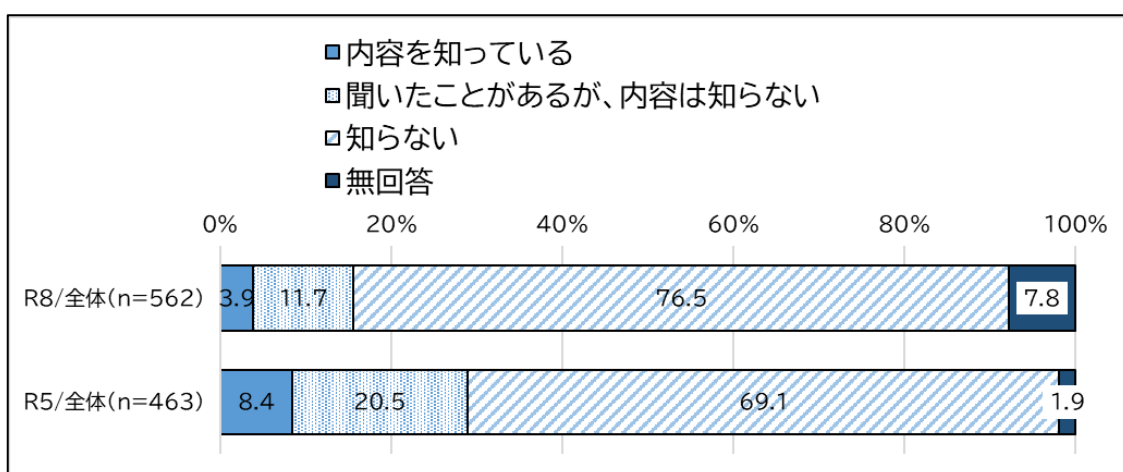
図表 131 障害者差別解消法の認知状況(障がい別)



問53 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。
(1つに○)

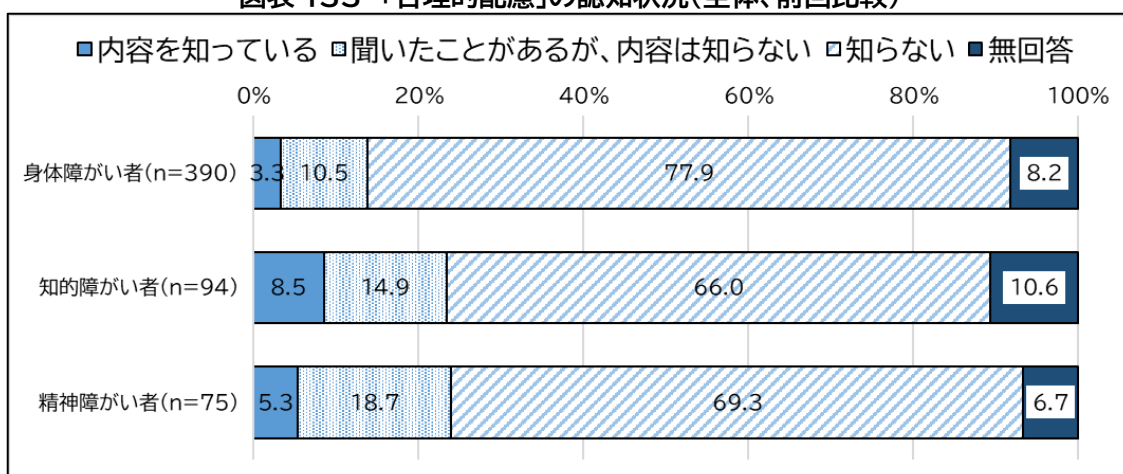
障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」の認知状況についてみると、「内容を知っている」は3.9%にとどまり、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が11.7%、「知らない」は76.5%となっています。前回調査と比較すると、「知らない」が7.4ポイント増加しています。

図表 132 「合理的配慮」の認知状況(全体、前回比較)



障がい別で必要な支援をみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに知らない(身体 77.9%、知的 66.0%、精神 69.3%)が最も多くなっています。

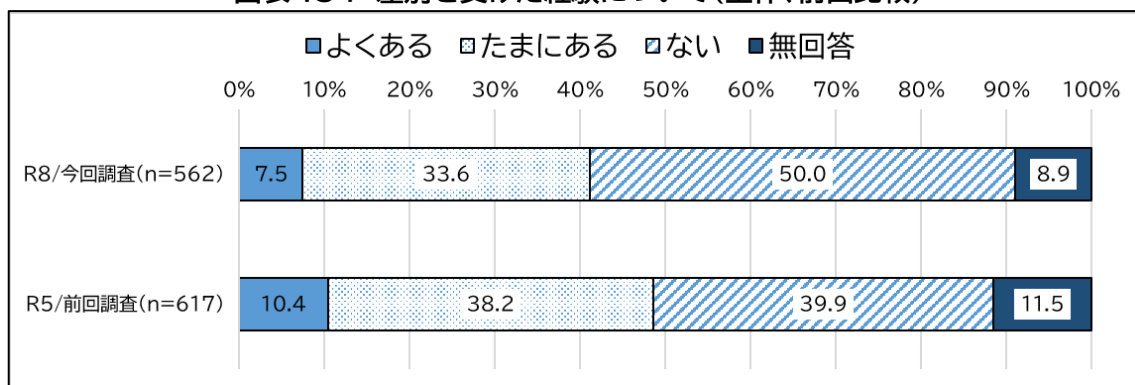
図表 133 「合理的配慮」の認知状況(全体、前回比較)



問54 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(1つに○)

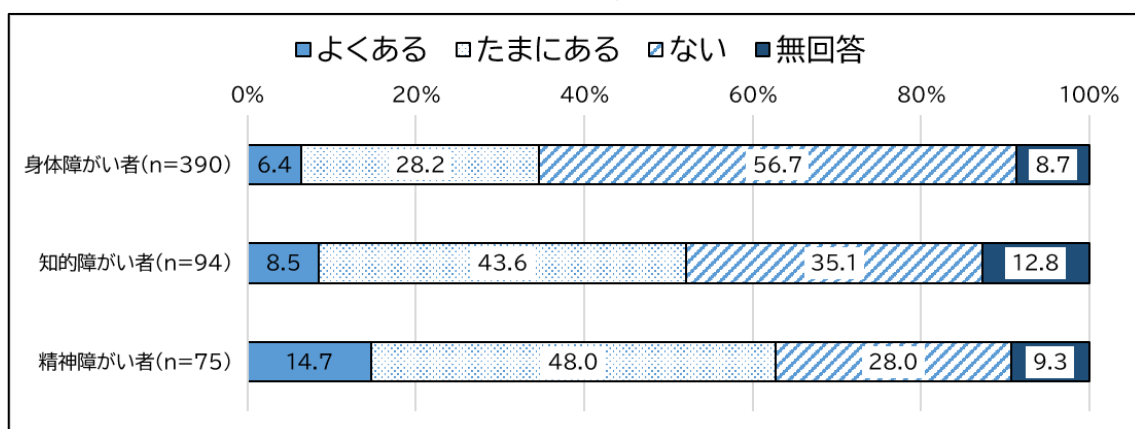
障がいがあることで、差別や嫌な思いをする(した)ことがあるかについてみると、「よくある」が7.5%、「たまにある」が33.6%、「ない」が50.0%となっています。前回調査と比較すると、「ない」が10.1ポイント増加しています。

図表 134 差別を受けた経験について(全体、前回比較)



障がい別でみると、身体障がい者では「ない」(56.7%)、知的障がい者、精神障がい者では「たまにある」(知的 43.6%、精神 48.0%)が最も多くなっています。

図表 135 差別を受けた経験について(障がい別)

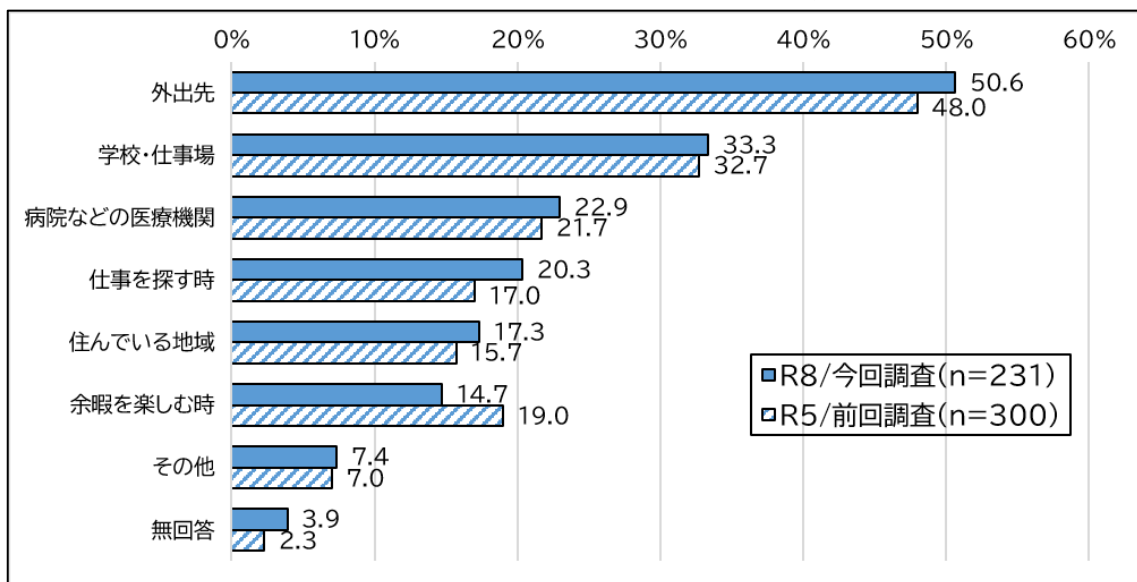


※問 54 で「よくある」または「たまにある」と回答した方

問55 どのような場所で、差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

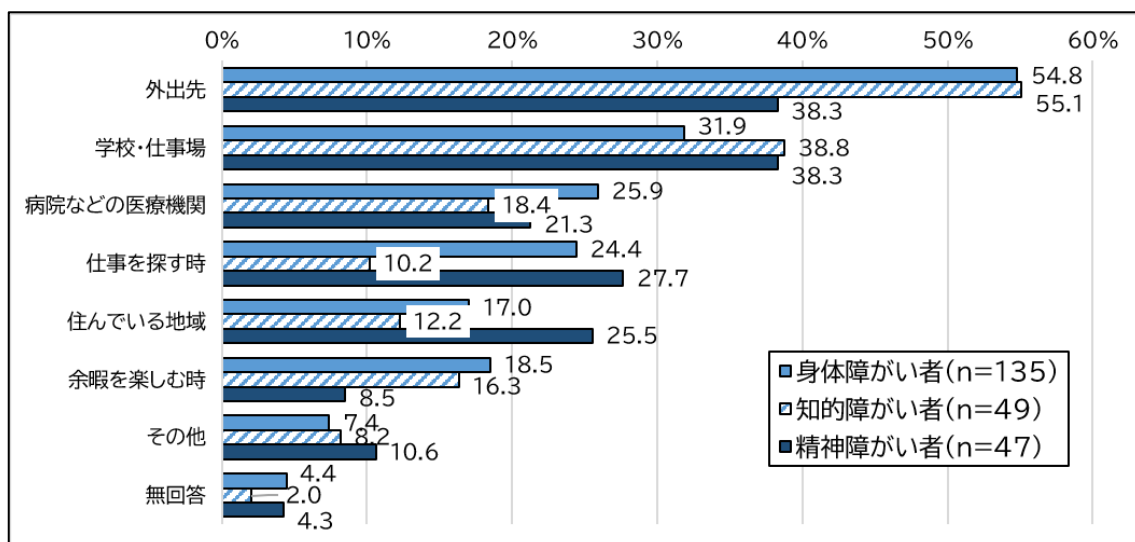
どのような場所で、差別や嫌な思いをしたかについてみると、「外出先」の割合が 50.6%と最も多く、次いで「学校・仕事場」(33.3%)、「病院などの医療機関」(22.9%)、「仕事を探す時」(20.3%)、「住んでいる地域」(17.3%)、「余暇を楽しむ時」(14.7%)となっています。前回調査と比較すると、「外出先」が 2.6 ポイント増加しています。

図表 136 差別を受けた場所(全体、前回比較/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「外出先」(身体 54.8%、知的 55.1%)、精神障がい者では「外出先」、「学校・仕事場」(38.3%)が最も多くなっています。

図表 137 差別を受けた場所(障がい別/複数回答)

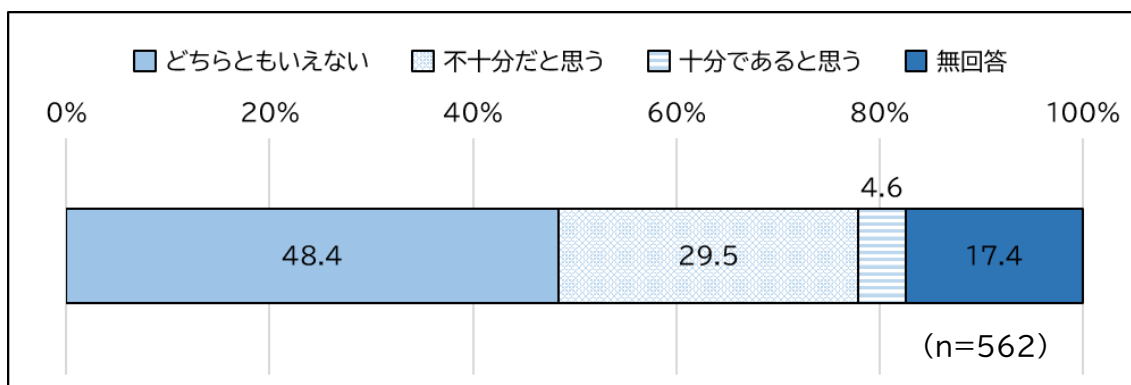


(2)合理的配慮について

問56 学校・職場・公共施設・商業施設・文化施設・スポーツ施設などで、障がいのある方への「合理的配慮」やバリアフリー対応が十分だと思いますか？(1つに○)

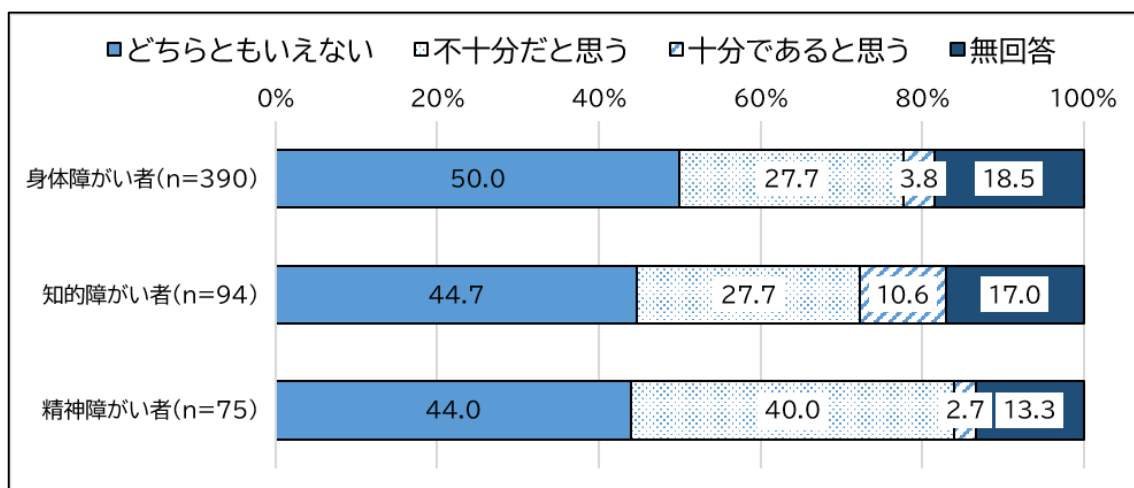
障がいのある方への「合理的配慮」やバリアフリー対応が十分かどうかについてみると、「十分であると思う」の割合が4.6%、「不十分であると思う」が29.5%、「どちらともいえない」が48.4%となっており、全体の5割近くが「どちらともいえない」と考えています。

図表 138 障がいのある方への「合理的配慮」やバリアフリー対応が十分かどうか
(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「どちらともいえない」(身体 50.0%、知的 44.7%、精神 44.0%)が最も多くなっています。

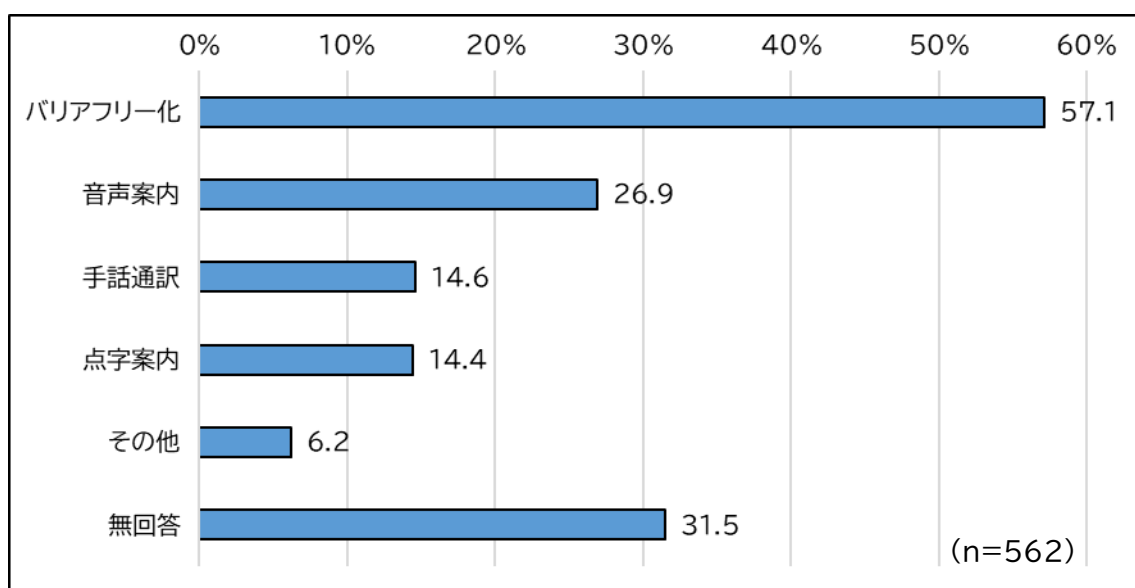
図表 139 障がいのある方への「合理的配慮」やバリアフリー対応が十分かどうか
(障がい別)



問57 「合理的配慮」として、どのような配慮が必要だと思いますか？(あてはまるものすべてに○)

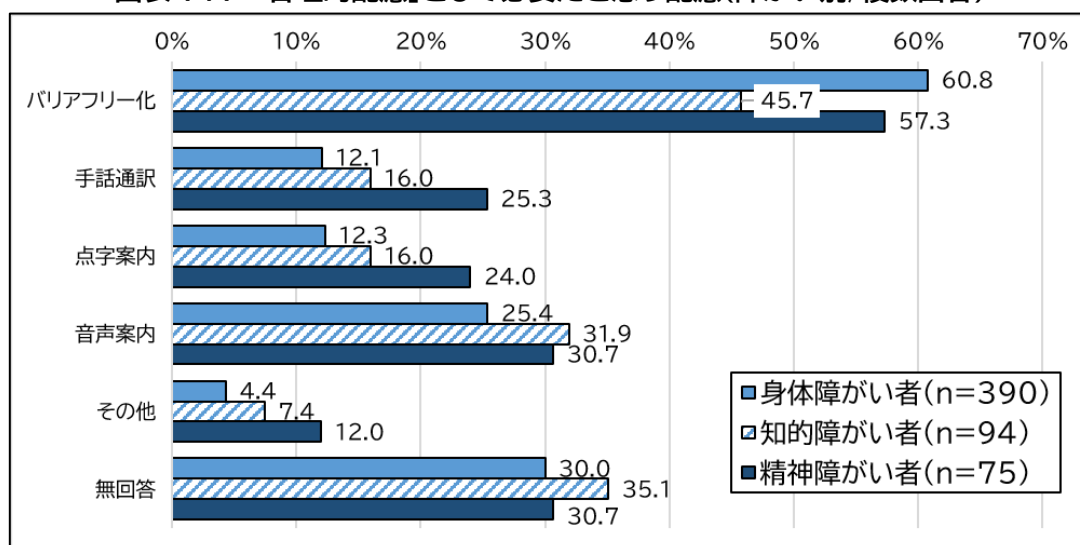
「合理的配慮」として、必要だと思う配慮についてみると、「バリアフリー化」(57.1%)の割合が最も多く、突出しています。次いで「音声案内」(26.9%)、「手話通訳」(14.6%)、「点字案内」(14.4%)となっています。

図表 140 「合理的配慮」として必要だと思う配慮(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「バリアフリー化」(身体 60.8%、知的 45.7%、精神 57.3%)が最も多くなっています。

図表 141 「合理的配慮」として必要だと思う配慮(障がい別/複数回答)



問58 「合理的配慮」やバリアフリーで特に改善してほしい場所や内容があればご記入ください。

※「合理的配慮」やバリアフリーで特に改善してほしい場所や内容(代表的な意見を抜粋して掲載しています。)

「合理的配慮」やバリアフリーで特に改善して欲しい場所や内容(一部抜粋)
家のバリアフリーが出来るように金を出してほしい。
エレベーターがどこにあるのかもっとわかりやすくしてほしい。
車いすの係員が障がい者を理解していない。(係員の講習が必要)
講演会、投票所の入り口が階段のみの所が多い。
入り口がほとんど階段である。
トイレ・休憩場所。(個別の空間や部屋を作る)
歩道の狭い所。
工事後アスファルトで整備しているが道がデコボコで車イス利用者にはとても不愉快。
公共の会場内での席に案内後の利用器具の近くに設置場所が無い。不便。
身体障がいのある方が行えるスポーツの場所が近くにあって欲しい。
病院、診療所などで説明や話すときに音声認識アプリや筆談等文字による情報保証を付けてほしい。
公共施設の階段だけの所、公民館、労働基準監督署、エレベーターが有れば良かった。
障がいの特性のためにパニックに陥ったり体調が悪くなった時に一時的に利用できるような部屋の(多目的ルーム)などの場所が有れば安心して利用できる。
市役所での手続きや方法。支援援助の手段や方法。サービスの使い方の誘導方法。
精神は見て判断できないので、苦しいときの理解が分かるように配慮してほしい。
一部スーパーやドラッグストアに車椅子とカスタマーセンターの常設。
障がい者駐車場が不正に利用されており、障がい者が使えない場合が多い。
賃貸を探していた時に、バリアフリーの賃貸があればいいのと思ったことがあります。
障がい者駐車場に屋根が欲しい。スペースが広くてありがたいが、昇降に時間のかかる人が使うのだから、雨や風がある時に不便。
バスの昇降の台が高すぎて、足が上がらず困ります。だから、家族がいて引き上げてもらわないと乗れません。
教育の現場において、合理的配慮やバリアフリー化がさらに早く進歩するといい。

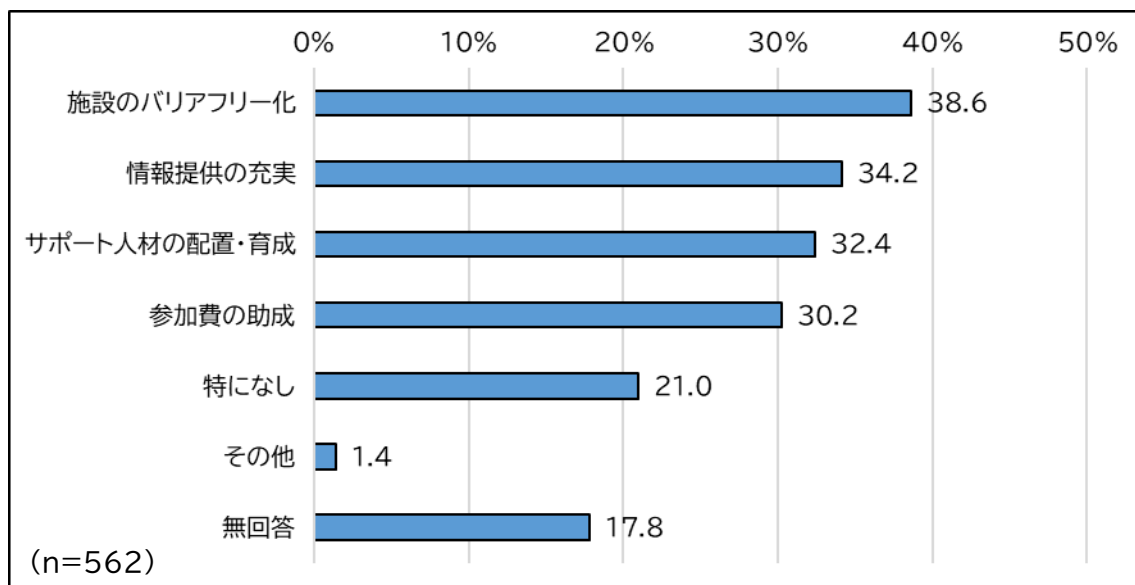
13 文化芸術やスポーツについて

(1)文化芸術やスポーツへの参加について

問59 障がいのある方が文化芸術活動やスポーツ、余暇活動に参加しやすくするために必要だと思うことは何ですか？(あてはまるものすべてに○)

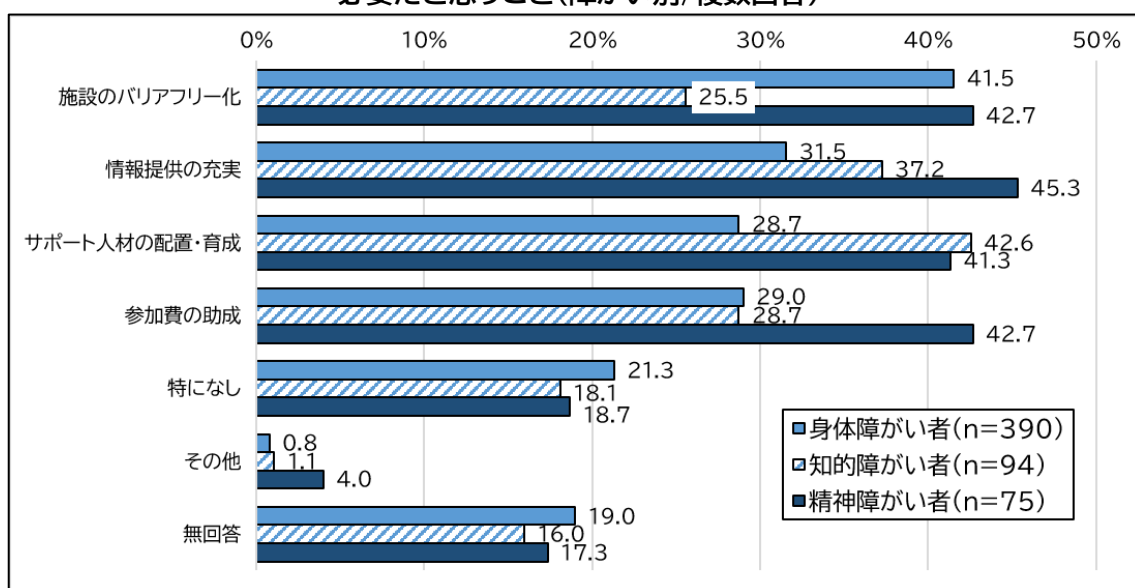
障がいのある方が文化芸術活動やスポーツ、余暇活動に参加しやすくするために必要だと思うことについてみると、「施設のバリアフリー化」(38.6%)の割合が最も多く、次いで「情報提供の充実」(34.2%)、「サポート人材の配置・育成」(32.4%)、「参加費の助成」(30.2%)となっています。

図表 142 障がいのある方が文化芸術活動やスポーツ、余暇活動に参加しやすくするために必要だと思うこと(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「施設のバリアフリー化」(41.5%)、知的障がい者では「サポート人材の配置・育成」(42.6%)、精神障がい者では「情報提供の充実」(45.3%)が最も多くなっています。

図表 143 障がいのある方が文化芸術活動やスポーツ、余暇活動に参加しやすくするために必要だと思うこと(障がい別/複数回答)



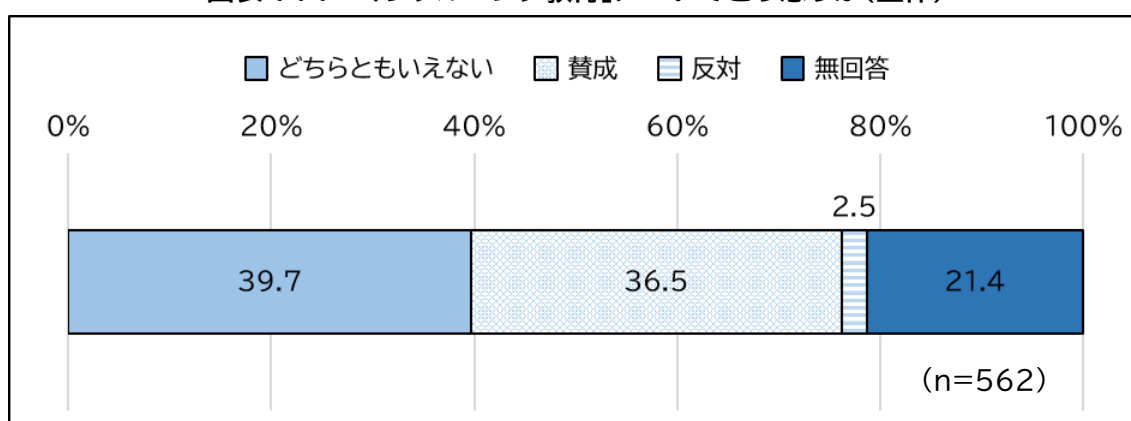
14 インクルーシブ教育について

(1) インクルーシブ教育について

問60 障がいのある子どもが、地域の学校や園で他の子どもと共に学ぶ「インクルーシブ教育」についてどう思いますか？(1つに○)

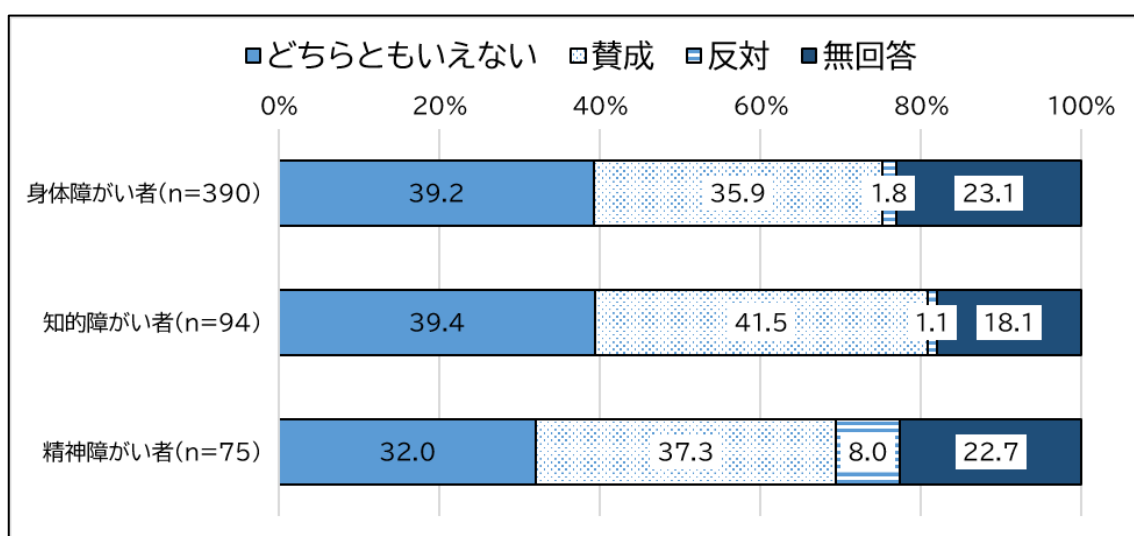
「インクルーシブ教育」への意見についてみると、「賛成」の割合が36.5%、「反対」が2.5%、「どちらともいえない」が39.7%となっています。

図表 144 「インクルーシブ教育」についてどう思うか(全体)



障がい別でみると、身体障がい者では「どちらともいえない」(39.2%)、知的障がい者、精神障がい者では「賛成」(知的 41.5%、精神 37.3%)が最も多くなっています。

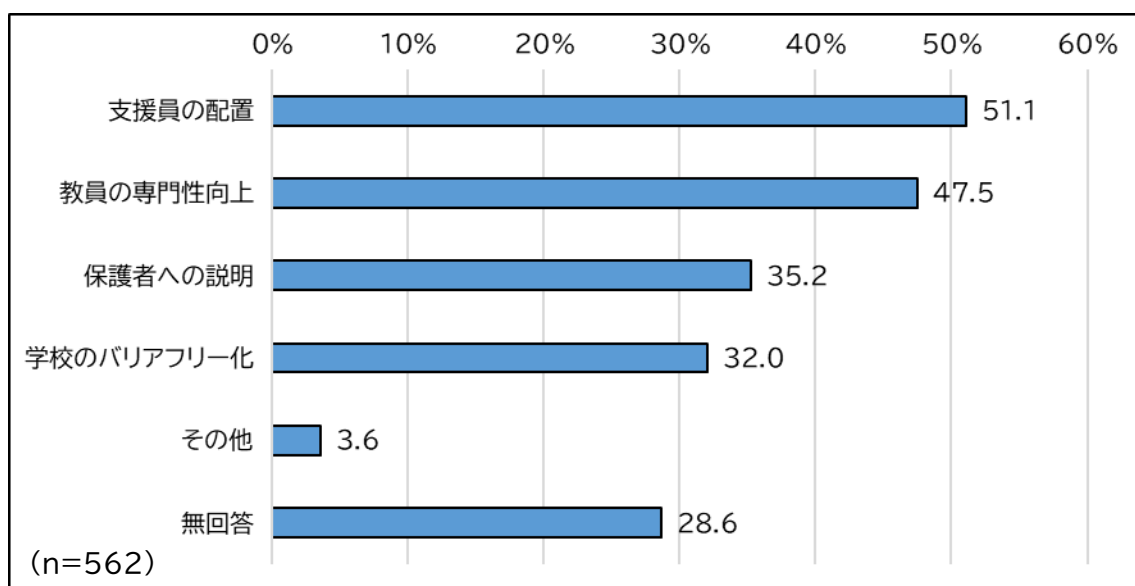
図表 145 「インクルーシブ教育」についてどう思うか(障がい別)



問61 インクルーシブ教育を進める上で必要だと思うことは何ですか？(あてはまるものすべてに○)

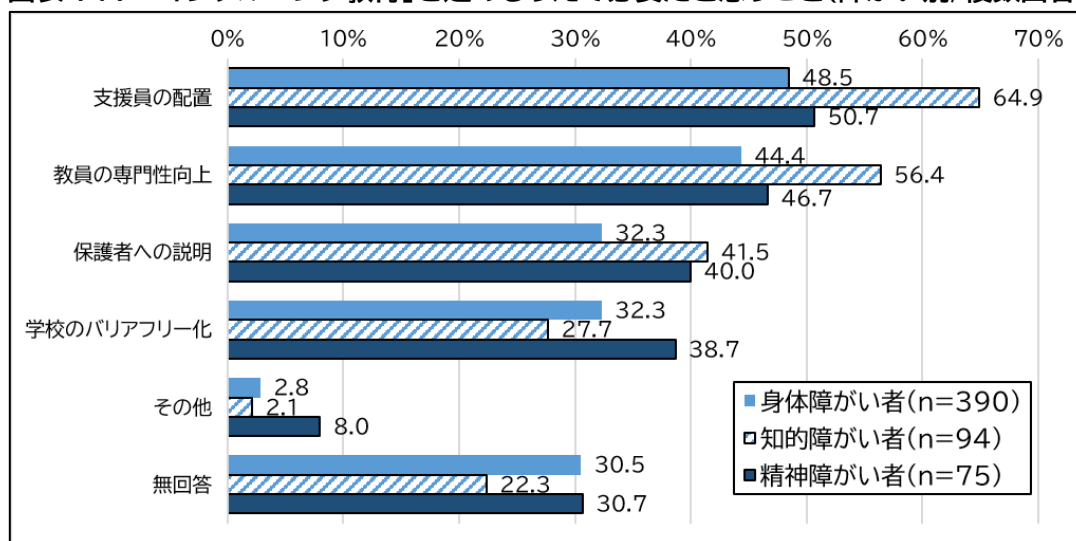
「インクルーシブ教育」を進めるうえで必要だと思うことについてみると、「支援員の配置」(51.1%)の割合が最も多く、次いで「教育の専門性向上」(47.5%)、「保護者への説明」(35.2%)、「学校のバリアフリー化」(32.0%)となっています。

図表 146 「インクルーシブ教育」を進めるうえで必要だと思うこと(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「支援員の配置」(身体 48.5%、知的 64.9%、精神 50.7%)が最も多くなっています。

図表 147 「インクルーシブ教育」を進めるうえで必要だと思うこと(障がい別/複数回答)



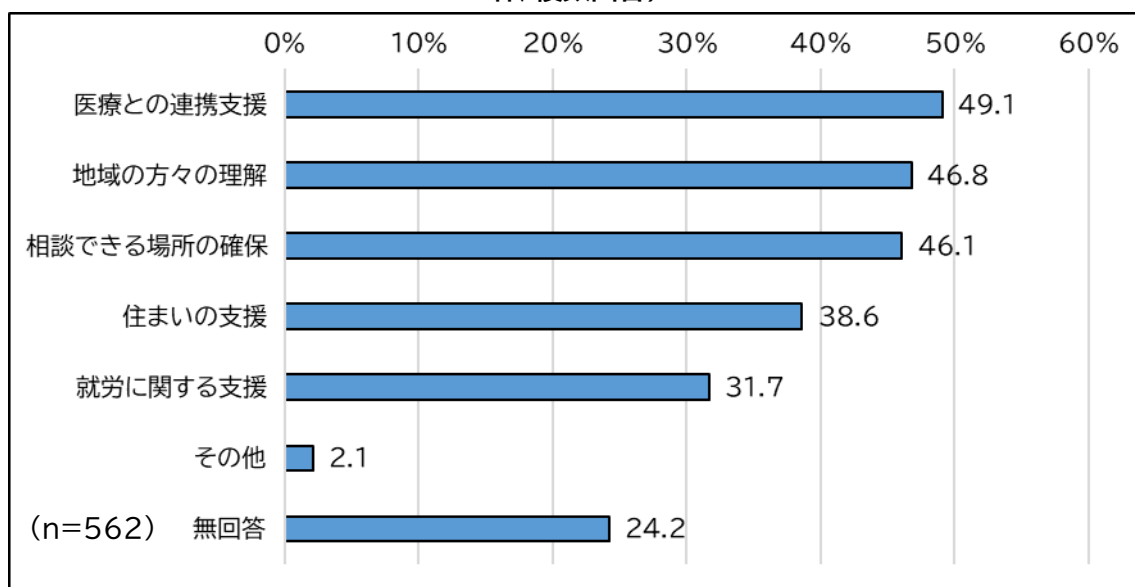
15 精神障がい者の地域移行について

(1)精神障がい者の地域移行について

問62 精神障がいのある方が入院生活から地域で暮らすために、どのような支援が必要だと思いますか？(あてはまるものすべてに○)

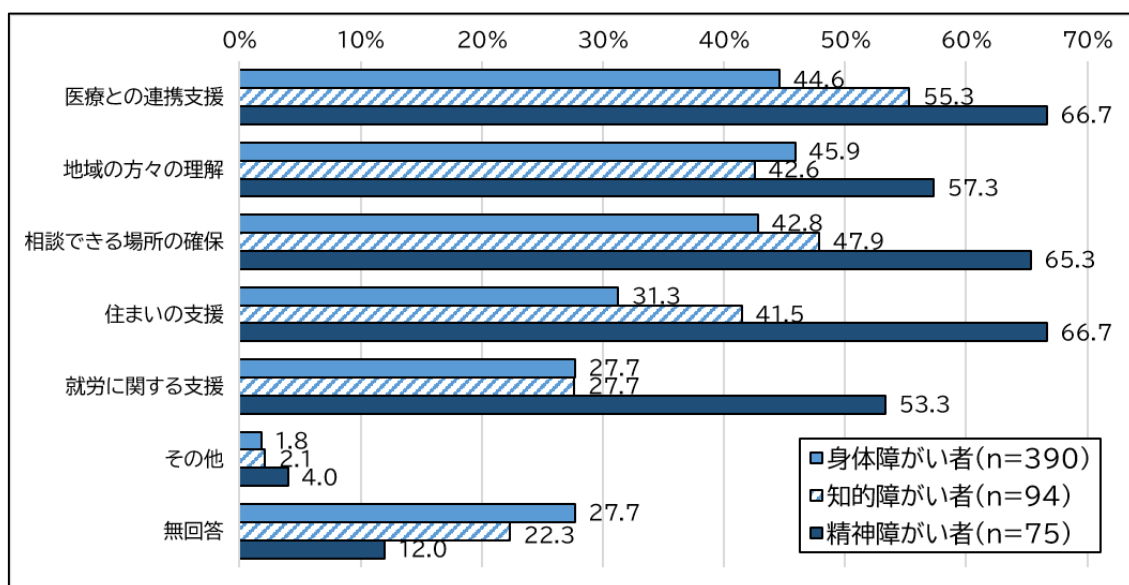
精神障がいのある方が入院生活から地域で暮らすために、必要だと思う支援についてみると、「医療との連携支援」(49.1%)の割合が最も多く、次いで「地域の方々の理解」(46.8%)、「相談できる場所の確保」(46.1%)、「住まいの支援」(38.6%)、「就労に関する支援」(31.7%)となっています。

図表 148 精神障がいのある方が入院生活から地域で暮らすために、必要だと思う支援(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者では「地域の方々の理解」(45.9%)、知的障がい者では「医療との連携支援」(55.3%)、精神障がい者では「医療との連携支援」、「住まいの支援」(66.7%)が最も多くなっています。

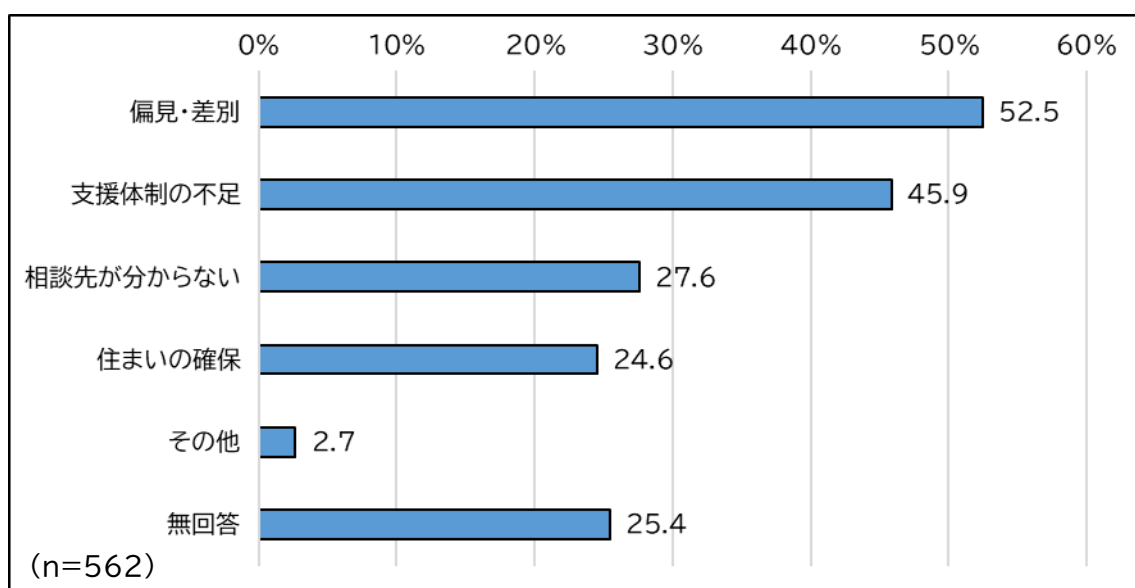
図表 149 精神障がいのある方が入院生活から地域で暮らすために、必要だと思う支援
(障がい別/複数回答)



問63 地域で精神障がいのある方が安心して暮らすために、どのような課題があると思いますか？(あてはまるものすべてに○)

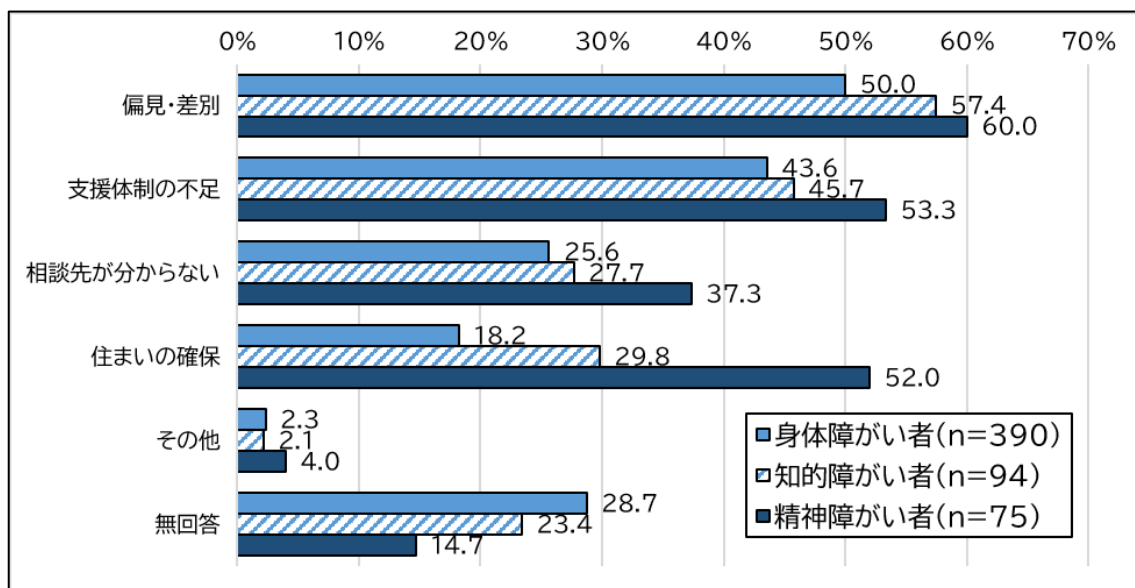
精神障がいのある方が安心して暮らすうえで考えられる課題についてみると、「偏見・差別」(52.5%)の割合が最も多く、次いで「支援体制の不足」(45.9%)、「相談先が分からない」(27.6%)、「住まいの確保」(24.6%)となっています。

図表 150 精神障がいのある方が安心して暮らすうえで考えられる課題(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「偏見・差別」(身体 50.0%、知的 57.4%、精神 60.0%)が最も多くなっています。

図表 151 精神障がいのある方が安心して暮らすうえで考えられる課題
(障がい別/複数回答)



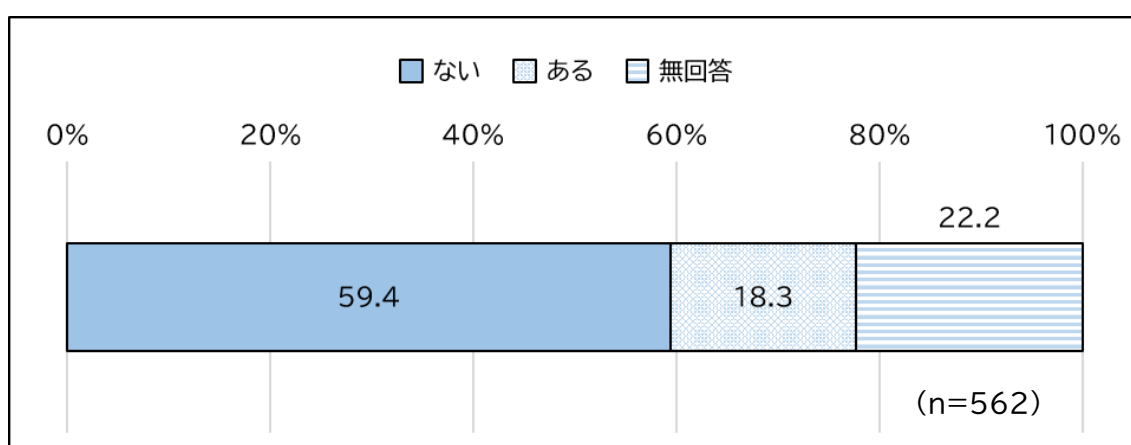
16 テレワークや多様な働き方について

(1)多様な働き方について

問64 テレワークや在宅就業など、多様な働き方について、希望がありますか？(1つに○)

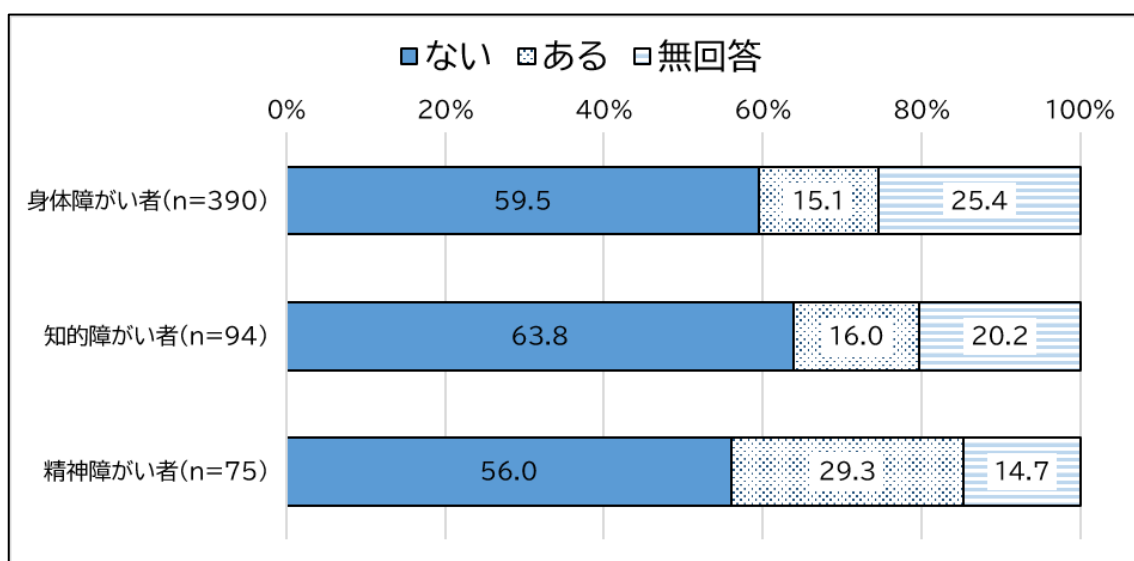
多様な働き方への希望についてみると、「ある」の割合が18.3%、「ない」が59.4%となっており、全体の5割以上で多様な働き方への希望がないという状況になっています。

図表 152 多様な働き方への希望について(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「ない」(身体 59.5%、知的 63.8%、精神 56.0%)が最も多くなっています。

図表 153 多様な働き方への希望について(障がい別)

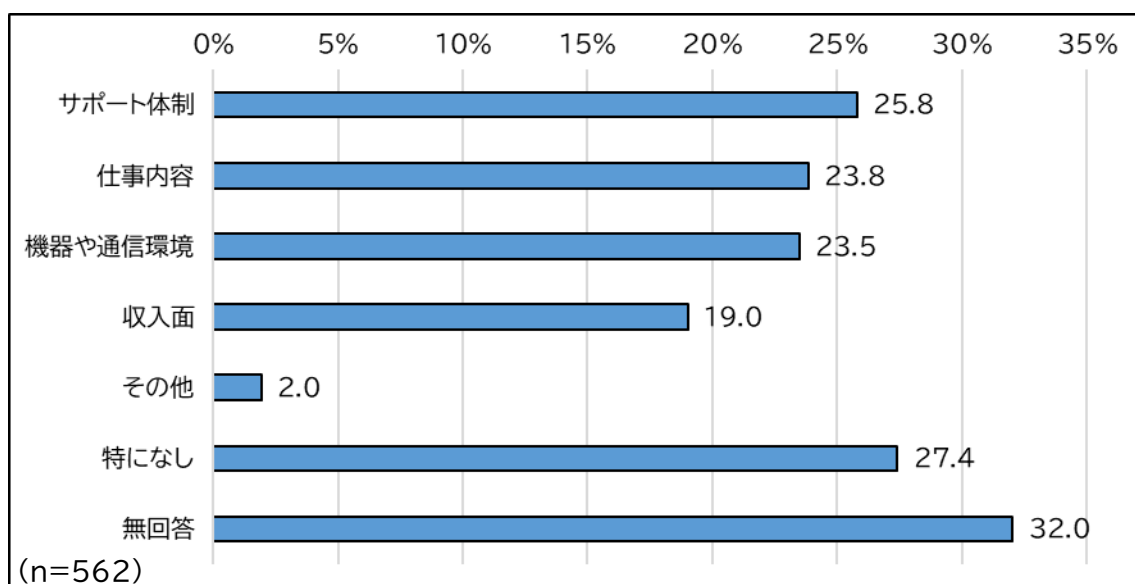


問65 テレワークや在宅就業をする上で困ることは何ですか？(あてはまるものすべてに○)

テレワークや在宅就業をする上で困ることについてみると、「サポート体制」(25.8%)の割合が最も多く、次いで「仕事内容」(23.8%)、「機器や通信環境」(23.5%)、「収入面」(19.0%)となっています。

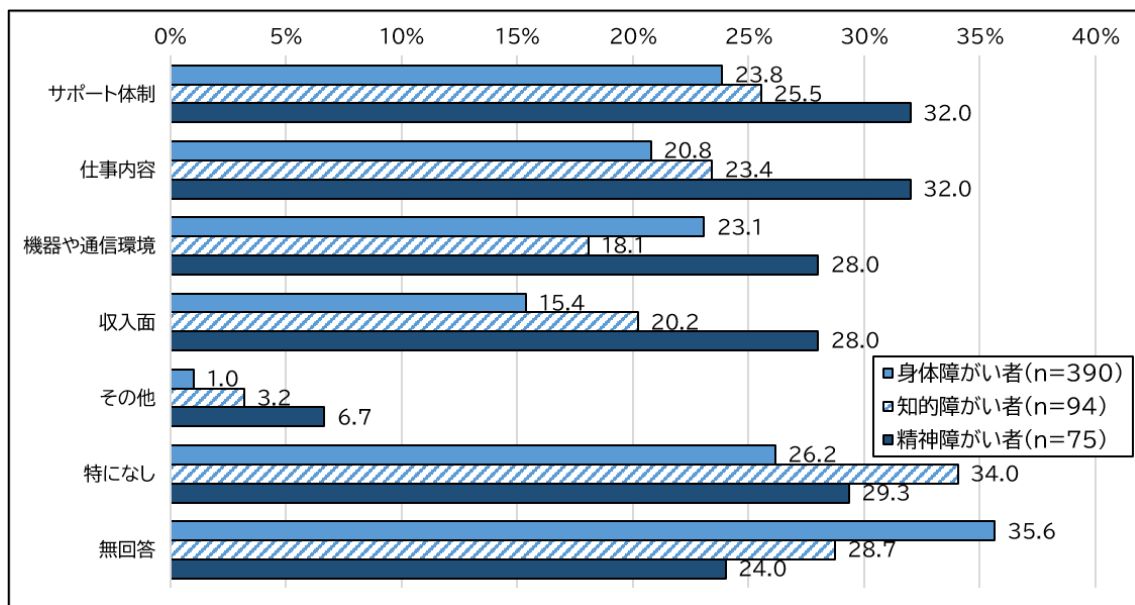
一方、「特になし」の割合は27.4%となっており、全体で1位となっています。

図表 154 テレワークや在宅就業をする上で困ることについて(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「サポート体制」(身体 23.8%、知的 25.5%)、精神障がい者では「サポート体制」、「仕事内容」(32.0%)が最も多くなっています。

図表 155 テレワークや在宅就業をする上で困ることについて(障がい別/複数回答)



17 SDGsについて

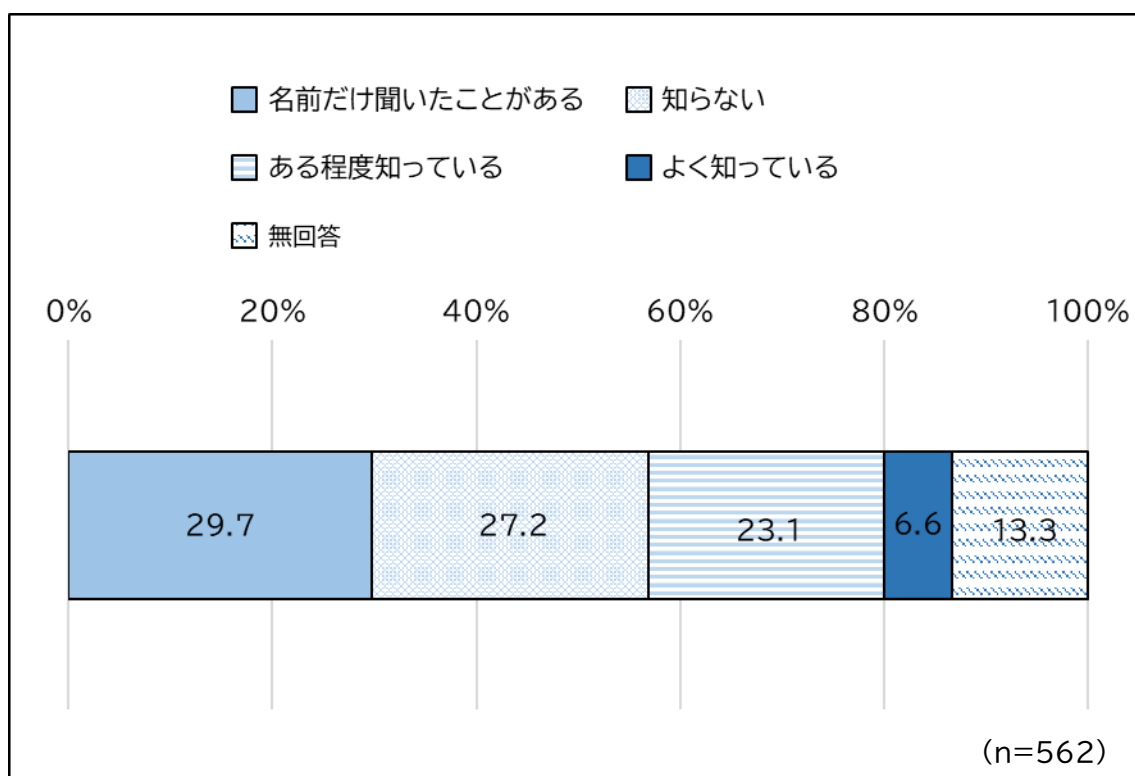
(1)SDGsについて

問66 SDGs(持続可能な開発目標)について知っていますか？(1つに○)

SDGs(持続可能な開発目標)の認知状況についてみると、「よく知っている」の割合は6.6%、「ある程度知っている」が23.1%、「名前だけ聞いたことがある」は29.7%、「知らない」は27.2%、「知らない」は27.2%となっています。

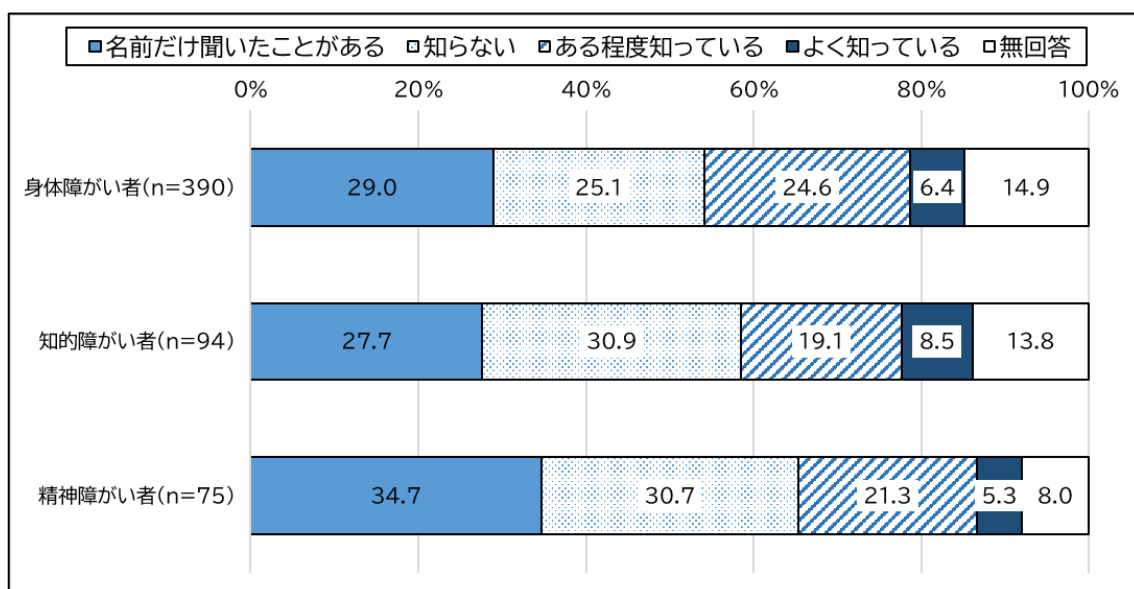
また、「よく知っている」と「ある程度知っている」、「名前だけ聞いたことがある」の割合を合わせると、『名前や内容を少しでも知っている人』の割合は59.4%となっています。

図表 156 SDGs(持続可能な開発目標)の認知状況(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、精神障がい者では「名前だけ聞いたことがある」(身体 29.0%、精神 34.7%)、知的障がい者では「知らない」(30.9%)が最も多くなっています。

図表 157 SDGs(持続可能な開発目標)の認知状況(障がい別)

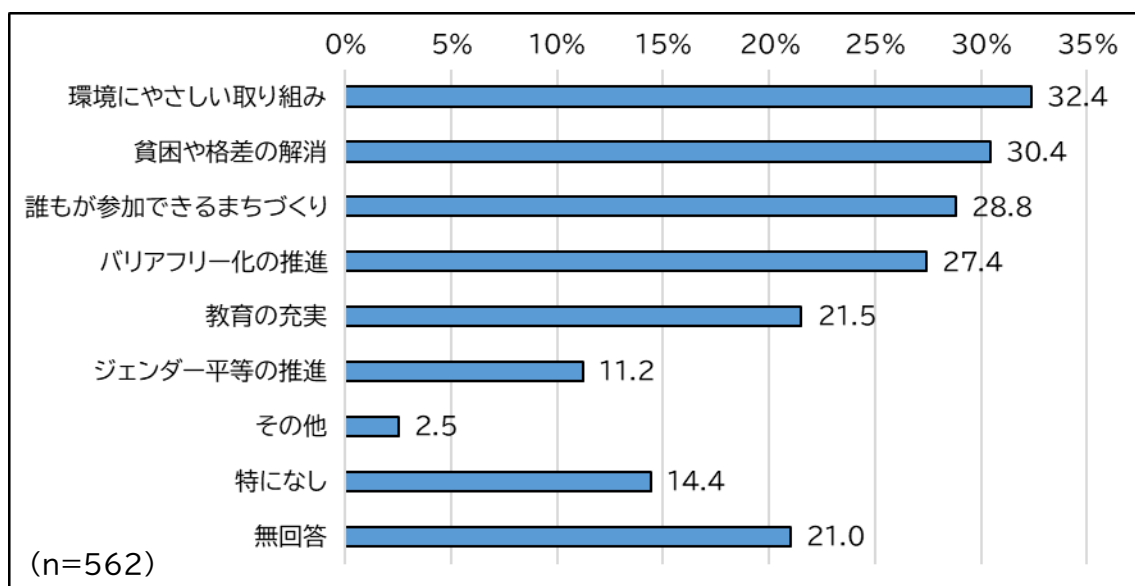


問67 SDGs の観点から、坂出市で取り組んでほしいことは何ですか？(あてはまるものすべてに○)

SDGs の観点から、坂出市で取り組んでほしいことについてみると、「環境にやさしい取り組み」(32.4%)の割合が最も多く、次いで「貧困や格差の解消」(30.4%)、「誰もが参加できるまちづくり」(28.8%)、「バリアフリー化の推進」(27.4%)、「教育の充実」(21.5%)、「ジェンダー平等の推進」(11.2%)となっています。

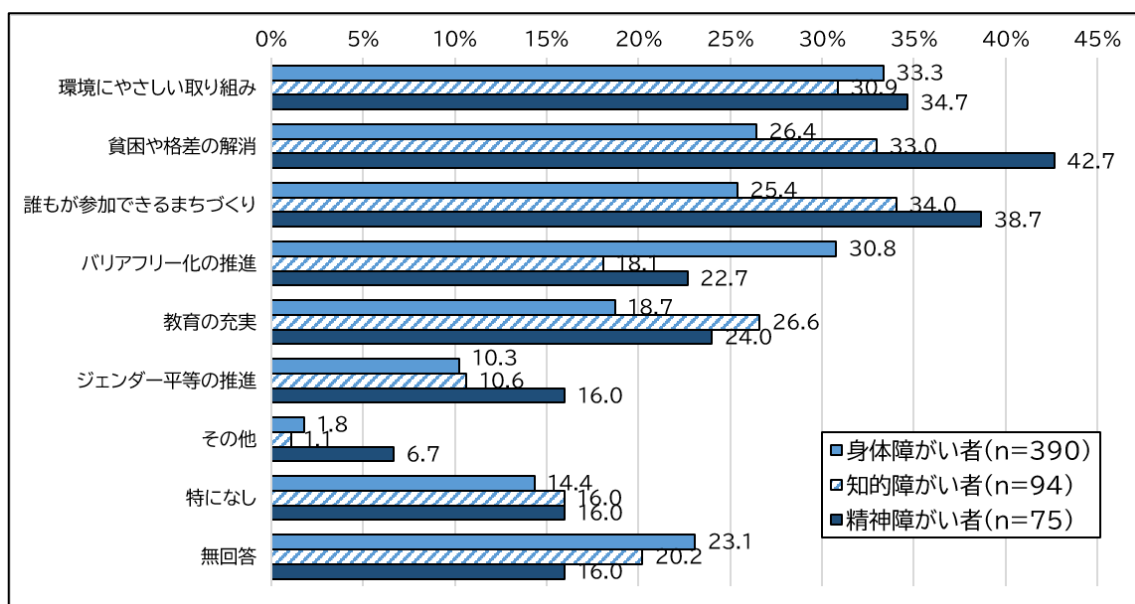
一方、「特になし」の割合は14.4%であり、全体で6位となっています。

図表 158 SDGs の観点から、坂出市で取り組んでほしいこと(全体/複数回答)



障がい別で見ると、身体障がい者では「環境にやさしい取り組み」(33.3%)、知的障がい者では「誰もが参加できるまちづくり」(34.0%)、精神障がい者では「貧困や格差の解消」(42.7%)が最も多くなっています。

図表 159 SDGs の観点から、坂出市で取り組んでほしいこと(障がい別/複数回答)



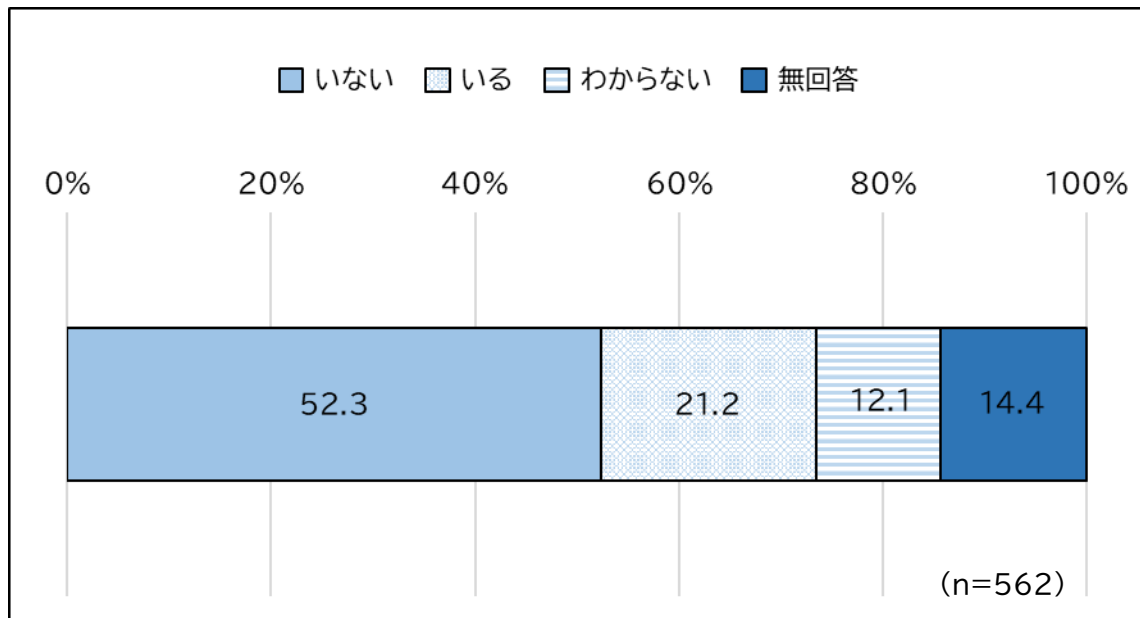
18 ヤングケアラーについて

(1)身近なヤングケアラーについて

問68 あなたのご家庭に、介護や支援を担う方はいますか？(1つに○)

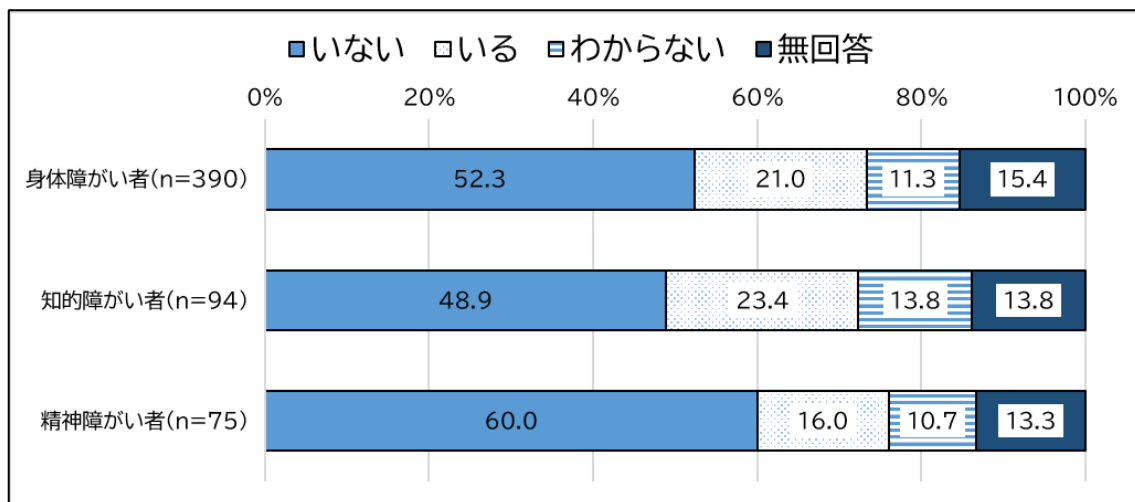
家庭内で介護や支援を担う方についてみると、「いる」の割合は21.2%、「いない」が52.3%、「わからない」が12.1%となっています。

図表 160 家庭内で介護や支援を担う方について(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「いない」(身体 52.3%、知的 48.9%、精神 60.0%)が最も多くなっています。「いる」と回答した方は全体の約 2 割程度となります。

図表 161 家庭内で介護や支援を担う方について(障がい別)



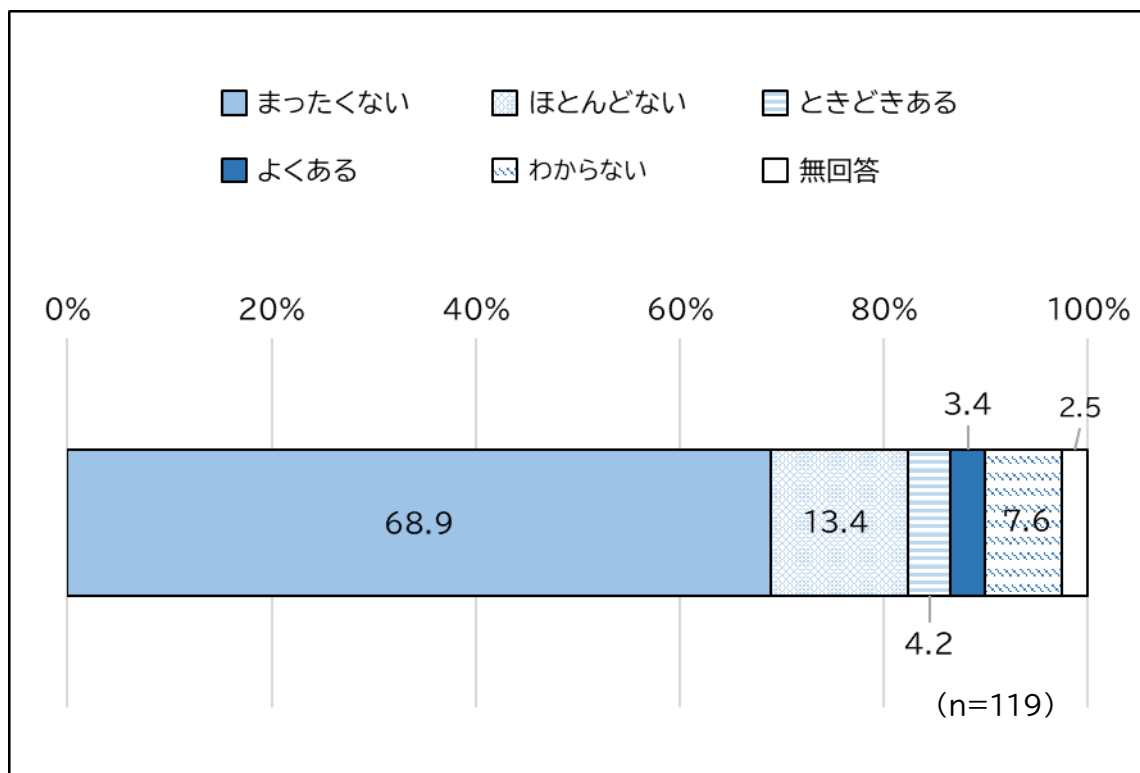
※問68で「いる」と回答した方

問69 介護や支援を、18 歳未満の子どもが担っていることはありますか？(1つに○)

家庭内での介護や支援を 18 歳未満の子どもが担っているかどうかについてみると、「よくある」の割合は3.4%、「ときどきある」が4.2%、「ほとんどない」が13.4%、「まったくない」が68.9%、「わからない」が7.6%となっています。

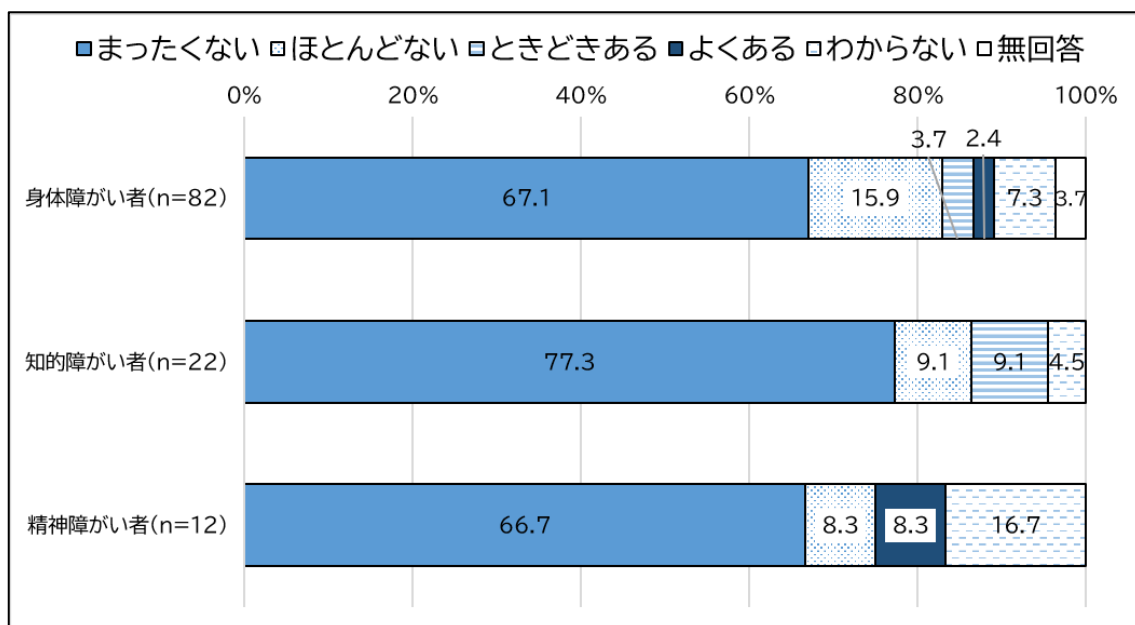
「よくある」と「ときどきある」を合わせると、『家庭内で 18 歳未満の子どもが介護や支援を担っていることがある人』の割合は7.6%となっています。

図表 162 家庭内での介護や支援を 18 歳未満の子どもが担っているかどうかについて
(全体)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「まったくない」(身体 67.1%、知的 77.3%、精神 66.7%)が最も多くなっています。一方で、「よくある」については身体障がい者で(2.4%)、精神障がい者で(8.3%)となっています。

図表 163 家庭内での介護や支援を 18 歳未満の子どもが担っているかどうかについて
(障がい別)

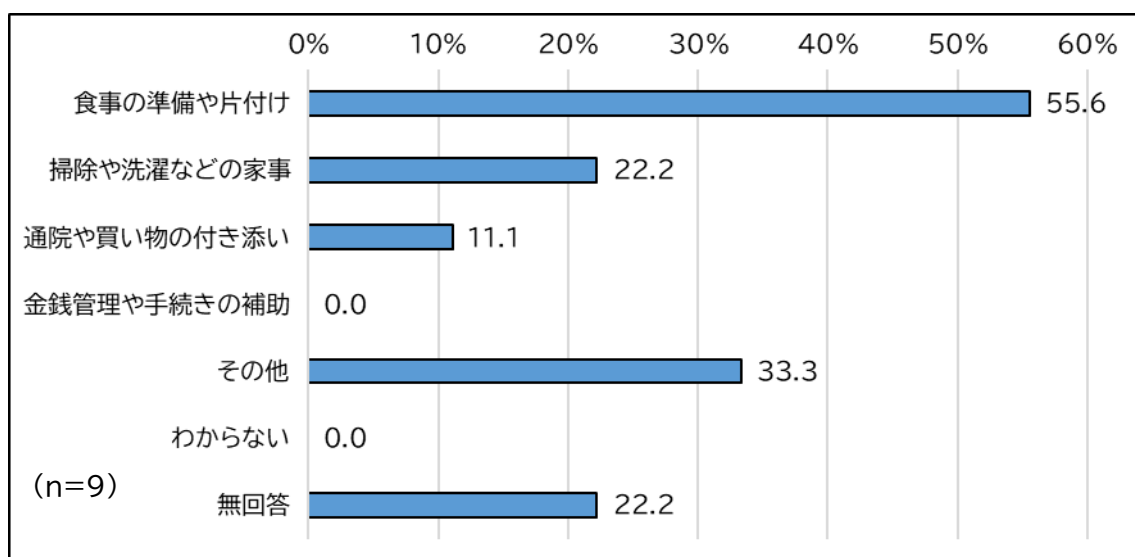


※問69で「よくある」、「ときどきある」と回答した方

問70 介護や支援について、18 歳未満の子どもが担っていることは何ですか？（あてはまるものすべてに○）

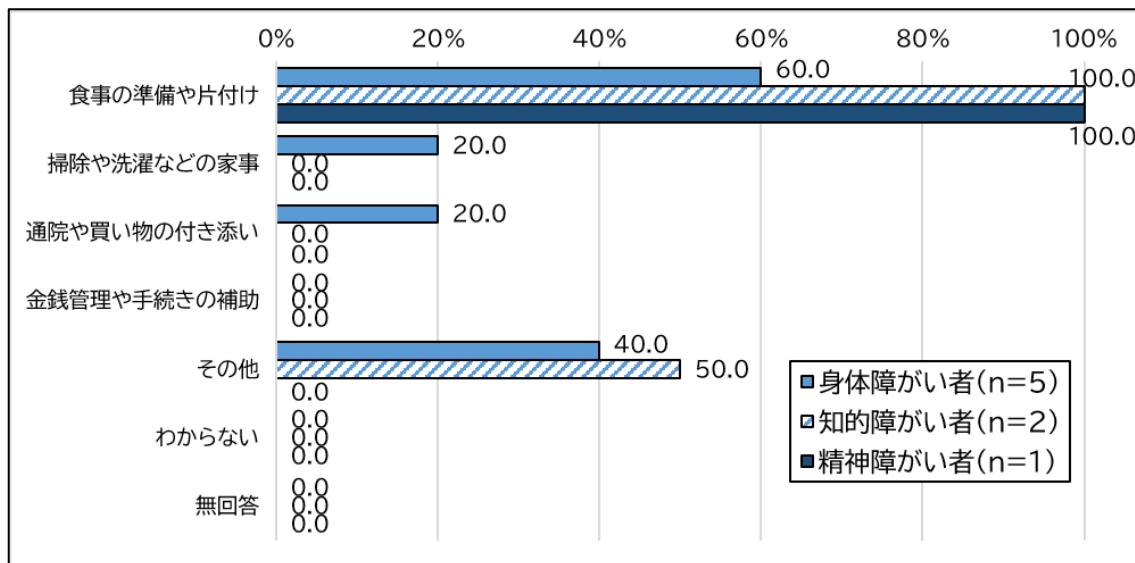
家庭内での介護や支援を18歳未満の子どもが担っている場合に、担っている役割についてみると、「よくある食事の準備や片付け」(55.6%)の割合が最も多く、突出しています。次いで「掃除や洗濯などの家事」(22.2%)、「通院や買い物の付き添い」(11.1%)となっています。

図表 164 家庭内の介護や支援において18歳未満の子どもが担っている役割
(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに「食事の準備や片付け」(身体 60.0%、知的 100.0%、精神 100.0%)が最も多くなっています。

図表 165 家庭内の介護や支援において 18 歳未満の子どもが担っている役割
(障がい別/複数回答)



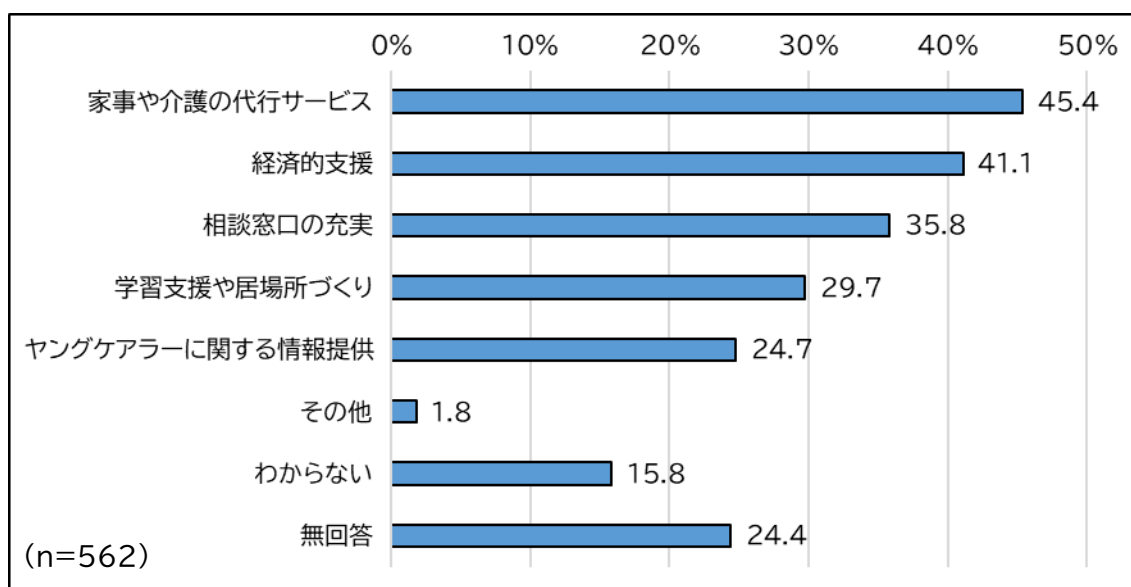
「その他」記述内容
服薬介助等
日常生活介助

(2)ヤングケアラーへの支援について

問71 ヤングケアラーについて行政や地域にどのような支援があればよいと思いますか？(あてはまるものすべてに○)

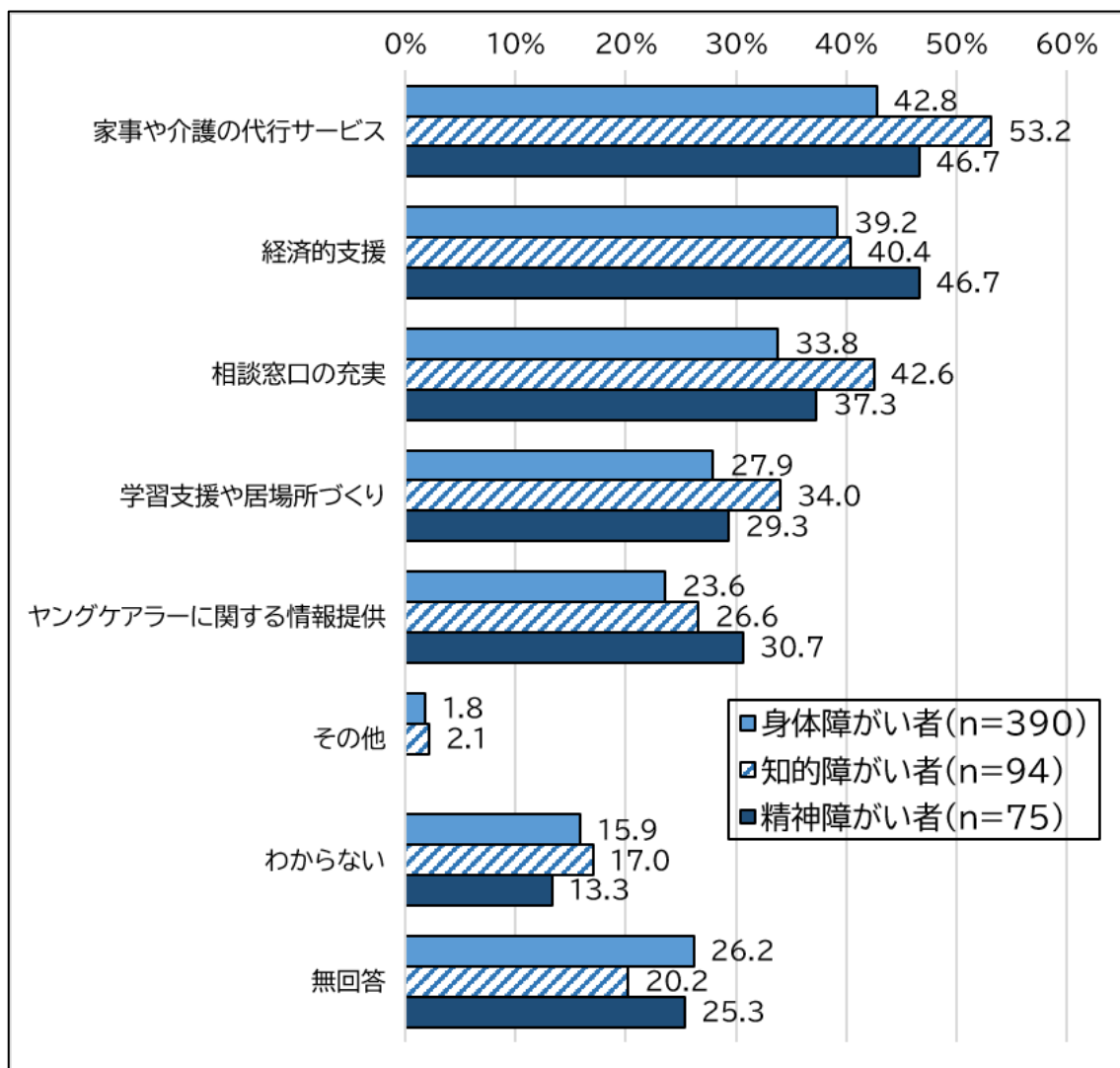
ヤングケアラーに対して行政や地域が行うべき支援についてみると、「家事や介護の代行サービス」(45.4%)の割合が最も多く、次いで「経済的支援」(41.1%)、「相談窓口の充実」(35.8%)、「学習支援や居場所づくり」(29.7%)、「ヤングケアラーに関する情報提供」(24.7%)となっています。

図表 166 ヤングケアラーに対して行政や地域が行うべき支援(全体/複数回答)



障がい別でみると、身体障がい者、知的障がい者では「家事や介護の代行サービス」(身体 42.8%、知的 53.2%)、精神障がい者では「家事や介護の代行サービス」、「経済的支援」(46.7%)が最も多くなっています。

図表 167 ヤングケアラーに対して行政や地域が行うべき支援(障がい別/複数回答)



自由記述については、合計80件の意見が寄せられました。

19 自由記述

1. 福祉施設・設備について 4件

1	坂出駅近くで住んでいます。イオンがなくなり次に何が出来るか分かりませんが、早く買い物施設を作って欲しい。又それまでの間日曜市などを開催してほしい。南側がバスターミナルとなり交通量も多くなり狭い道で車の無法な駐車が多くなったので警察の取り締まりを厳しくしてほしい。カーブ、横断歩道等でも停車する者が多くなる。
2	障がい者でなくても足の不自由な高齢者は多い。市では公共施設で高齢者を対象にした様々な行事を開催しているが洋式トイレがない施設がある。利用者は不便を感じている。一部でも洋式化するとか和式なら手すりを付ける等の配慮が必要と思う。SDGS の取り組みは市職員の意識改革も大切。
3	現在回生病院にて通院していますがストマ装具の悩みで備品等を緊急に必要な場合が有ります。今の所善通寺の大人こども病院まで行って売店で不足分を購入していますが、市内の回生はもとより市立病院等週一、月一でも構わないから医療売店的なものを売ってくれる仕組みを導入してくれたらうれしいです。なかなか販売している場所が近くに無いので。
4	有福市長様 障がい者は半額とかは止めてお金を取らないでくださいませ。大屋富町にはスーパーがありません。せめて、大屋富町にスーパーをつくる計画を立ててほしいです。そしたら足に困ることがないです。あと自治会を抜けてもゴミを出せるようにしてほしいです。一カ月の不燃の回数をもっと増やしてほしいです。今まではゴミだらけです。何卒ご検討の程よろしく願いいたします。

2. 交通について 9件

1	病院受診時公共バスを利用したいと思ってもバス停が遠かったり便数が少なく利用できない事が多く地域の高齢者の方々も困ってます。バス停を増やしたり市内のバスの様子にもう少し便利にしてほしいと思います。
2	私は17歳の時に脳の病気になり後遺症でバランス感覚が無くなり右利きだったのに右手に力が入らなくなり左利きに転換し、見た目からは分からないので学生時代さんざん嫌な思いをしました。私は負けず嫌いなのでそんな嫌がらせは大丈夫でした。もっと見えない病気の人に対して住みやすい地域にしてほしいです。そして4年前にまた脳の病気で手術する羽目になり、大阪から親元の坂出に帰る羽目になりました。とにかく四国の電車の段差はひどい。私は後遺症で階段の上

	り下りなどが苦手になり、今はジムで毎日リハビリをしています。もちろん危ないので車の運転は出来ません。住みやすい環境にしてほしいです。色々文句ばかり書いてすみませんでした。でも電車の段差はどうにかしてほしいです。
3	個人的な事です。主に世話をしている姉(62歳)が目の問題が有りいつまで車の運転が出来るか分からない。姉の家から自宅まで小一時間かかるので将来的には姉が通いやすい近い場所で一人で気兼ねなく暮らしたい。生活保護をいただいているので古くてもいいので安く借りられる住居があればありがたい。あくまでも将来的であり今すぐではありません。
4	今は自分で運転し買物や通院等は困ってはいない。しかし今後、免許返納をした後のことを考えると出かけるための交通手段がなくなる。バスは通っていないし、駅は少し距離が有り無人駅でバリアフリーではない。坂出にはイオンのような大型スーパーがなくそこへいけばすべてが揃う場所が無いので不便。
5	白杖をついて歩いていて横断歩道で止まる自動車が10台に1台位しかいない完全に止まって欲しい。
6	障がい者駐車場の拡充と不正利用の撲滅。
7	スーパーや公共の場所での車椅子専用駐車場が少ない。
8	音響信号をふやして下さい。
9	障がいのために車の運転ができないので交通機関等考えて欲しい。

3. 福祉サービスについて 8件

1	私は30代の時両足が悪く両杖をついてやっと歩ける状態でした。0才と7才の子供の子育ての援助と経済的な支援があればどんなに良かったかと思います。私の医療費の助成が本当に助かっています。どうか一人一人の障がい者の方に寄り添った福祉サービスをお願いします。
2	急性大動脈瘤乖離で倒れ手術が長引き多発性脳梗塞になり寝たきり、意思不通。人手不足で何のためのリハビリ？終末期医療の入院先ではやはり人手不足雑な介護。看護師が楽な医療。口が開けない。理解もできない事を良い事にひどすぎる。
3	アプリでミライロIDを登録しているが、まだ地域によっての福祉サポート(受けられる支援や医療との連携など、また同じ障がい同士でも医師によって障がい者手帳の等級の差が有る)などの違いがある。違いがあり過ぎるのでどうかと思う時がある。また、障がい年金について手続きが難しかったと思う。
4	障がい者手帳(精神三級)のものです。その資格を持つ恩恵があまりないという実感です。生活保護を受給することを検討しておりますが、精神障がい者手帳三級の人は健常者の人と生活保護費が同等なのでそう思った所存です。

5	子供の意見(今は特にありません)。親からの意見(あと一年で高等部を卒業し、デイサービス等や朝から行ける所が無いので仕事は続けられそうにないので困っている。18才の壁を何とかしてほしい。)
6	今後高齢化で老人性難聴者は増えます。今聞こえている人でもなります。将来その人達が困らないようにするためにも難聴に対する補償をお願いします。認知症の主要なリスク因子でもあります。手話は高齢で耳が聞こえにくくなってから覚えるのは難しいです。周りに手話を使う人がいなければ尚更です。文字による情報保証を市役所や公共の施設などに設置や提供、要約筆記、筆談、音声認識アプリ、をお願いします。
7	近年、知的障がい軽度やグレーゾーンと診断される子どもが増えており、早期発見・早期療育が進んでいること自体は良いことだと思います。一方で、知的障がいが中度・重度の子どもが、放課後等デイサービスを安定して利用することが難しくなっているのではないかと感じています。事業所によっては、支援に多くの人手を必要とする子どもよりも、比較的支援負担の少ない軽度やグレーゾーンの子どもの優先的に受け入れているのではないかと感じる場面があります。実際に、私の子どもはこれまで複数の放課後等デイサービスを利用してきましたが、職員不足を理由に退所となったり、行動面の特性を理由に利用日数や利用時間を減らすよう求められた経験があります。こうした経験は一つの事業所だけではなく、複数の事業所でありました。支援の必要性が高い子どもほど、本人や家族の困り感も大きく、継続した療育の機会が重要だと思います。子どもの時期に適切な療育を受けられるかどうかは、将来の生活にも大きく影響するのではないのでしょうか。また、現在は利用できていても、子どもが成長するにつれて「対応が難しい」として利用継続が難しくなるのではないかという不安もあります。支援の必要性が高い子どもほどサービスにつながりにくくなるという状況が起きないよう、事業所の受け入れ体制や人員配置、報酬のあり方などについて、制度面での改善や配慮を検討していただけるとありがたいです。
8	通学に便利なので、地域の学校の支援級に行ってるのですが、支援級の先生不足で先生も支援級の生徒も大変です。身体・情緒・知的で担任の数が決まるとの事ですが、同じ知的でもそれぞれ支援方法が違います。市の方に問い合わせしましたが人が集まらないと言われました。色んな所の意見を聞きましたが、坂出市は募集の仕方が弱いと、ぜひ、支援の先生の募集を強化してくれるとありがたいです。

4. 障がい者が住みよい社会・環境づくり 7件	
1	障がい者への偏見や差別はそのものへの無知や無理解から来ているものが多いと思うので、まずはきっかけとして興味を持つ機会を増やしたりする取り組みから少しずつやっていけばよいと思う。人間は良く分からない物や事に恐怖感を感じて避けようとするので、それが偏見や差別につながりそれが多いほど悪い良くない連鎖へとつながると思うので、まず正しく知ってもらう機会を増やす事はとても大切で、そこから始まると思います。そして、一番大切なのは全ての人達に知って理解して押し付けない事。それぞれ色々な考えが有るのでそこもまた尊重してあげることも大事だと思う。
2	防災時にすぐ連絡できるようにスマホ一台買ってもらって使わない時は預かって使い過ぎに気を付ける、予算を考えながら使用していきたい。連絡がとれなかったら自分自身が困るし誰にどこに連絡すればいいのかわからない。必ず差別や偏見をなくして、自分自身生活介護の人達にもスマホ一台を持たせていけばいいと思います。
3	色々読みましたが精神障がい持ってもう47年になりますが地域での暮らしを普通にできる社会がほしいです。
4	精神障がい者は見て判断できないので、自分のことを分かって受け入れてくれる環境作りを望みます。
5	障がいといっても種類が多様で、自分の事は困難な事もわかるけど他の障がいになったらと想像だけで実際にはどんな援助が必要かは、専門家でも100%は把握出来ないと思うので、障がい者本人が声を上げるべきだと思います。どうぞ宜しくお願い致します。
6	化学物質過敏症についての医療者や介護者への周知と、学校・病院・介護施設内での香料製品(洗剤、柔軟剤、シャンプーなども含め)の使用の規制が欧州並に進むことを願っています。
7	老人大学のような、障がいのある人向けの運動講座や役立つ講義、料理教室、手芸教室、花見などの小旅行などであると参加してみたいです。

5. 経済的支援について 8件	
1	経済苦とか偏見をなくせたらいいと思います。
2	経済的に苦しい。ガソリン代や灯油代、食費の上りが激しい、何とかしてほしい。
3	障がい者への助成金を相談利用しやすくしてほしいです。自宅の玄関に車椅子利用の為のスロープを付けるリフォーム工事を行なった時の助成金の支払い・

	車椅子（自走・電動）購入時の全ての物に申請すれば３割～半額は助成してほしいですね。かなりの貯金からの出費だったので辛かったです。
4	鍼灸治療の完全保険適用を。
5	身体障がい者の地域生活における通勤・医療機関受診の際の手段の確保・金銭的負担の軽減をお願いしたい。
6	私は利用していないのでイメージになりますが、Ｂ型作業所などは賃金が月に２、３万円なのに対して作業所へ支払われている税金？はそれ以上だと言った話を耳にしました。もしそれが本当であれば作業所など通さずに直接税金から障がい者へお金を支給した方が良いと思います。それと障がい者は生活保護を受給している方が多いと思うのですが、働いた際に見込み賃金が生活保護費から引かれると思います。それ自体はよいのですが、何かの理由で賃金が入るのが遅れた場合、保護費の差額の調整が入るのは次回支給日まで待たなければならないので、たちまちの生活資金が足りなくなって困るといった話を耳にしました。働くことで生活が不安定になりかねない部分はなくす対策をしていった方が良いと思います。
7	放課後等デイの自己負担の上限が今年から大きく上がりました。賃上げによって保護者の収入が増えているので、それに合わせて所得制限は変えるべきではありませんか。特別支援学校に通う子供の居場所が少ないと感じます。学童が全くない。保護者の就労の大きな妨げとなっています。そもそも定型発達の児童であっても、学童期の土曜日の預け先が、坂出市はない。他の自治体と比べてとても遅れていると感じます。
8	福祉年金をもっと充実してほしい。障がいがあるので仕事がきつい時がある。その時福祉年金で補充が出来れば。

6. 情報提供・相談支援について 6件

1	福祉情報の最初は友達の子のママさんから聞きました。それをきっかけに詳しくは福祉課に行き聞きました。学校の先生からです。乳幼児健診は定期的に有るのでその時期に気が付けば結びやすくなると思いました。この子は就業前検診（小学校入学前）に知ったので色々と段取りが大変だった。親が情報を自分から取れるようにアンテナを広げるのも大事だと思います。小学校入ってからの情報が欲しいです。
2	どの様なサービスを受けられるのか相談窓口はどこかなど、良く分からない事が多く、また、相談する事が苦手なので情報発信をもっとしてほしいです。そのようなアプリがあればいいのかなとも思いますが一人になった時に不安にならない仕組みや支援にすぐつながる事が出来る様お願いします。

3	市役所窓口では丁寧な対応をしてくれるが困った時にどこでどんな相談をしたらよいのかわからないのが現状です。病院等でもどこに相談したらよいのか支援につなげられたら良いと思う。
4	聴力も低下し段々と室内にこもりがちになっている。外出して気分を上げ筋力も低下を少しでも食い止めたい。公共交通機関も利用して移動したいと思うが、料金もかなり高くなる。何か利用できる補助等はないか寝たきりになるのはつらい。そんな支援情報はどこに行けば聞けるのか、手続等教えてくれる所を教えてください。また公共施設に障がい者優先のイス設置してほしい。歩く練習をしていてもすぐに座れる場所が無いと出かける気持がなえる。
5	障がい者本人にしか分からない事があると思うので、相談員の方の体験を有効に活用して下さい。
6	私は本人ではなく、家族の立場で、また、相談や、いろいろな親の会活動、福祉プランや行政の活動、地域の情報などいろいろ調べて障がいのある子供を育てていく中で、坂出市？地域は進んでいっているのだろうか 同じことを何年も繰り返し、そこから進んだことがあるのだろうか、坂出市自身で、何か作り出したり、運営したりやってみようとしているようには思えたことはありません。以前よりもずっと話を聞いてくれるところは多くなったような気がします。しかし、その相談や苦情を解決する機関や支援をいただける事は本当に少ないです いろいろな問題が起きる中で、どこにいき、相談をすればどのように伝えていけば、誰がその答えを出してくださるのか 聞くだけではなく聞いたなら、その聞いた責任を持って誰が問題解決をしてくださるのか それがせめてわかるような受け皿があって欲しいと思います。

7. 社会や将来についての不安・困りごと 7件

1	私は介護を受けていないので先のことが分かりません。年は取っていますがまだ畑もしているし自分の好きなことができているから。2.3 年たったらまたわかる時が来ると思います。私は透析を受けています。
2	8050 問題ではないですが障がい者を見る親の年令も高齢化してきて、子供の先のことを考えると大変不安です。
3	障がいは家族でも理解してもらえない事もあるから社会では生きにくく、差別もあるので少しでも優しい社会になって欲しい。アンケートはすごく疲れました。
4	今は通所作業所で喜んで仕事に行っています。退所になった時のことは心配しています。親も年を取り動けなくなったらと思います。
5	全く見えず、将来に希望が持てません。将来に絶望しているため病気の症状も改善されません。自立したいと考えてる精神障害者保健福祉手帳取得者への経済

	的支援を行ってほしいです。精神障がいの治療は病院でのカウンセリングや薬の処方だけではなく、行政の経済支援による安心感も必須だと思います。
6	手帳を持てるかどうかギリギリのところで、知的障がいがあるので学習にはついていけずに困っている。手帳が持てないので何のサービスも受けられない。何の助成もない。
7	働きに行きたいのにシルバーカーなしで移動できないため働きに行けない。したがって持っているお金がわずかある。したくないのにいろいろなものがへっている。それで買わなければいけなくてわかたけ職員の中の1人がかばって支払っているあとで私の生活年金からひいている。この人がやめたら私はどうなるのかわからない。

8. アンケートについて 19件	
1	質問が多いが、きちんといつも答えてるが、何のフィードバックもない。
2	アンケート内容が多すぎて負担が大きい。相談しても(制度で決まっていますから)と言われることがある。少し寄り添う姿勢が欲しい。意向や思いをわかろうとしてほしい。色々遠慮や我慢していることが多いことを当事者になって知りました。
3	4歳のため本人の意向がきけず、代筆の意向も含まれています事をおしりおきください。困難や生き辛さを抱える方々への支援が途切れない事や気軽に相談できる体制を作っていただきたいです。よろしくお願いします。
4	沢山の質問に疲れストレスを感じました。障がいの内容も色々あるのでただ一括してアンケートを送るのはどうかと思います。障がいもあり介護保険も利用しているものにとって解答に悩みました。今後はこのようなアンケートは返答しにくいと感じました。
5	勝手な事と分かりつつ書きますがアンケートのような文章では問うほうと問われる方との意図の食い違いがあるように思います。御多忙かとお察ししますが個々に直接聞き取りをされる方がお互い話しやすいように思いました。何かと大変お世話になりますがよろしくお願い致します。
6	質問多すぎて回答大変でした。サービスに支援や援助と名のついたものは沢山ありますが、利用者を特定したり制限されるものが多く本当に困っていても利用出来ない物が多すぎです。合理的配慮についての質問は有るけどどんな嫌な思いをしたか？の質問がないのは結局実際の所を知ろうとしてくれてないのかなと悲しくなりました。
7	まず問が多すぎる。アンケートの記入者が障がい者に対してどれだけの思いを持っているかが一番大切です。

8	アンケートが生かされているか。昨年度アンケートより何をどう実施し改善できたか。我々障がい者へ結果を報告周知はしているか。ひとつひとつ改善し安全で安心な町づくりをお願いします。
9	このアンケートは役に立っているのでしょうか。
10	質問が多すぎです、回答に二日かかりました。
11	まずこのアンケート封筒に坂出市障がい者福祉に関するアンケート在中ってわざわざ書く必要ありますか？このアンケートは障がい者手帳や療養手帳を持つ人に対して送付してますよね？配達員やポスト投函の状況次第では第三者に知られることになります。この時点で配慮が欠けています。坂出市からのアンケート在中で良かったのでは？と思いますがいかかですか？今では行政や警察を語り詐欺行為を行う犯罪も多いので、このタイプのアンケートは今後嫌われるでしょう。せっかくマイナンバーカードが有るので自治体アプリを提供し必要な連絡はプッシュで発信し、各個人の BOX に入れたらよいかと思います。行政の様々なサービス、チャットサポートなど、IT や ICT を叫ばれる割に窓口やサービスは何も変わってません。坂出市 HP では必要な情報が十分ではなく、担当課が書いてあるだけで質問のチャットすら出来ません。今の坂出市は結局駅周辺の住民のみ便利になる開発とサービスだけで徒歩 20 分以上の住民の事は考えてないです。真っ暗の家もない道路を自転車で 30 分以上かけて学園通りの高校に通わせたいとは思いません。わざわざ数千万円払って坂出市中心に引越したいほどの魅力もありません。それなら高松市に家を買うでしょう。それほど坂出は何もやらずに魅力ない市なんです。
12	質問内容が多く難しい。知らないサービスも多く、聞かずとも誰が伝え教えてくれるのか。
13	7 歳のこども目線で答えられるアンケートではありません。7 歳の子どもでは分からないから空欄とすべきか 7 歳の子どもに代わって回答している親の意見で回答すべきか良く分かりません。一応穴だらけで回答しましたが、このアンケートにどれだけ意味があるかはっきりしません。
14	視覚障がいがある為ちょっと長くて疲れました。でもいろんなこと分かって勉強になりました。より良い方向によりしくお願いします。感謝。
15	質問が多すぎました。年寄りにはきつかった。いいかげん嫌になりました、すみません。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございます。
16	正直質問項目が難しく大半の対象者は返答するのが困難に思います。それが反映されるようには思えません。もう少し質問項目を短く簡素化していただきたいです。
17	アンケートも答えも問題課題がむずかしい。理解できない。肩がこった。質問が多かつかれました、くたびれた。

18	長すぎて言葉も多すぎて読みにくいです。はい・いいえ程度で答えたいです。
19	質問内容が多すぎて疲れ果ててしまいます。アンケートの量を半分くらいにしてください。

9. 行政について 8件	
1	住民が安心して暮らせる街づくりをしてほしい。自分もできれば街づくりに参加したい。研究会などつくりたい。
2	坂出大好きです。嫁いってから 50 年以上たち障がい者となった今、あまりはいつてこないから(行政)おせっかいでも放任でもない丁度いい距離感です。
3	議会等で障がい者の生の声を聞いてほしい。何に困っているか？何を希望するか？等。
4	障がい者はやはり偏見差別の対象となるという認識が根付いているために、政府行政はネット CM 広告などでそれを無くしていく福祉国家にしていかなければならない。障害年金 1 級や 2 級程度の障害年金では生活していけない。そのために生活保護に頼らざるを得ないために障害年金をもっとあげなければならない。そうしないと障がい者は弱者であり自立も出来ず病気と闘った人生だけで終わってしまう。そのためにも先進国であるフィンランドやスウェーデンの政府の行政の仕方を見習わなければならないと思う。
5	アンケートの内容が多すぎる。障がい者その他の人々に対して公務員は冷めている。その人々に寄り添う対応が必要。その部署だけでなくすべての部署で少しの対応は出来るようにすること。たらいまわしで体の悪い人達は大変困ってます。職員のレベルアップをしてください。
6	坂出市役所福祉課の身体対応の職員が一人しかいないので態度が悪すぎます。その女性の職員は障がい者虐待だと思っています。
7	町づくりはよく人づくりからと言われる。ハード面も大事であるが、もっと芸術文化福祉ボランティアなどソフト面の充実に力を注ぐ必要がある。
8	令和 8 年 1 月 1 日から医療機関の窓口で現金の支払いを求められました。全く意味が分かりませんでした。令和 7 年 12 月 31 日まで支払いは薬局での少額のみでした。なのに全く本当に意味が分かりません。なんなんでしょうか？事前の説明が欲しかったです。

10. その他 4件	
1	もっとがんばってほしい。なまけないでほしい。
2	私は介護施設でいます。下半身全体麻痺で仕事はしていません。病院には車いすで通院しています。
3	療養病棟に入院してるからあまり書けなくてすみません。
4	障がい者ですが人工関節の手術の後痛みを感じる事も少なく、私自身の生活には今のところあまり支障なく暮せているので、お困りの方に対しての理解がなく、あまりお役に立てる回答がなく申し訳なく思います。